

# 高齢者の暮らしと介護についてのアンケート

## 調査結果報告書



平成 26 年 3 月

高 松 市



# 目 次

## I 調査概要

1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1

## II 調査結果 (①高齢者)

1 回答者の属性	3
2 家族や生活状況について	10
3 運動・閉じこもりについて	20
4 転倒について	23
5 口腔・栄養について	24
6 物忘れについて	28
7 日常生活について	30
8 社会参加について	40
9 健康について	50
10 介護認定の有無について	57
11 介護サービスについて（介護認定をもっていない方）	57
12 介護サービスについて（介護認定をもっている方）	63
13 介護保険在宅サービスについて	69
14 高齢者のための在宅福祉サービスについて	71
15 高齢者の居場所について	72
16 介護専用ダイヤルについて	74
17 被介護者の状況について	75
18 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて	78
19 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて	82

## II 調査結果 (②介護保険施設サービス利用者)

1 回答者の属性	85
2 要介護認定者（介護）意識調査	87
3 介護保険に関する意識調査（施設サービス）	95

4 介護保険に関する意識調査（保険料等） .....	100
<b>II 調査結果（③一般市民：40歳以上65歳未満）</b>	
1 回答者の属性 .....	101
2 介護保険について .....	103
3 健康づくりについて .....	107
4 高齢者のための在宅福祉サービスについて .....	113
5 高齢者の居場所について .....	114
6 介護専用ダイヤルについて .....	115
7 高齢者保健福祉に関すること（被介護者の状況について） .....	117
8 高齢者を地域で支えるネットワークづくりに関すること .....	120
9 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに関すること .....	124
<b>III 資料 自由意見</b>	
1 高齢者 .....	133
2 介護保険施設サービス利用者 .....	139
3 一般市民：40歳以上65歳未満 .....	144
<b>III 資料 判定結果</b>	
1 基本チェックリスト .....	151
2 ADL .....	160
3 老研式活動能力指標 .....	162
4 認知機能 .....	167
5 転倒リスク .....	169

# I 調査概要



# I 調査概要

## 1 調査目的

平成 26 年度中に、平成 27 年度から平成 29 年度を計画年度とする「高松市高齢者保健福祉計画」を策定するための基礎調査として実施した。

## 2 調査設計

(1) 調査地域 高松市

(2) 調査対象

調査種別	調査対象者	標本数
高齢者	65 歳以上高齢者の方（介護保険施設サービス利用者の方を除く。）	9,000 人
介護保険施設サービス利用者	65 歳以上高齢者のうち、介護保険施設サービス（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群）利用者の方	500 人
一般市民	40 歳以上 65 歳未満の方	1,000 人
合 計		10,500 人

(4) 有効回収数

調査種別	有効回収数	有効回収率
高齢者	5,311 人	59.0%
介護保険施設サービス利用者	263 人	52.6%
一般市民	444 人	44.4%
合 計	6,018 人	57.3%

(5) 調査方法 郵送配布－郵送回収

(6) 調査期間 平成 26 年 2 月 3 日～ 2 月 28 日

## 3 報告書の見方

(1) グラフ中の「N (Number of case の略)」はその質問の該当者数を表しており、回答率 (%) は、その N を基数として算出した。

(2) 集計結果はすべて、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、比率の数値の合計が 100.0% ちょうどにならない場合がある。

- (3) 複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。
- (4) 「Ⅲ 資料 判定結果」は、国が配布した生活支援ソフトにより集計した。本ソフトに取り込めるデータは、特定の項目に回答していることが必須条件であるため、有効回収数より若干少ない回答数となっている。



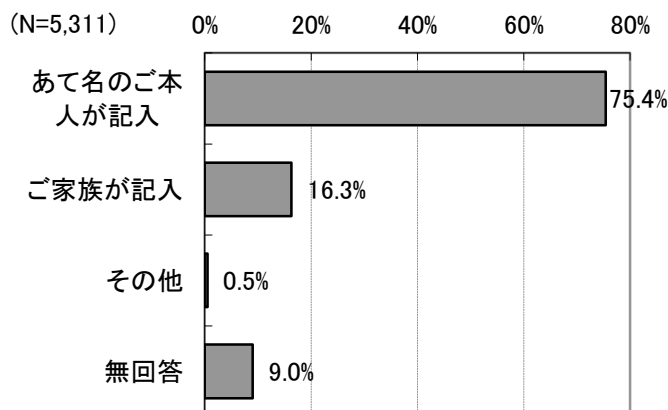
## Ⅱ 調査結果

### 高齢者

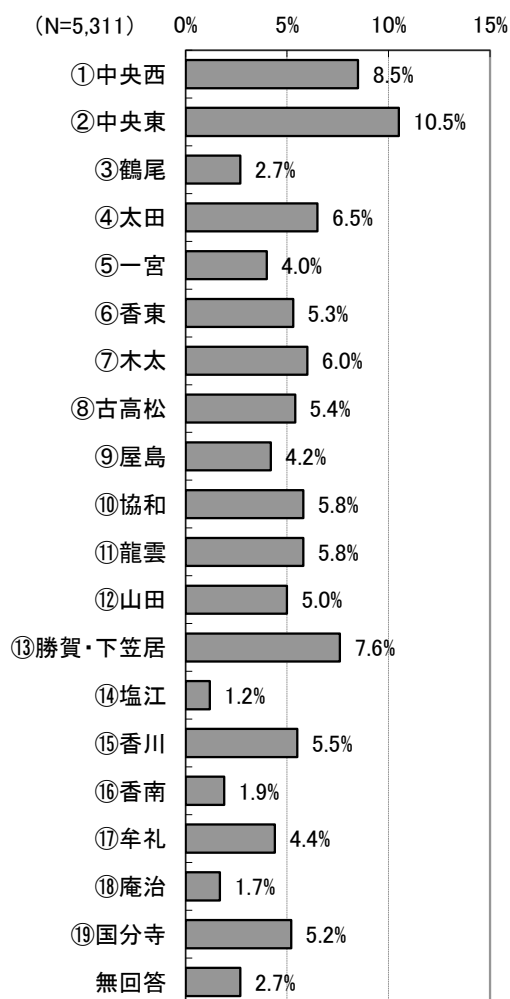


## 回答者の属性

### 1 調査票を記入されたのはどなたですか。

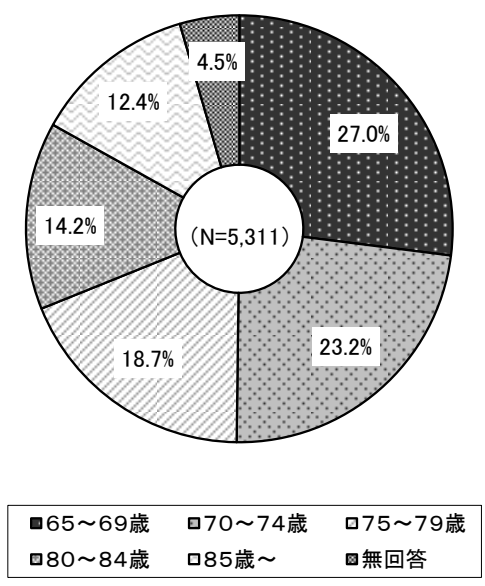


### 2 居住地区



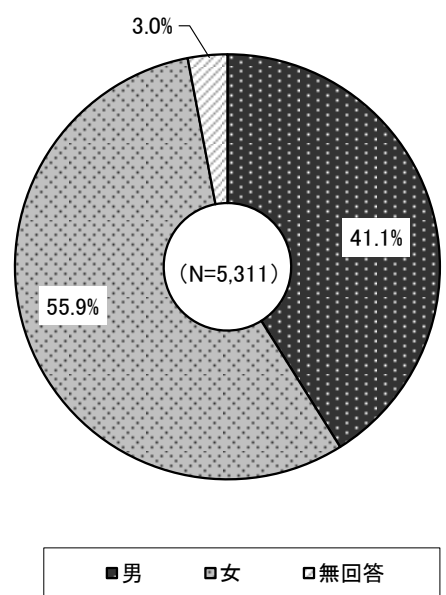
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
①中央西	449	8.5
②中央東	560	10.5
③鶴尾	141	2.7
④太田	347	6.5
⑤一宮	214	4.0
⑥香東	279	5.3
⑦木太	317	6.0
⑧古高松	289	5.4
⑨屋島	224	4.2
⑩協和	308	5.8
⑪龍雲	309	5.8
⑫山田	264	5.0
⑬勝賀・下笠居	405	7.6
⑭塩江	62	1.2
⑮香川	294	5.5
⑯香南	99	1.9
⑰牟礼	235	4.4
⑱庵治	91	1.7
⑲国分寺	278	5.2
無回答	146	2.7
計	5,311	100.0

### 3 年齢



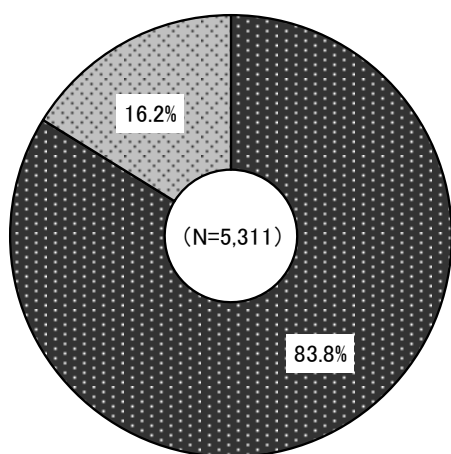
項目	回答数(人)	構成比(%)
65歳～69歳	1,433	27.0
70歳～74歳	1,234	23.2
75歳～79歳	991	18.7
80歳～84歳	756	14.2
85歳以上	658	12.4
無回答	239	4.5
計	5,311	100.0

### 4 性別



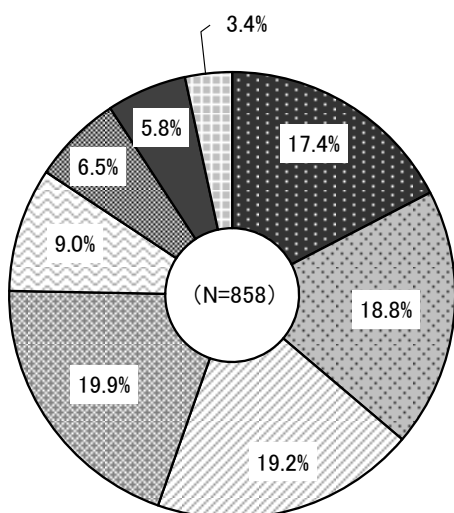
項目	回答数(人)	構成比(%)
男性	2,185	41.1
女性	2,967	55.9
無回答	159	3.0
計	5,311	100.0

5 要介護認定状況



■要介護認定 無 □要介護認定 有

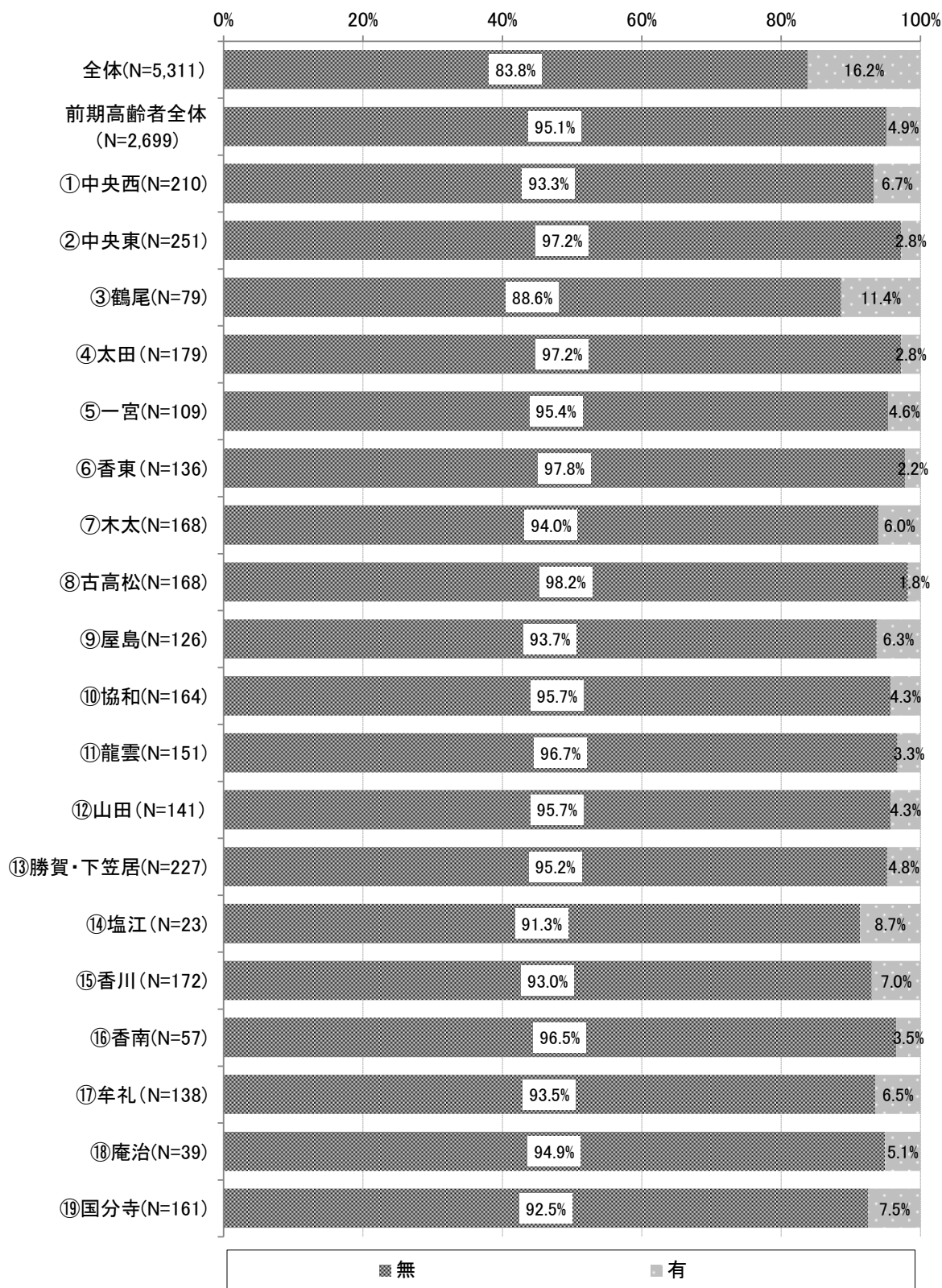
項目	回答数(人)	構成比(%)
要介護認定 無	4,453	83.8
要介護認定 有	858	16.2
計	5,311	100.0



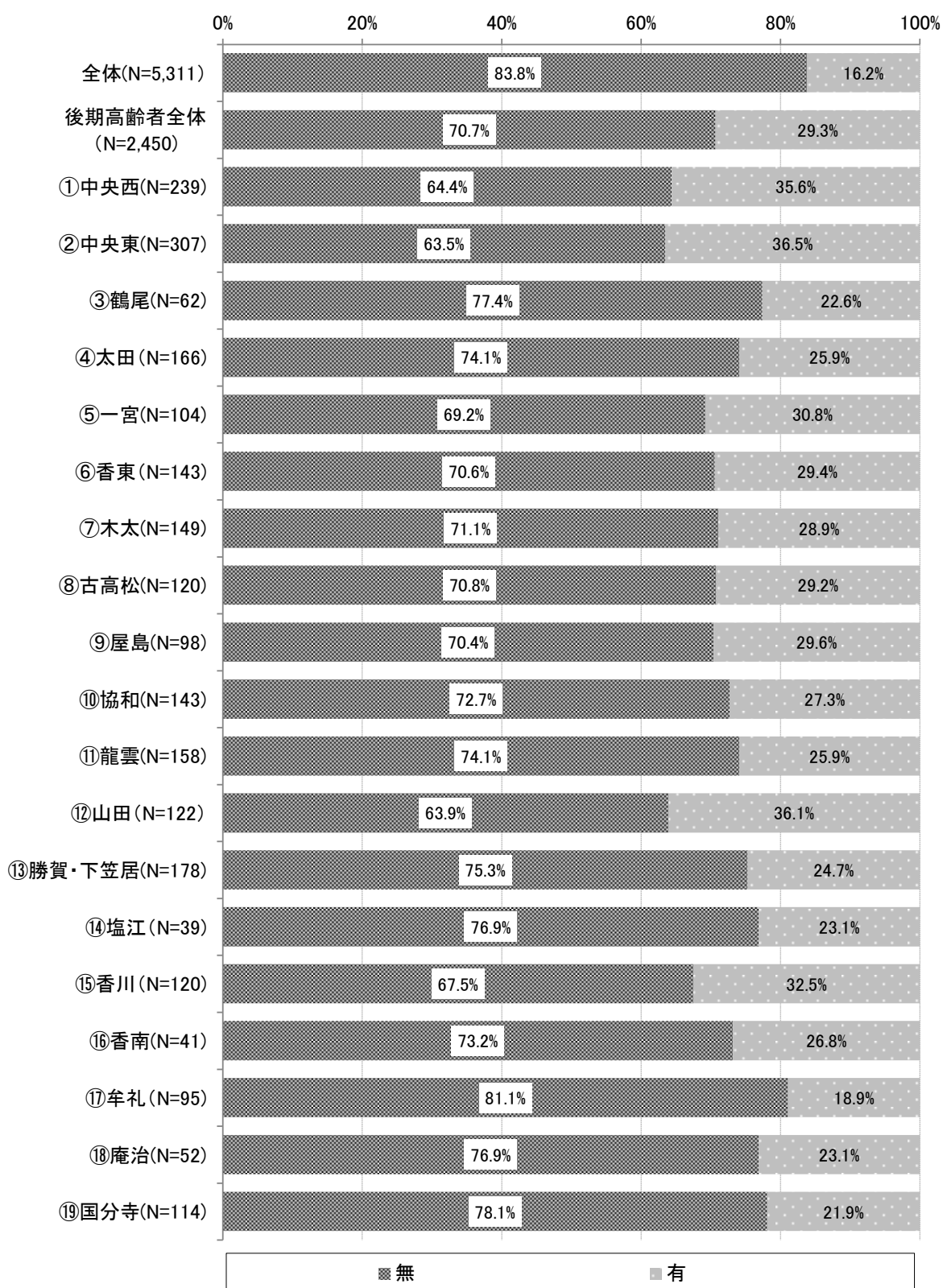
■要支援1 □要支援2  
 □要介護1 □要介護2  
 □要介護3 □要介護4  
 ■要介護5 □無回答

項目	回答数(人)	構成比(%)
要支援 1	149	17.4
要支援 2	161	18.8
要介護 1	165	19.2
要介護 2	171	19.9
要介護 3	77	9.0
要介護 4	56	6.5
要介護 5	50	5.8
無回答	29	3.4
計	858	100.0

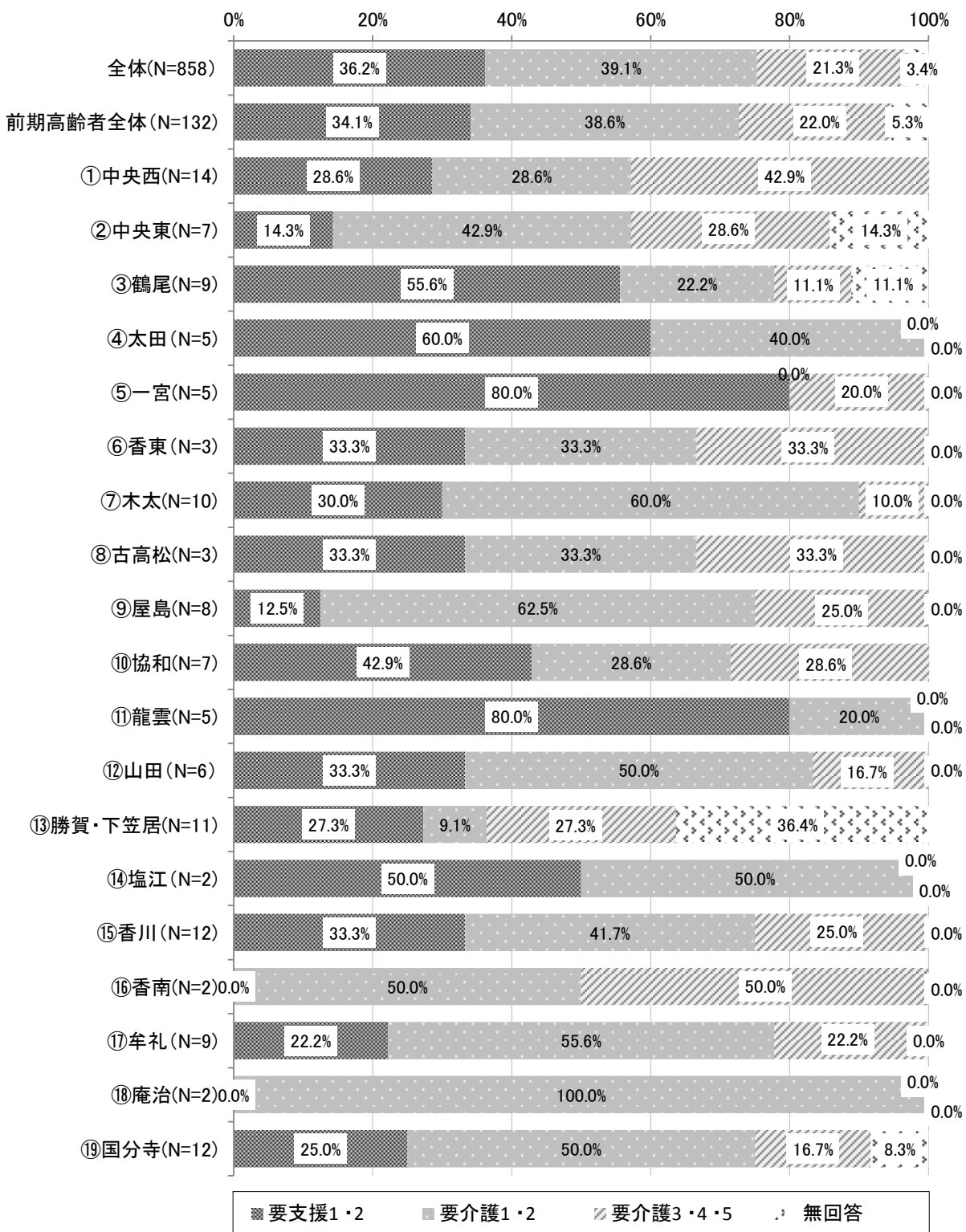
【要介護認定状況 圏域別 前期高齢者（65歳～74歳）】



【要介護認定状況 圏域別 後期高齢者（75歳以上）】

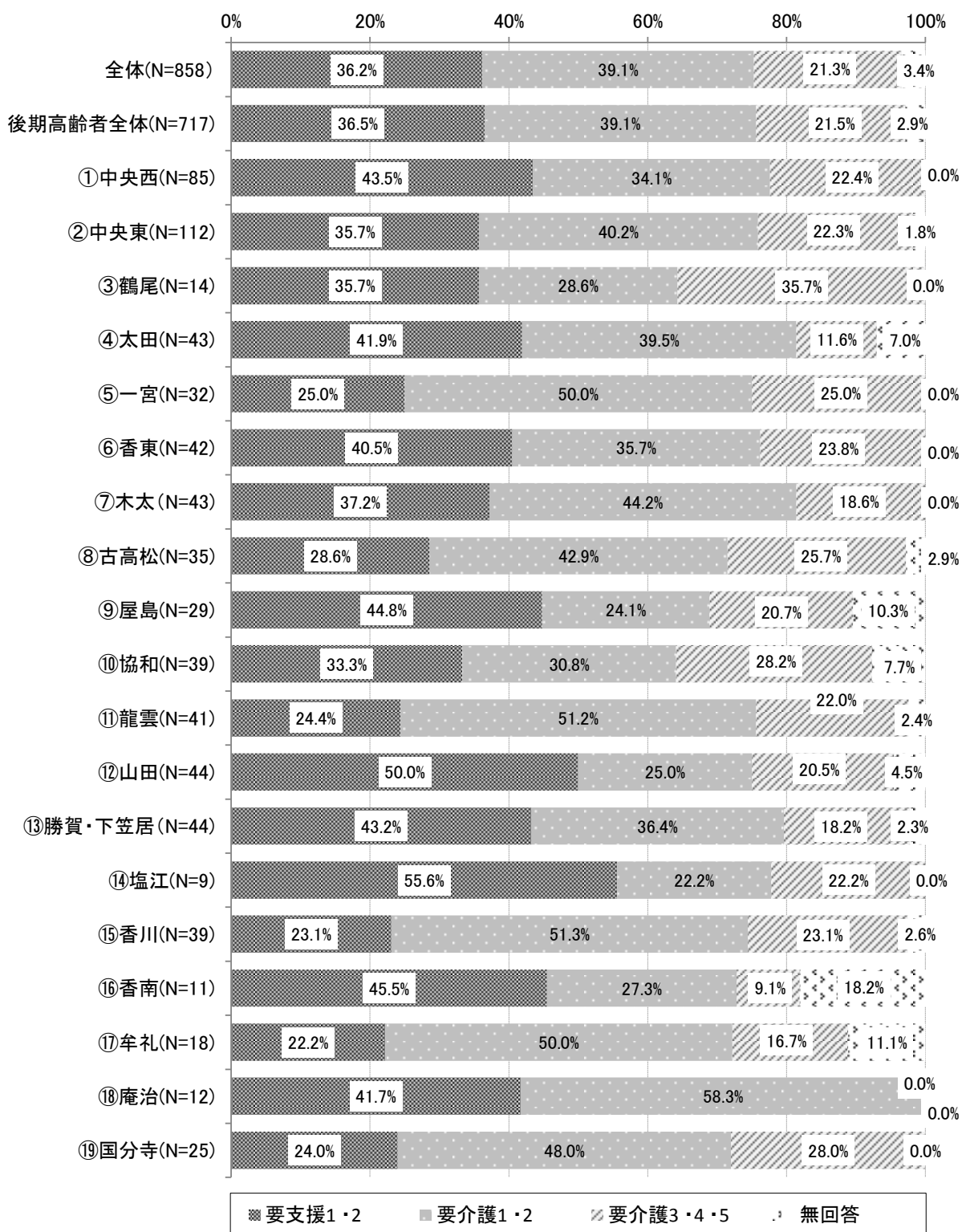


【要介護度 圏域別 前期高齢者（65歳～74歳）】





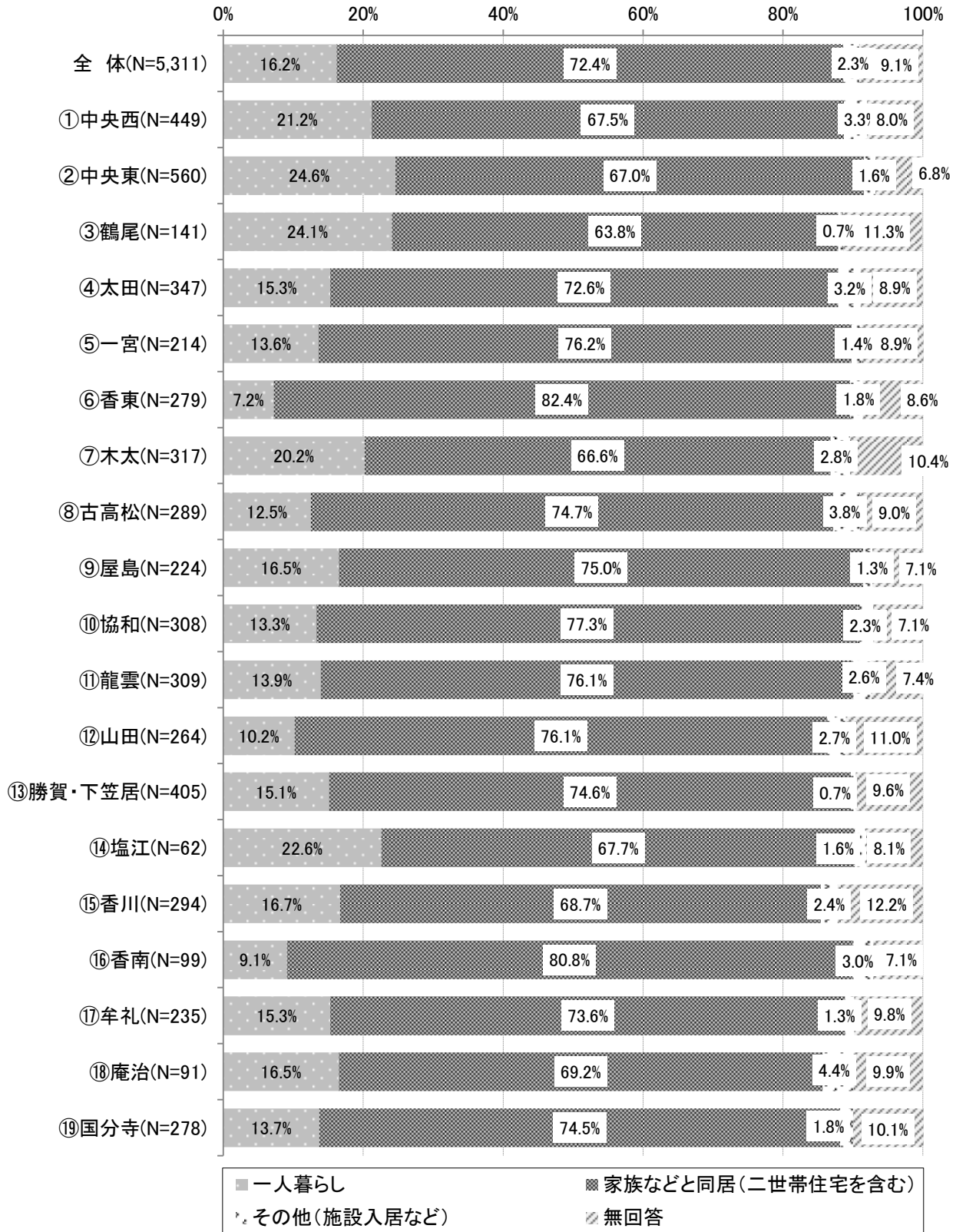
【要介護度 圏域別 後期高齢者（75歳以上）】



# 家族や生活状況について

問1 家族構成を教えてください。 (〇は1つ)

家族構成については、すべての地区で「家族など同居」が最も高くなっている。

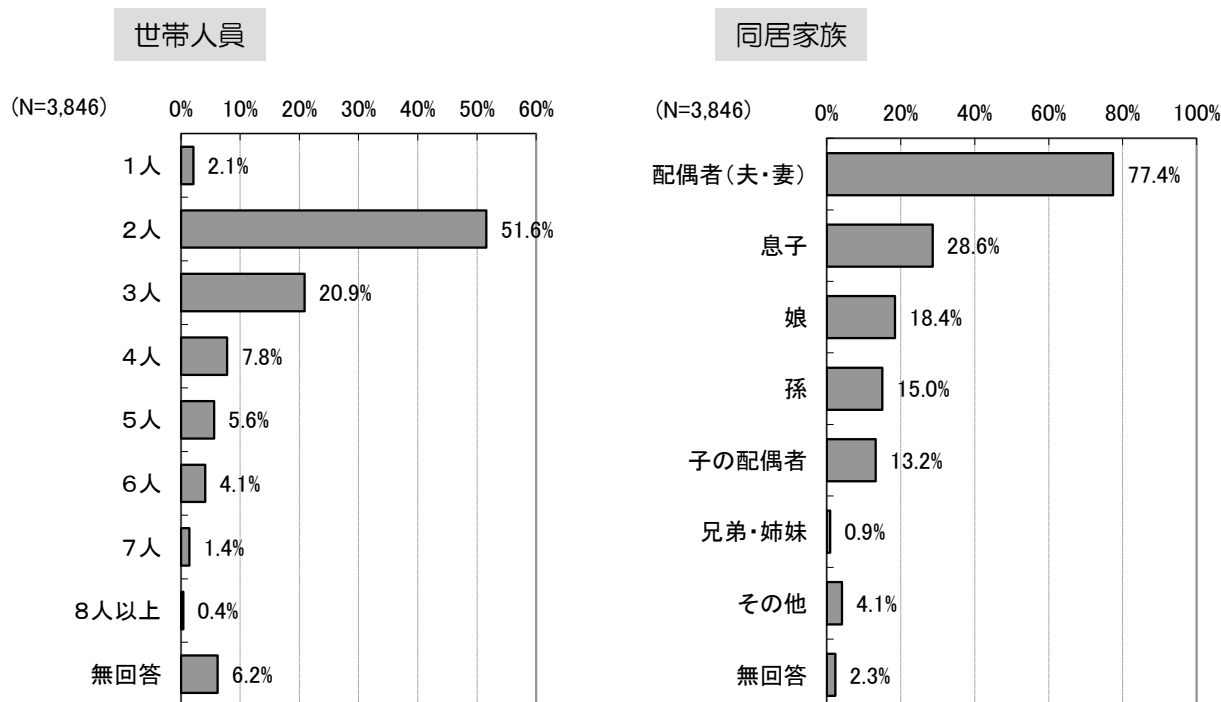


【問1で「家族など同居」と回答した人のみ】

問1-1 ご自身を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか。  
(〇はいくつでも)

世帯人員については、「2人」が51.6%と最も高く、次いで「3人」(20.9%)、「4人」(7.8%)の順となっており、平均2.82人となっている。

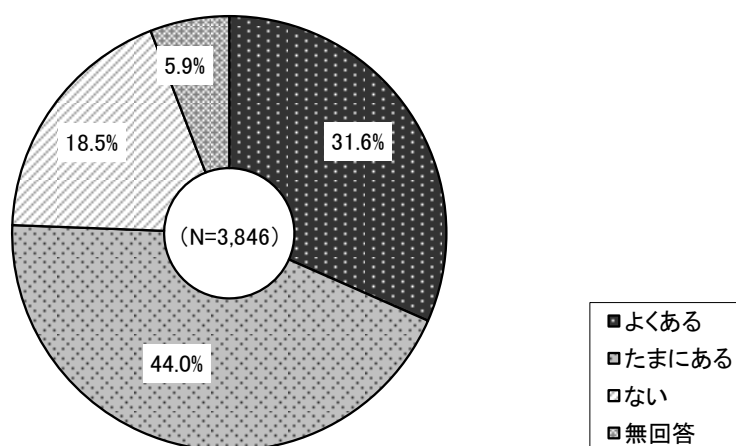
同居家族については、「配偶者(夫・妻)」が77.4%と最も高く、次いで「息子」(28.6%)、「娘」(18.4%)、「孫」(15.0%)、「子の配偶者」(13.2%)の順となっている。



【問1で「家族など同居」と回答した人のみ】

問1-2 日中、一人になることがありますか。(〇は1つ)

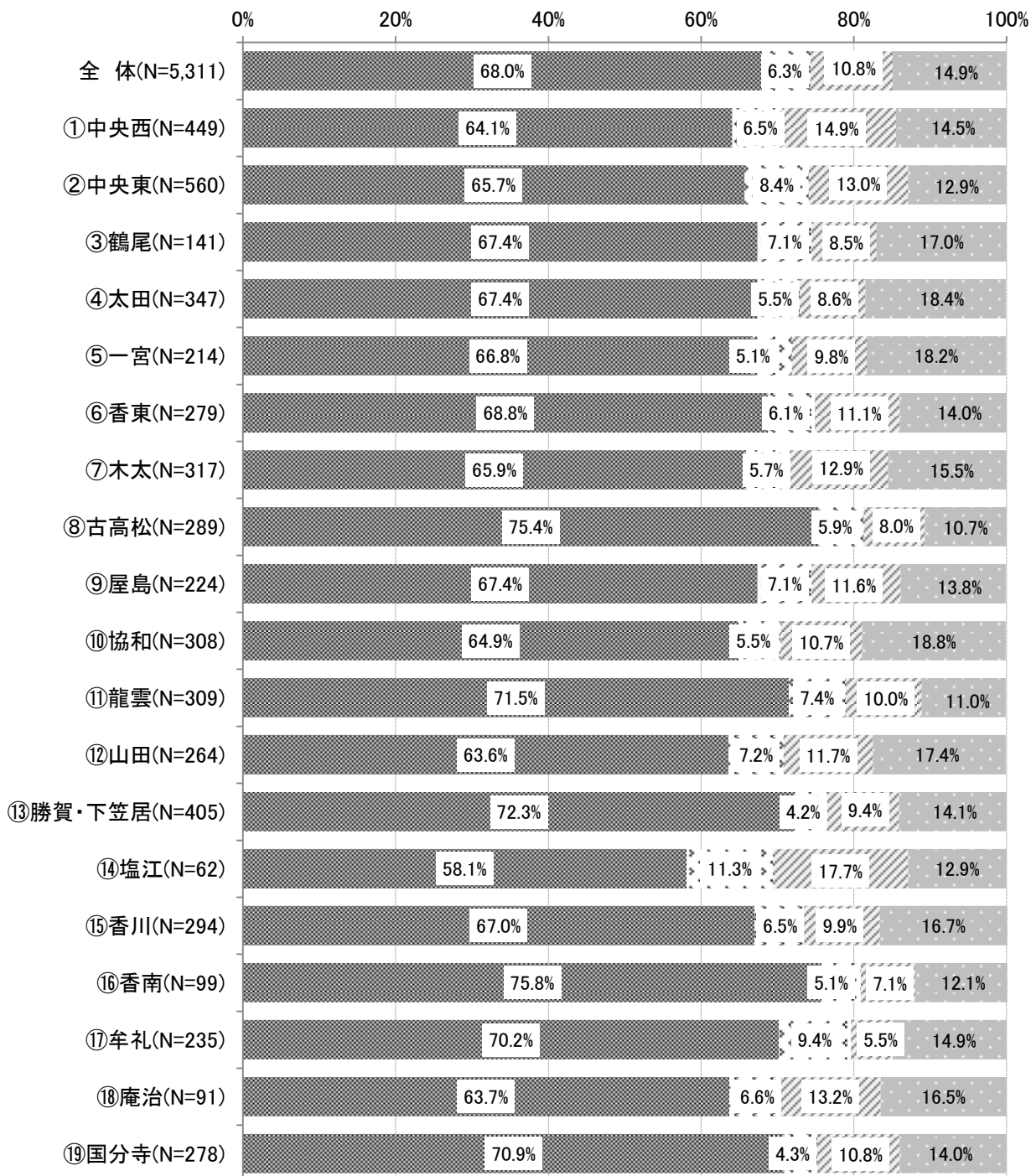
日中、一人になることについては、「たまにある」が44.0%と最も高く、「よくある」(31.6%)と合わせると、約7割半ばの人が日中を一人で過ごすことがあるという結果となっている。



問2 普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

(○は1つ)

普段の生活の中での介護・介助については、「介護・介助は必要ない」がどの地区でも高くなっているが、⑯香南(75.8%)が最も高く、次いで、⑧古高松(75.4%)、⑬勝賀・下笠居(72.3%)となっている。



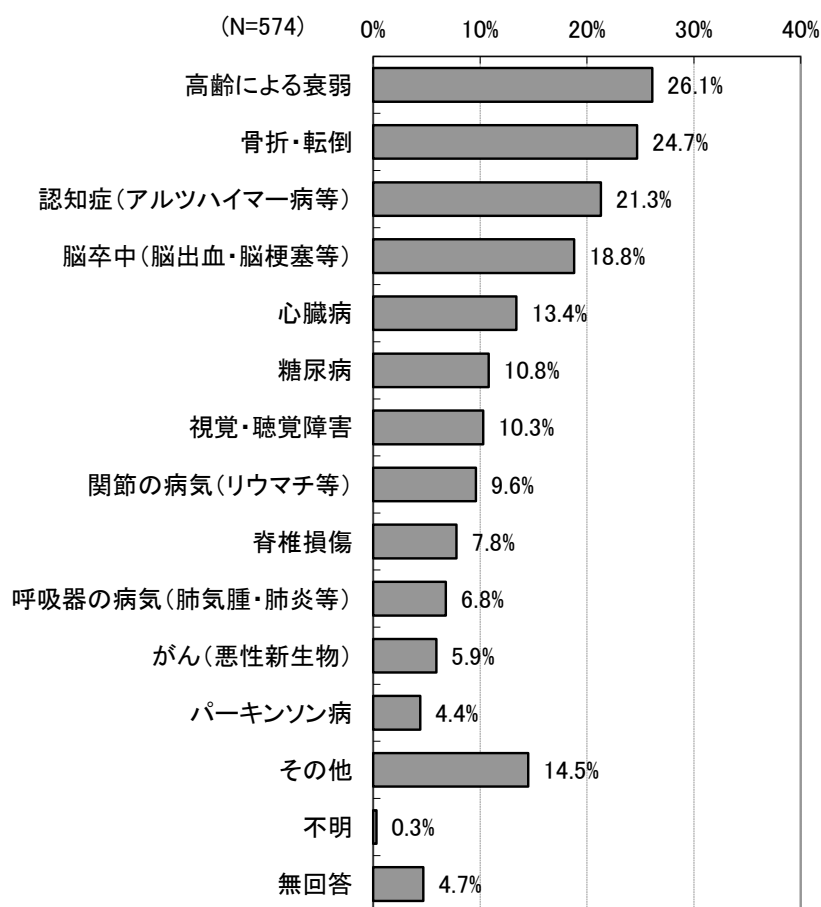
■ 介護・介助は必要ない  
 ▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない  
 ▩ 現在、何らかの介護を受けている  
 ■ 無回答

【問2で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」又は、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人のみ】

問2-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。

(○はいくつでも)

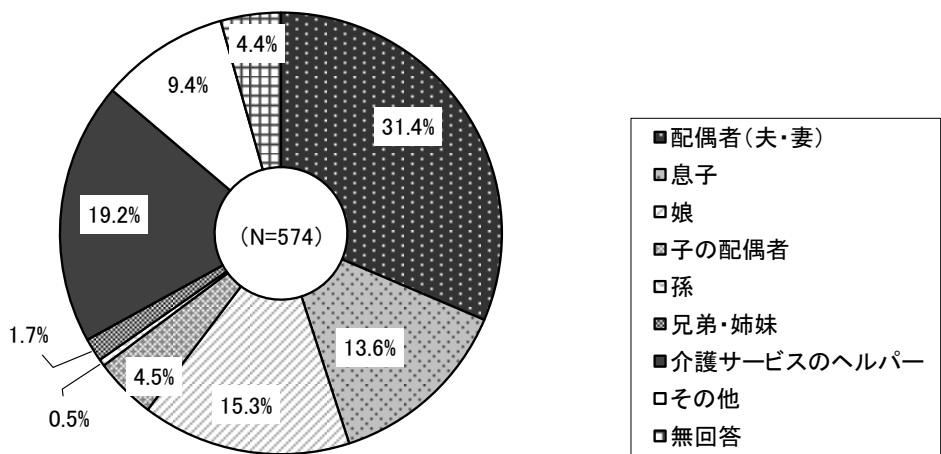
介護・介助が必要になった原因については、「高齢による衰弱」が26.1%と最も高く、次いで「骨折・転倒」(24.7%)、「認知症(アルツハイマー病等)」(21.3%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(18.8%)、「心臓病」(13.4%)の順となっている。



【問2-2・問2-3については、問2で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人のみ】

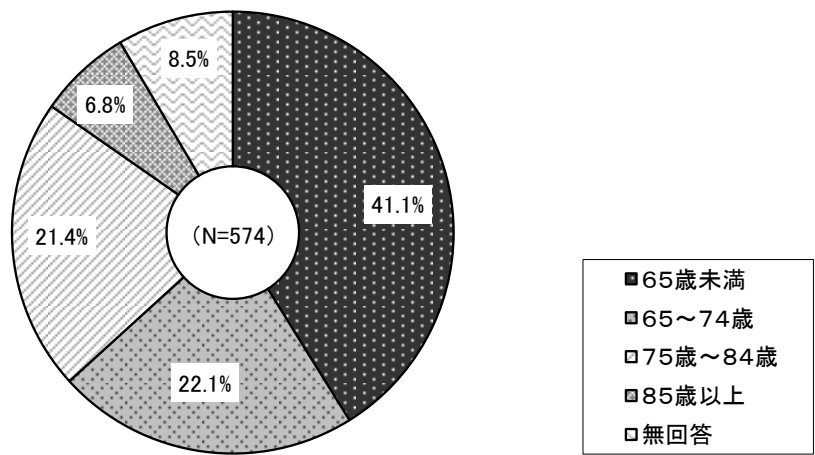
問2-2 どなたの介護・介助を受けていますか。 (〇は1つ)

主な介護・介助者については、「配偶者（夫・妻）」が31.4%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」（19.2%）、「娘」（15.3%）の順となっている。



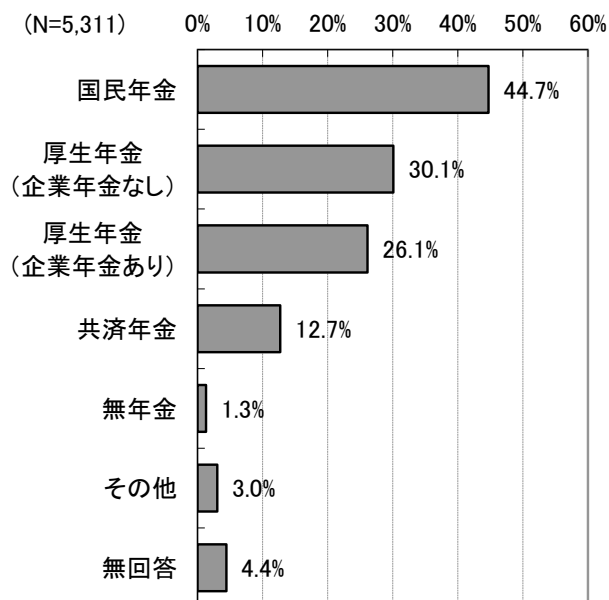
問2-3 介護・介助している方の年齢は、次のどれですか。 (〇は1つ)

主な介護・介助者の年齢については、「65歳未満」と回答した人が41.1%と最も高くなっている。一方、介護者の年齢が「65歳以上」となっているのは50.3%となっている。



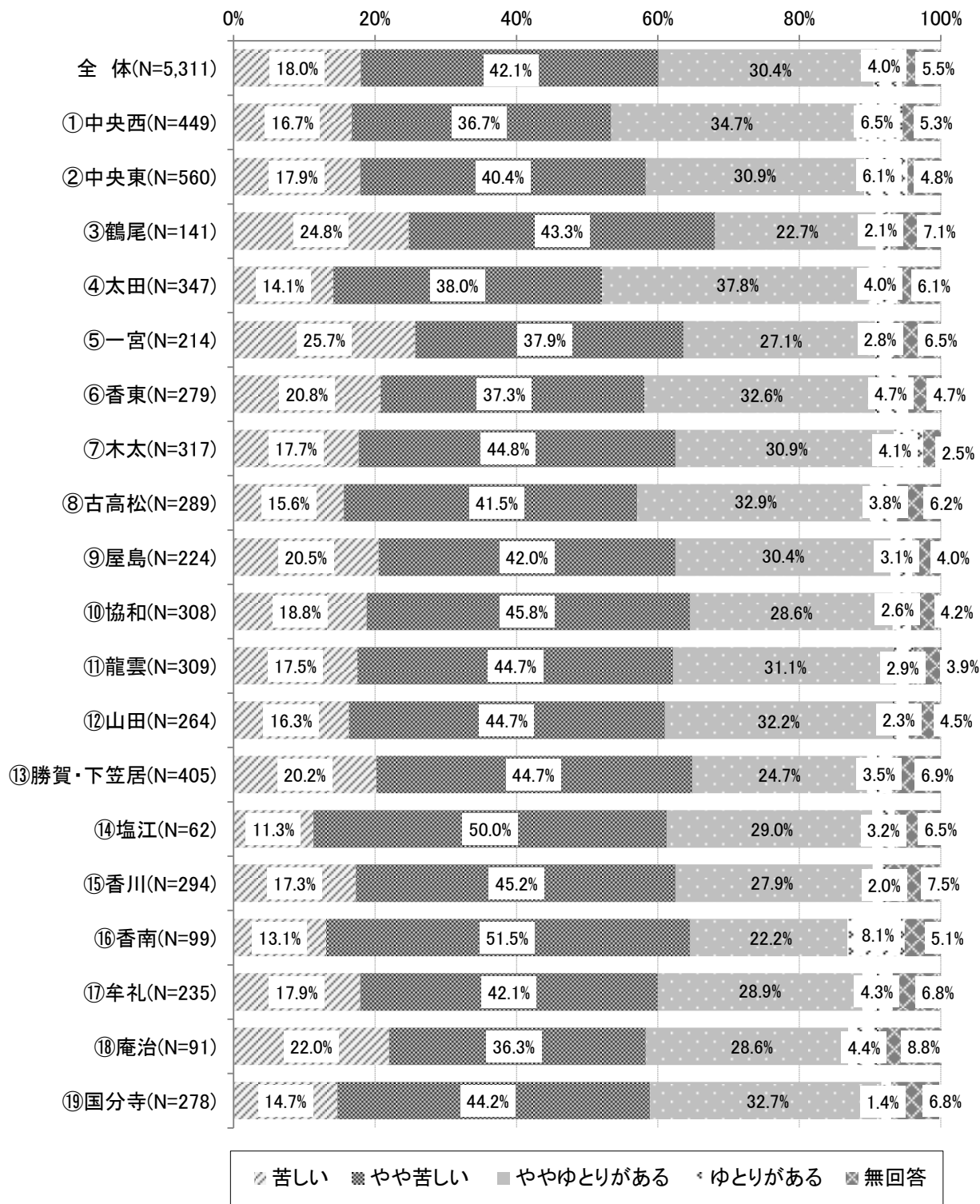
## 問3 年金の種類は次のどれですか。

年金の種類については、「国民年金」が44.7%と最も高く、次いで「厚生年金（企業年金なし）」（30.1%）、「厚生年金（企業年金あり）」（26.1%）の順となっている。



問4 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇は1つ)

現在の暮らしの状況については、どの地区でも「やや苦しい」が最も高くなっており、「苦しい」と合わせた割合では、③鶴尾が 68.1%と最も高く、次いで、⑬勝賀・下笠居 (64.9%)、⑩協和、⑯香南 (ともに 64.6%) となっている。一方、「ややゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた割合では、④太田 (41.8%) が最も高くなっている。次いで、①中央西 (41.2%)、⑥香東 (37.3%) となっている。

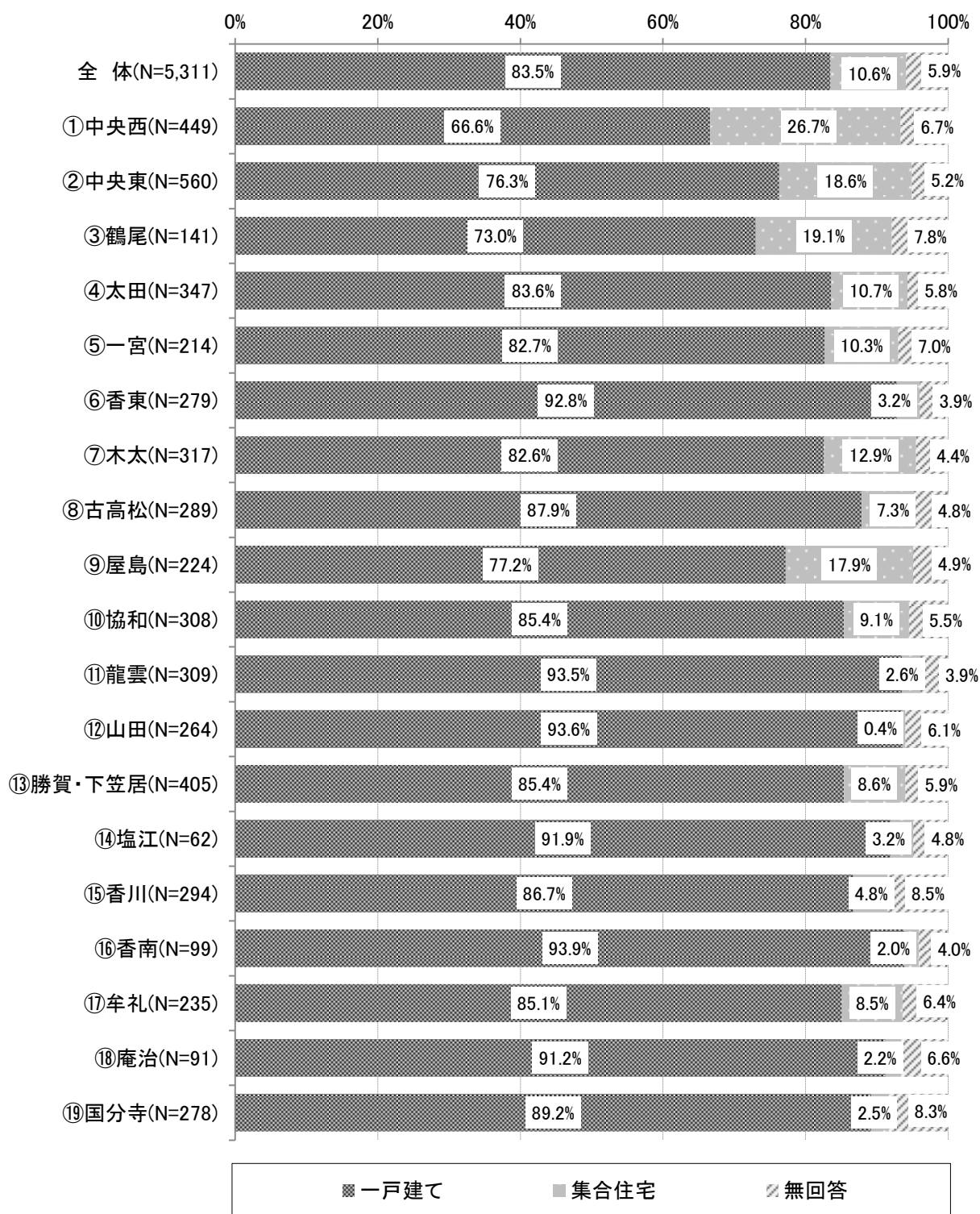




問5 お住まいは一戸建て、又は集合住宅のどちらですか。

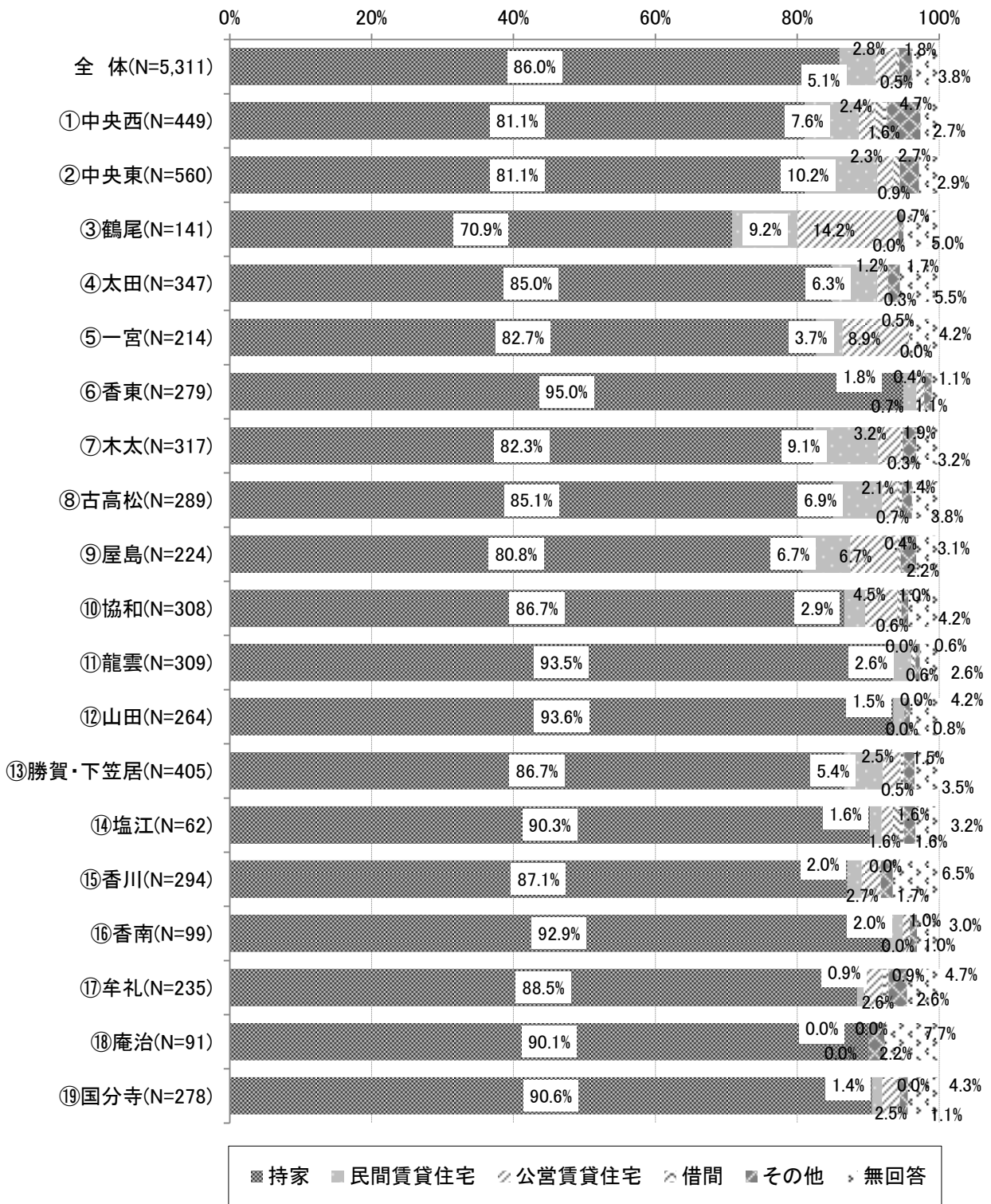
(○は1つ)

住まいについては、どの地区でも「一戸建て」が大半を占めており、約6割半ば～9割を占める結果となっている。「集合住宅」では①中央西(26.7%)が最も高く、次いで、③鶴尾(19.1%)、②「中央東」(18.6%)、⑨屋島(17.9%)となっている。



問6 お住まいは、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

住まいの種類については、「持家」がどの地区でも約7割～9割と大半を占める結果となっており、中でも⑥香東(95.0%)が最も高く、次いで、⑫山田(93.6%)、⑪龍雲(93.5%)となっている。



問7 お住まい（主に生活する部屋）は2階以上にありますか。

（○は1つ）

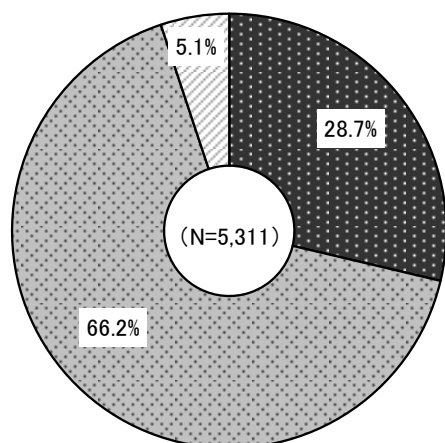
【問7で「はい（2階以上にある）」と回答した人のみ】

問7-1 お住まいにエレベーターは設置されていますか。

（○は1つ）

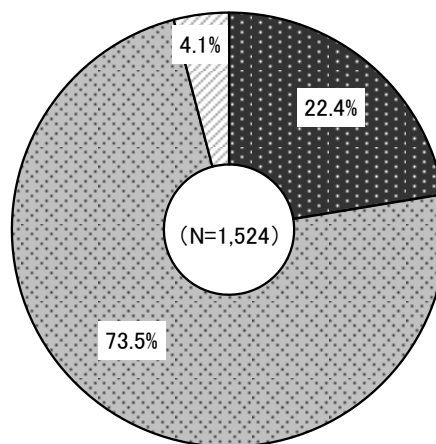
主な生活スペースについては「いいえ（2階以上にはない）」が66.2%となっている。また、「はい（2階以上にある）」と回答した人のエレベーターの有無については、「いいえ（設置されていない）」が73.5%となっており、エレベーターの設置があったのは「はい」（22.4%）と約2割となっている。

問7



■はい □いいえ □無回答

問7-1



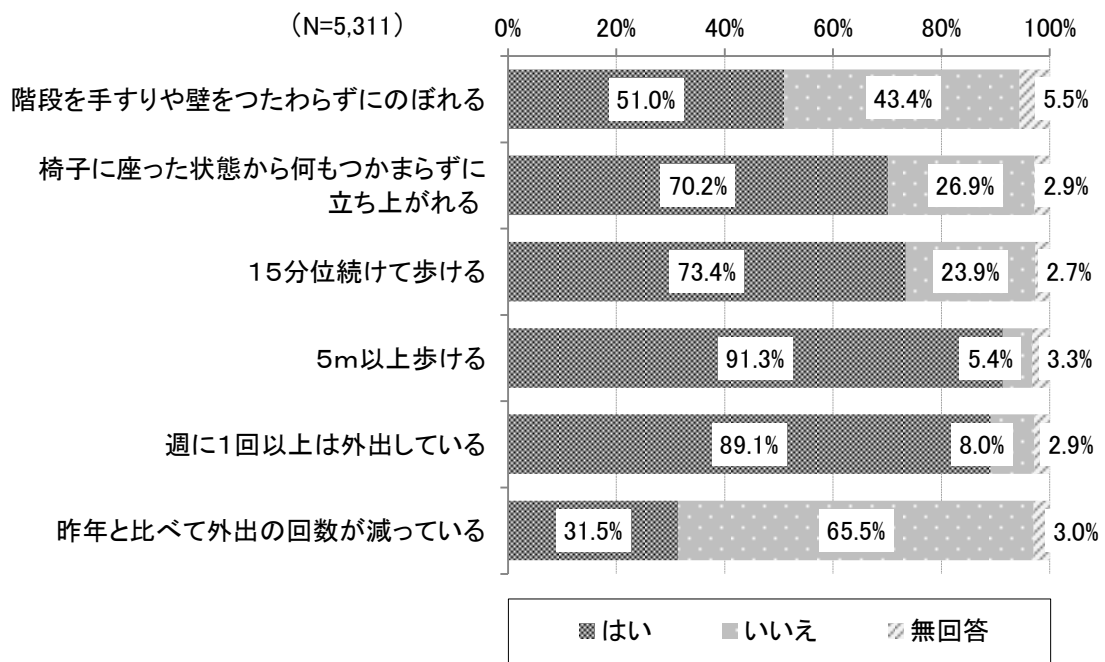
■はい □いいえ □無回答

## 運 動 ・ 閉 じ こ も り に つ い て

問 1 ～ 問 6 運動や外出についての状況を教えてください。 (それぞれ○は1つだけ)

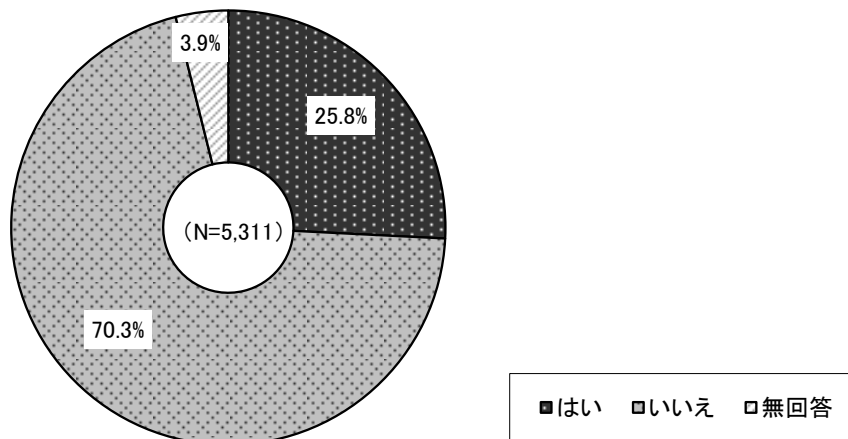
運動や外出の状況については、肯定的な回答が多いものの、『階段を手すりや壁をつたわずにのぼれる』については「いいえ (できない)」の回答が43.4%となっている。

また、『昨年と比べて外出の回数が減っている』については「はい (減っている)」が31.5%と約3割を占める結果となっている。



問 7 外出を控えていますか。 (○は1つ)

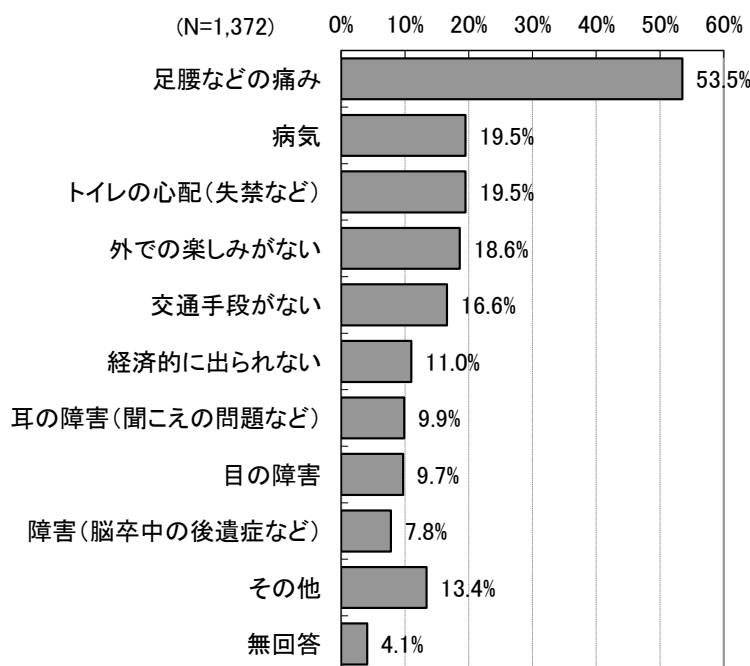
外出については、「いいえ (控えていない)」が70.3%と、「はい (控えている)」(25.8%)を44.5ポイント上回る結果となっている。



【問7で「はい」と回答した人のみ】

問7-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。 (○はいくつでも)

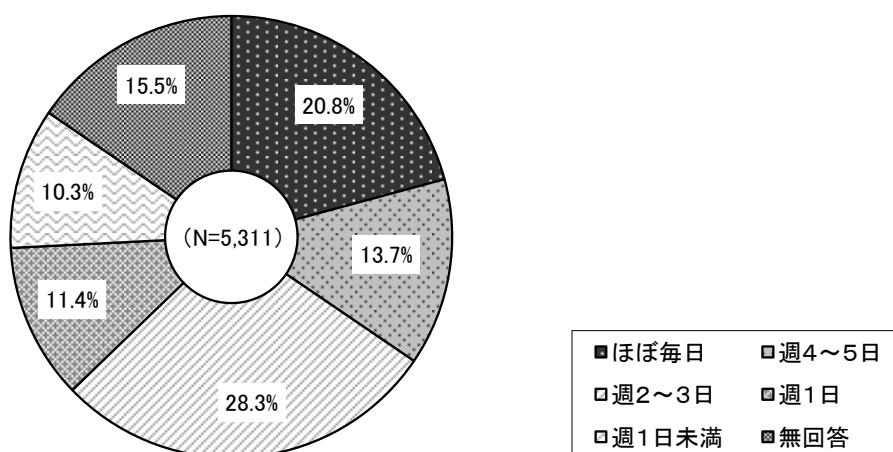
外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」が 53.5%と最も高く、他の項目と比べても突出して高い割合となっている。次いで「病気」、「トイレの心配（失禁など）」(19.5%)、「外での楽しみがない」(18.6%)、「交通手段がない」(16.6%)の順となっている。



問8 買物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。 (それぞれ○は1つ)

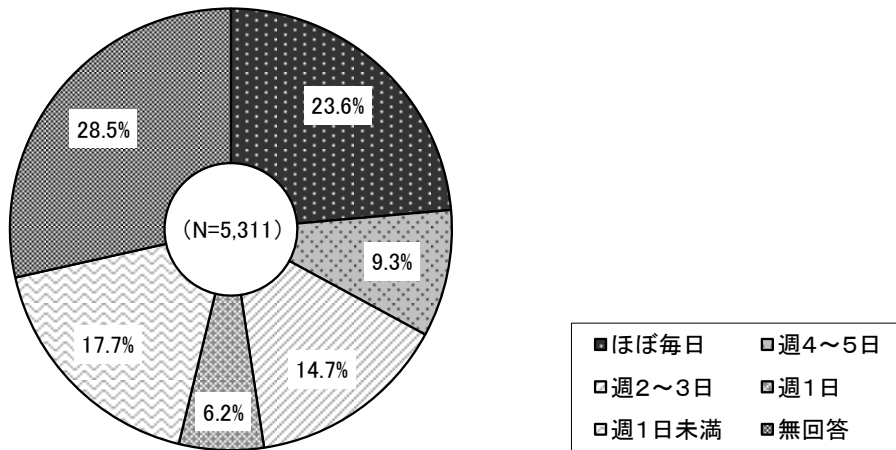
A 買物

買物での外出頻度については、「週2～3日」が 28.3%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」(20.8%)となっており、「週4～5日」(13.7%)と合わせると、買物を理由とした外出を週2日以上している人は約6割となっている。



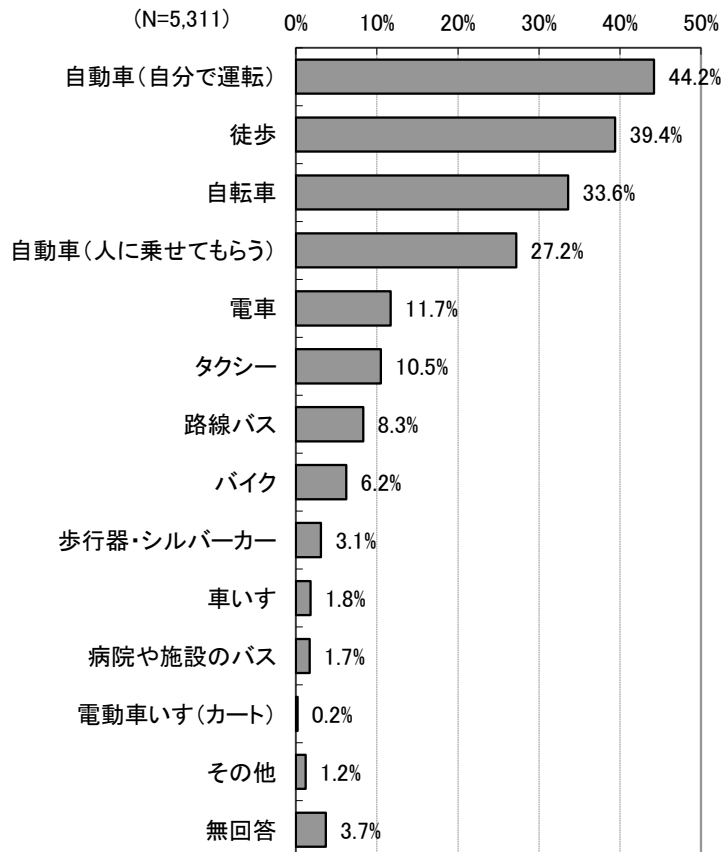
B 散歩

散歩での外出頻度については、「ほぼ毎日」と回答した人が 23.6%と最も高くなっている。  
買物での外出頻度と比べると、やや散歩での外出頻度の方が少ない結果となっている。



問9 外出する際の移動手段は何ですか。 (○はいくつでも)

外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が 44.2%と最も高く、次いで「徒歩」（39.4%）、「自転車」（33.6%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（27.2%）の順となっており、自ら動く移動手段で外出する人が多くなっている。



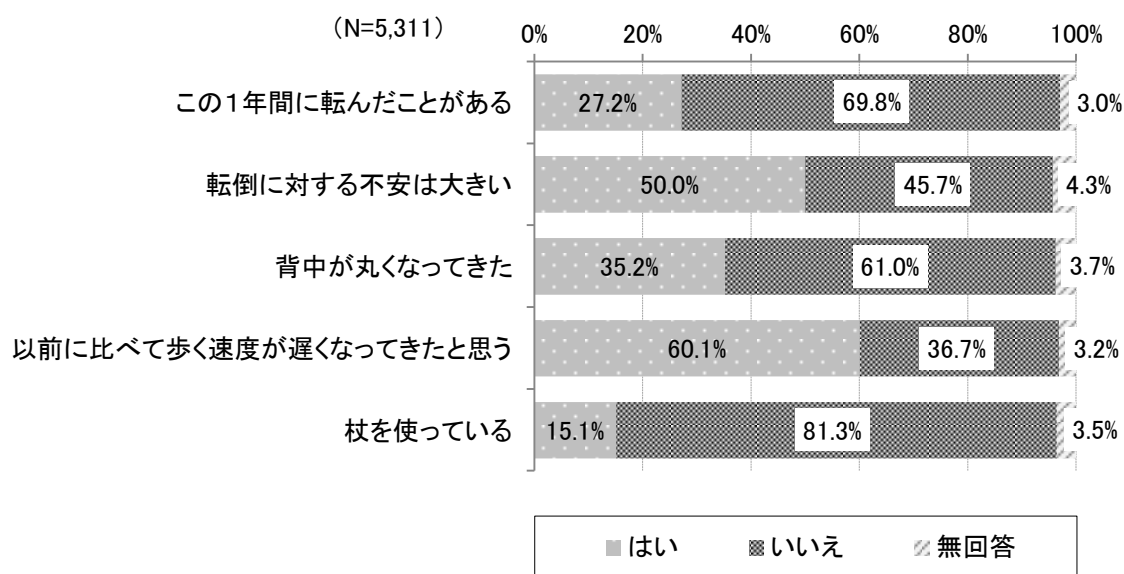
## 転倒について

問1～問5 歩行や転倒について教えてください。

(それぞれ○は1つだけ)

歩行や転倒の状況については、ほとんどの項目で「いいえ」の回答が「はい」の回答を上回っているものの、歩く速度の変化では「はい（遅くなってきたと思う）」が60.1%と、「いいえ（思わない）」（36.7%）を23.4ポイント上回る結果となっている。

また、転倒に対する不安では「はい（不安は大きい）」が50.0%と、5割の人が転倒に対する不安を抱いている結果となっている。

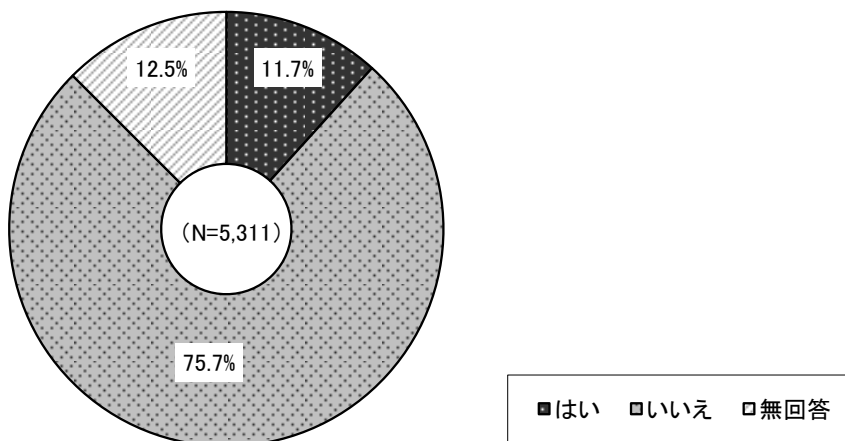


## □ 腔 ・ 栄 養 に つ い て

問 1 6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか。

(○は1つ)

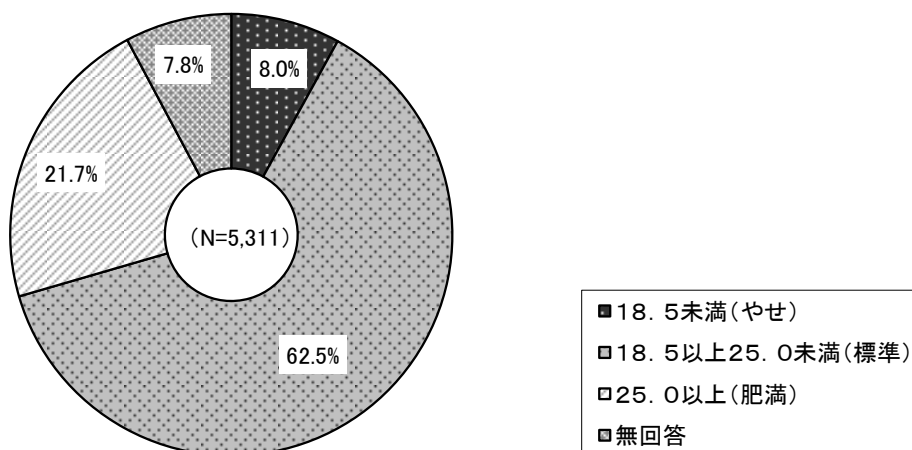
6 か月間での 2 ～ 3 kg 以上の体重減少については、「いいえ (ない)」が 75.7% を占めている一方、「はい (あった)」と回答した人が 11.7% となっている。



問 2 身長と体重を教えてください。< BMI 算出 >

身長及び体重の記載から算出した BMI については、18.5 以上 25.0 未満の「標準」が 62.5% と最も高くなっている。

一方、18.5 未満の「やせ」が 8.0%、25.0 以上の「肥満」については 21.7% となっている。



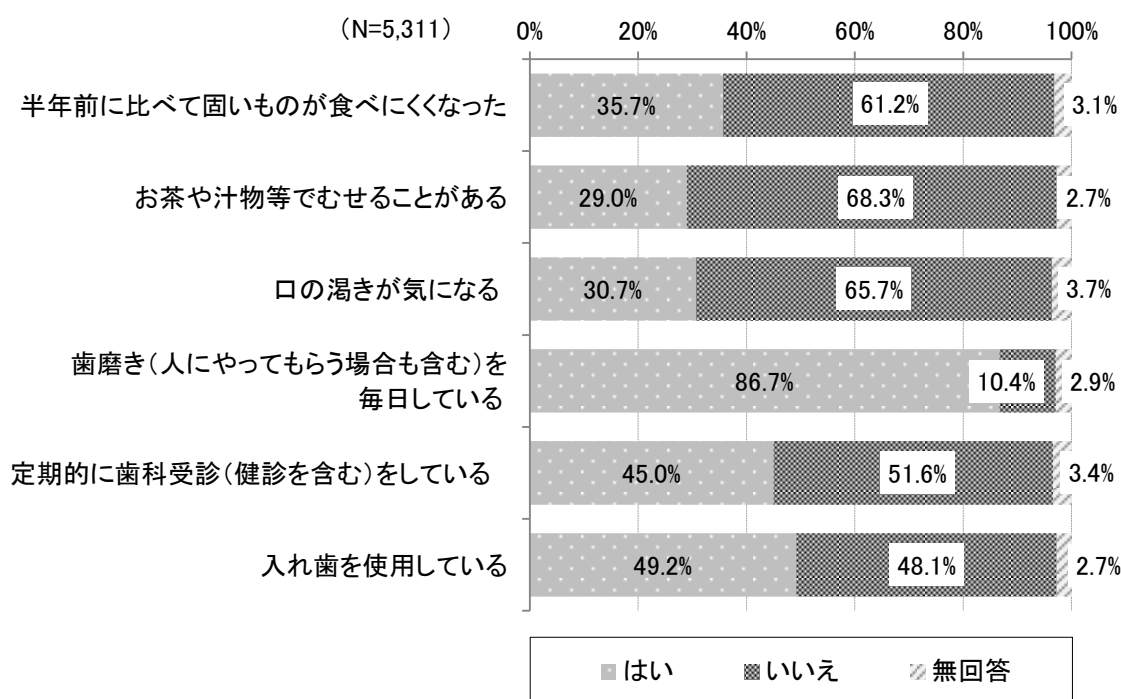


問3～問8 口の状態について教えてください。

(それぞれ○は1つだけ)

口の状態については、毎日の歯磨きの項目で「はい（している）」が86.7%と8割半ばとなっている。一方、定期的な歯科受診の項目では「いいえ（受診していない）」(51.6%)が「はい（受診している）」(45.0%)を6.6ポイント上回る結果となっている。

また、半年前に比べて固いものが食べにくくなった、お茶や汁物等でむせることがある、口の渇きが気になるについて、「はい」が約3割～3割半ばとなっている。入れ歯の利用については「はい（使用している）」が49.2%となっている。



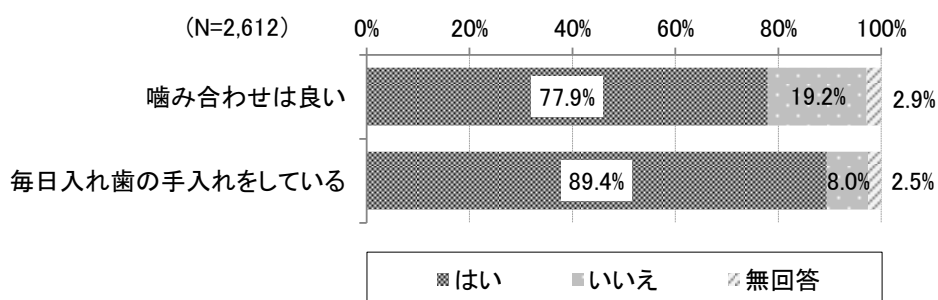
【問8（入れ歯の使用）で「はい（使用している）」と回答した人のみ】

問8-1～問8-2 入れ歯の状態について教えてください。

(それぞれ○は1つだけ)

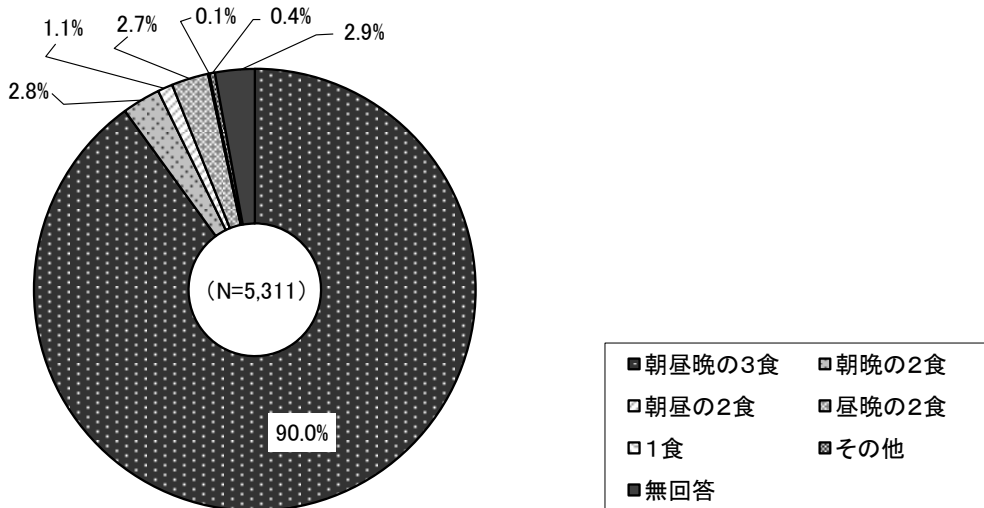
入れ歯の状態については、「はい（噛み合わせは良い）」が77.9%となっており、約8割近くの方が良いと回答している一方、「いいえ（噛み合わせは良くない）」は19.2%と2割近くの方が噛み合わせに不満を感じているという結果となっている。

また、毎日の手入れについては「はい（手入れをしている）」が89.4%と約9割の人が毎日手入れをしていると回答している。



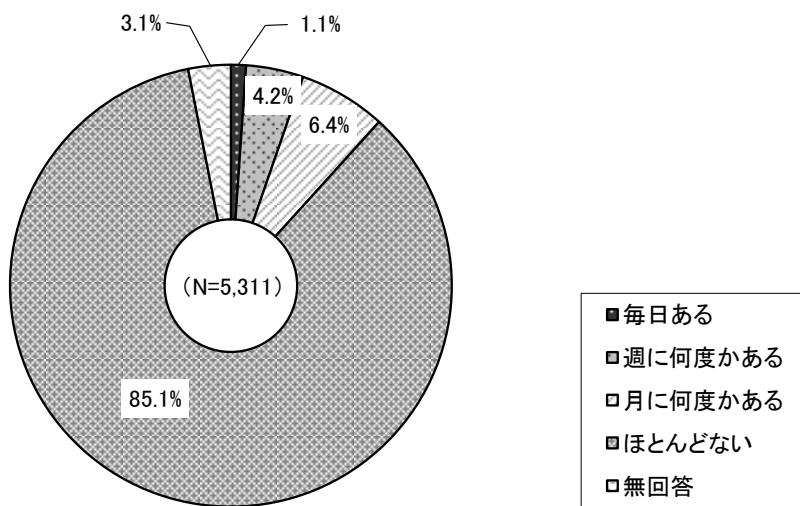
問9 1日の食事の回数は何回ですか。 (○は1つ)

1日の食事の回数については、「朝昼晩の3食」が90.0%と9割を占めている。「朝晩の2食」、「朝昼の2食」、「昼晩の2食」の割合を合わせると、6.6%となり1割未満となっている。



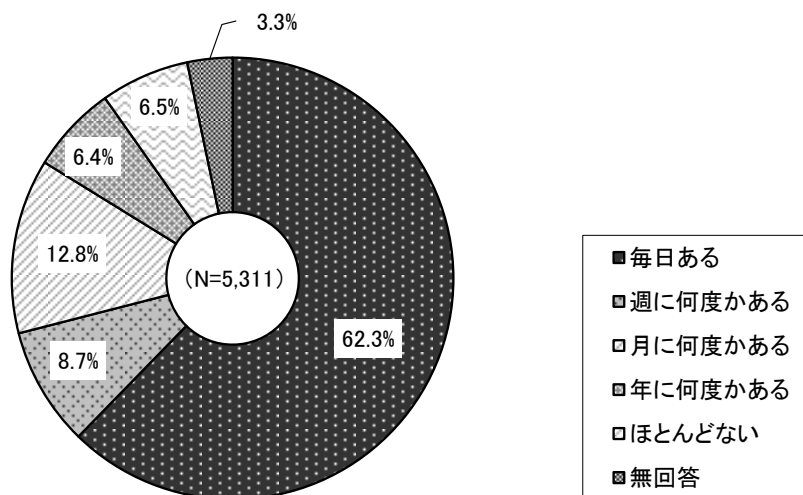
問10 食事を抜くことがありますか。 (○は1つ)

食事を抜くことがあるかどうかについては、「ほとんどない」が85.1%と最も高くなっている。次いで「月に何度かある」が6.4%、「週に何度かある」が4.2%となっている。



問 11 自分一人でなく、どなたかと食事をとにもする機会がありますか。 (○は1つ)

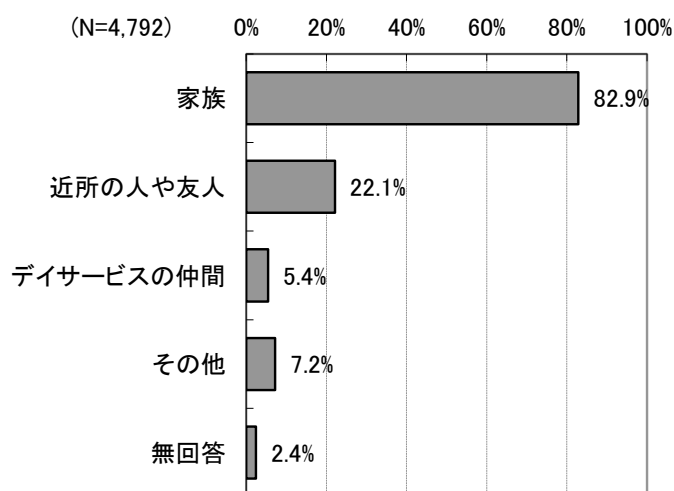
自分一人でなく、誰かとともに食事をする機会があるかどうかについては、「毎日ある」が62.3%と最も高くなっている。次いで「月に何度かある」12.8%、「週に何度かある」8.7%、「年に何度かある」6.4%の順になっている。



【問 11 でどなたかと食事をとにもする機会があると回答した人のみ】

問 11-1 食事をとにもする人はどなたですか。 (○はいくつでも)

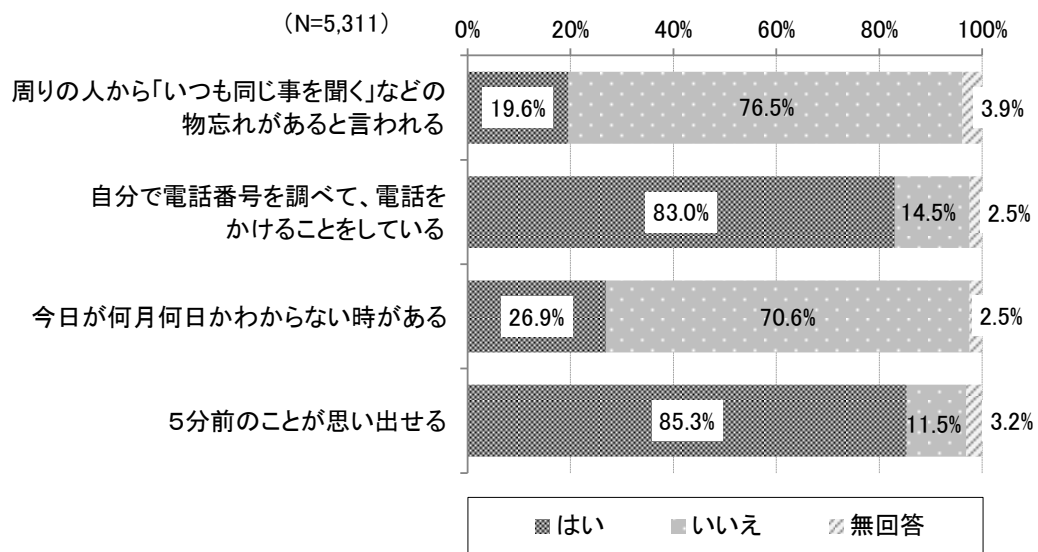
食事をとにもする人が誰かについては、「家族」が82.9%と最も高くなっており、他と比較しても突出した割合となっている。次いで「近所の人や友人」22.1%、「デイサービスの仲間」5.4%となっている。



# 物 忘 れ に つ い て

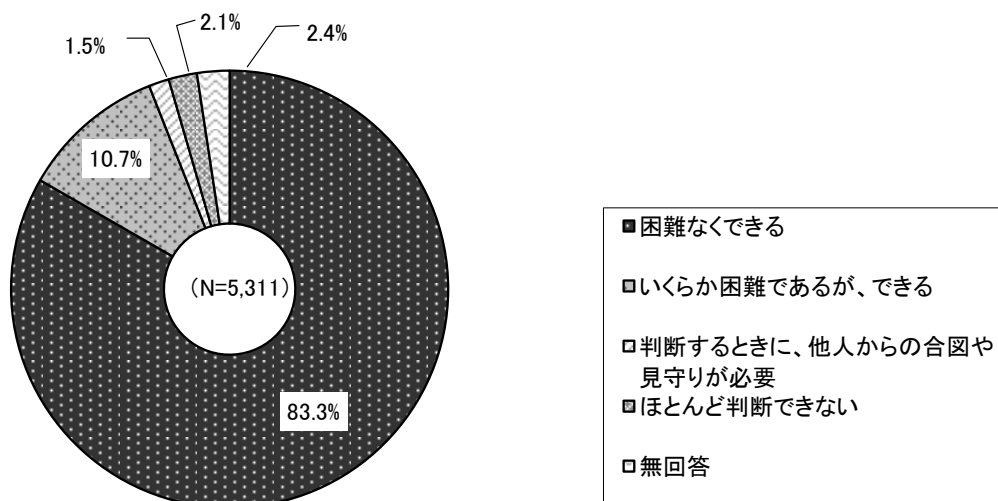
問 1～問 4 物忘れについて教えてください。 (それぞれ○は1つだけ)

物忘れの状況については、『自分で番号を調べて電話をかけることをしている』、『5分前のことが思い出せる』については、「はい」の回答が8割～8割半ばとなっている。また、『周りの人から物忘れがあると言われる』については「はい」が19.6%と2割近くを占めており、『今日が何月何日かわからない時がある』については「はい」が26.9%と2割半ばとなっている。



問 5 その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。 (○は1つ)

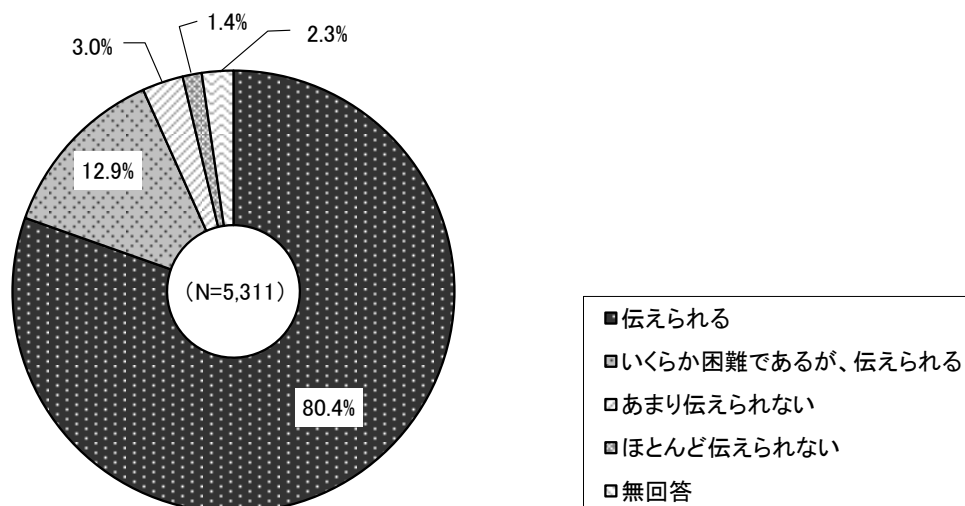
1日の活動の自己判断については、「困難なくできる」が83.3%と約8割を占め最も高くなっている。また、「いくらか困難であるが、できる」(10.7%)と合わせると、約9割の人が1日の活動の判断が自分でできるという結果となっている。



## 問6 人に自分の考えをうまく伝えられますか。

(○は1つ)

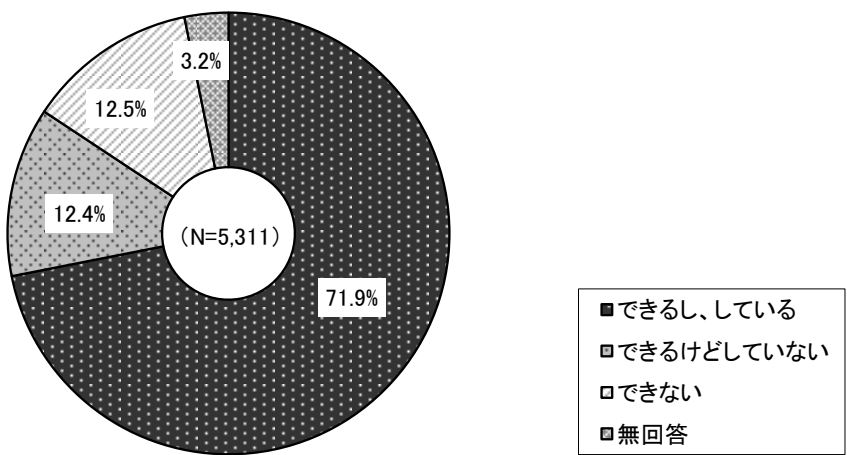
自分の考えの伝達については、「伝えられる」が80.4%と最も高くなっており、「いくらか困難であるが、伝えられる」(12.9%)と合わせると、約9割の人が自分の考えを人に伝えることができるという結果となっている。



## 日常生活について

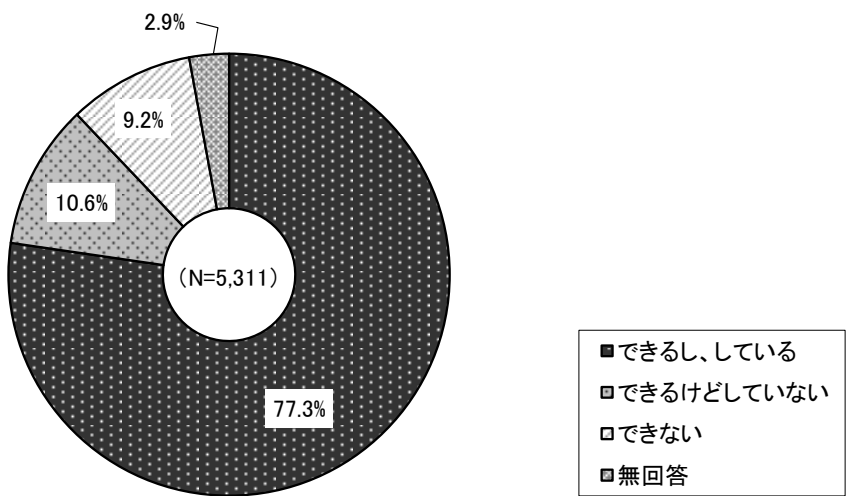
**問1** バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）。 （○は1つ）

バスや電車での一人外出については、「できるし、している」と回答した人が 71.9%と約7割を占めている。一方、「できるけどしていない」（12.4%）と「できない」（12.5%）を合わせると、一人での外出をしていない人が約2割半ばを占める結果となっている。



**問2** 日用品の買物をしていますか。 （○は1つ）

日用品の買物については、「できるし、している」と回答した人が 77.3%と最も高くなっている。一方、「できるけどしていない」（10.6%）と「できない」（9.2%）を合わせると、自分で日用品の買物をしていない人が2割近くを占める結果となっている。

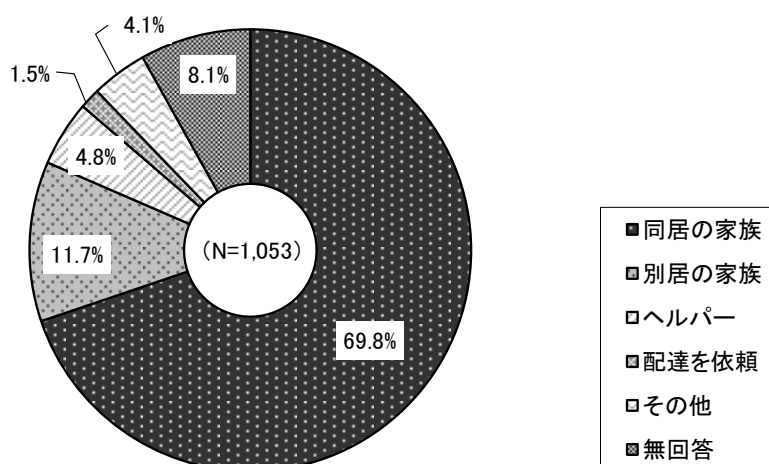


## 【問2で「できるだけしていない」又は「できない」と回答した人のみ】

問2-1 日用品の買物をする人は主にどなたですか。

(〇は1つ)

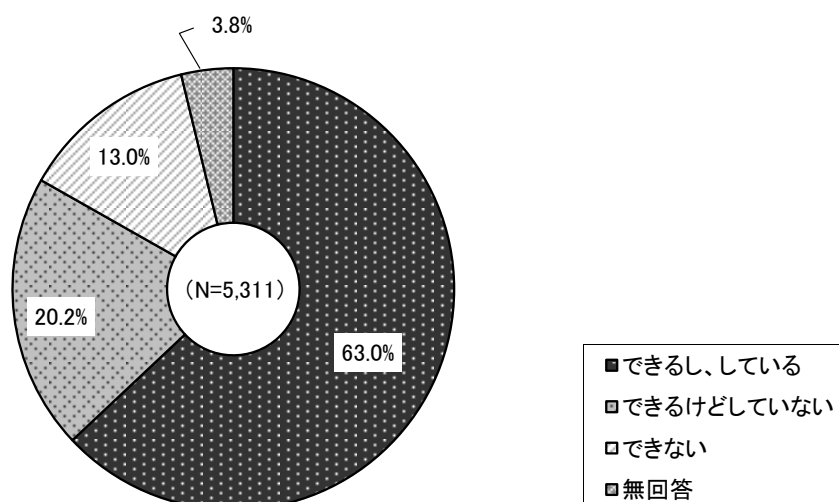
日用品の買物を「できるだけしていない」又は「できない」と回答した人の代わりに、買物をする人は主に誰かについては、「同居の家族」が69.8%で最も高くなっている。次いで「別居の家族」(11.7%)、「ヘルパー」(4.8%)、「配達を依頼」(1.5%)の順となっている。



問3 自分で食事の用意をしていますか。

(〇は1つだけ)

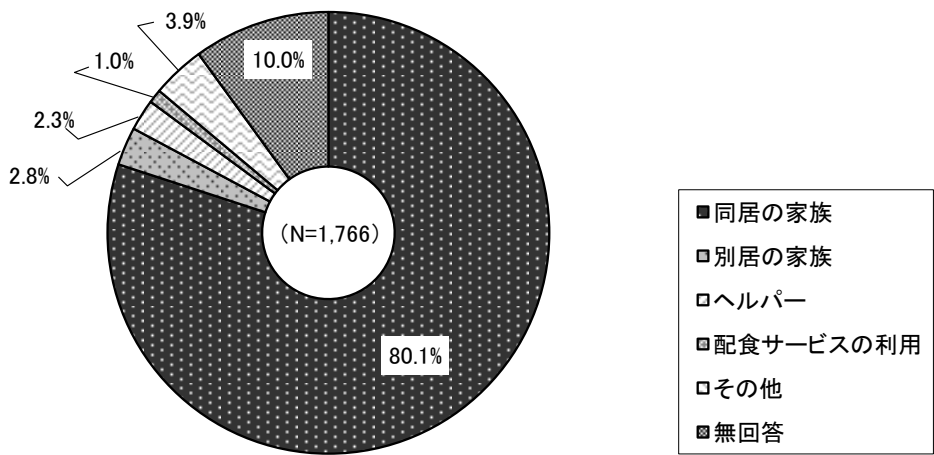
食事の用意については、「できるし、している」が63.0%と最も高くなっている。一方、「できるだけしていない」(20.2%)と「できない」(13.0%)を合わせると、自分で食事の用意をしていない人が33.2%と約3割を占める結果となっている。



【問3で「できるだけしていない」又は「できない」と回答した人のみ】

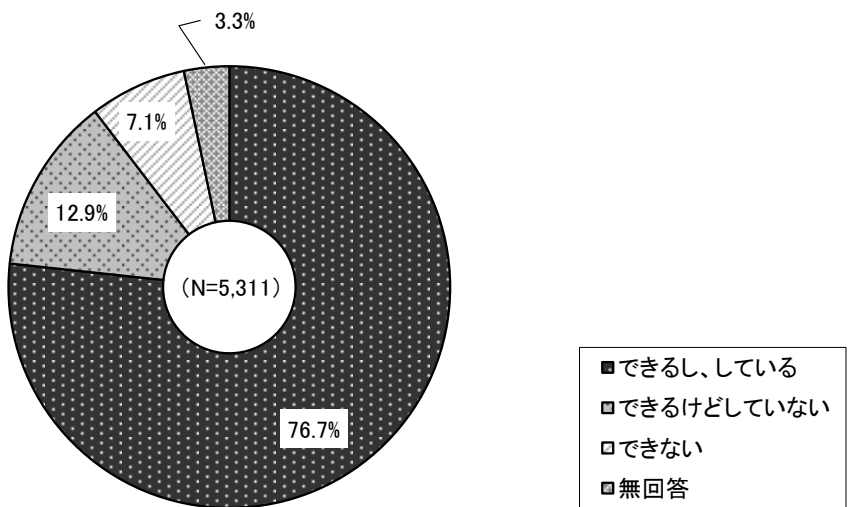
問3-1 食事の用意をする人は主にどなたですか。 (○は1つ)

食事の用意を「できるだけしていない」又は「できない」と回答した人の代わりに、食事の用意をする人は主に誰かについては、「同居の家族」が80.1%と最も高くなっており、他と比較しても突出した割合となっている。次いで「別居の家族」(2.8%)、「ヘルパー」(2.3%)、「配食サービスの利用」(1.0%)の順となっている。



問4 請求書の支払いをしていますか。 (○は1つ)

請求書の支払いについては、「できるし、している」が76.7%と最も高くなっている。一方、「できるだけしていない」(12.9%)と「できない」(7.1%)を合わせると、請求書の支払いを自分でしていない人が2割を占める結果となっている。

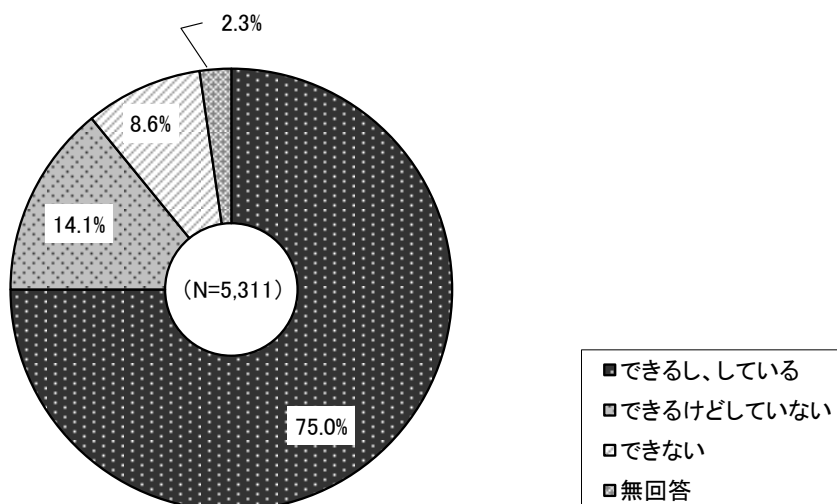




## 問5 預貯金の出し入れをしていますか。

(○は1つ)

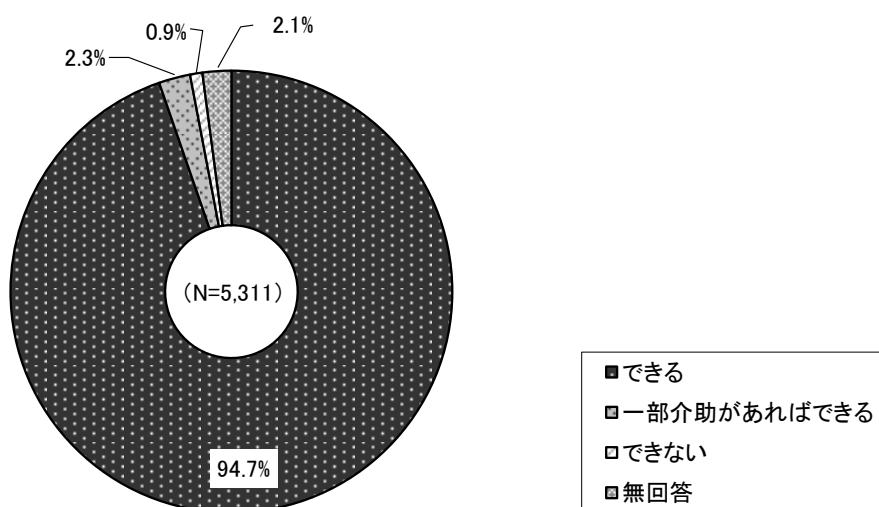
預貯金の出し入れについては、「できるし、している」が75.0%と最も高くなっている。一方、「できるけどしていない」(14.1%)と「できない」(8.6%)を合わせると、預貯金の出し入れを自分でしていない人が約2割を占める結果となっている。



## 問6 食事は自分で食べられますか。

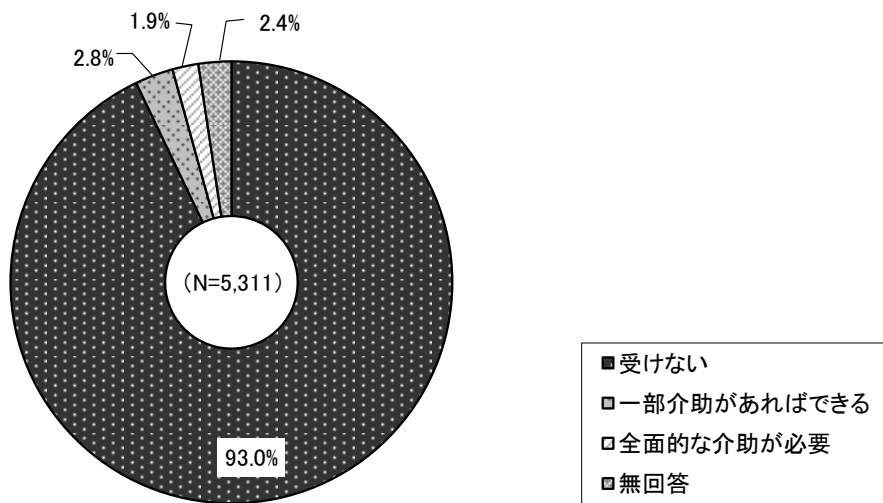
(○は1つ)

食事については、「できる (自分で食べられる)」が94.7%と大半を占めている。日常生活に関する項目の中で「できる」と回答した人が最も多い設問となっている。



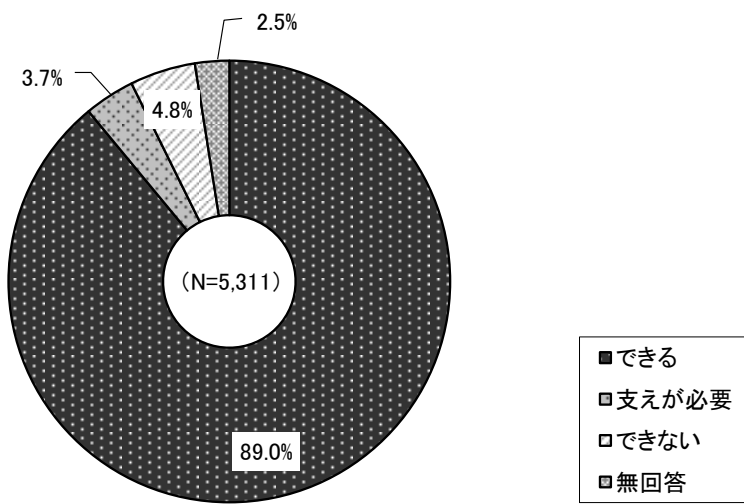
問7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。 (○は1つ)

寝床に入るときは、「受けない」が93.0%と最も高くなっている。



問8 座っていることができますか。 (○は1つ)

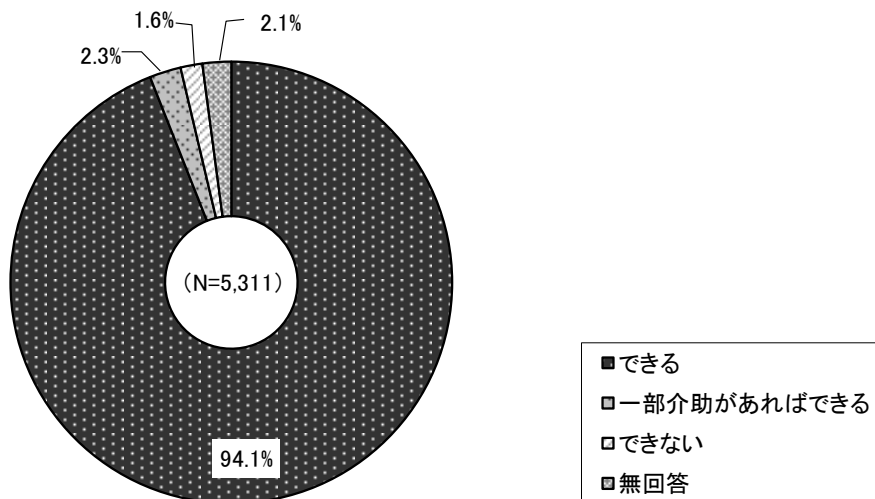
座っていることについては、「できる」が89.0%と最も高くなっている。一方、「支えが必要」は3.7%、「できない」は4.8%という結果となっている。



問9 自分で洗面や歯磨きができますか。

(○は1つ)

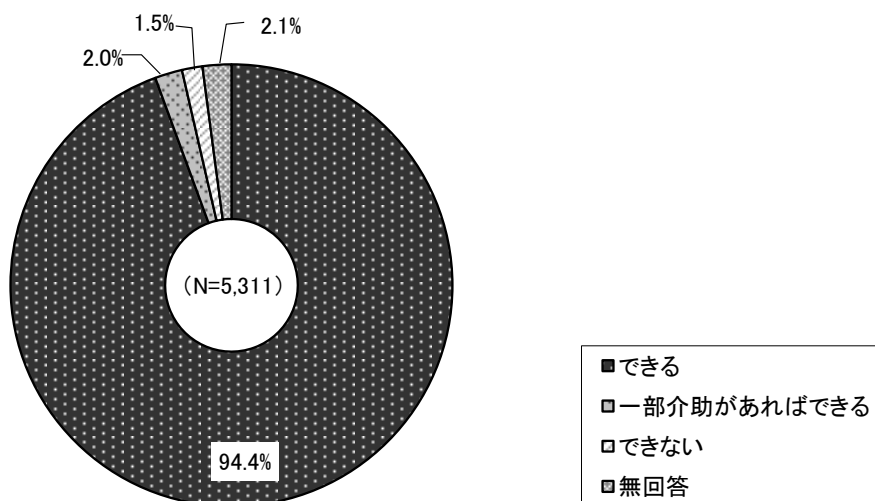
洗面や歯磨きについては、「できる」が94.1%と大半を占めている。



問10 自分でトイレができますか。

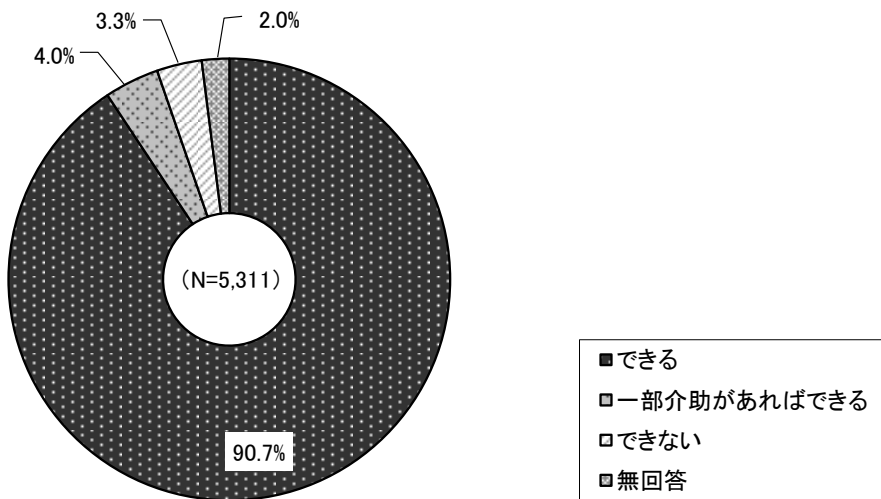
(○は1つ)

トイレについては、「できる」が94.4%と大半を占める結果となっている。



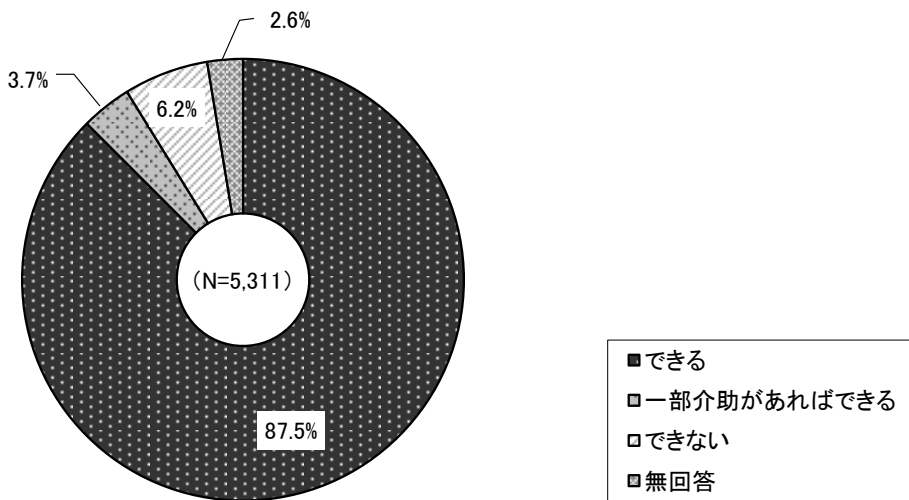
問 11 自分で入浴ができますか。 (○は1つ)

入浴については、「できる」が90.7%と大半を占めている。



問 12 50m以上歩けますか。 (○は1つ)

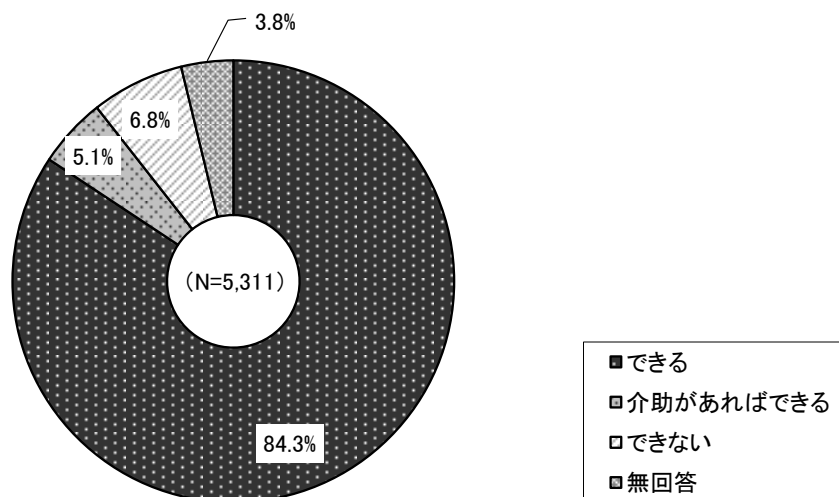
50m以上の歩行については、「できる」が87.5%と大半を占めている。一方、「一部介助（他人に支えてもらう）があればできる」は3.7%、「できない」は6.2%という結果となっている。



## 問 13 階段を昇り降りできますか。

(○は1つ)

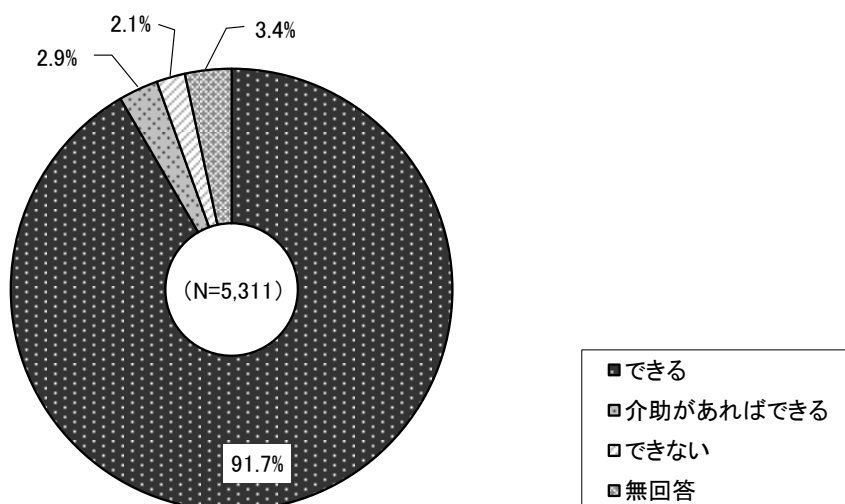
階段の昇り降りについては、「できる」が84.3%と大半を占めている。一方、「介助があればできる」は5.1%、「できない」は6.8%という結果となっている。



## 問 14 自分で着替えができますか。

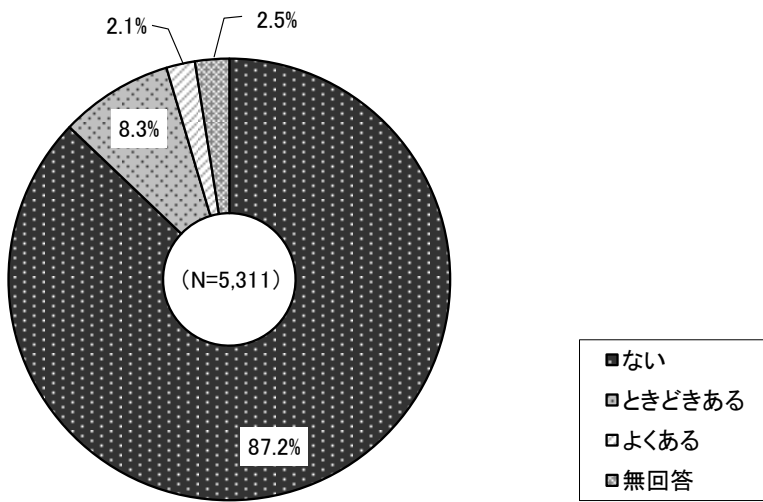
(○は1つ)

着替えについては、「できる」が91.7%と大半を占めている。



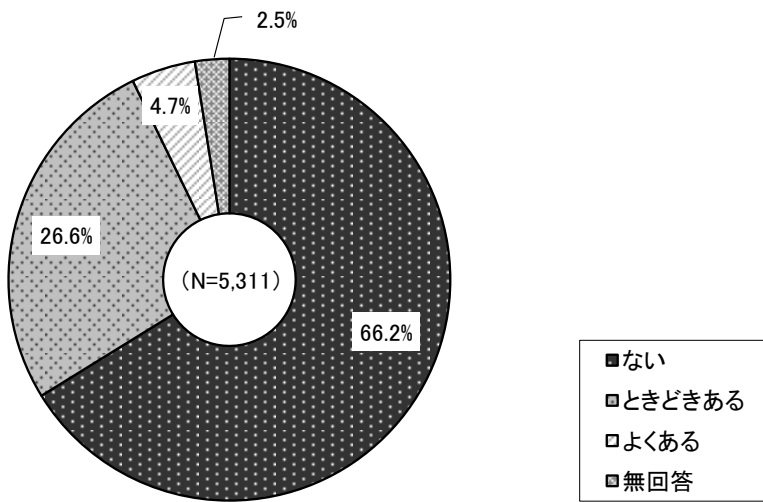
**問 15 大便の失敗がありますか。** (○は1つ)

大便の失敗については、「ない」と回答した人が87.2%と大半を占めている。一方、「ときどきある」(8.3%)と「よくある」(2.1%)を合わせると、10.4%の人が大便の失敗をしたことがあるという結果となっている。



**問 16 尿もれや尿失禁（尿の失敗）がありますか。** (○は1つ)

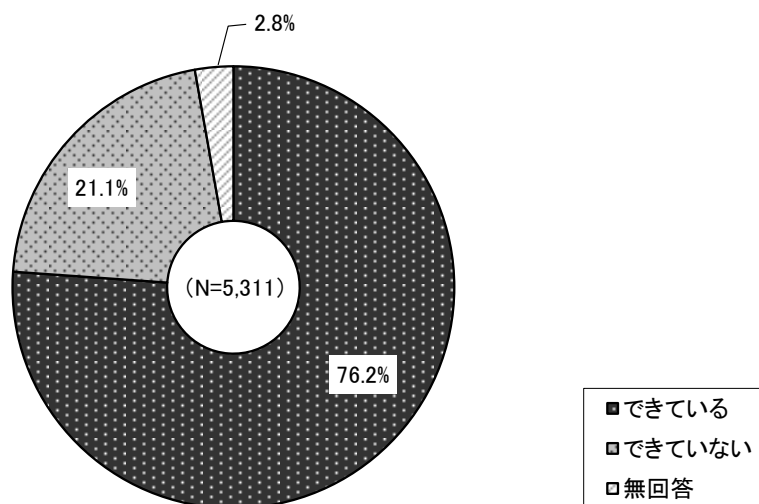
尿の失敗については、「ない」と回答した人が66.2%と約6割半ばを占めている。一方、「ときどきある」(26.6%)と「よくある」(4.7%)を合わせると、約3割の人が尿の失敗をしたことがあるという結果となっており、問15の大便の失敗に比べて高い割合となっている。



## 問17 家事全般ができていますか。

(○は1つ)

家事全般については、「できている」が76.2%と約7割半ばを占めている。一方、「できていない」が21.1%となっている。

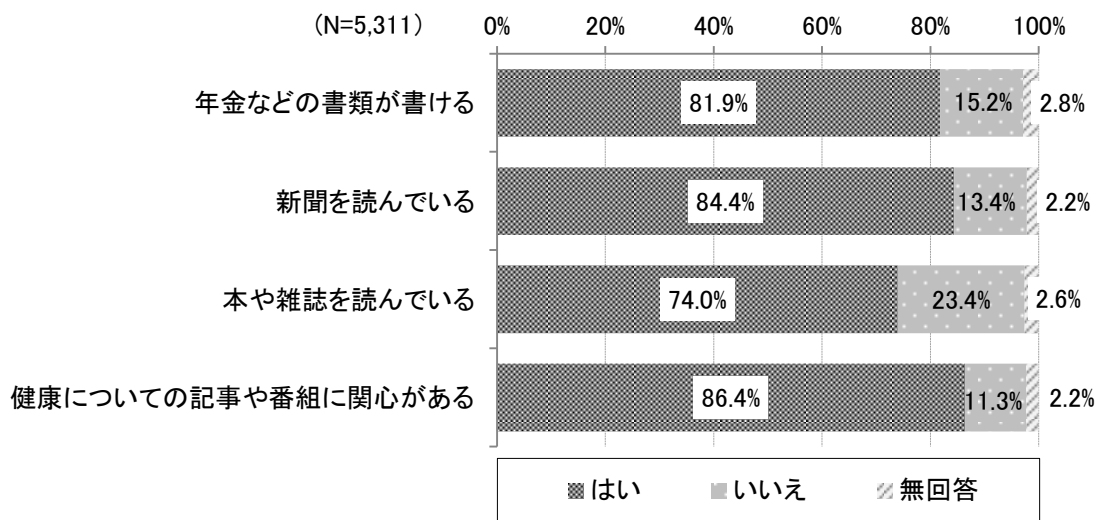


## 社会参加について

問1～問4 書類の記入や読書等の状況について教えてください。 (それぞれ○は1つだけ)

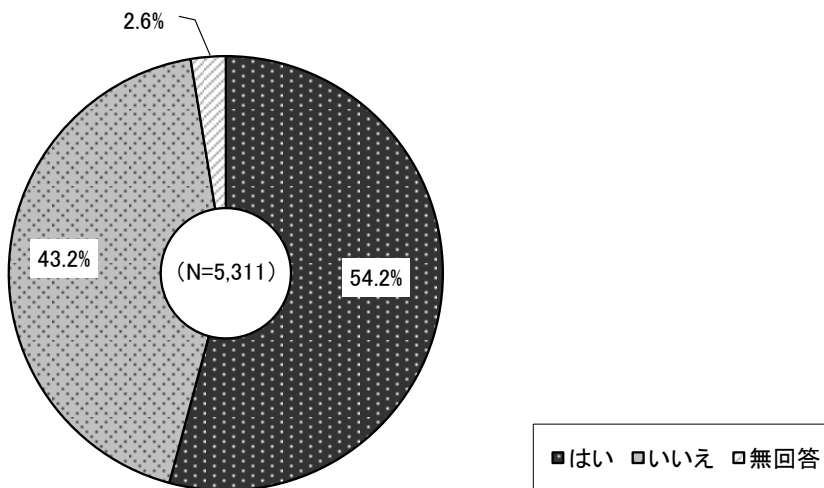
すべての項目について、「はい」が「いいえ」を大きく上回る結果となっている。

特に、『健康についての記事や番組に関心がある』については、「はい（関心がある）」が 86.4% となっている。『新聞を読んでいる』では、「はい（読んでいる）」が 84.4%と8割半ばであるのに対し、『本や雑誌を読んでいる』では、「はい（読んでいる）」が 74.0%と7割半ばとなっている。



問5 友人の家を訪ねていますか。 (○は1つ)

友人の家への訪問については、「はい（訪ねている）」が 54.2%と、「いいえ（訪ねていない）」(43.2%) を 11.0 ポイント上回る結果となっている。

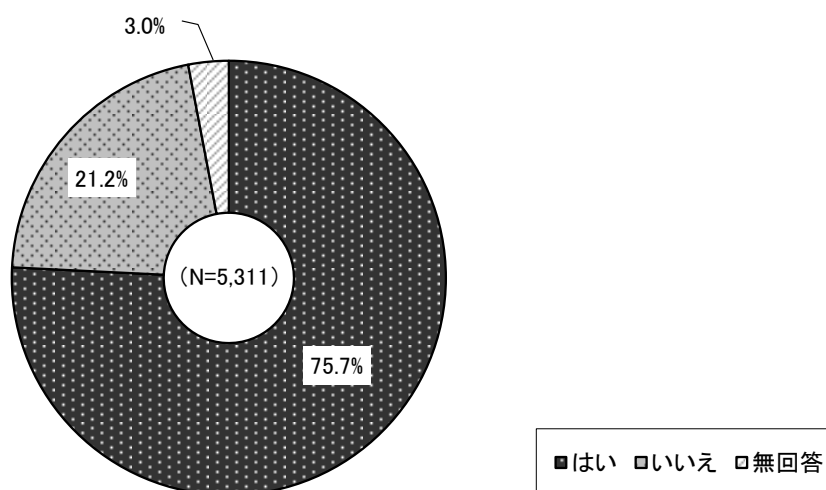




## 問6 家族や友人の相談にのっていますか。

(○は1つ)

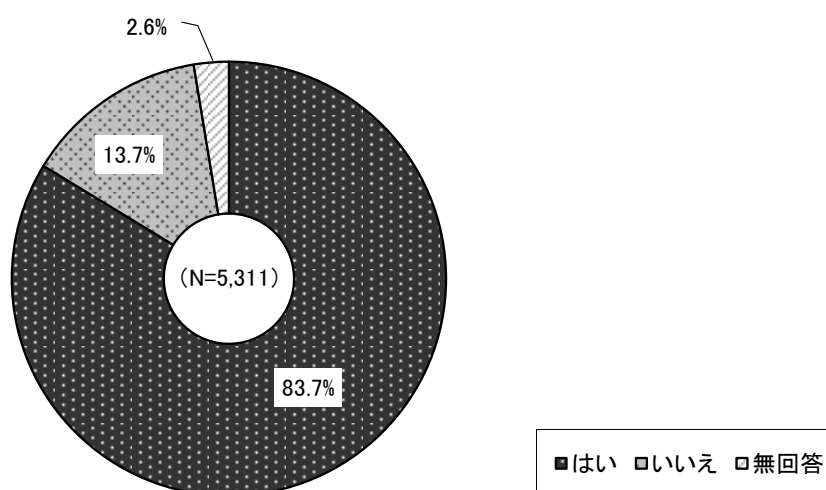
家族や友人からの相談については、「はい（相談にのっている）」が75.7%と、「いいえ（相談にはのっていない）」(21.2%)を54.5ポイント上回る結果となっている。



## 問7 病人を見舞うことができますか。

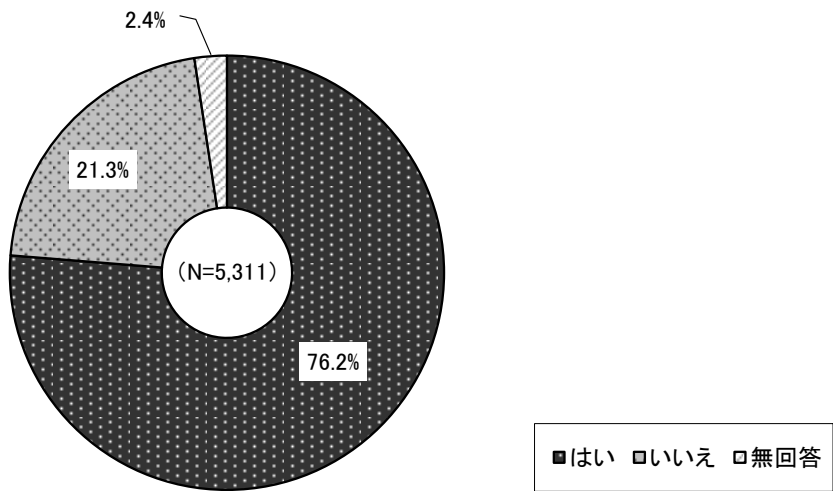
(○は1つ)

見舞いについては、「はい（できる）」が83.7%と大半を占め、「いいえ（できない）」(13.7%)を70.0ポイント上回る結果となっている。



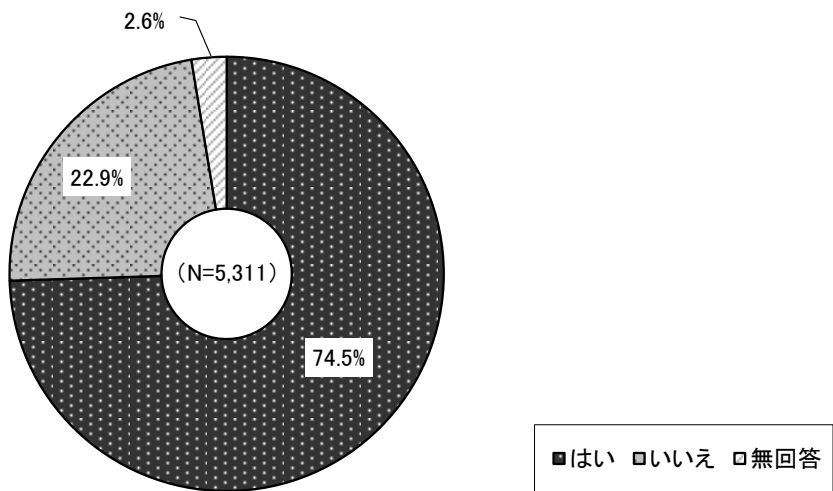
問8 若い人に自分から話しかけることがありますか。 (○は1つ)

若い人への自分からの話しかけについては、「はい (話しかけることがある)」が76.2%と約7割の半ばを占め、「いいえ (話しかけることはない)」(21.3%)を54.9ポイント上回る結果となっている。



問9 趣味はありますか。 (○は1つ)

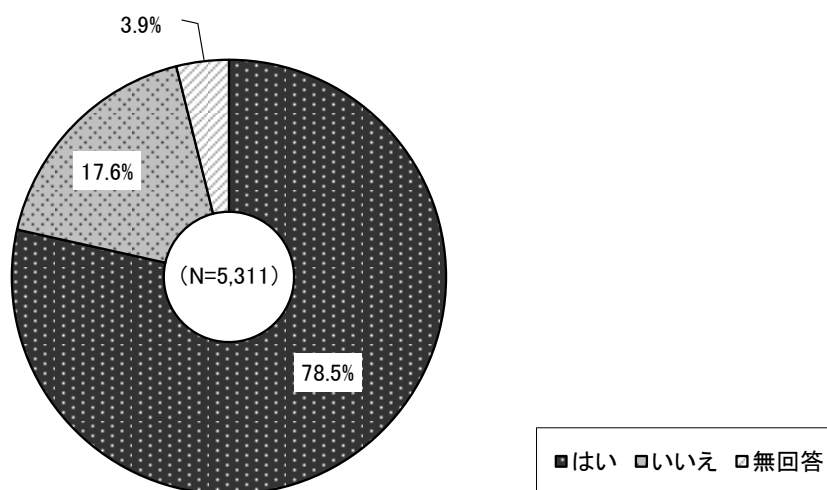
趣味については、「はい (ある)」が74.5%と約7割半ばを占め、「いいえ (ない)」(22.9%)を51.6ポイント上回る結果となっている。



## 問10 生きがいがありますか。

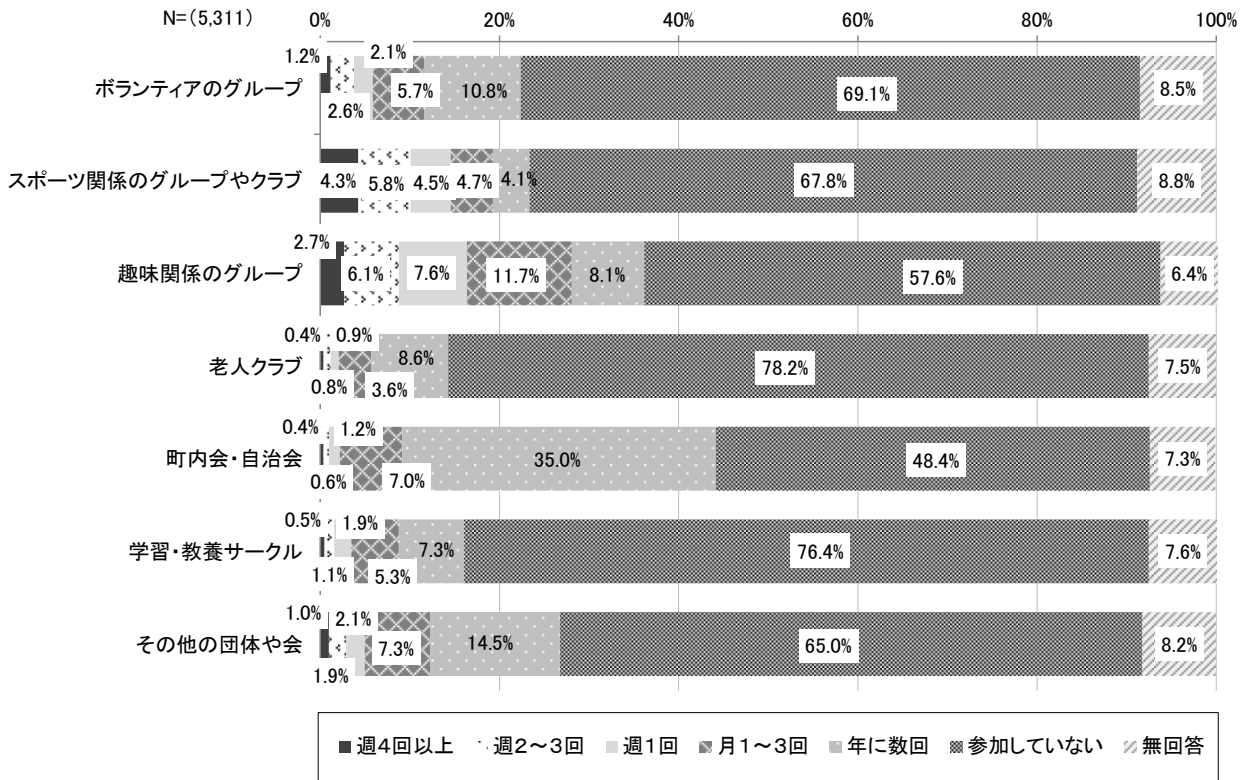
(○は1つ)

生きがいについては、「はい(ある)」が78.5%と約8割を占め、「いいえ(ない)」(17.6%)を60.9ポイント上回る結果となっている。



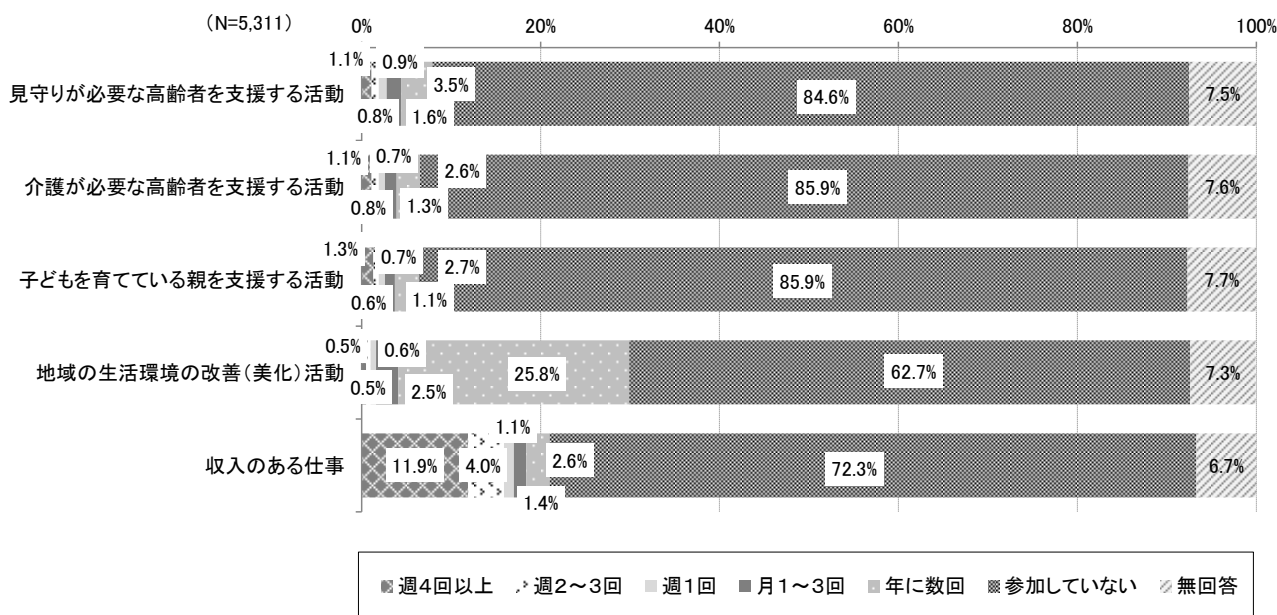
問 11 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。 (○は1つ)

以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加しているかについては、どの会・グループに関しても「参加していない」の割合が最も高くなっており、『老人クラブ』、『学習・教養サークル』は7割半ば～8割近くとなっている。一方、参加している回数は「年に数回」の割合が高いところが多く、『町内会・自治会』では35.0%、『ボランティアのグループ』では10.8%となっている。



問 12 以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。  
 (○は1つ)

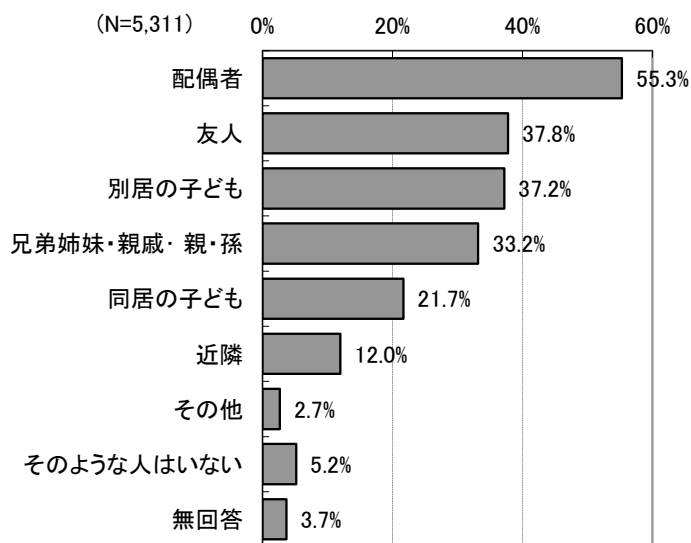
社会参加活動や仕事をどのくらいの頻度でしているかについては、どの活動も「参加していない」が最も高くなっている。一方、参加している頻度としては、『収入のある仕事』では「週4回以上」(11.9%)が最も高くなっている。また、『地域の生活環境の改善(美化)活動』では「年に数回」(25.8%)、その他の活動においても「年に数回」が最も高い参加頻度となっている。



問 13 あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。あてはまるすべてに○をして、あてはまる人がいない人は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

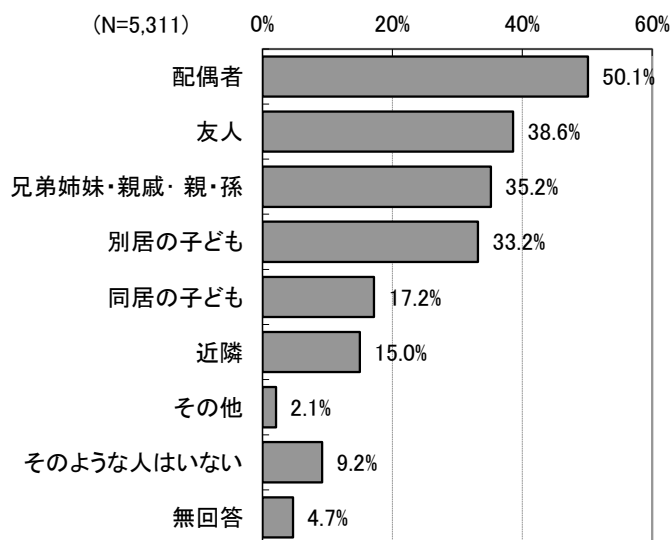
問 13 (1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人 (○はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については「配偶者」が 55.3%と最も高くなっている。次いで、「友人」(37.8%)、「別居の子ども」(37.2%)、「兄弟・親戚・親・孫」(33.2%) の順となっている。



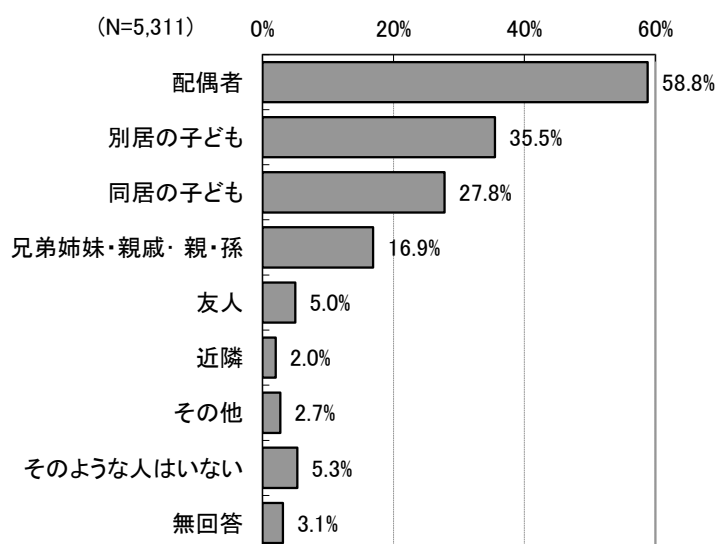
問 13 (2) 反対に、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人 (○はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が 50.1%と最も高くなっている。次いで友人(38.6%)が続いており、心配事や愚痴を聞いてくれる人と同じ結果となっている。続いて、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(35.2%)、「別居の子ども」(33.2%)、「同居の子ども」(17.2%) の順となっている。



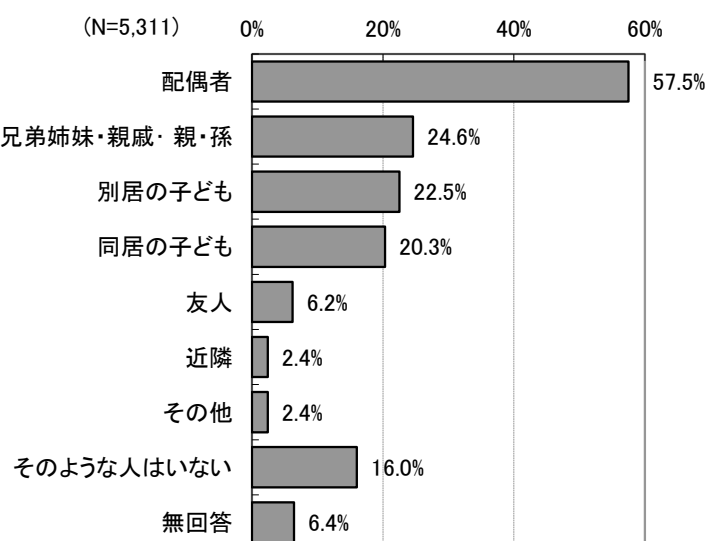
## 問 13 (3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 58.8%と最も高くなっており、他と比較しても突出した割合となっている。次いで「別居の子ども」(35.5%)、「同居の子ども」(27.8%)、兄弟姉妹・親戚・親・孫(16.9%)の順となっている。



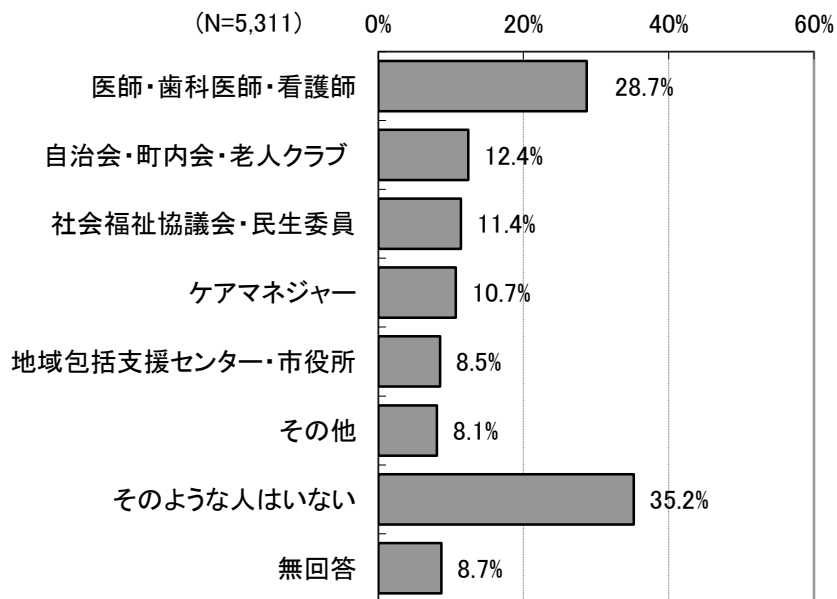
## 問 13 (4) 反対に、看病や世話をしてあげる人 (〇はいくつでも)

看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が 57.5%と最も高くなっており、5割を超えている。次いで「兄弟・親戚・親・孫」(24.6%)、「別居の子ども」(22.5%)、「同居の子ども」(20.3%)と続いており、2割～2割半ばとなっている。



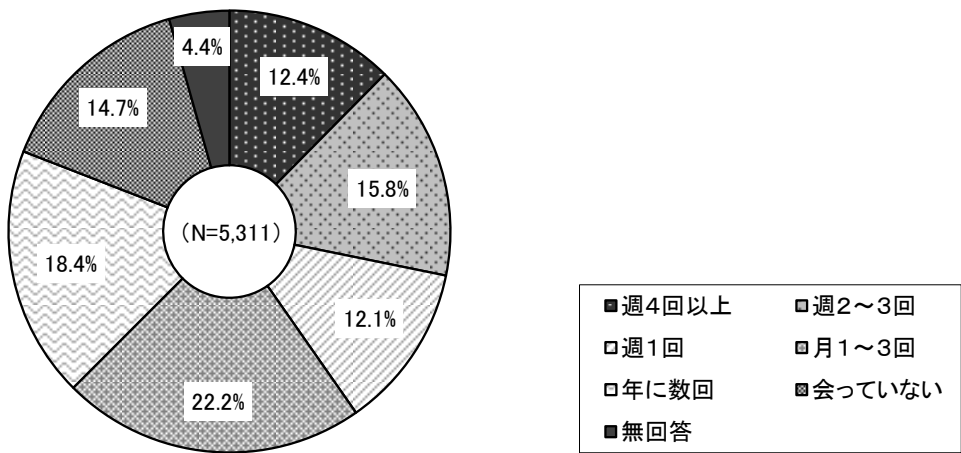
問 14 家族や友人・友人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。  
 (○はいくつでも)

家族や友人・友人以外で、何かあったときに相談する相手については、「医師・歯科医師・看護師」が28.7%と最も高くなっている。次いで「自治会・町内会・老人クラブ」(12.4%)、社会福祉協議会・民生委員(11.4%)、ケアマネジャー(10.7%)の順となっている。一方、「そのような人はいない」が35.2%と3割半ばとなっている。



問 15 友人関係についておうかがいします。  
 (1) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

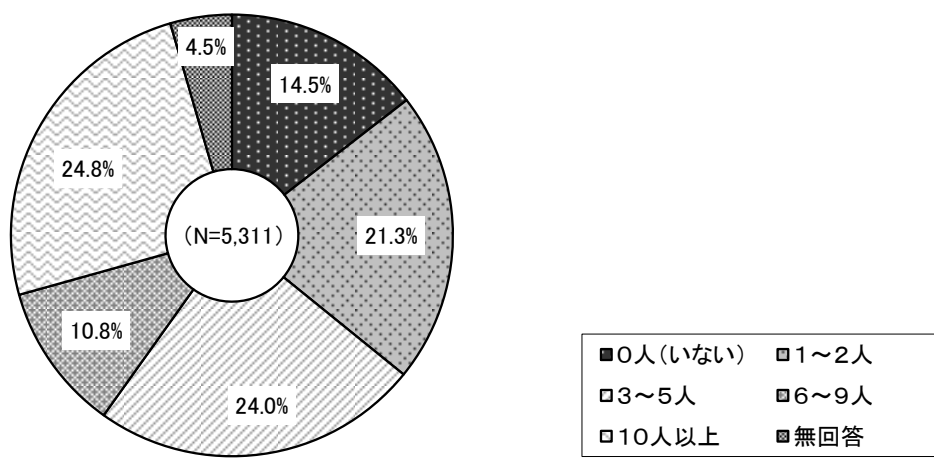
友人知人と会う頻度については、「月1～3回」が22.2%と最も高くなっている。次いで「年に数回」(18.4%)、「週2～3回」(15.8%)、となっている。一方、「会っていない」は14.7%と約1割半ばを占める結果となっている。





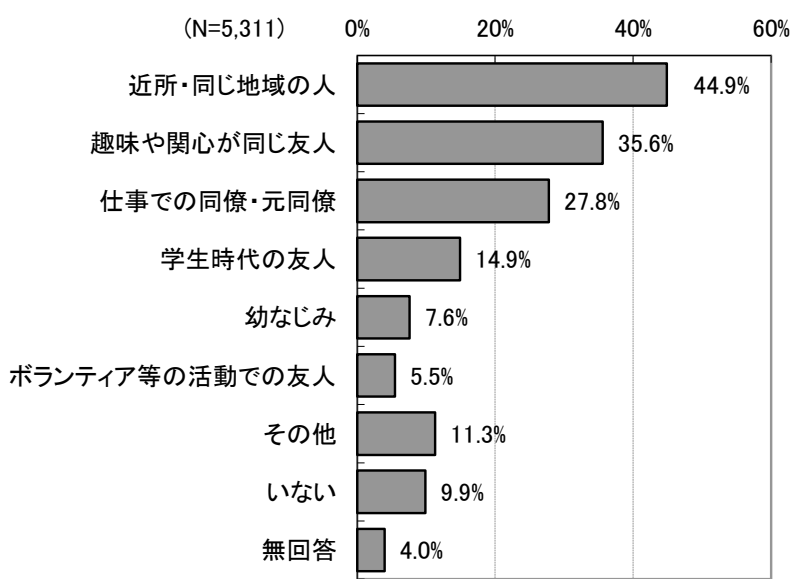
問 15 (2) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。 (○は1つ)

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「10人以上」が24.8%と最も高くなっている。次いで、「3～5人」(24.0%)、「1～2人」(21.3%)、「6～9人」(10.8%)の順となっている。一方、「0人(いない)」は14.5%と約1割半ばとなっている。



問 15 (3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。 (○はいくつでも)

よく会う友人・知人はどんな関係の人かについては、「近所・同じ地域の人」が44.9%と最も高くなっている。次いで「趣味や関心が同じ友人」(35.6%)、「仕事での同僚・元同僚」(27.8%)、「学生時代の友人」(14.9%)の順となっている。

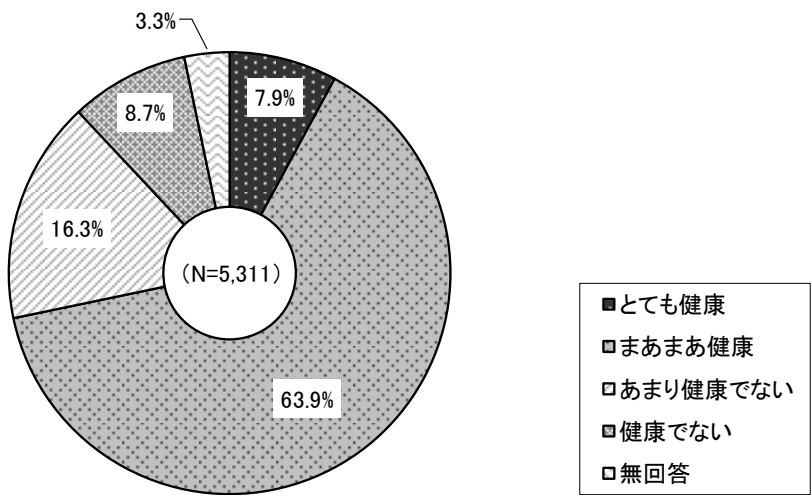


# 健康について

問1 普段、自分で健康だと思いますか。 (○は1つ)

健康感については、「まあまあ健康」が63.9%と最も高くなっており、「とても健康」(7.9%)と合わせると、約7割の人が『健康である』と感じていることが分かる。

一方、「あまり健康でない」(16.3%)と「健康でない」(8.7%)を合わせると、『健康でない』と感じている人が2割半ばを占める結果となっている。

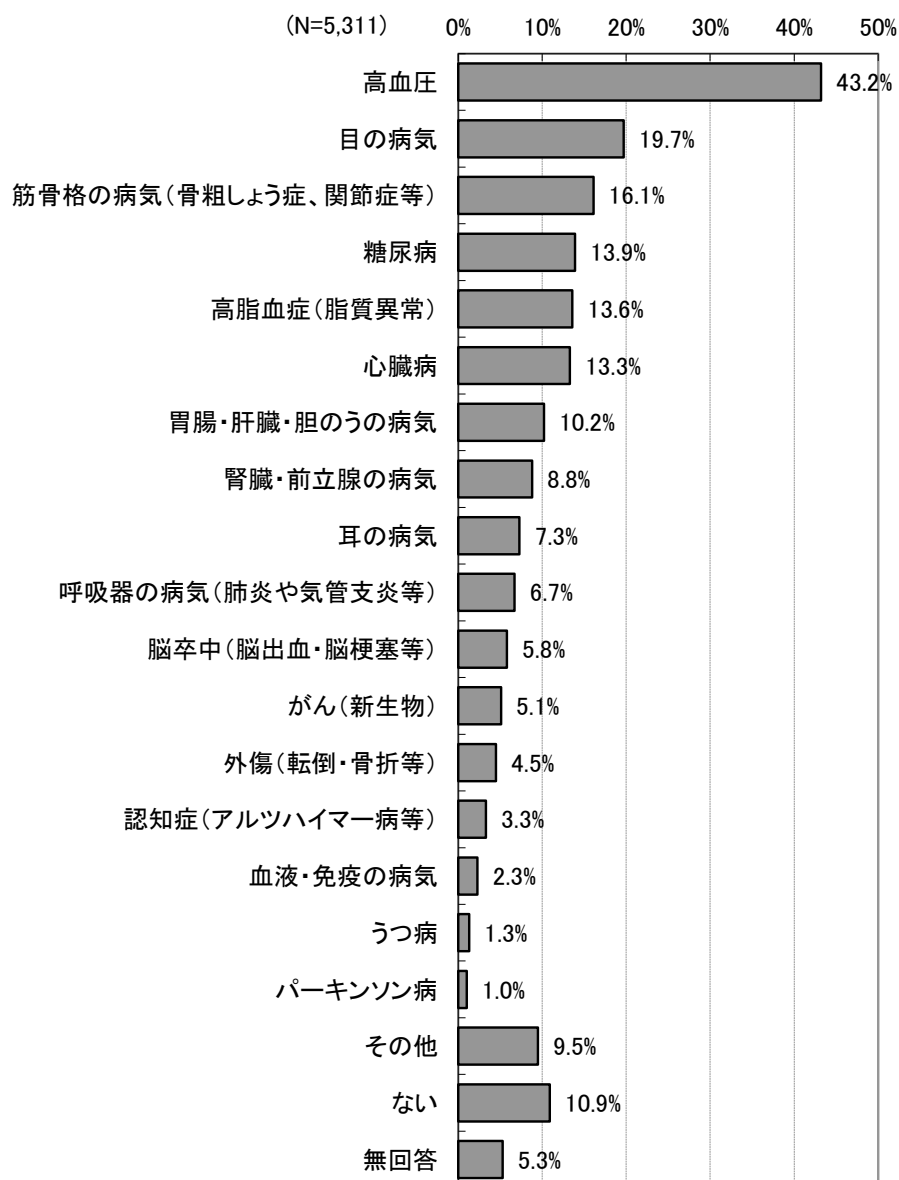


問2 現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか。

(○はいくつでも)

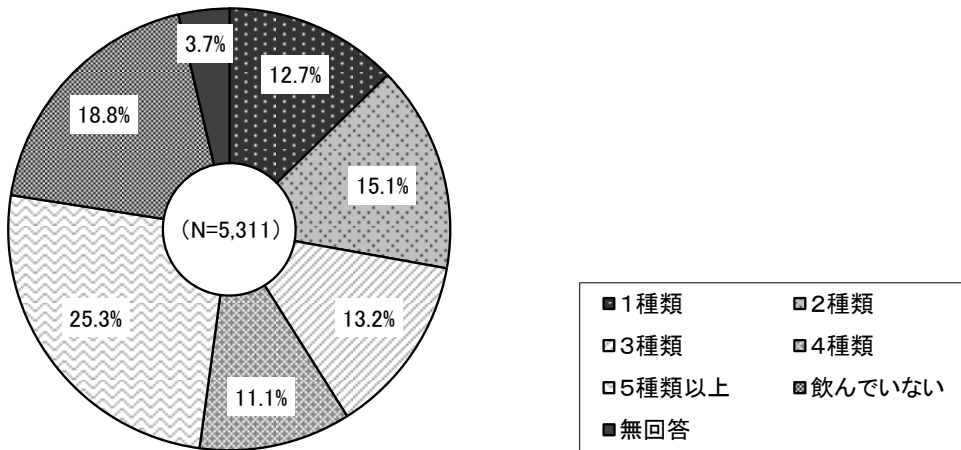
現在治療中の病気については、「高血圧」が43.2%と最も高く、他の病気に比べても突出して高い割合となっている。

次いで、「目の病気」(19.7%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(16.1%)、「糖尿病」(13.9%)、「高脂血症(脂質異常)」(13.6%)の順となっている。



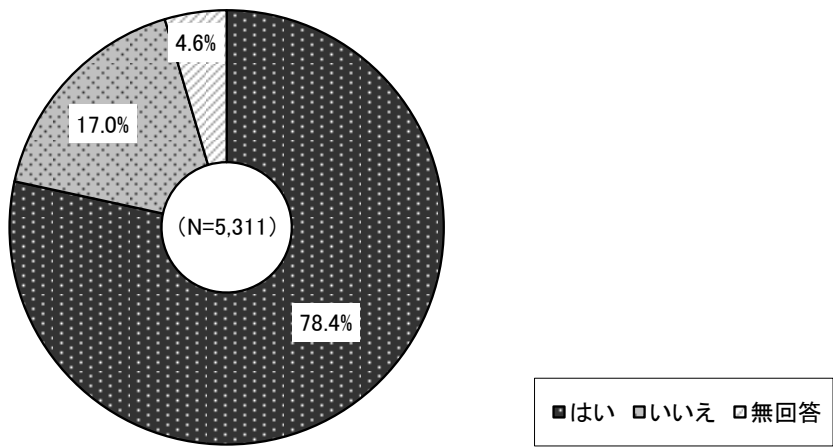
問3 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。 (〇は1つだけ)

現在飲んでいる薬については、「5種類以上」が25.3%と最も高く、複数の薬を飲んでいる人が多いことがわかる結果となっている。



問4 現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。 (〇は1つ)

病院・医院への通院については、「はい（通院している）」が78.4%と8割近くを占めている。一方、「いいえ（通院していない）」は17.0%と、2割未満となっている。

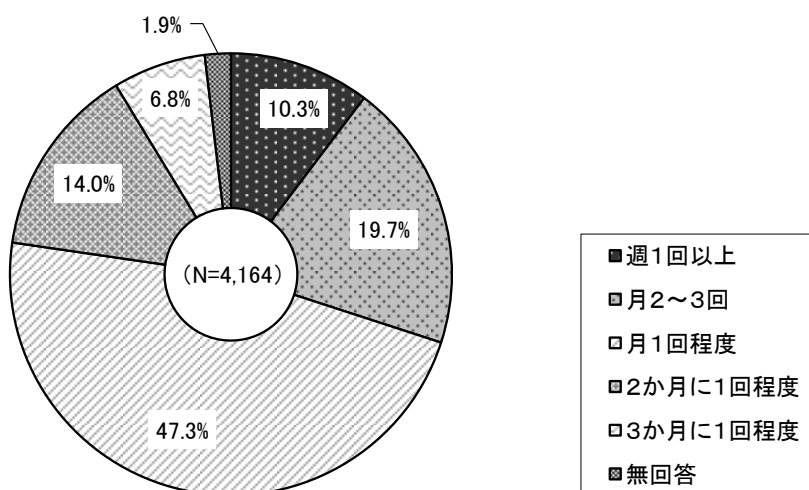


【問4で、「はい（通院している）」と回答した人のみ】

問4-1 通院頻度は次のどれですか。

(○は1つ)

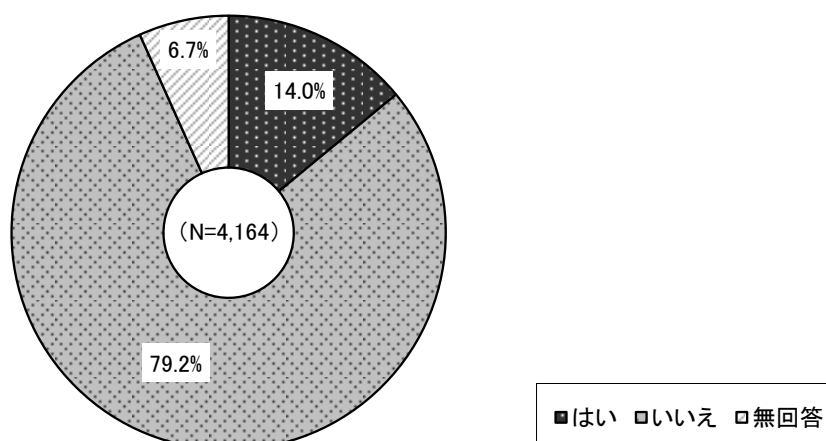
通院頻度については、「月1回程度」が47.3%と最も高くなっている。次いで「月2～3回」(19.7%)、「2か月に1回程度」(14.0%)、「週1回以上」(10.3%)の順となっている。



問4-2 通院に介助（付き添い）が必要ですか。

(○は1つ)

通院への介助については、「いいえ（必要ではない）」が79.2%と約8割を占め、「はい（必要である）」(14.0%)を65.2ポイント上回る結果となっている。



問5 現在、在宅サービスを利用していますか。 (〇はいくつでも)

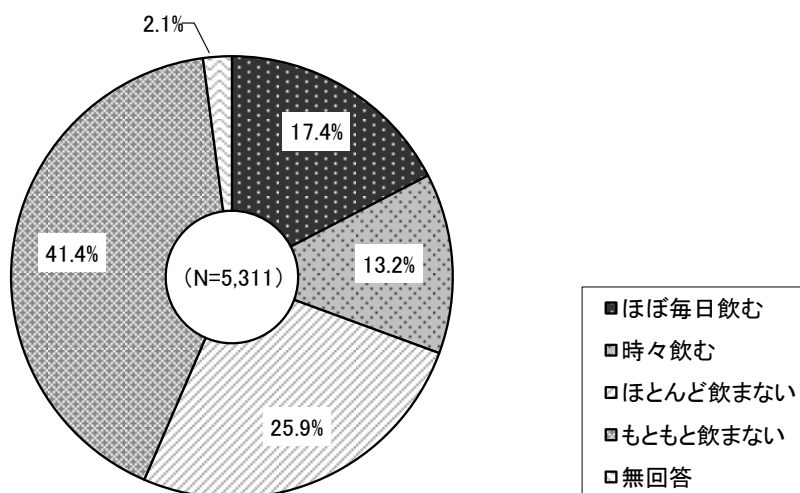
現在利用している在宅サービスについては、「通所介護（デイサービス）」が 6.2%と最も高くなっている。次いで「通所リハビリテーション（デイケア）」(2.5%)、「訪問介護」(1.9%)、「医師や薬剤師などによる療養上の指導（居宅療養管理指導）」(1.6%)の順となっている。



## 問6 お酒は飲みますか。

(○は1つ)

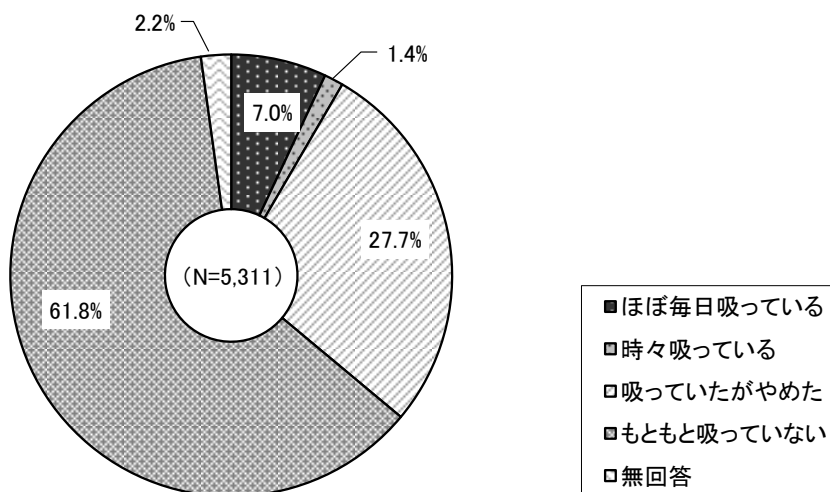
飲酒については、「もともと飲まない」が41.4%と最も高く、「ほとんど飲まない」(25.9%)と合わせると、67.3%の人があまりお酒を飲まないことが分かる。一方、「ほぼ毎日飲む」は17.4%となっている。



## 問7 タバコは吸っていますか。

(○は1つ)

喫煙については、「もともと吸っていない」が61.8%と最も高く、「吸っていたがやめた」(27.7%)と合わせると、9割近くの人がタバコを吸っていないことが分かる。一方、「ほぼ毎日吸っている」は7.0%となっている。

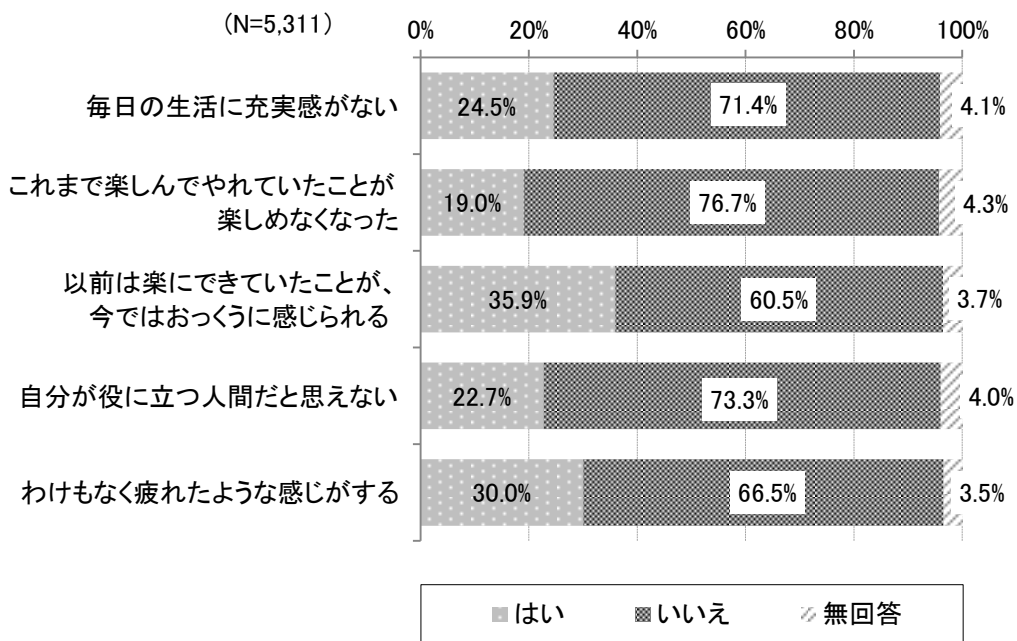


問8～問12 ここ2週間の心や身体の状態について教えてください。(それぞれ〇は1つだけ)

ここ2週間の心や身体の状態について、すべての項目で「いいえ」が「はい」を上回る結果となっている。

毎日の生活の充実感については「はい(充実感がない)」が約2割半ばを占める結果となっている。以前は楽しんでできていたことを、約3割半ばの人が今ではおっくうに感じており、わけもなく疲れたように感じている人も3割を占める結果となっている。

自分が役に立つ人間だと思えないと回答した人が約2割を占めている。

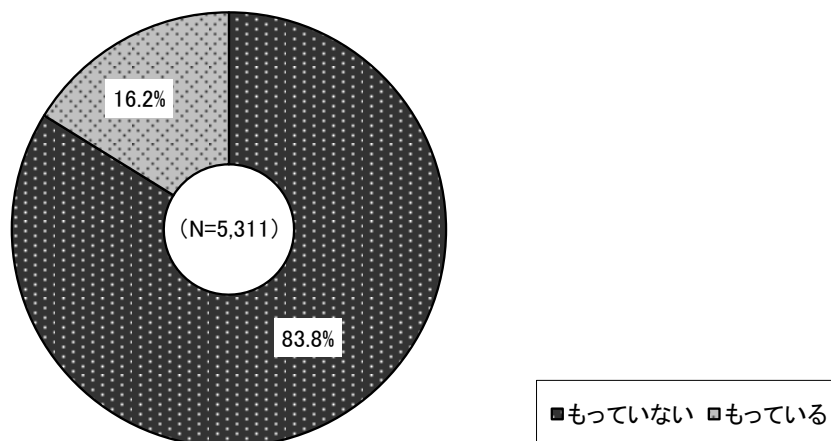




## 介護認定の有無について

介護認定をもらっていますか。

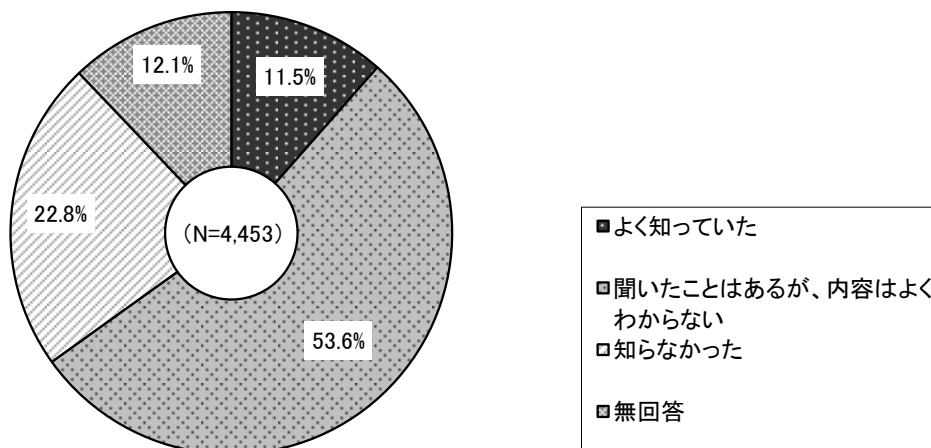
介護認定については、「もっていない」が83.8%、「もっている」は16.2%となっている。



## 介護サービスについて（介護認定をもっていない方）

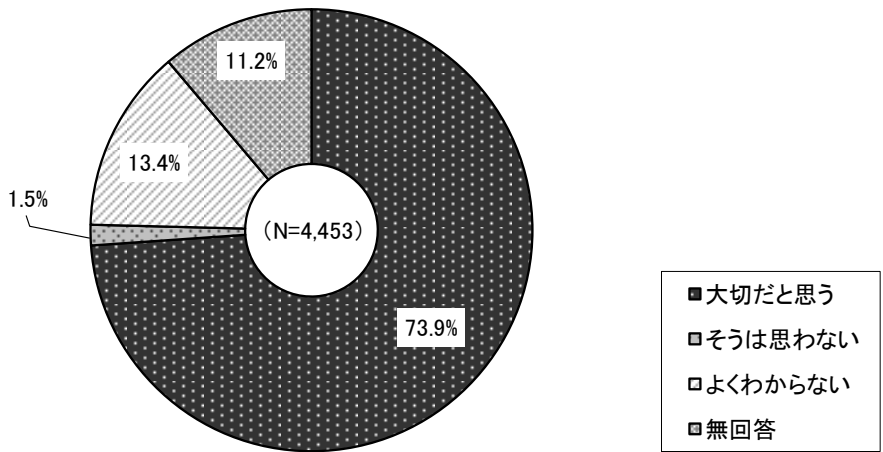
問1 市が行う介護予防事業について、あてはまるものを選んでください。（○は1つ）

市が行う介護予防事業については、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が53.6%と最も高くなっている。次いで、「知らなかった」22.8%となっている。また、「よく知っていた」は11.5%と約1割程度となっている。



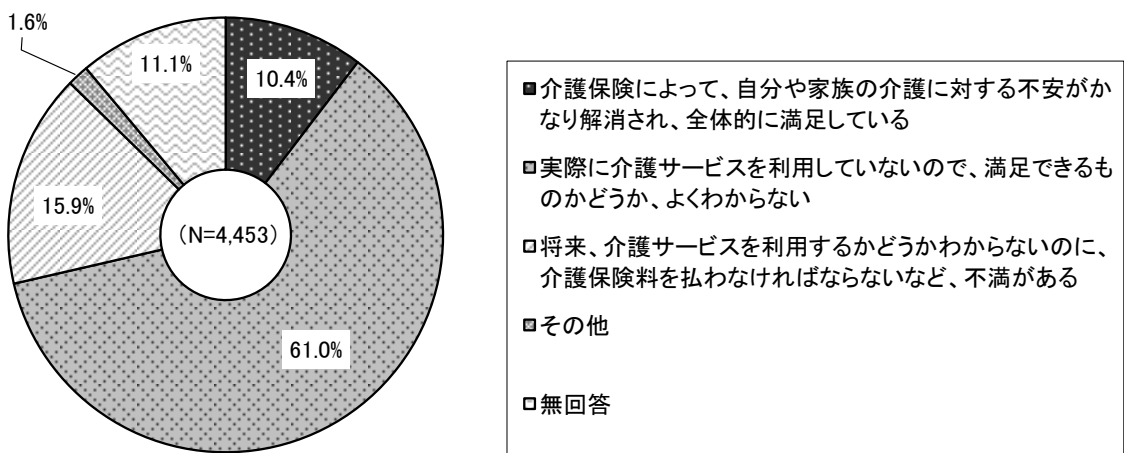
**問2 介護予防の取り組みを推進することは、大切だと思いますか。 (○は1つだけ)**

介護予防の取り組みの推進については、「大切だと思う」が73.9%と約7割を占める結果となっている。



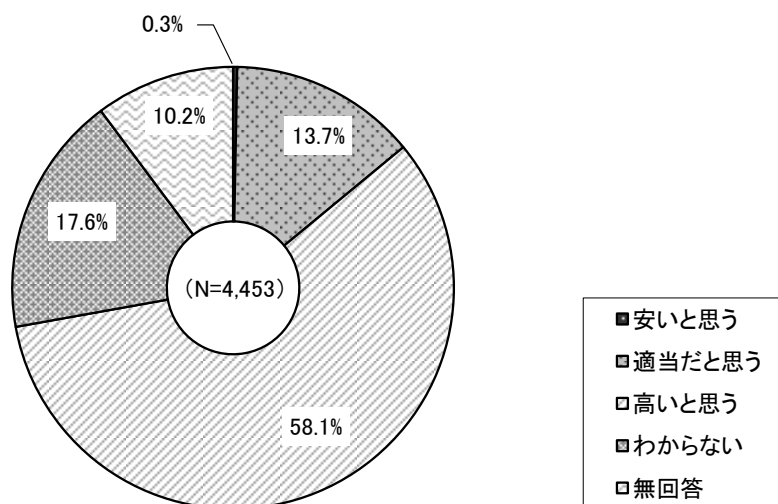
**問3 介護保険制度に対する評価として、一番近いものを選んでください。 (○は1つだけ)**

介護保険に対する評価については、「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうかわからない」が61.0%と最も高くなっている。一方、「将来、介護サービスを利用するかどうかわからないのに、介護保険料を払わなければならないなど、不満がある」は15.9%となっている。



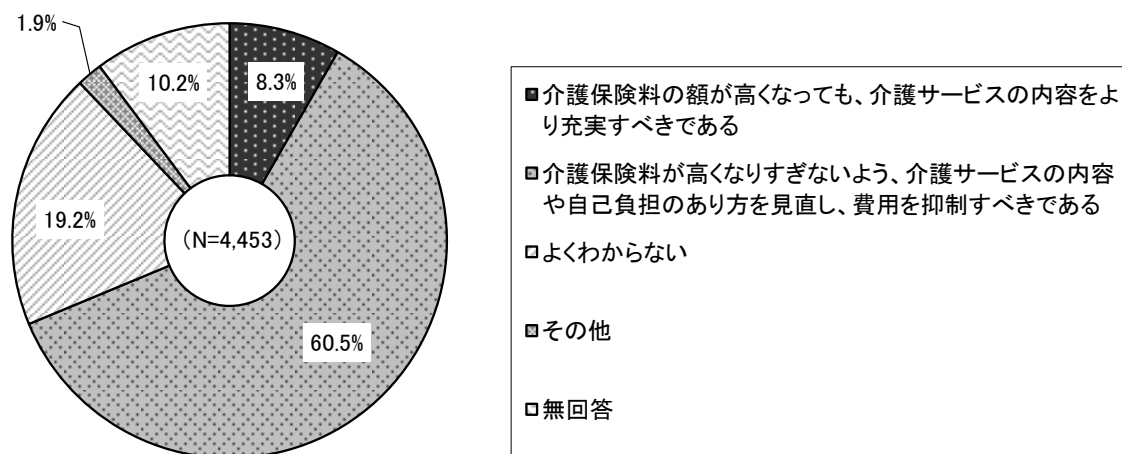
問4 現在、納付されている介護保険料の額についてどのように感じていますか。(〇は1つだけ)

介護保険料については、「高いと思う」が58.1%と6割近くを占める結果となっている。  
また、「適当だと思う」は13.7%となっている。「安いと思う」はわずか0.3%となっている。



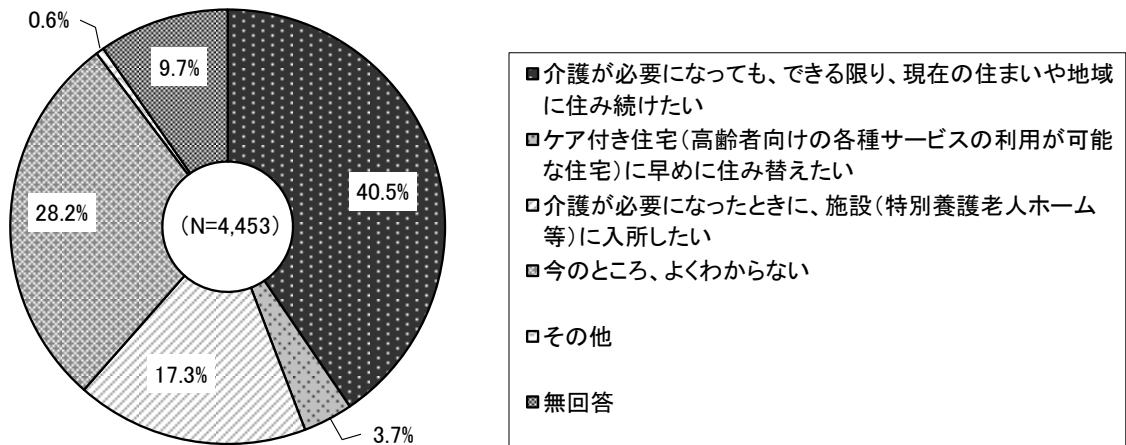
問5 介護サービスを利用する人が増えたり、一人あたりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなるしくみになっていますが、介護保険を利用する際の考え方に最も近いものを選んでください。(〇は1つだけ)

介護保険を利用する際の考え方については、「介護保険料が高くなりすぎないように、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである」が60.5%と最も高くなっている。  
また、「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」は8.3%となっている。



**問6 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。 (○は1つ)**

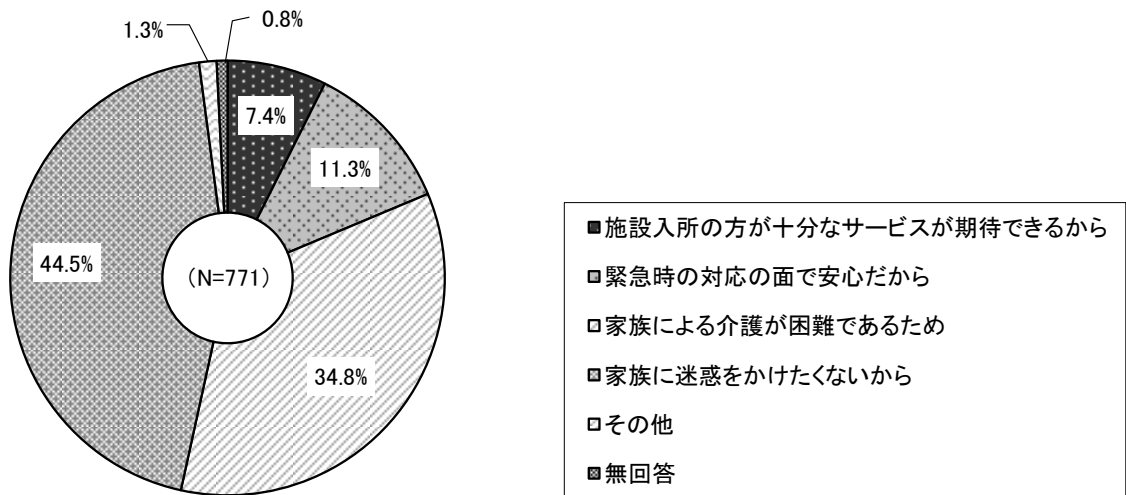
介護サービスの利用と住まいについては、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が40.5%と最も高くなっている。一方、「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい」が17.3%となっている。



**【問6で、「介護が必要になった時に、施設に入所したい」と回答した人のみ】**

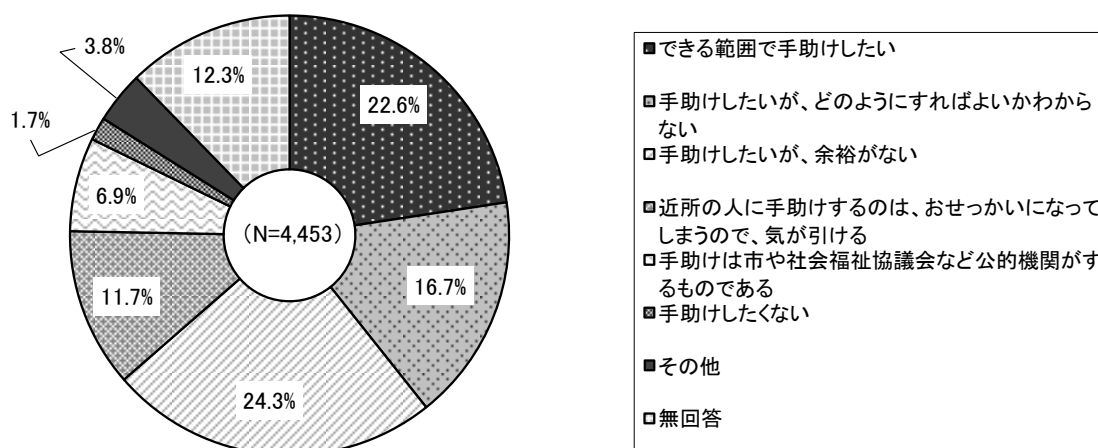
**問7 施設入所を希望される主な理由は何ですか。 (○は1つ)**

介護が必要になった時に施設への入所を希望した理由については、「家族に迷惑をかけたくないから」が44.5%と最も高くなっている。次いで、「家族による介護が困難であるため」(34.8%)、「緊急時の対応の面で安心だから」(11.3%)の順となっている。



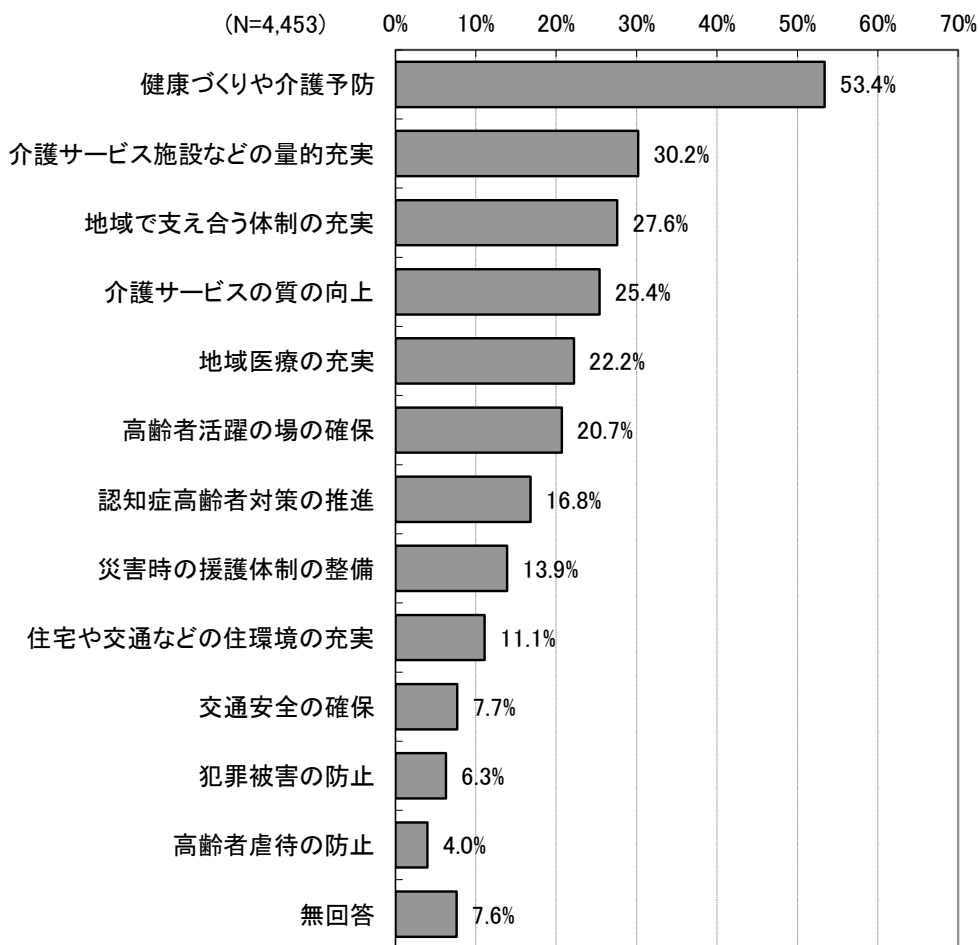
問8 地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに近いものはどれですか。(○は1つ)

地域で日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者への手助けについては、「手助けしたいが余裕がない」が24.3%と最も高くなっている。次いで、「できる範囲で手助けしたい」(22.6%)、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」(16.7%)、「近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける」(11.7%)の順となっている。



問9 今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策を選んでください。  
 (〇は3つまで)

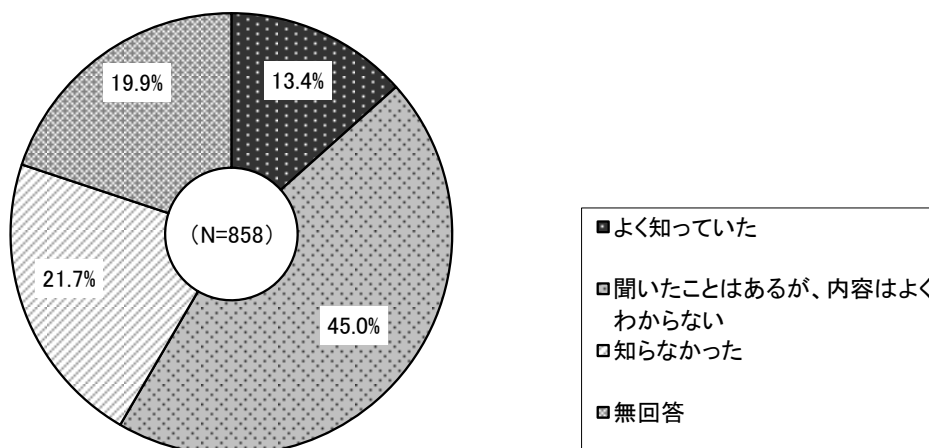
行政が力を入れるべき高齢者施策については、「健康づくりや介護予防」が 53.4%と最も高くなっている。次いで、「介護サービス施設などの量的充実」(30.2%)、「地域で支え合う体制の充実」(27.6%)、「介護サービスの質の向上」(25.4%)、「地域医療の充実」(22.2%)の順となっている。



## 介護サービスについて（介護認定をもっている方）

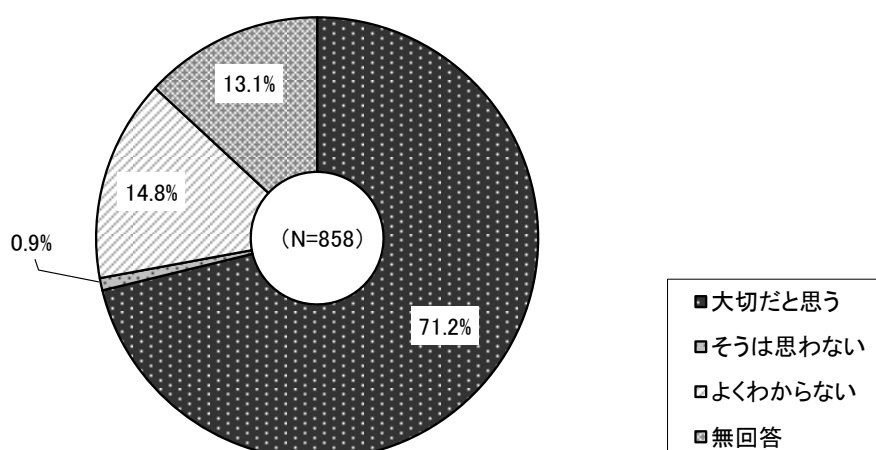
問1 市が行う介護予防事業について、あてはまるものを選んでください。（○は1つ）

市が行う介護予防事業については、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が45.0%と最も高くなっている。次いで、「知らなかった」（21.7%）、「よく知っていた」（13.4%）となっている。



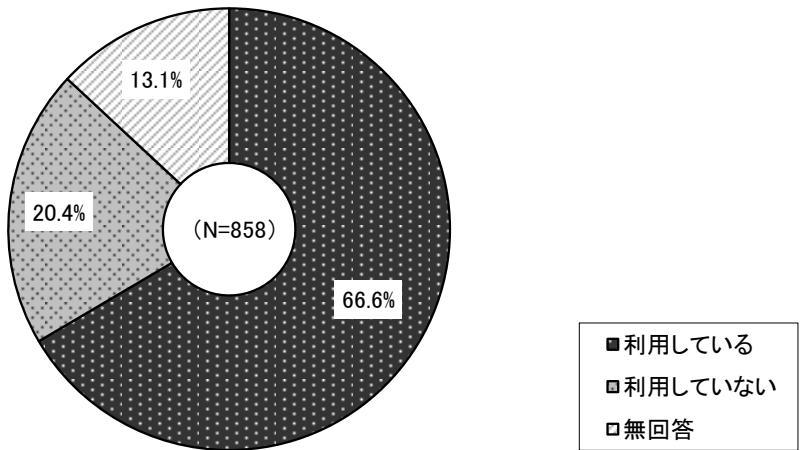
問2 介護予防の取り組みを推進することは、大切だと思いますか。（○は1つ）

介護予防の取り組みの推進については、「大切だと思う」が71.2%と最も高くなっている。「そうは思わない」はわずか0.9%となっている。



問3 現在介護サービスを利用されていますか。 (○は1つ)

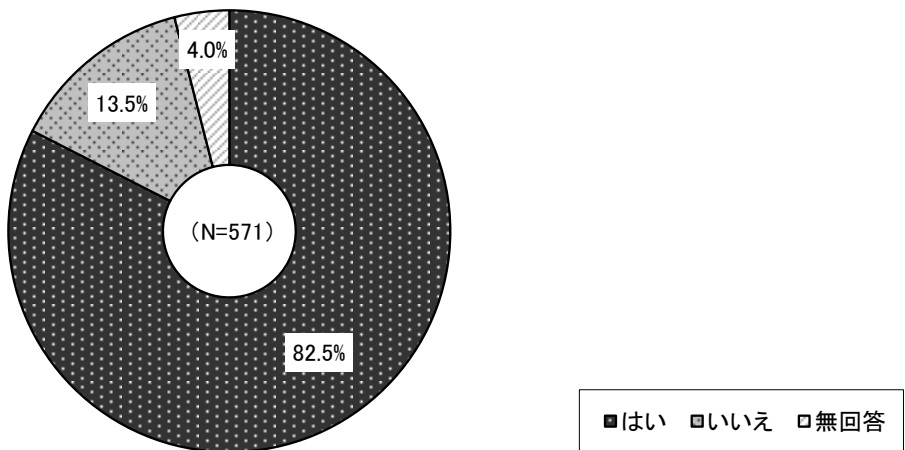
現在介護サービスを利用されているかどうかについては、「利用している」が 66.6%と最も高くなっており、約6割半ばの人が利用しているという結果となっている。一方、「利用していない」は 20.4%と2割程度となっている。



【問3で、「利用している」と回答した人のみ】

問4 利用されている介護サービスの内容に満足していますか。 (○は1つ)

利用されている介護サービスの内容に満足しているかどうかについては、「はい」が 82.5%、「いいえ」が 13.5%となっており、8割の人が満足しているという結果となっている。

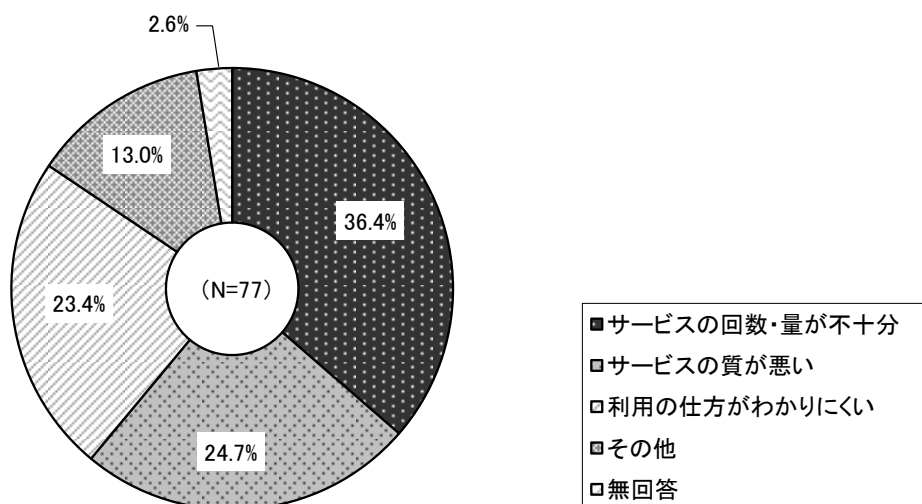




【問4で、「いいえ（満足していない）」と回答した人のみ】

問5 満足していない主な理由を次の中から選んでください。 (○は1つ)

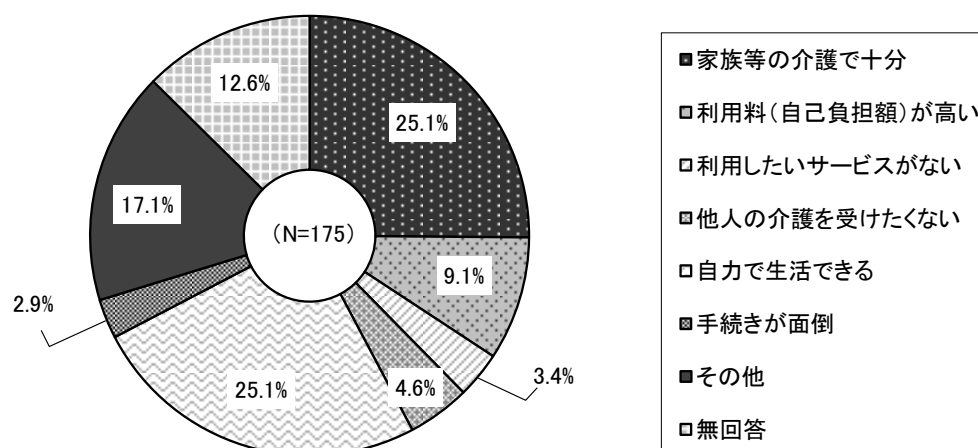
利用している介護サービスの内容に満足していない主な理由については、「サービスの回数・量が不十分」が36.4%と最も高くなっている。次いで、「サービスの質が悪い」(24.7%)、「利用の仕方がわかりにくい」(23.4%)となっている。



【問3で、「いいえ（利用していない）」と回答した人のみ】

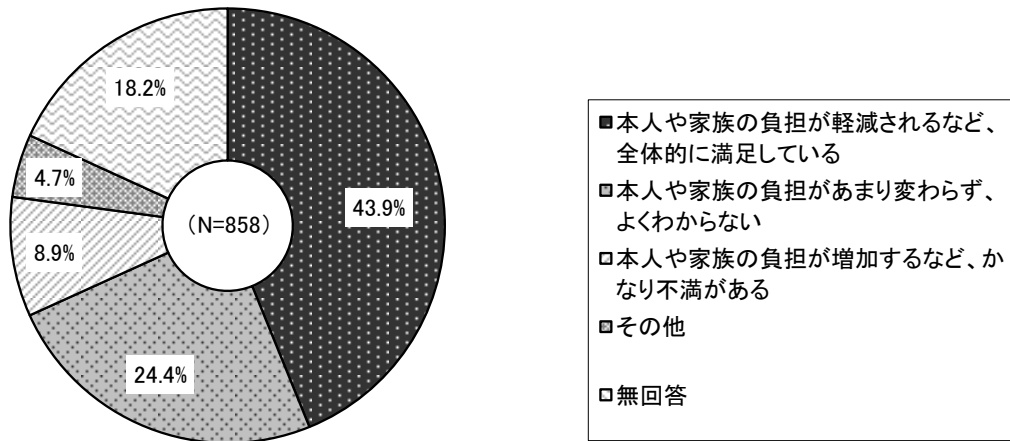
問6 サービスを利用していない主な理由を次の中から選んでください。 (○は1つ)

介護サービスを利用していない主な理由については、「家族等の介護で十分」、「自力で生活できる」がともに25.1%と最も高くなっている。次いで「利用料（自己負担額）が高い」(9.1%)、「他人の介護を受けたくない」(4.6%)、「利用したいサービスがない」(3.4%)、「手続きが面倒」(2.9%)となっている。



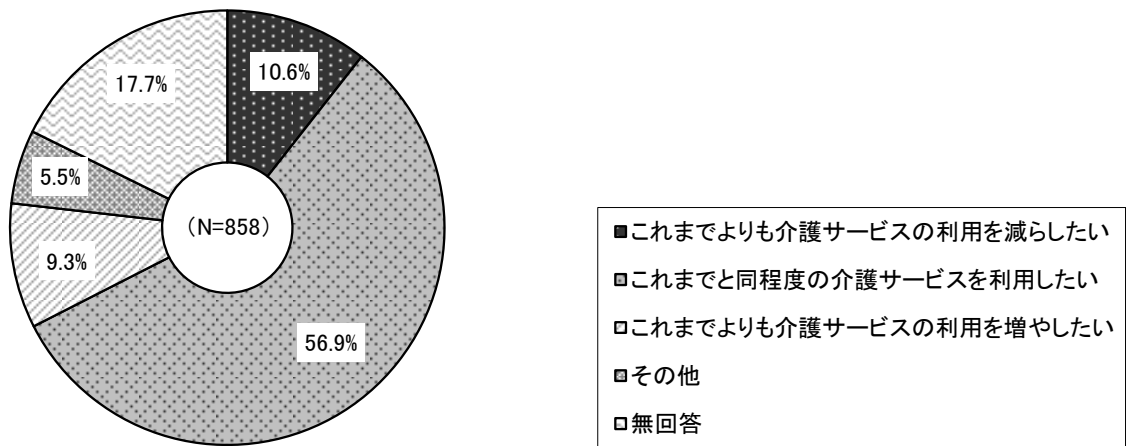
**問7 介護保険制度に対する評価として、最も近いものを選んでください。(〇は1つ)**

介護保険に対する評価としては、「本人や家族の負担が軽減されるなど、全体的に満足している」が43.9%と最も高くなっている。次いで、「本人や家族の負担があまり変わらず、よくわからない」(24.4%)、「本人や家族の負担が増加するなど、かなり不満がある」が8.9%の順となっている。



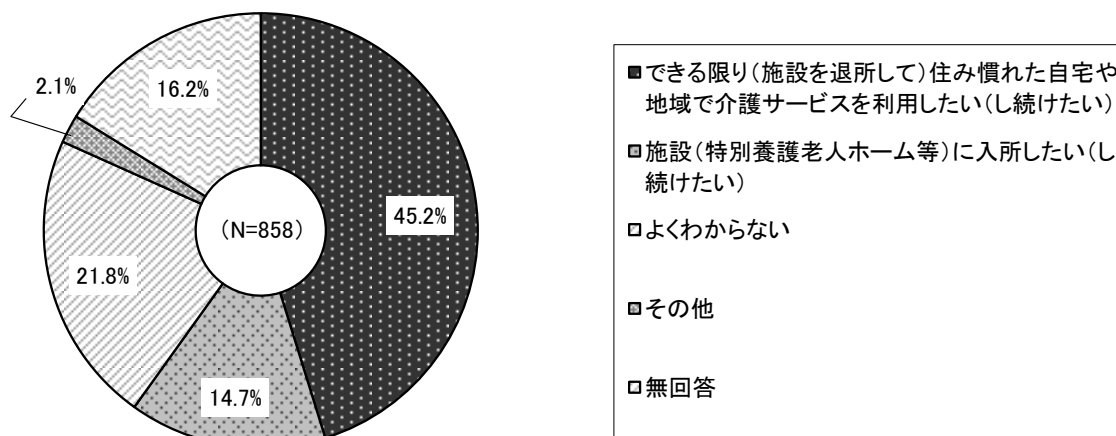
**問8 介護サービスを利用する人が増えたり、一人あたりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなるしくみになっていますが、介護保険を利用する際の考え方に最も近いものを選んでください。(〇は1つだけ)**

介護保険を利用する際の考え方については、「これまでと同程度の介護サービスを利用したい」が56.9%と最も高くなっており、約5割半ばを占めている。次いで「これまでよりも介護サービスの利用(回数・量)を減らしたい」(10.6%)、「これまでよりも介護サービスの利用を増やしたい」(9.3%)の順となっている。



問9 介護サービスの利用と住まいについて、どのように考えていますか。 (〇は1つ)

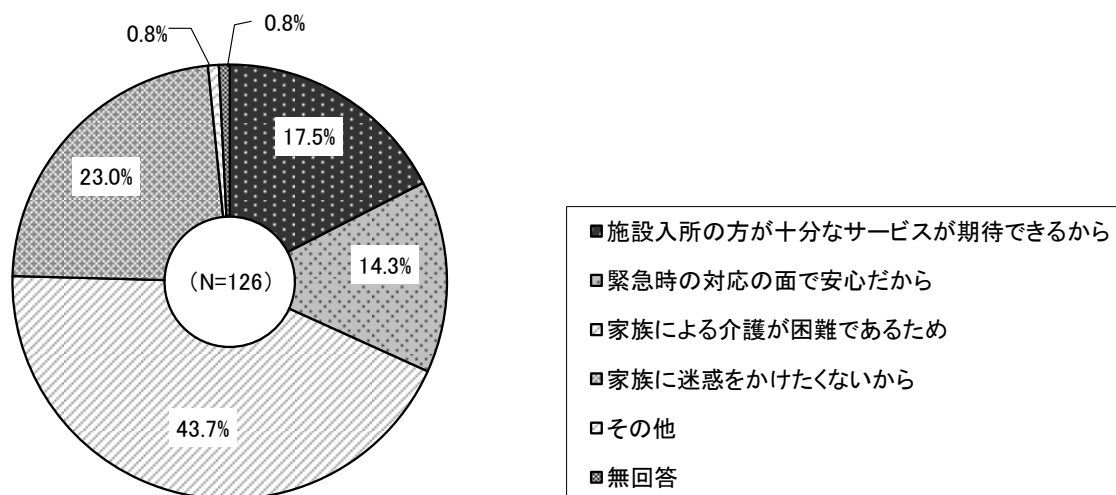
介護サービスの利用と住まいについては、「できる限り(施設を退所して)住み慣れた自宅や地域で介護サービスを利用したい(し続けたい)」が45.2%と最も高くなっている。次いで、「施設(特別養護老人ホーム等)に入所したい(し続けたい)」は14.7%と約1割半ばとなっている。



【問9で、「施設(特別養護老人ホーム等)に入所したい(し続けたい)」と回答した人のみ】

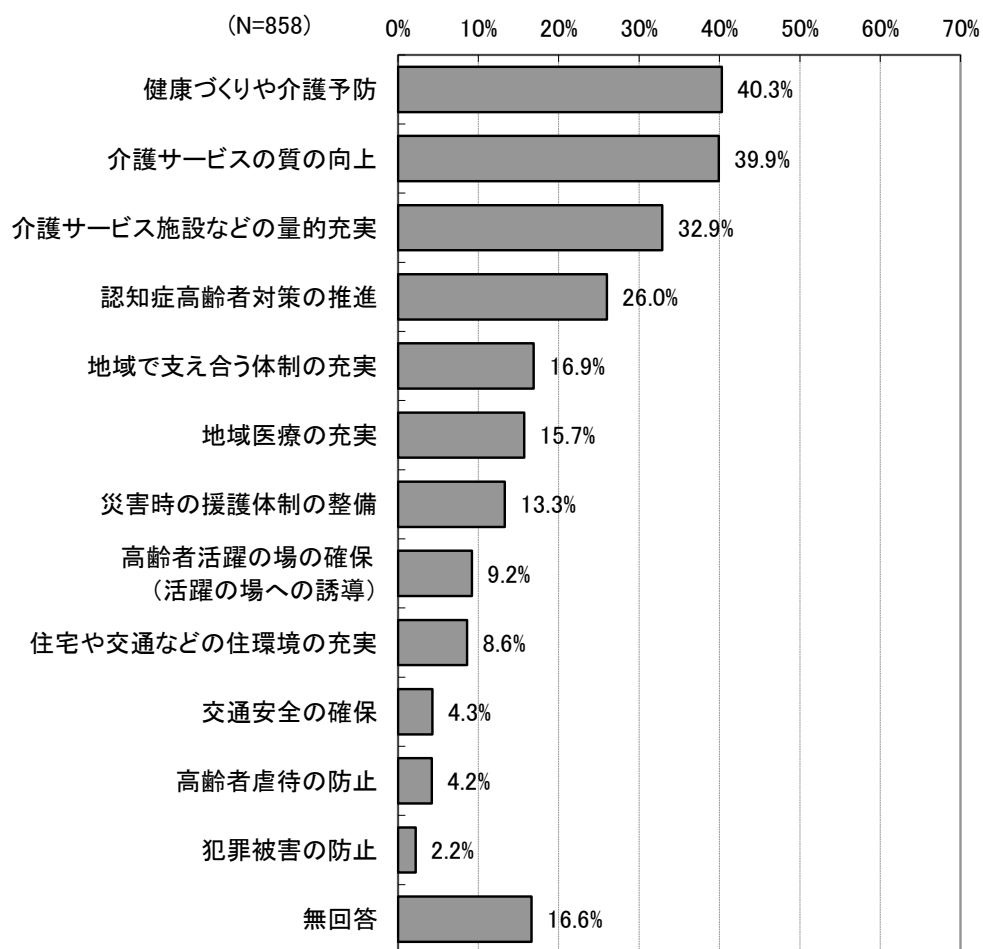
問10 施設入所を希望される主な理由を次の中から選んでください。 (〇は1つ)

施設入所を希望する主な理由については、「家族による介護が困難であるため」が43.7%と最も高くなっている。次いで、「家族に迷惑をかけたくないから」(23.0%)、「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」(17.5%)、「緊急時の対応の面で安心だから」(14.3%)、の順となっている。



問 11 今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策を選んでください。  
 (〇は3つまで)

行政が力を入れるべき高齢者施策については、「健康づくりや介護予防」が 40.3%と最も高くなっている。次いで、「介護サービスの質の向上」(39.9%)、「介護サービス施設などの量的充実」(32.9%)、「認知症高齢者対策の推進」(26.0%)、「地域で支え合う体制の充実」(16.9%)の順となっている。

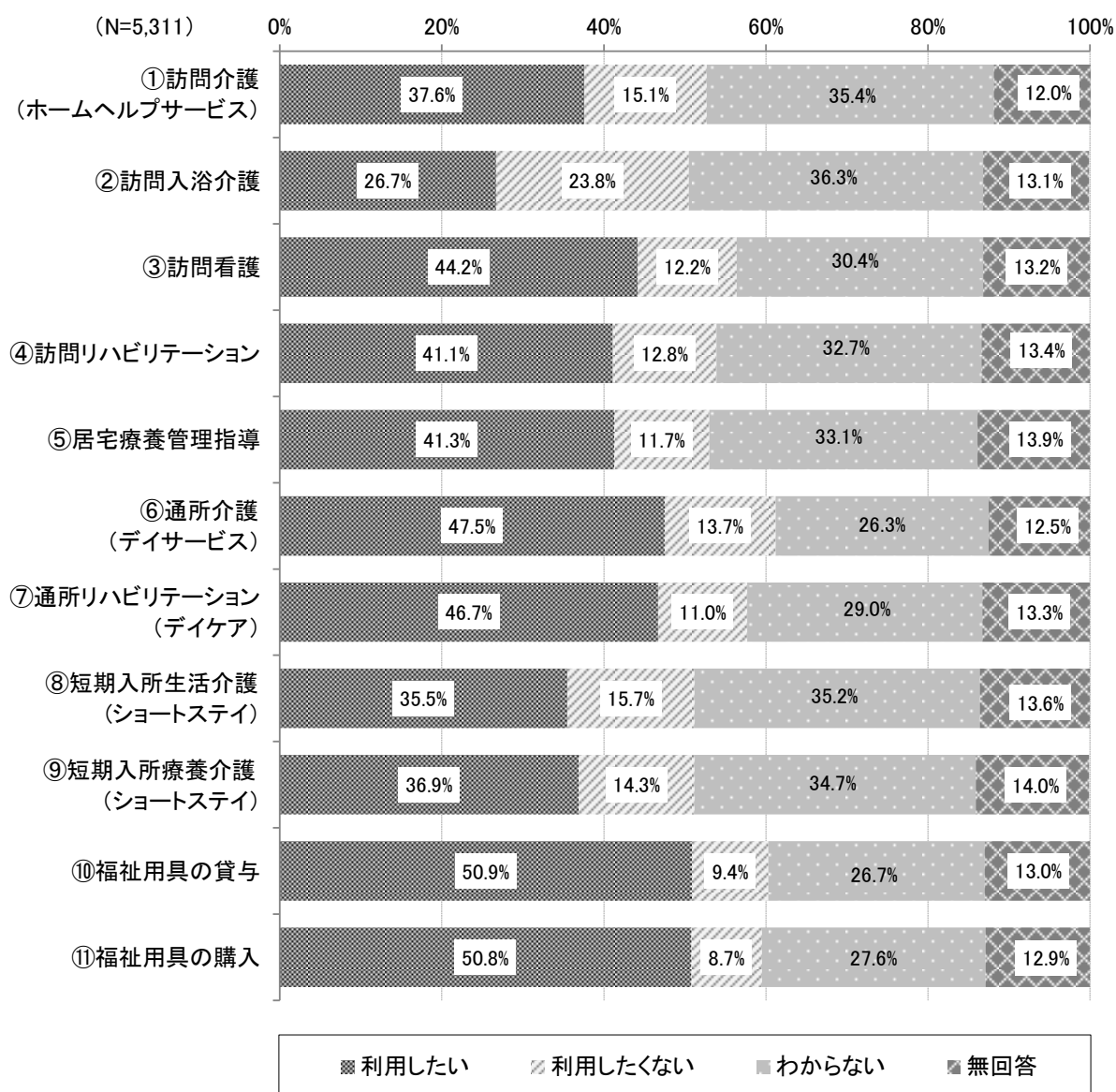


## 介護保険在宅サービスについて

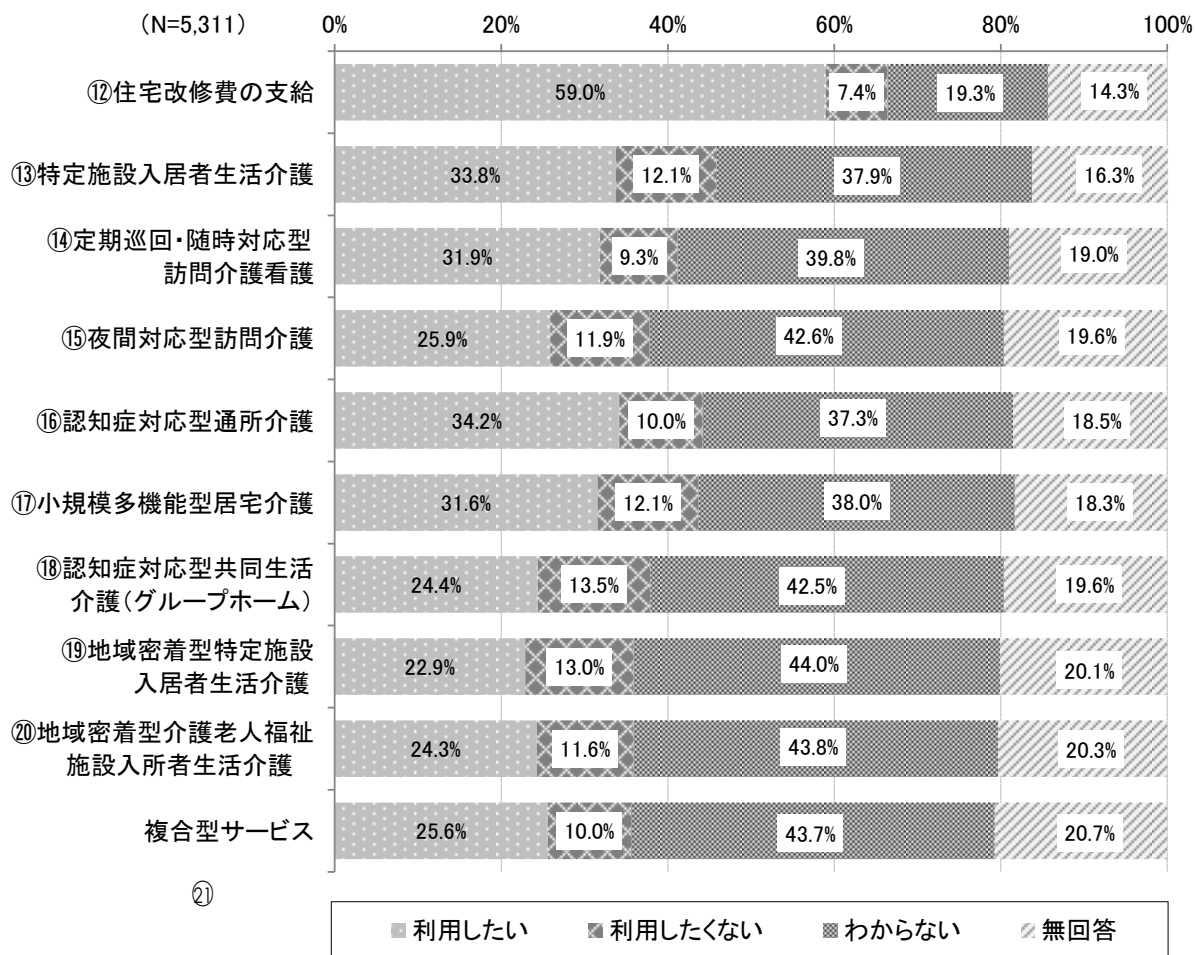
問1 介護保険在宅サービス（平成25年4月1日現在）について、今後の利用意向をお聞きます。すべてのサービスについて、それぞれあてはまるものを選んでください。

（○はそれぞれ1つずつ）

介護保険在宅サービスの利用意向については、すべてのサービスで「利用したい」が「利用したくない」を上回っている。「利用したい」割合については、「福祉用具の貸与」（50.9%）、「福祉用具の購入」（50.8%）が他と比較して高い割合となっており、次いで「通所介護（デイサービス）」（47.5%）、「通所リハビリテーション（デイケア）」（46.7%）、「訪問看護」（44.2%）、「居宅療養管理指導」（41.3%）、「訪問リハビリテーション」（41.1%）となっている。



続いての介護保険在宅サービスの利用意向についても、すべてのサービスで「利用したい」が「利用したくない」を上回っている。「利用したい」割合については、「住宅改修費の支給」(59.0%)が最も高くなっており、他と比較しても突出した割合となっている。次いで「認知症対応型通所介護」(34.2%)、「特定施設入居者生活介護」(33.8%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(31.9%)、「小規模多機能型居宅介護」(31.6%)となっている。

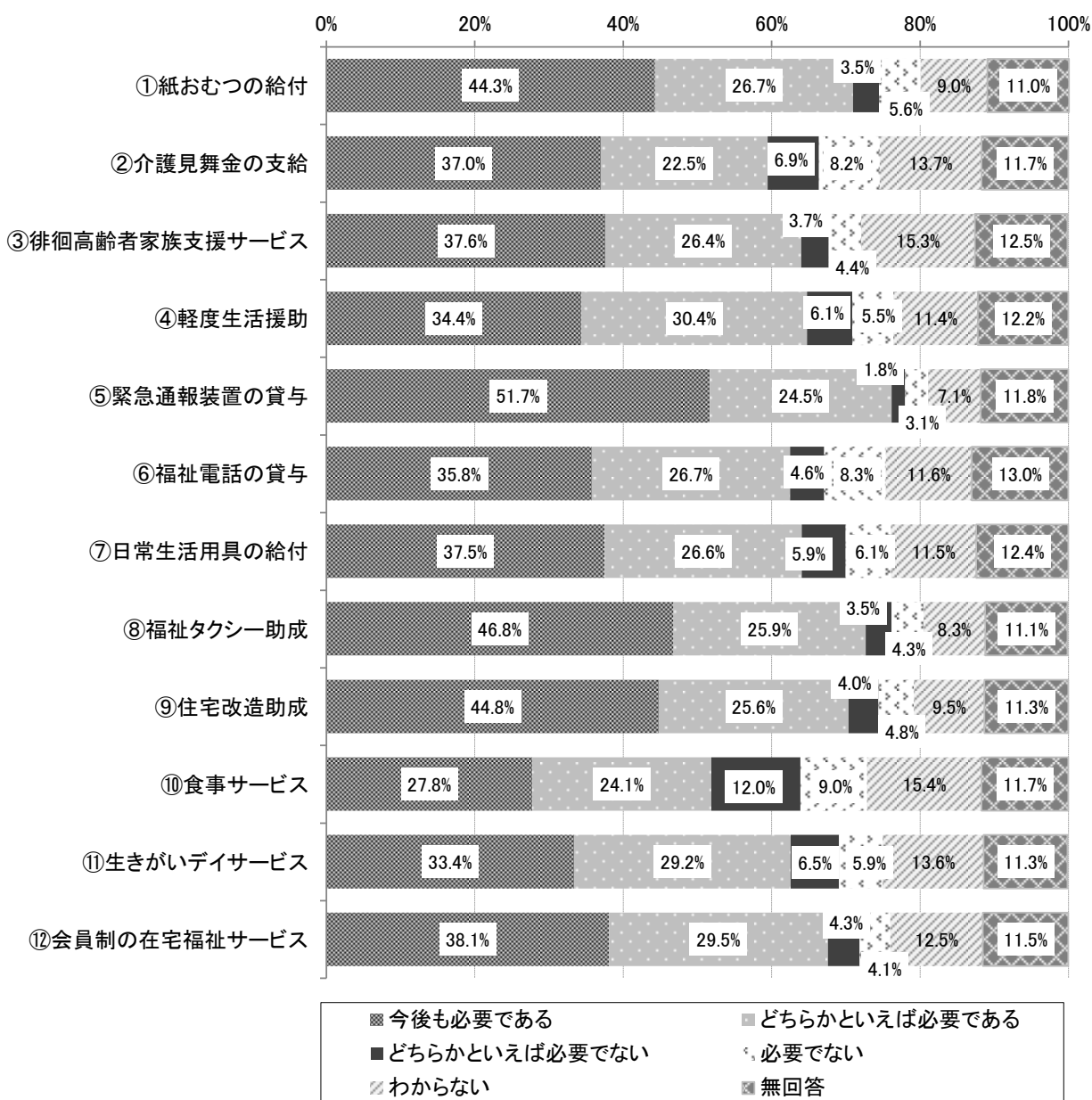


## 高齢者のための在宅福祉サービスについて

問1 高齢者のための在宅福祉サービスの、今後の事業の必要性について、それぞれにあてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

在宅福祉サービスの今後の事業の必要性については、すべてのサービスについて『必要である』(「今後も必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた割合)が『必要でない』(「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」を合わせた割合)を上回っている。

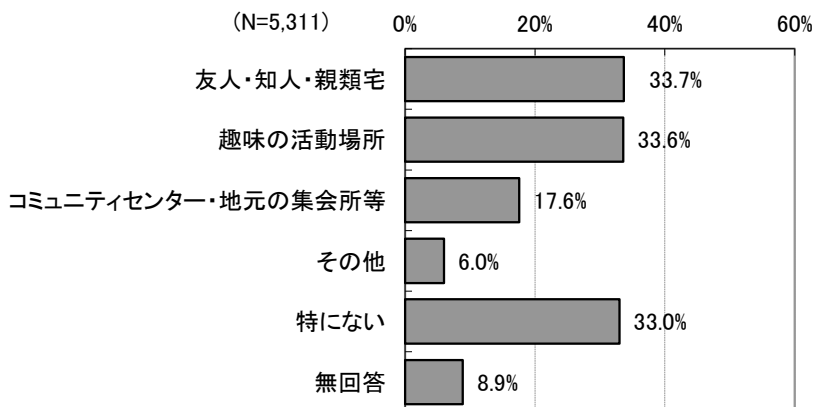
『必要である』の割合は、「⑤緊急通報装置の貸与」が76.2%と最も高くなっている。次いで「⑧福祉タクシー助成」(72.7%)、「①紙おむつの給付」(71.0%)となっている。一方、『必要でない』の割合は「⑩食事サービス」が21.0%と最も高くなっている。次いで「②介護見舞金の支給」(15.1%)、「⑥福祉電話の貸与」(12.9%)となっている。



## 高齢者の居場所について

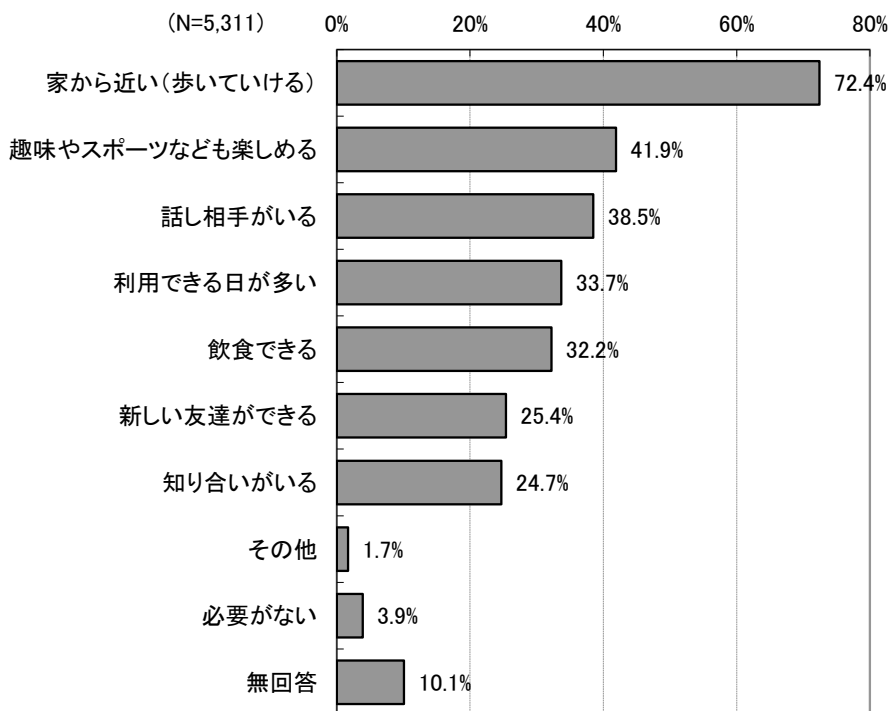
問1 自宅以外で日中気軽に過ごせるところには、どんなところがありますか。(〇はいくつでも)

自宅以外で日中気軽に過ごせるところについては、「友人・知人・親類宅」が 33.7%と最も高くなっている。次いで、「趣味の活動場所」(33.6%)、「コミュニティセンター・地元の集会所等」(17.6%)、となっている。



問2 本市では、高齢者が地域で元気に暮らせる環境を整えるため、気軽に足を運べ、介護予防や健康づくりなどができる居場所を全市的に設けることとしていますが、居場所にどのような機能を期待しますか。(〇はいくつでも)

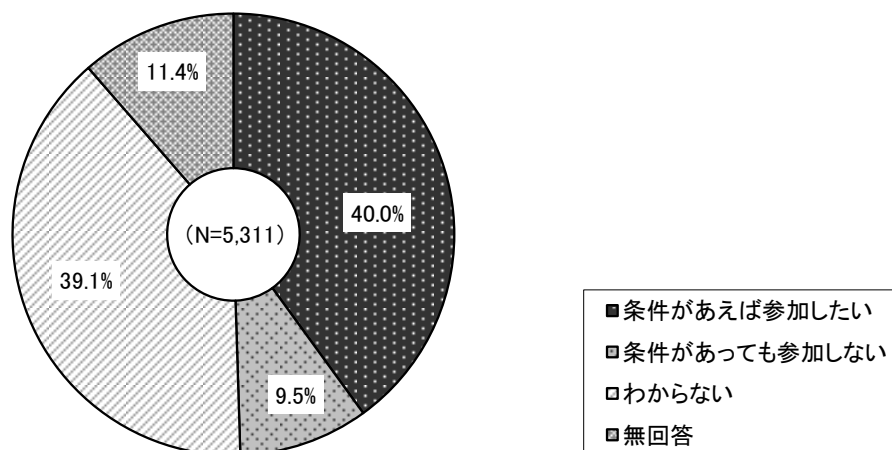
居場所にどのような機能を期待しているかについては、「家から近い(歩いていける)」が 72.4%と最も高くなっており、約7割を占めている。次いで、「趣味やスポーツなども楽しめる」(41.9%)、「話し相手がいる」(38.5%)、「利用できる日が多い」(33.7%)となっている。





問3 居場所の運営には地域の方（ボランティア）の協力が不可欠ですが、そのようなボランティア活動に参加しようと思いますか。（〇はいくつでも）

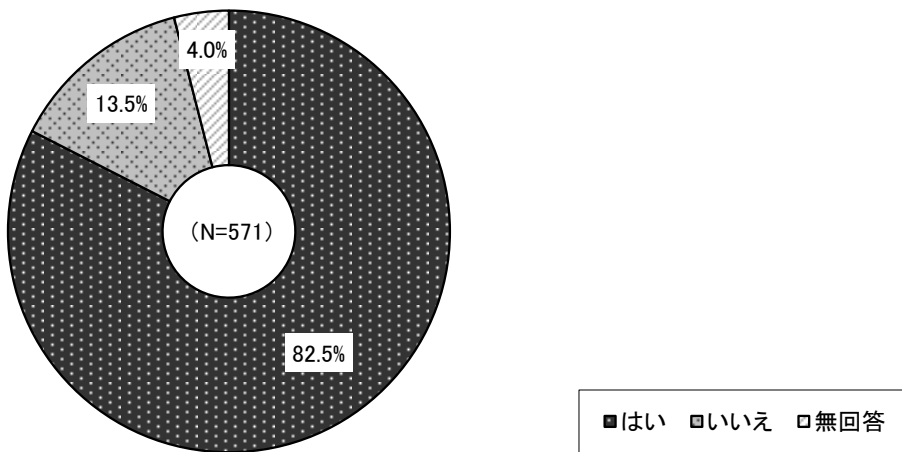
高齢者の居場所の運営に関して、ボランティア活動に参加するかどうかについては、「条件があれば参加したい」が40.0%と最も高くなっており、「条件があっても参加しない」の9.5%と比べると30.5ポイント上回っている。



## 介護専用ダイヤルについて

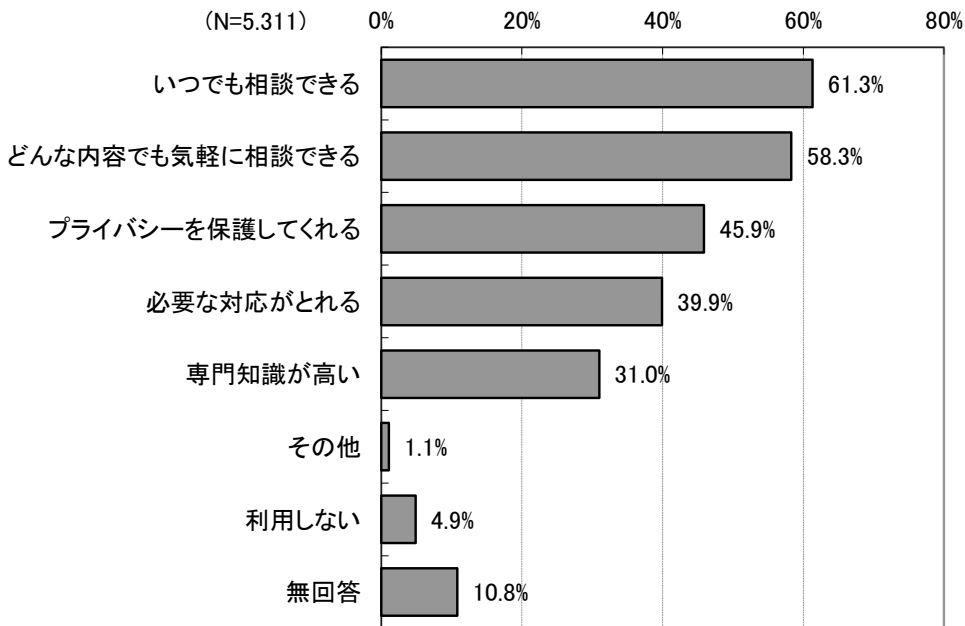
問1 夜間や休日（祝日）に介護や日常生活の不安を相談できる相手はいますか。 （○は1つ）

夜間や休日（祝日）に介護や日常生活の不安を相談できる相手がいるかどうかについては、「はい（いる）」が82.5%と、ほぼ8割の人が相談できる相手がいると回答している。



問2 介護相談専用ダイヤルにはどのような機能が必要だと思いますか。 （○はいくつでも）

介護相談専用ダイヤルにはどのような機能が必要だと思うかについては、「いつでも相談できる」が61.3%と最も高くなっている。次いで、「どんな内容でも、気軽に相談できる」(58.3%)、「プライバシーを保護してくれる」(45.9%)、「必要な対応がとれる」(39.9%)、「専門知識が高い」(31.0%)の順となっている。

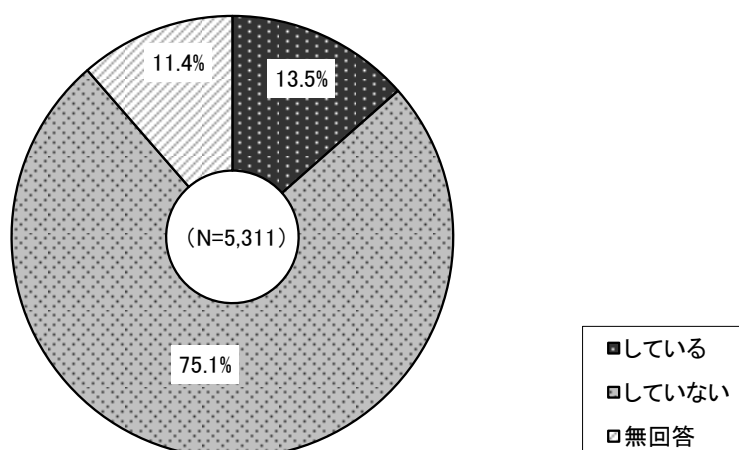


## 被介護者の状況について

問1 あなたはご家族の介護をしていますか。

(〇はいくつでも)

家族の介護状況については、「していない」が75.1%と、約7割半ばの人が家族の介護をしていないと回答している。一方、「している」は13.5%となっている。

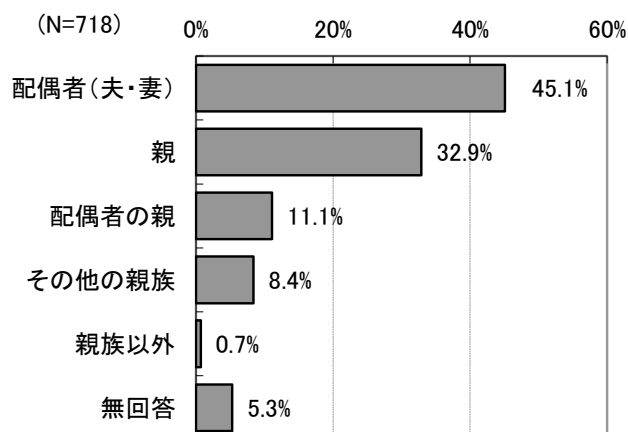


【問1-1～4については、問1で「(家族の介護を) している」と回答した人のみ】

問1-1 どなたの介護をしていますか。

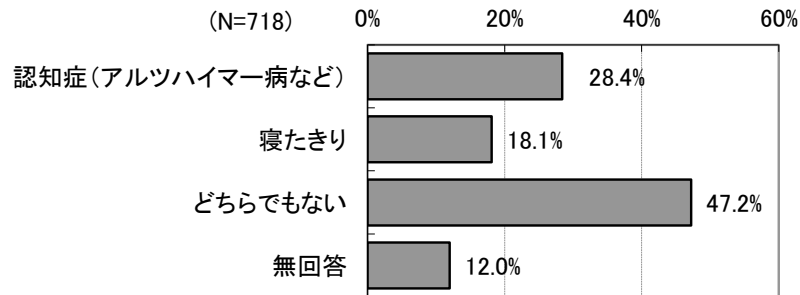
(〇はいくつでも)

家族の介護をしている人の、被介護者については、「配偶者(夫・妻)」が45.1%と最も高く、次いで「親」(32.9%)、「配偶者の親」(11.1%)の順となっている。



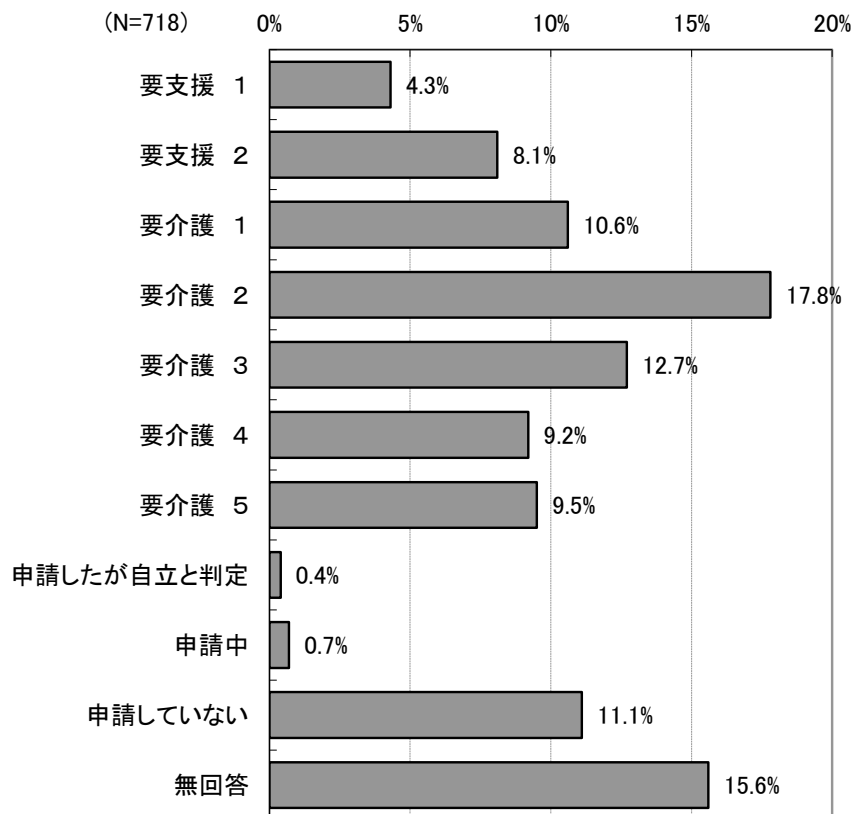
問 1-2 介護をしている方の状態はどうか。(〇はいくつでも)

被介護者の状態については「認知症（アルツハイマー病など）」が 28.4%、「寝たきり」が 18.1% となっている。一方、「(認知症でも寝たきりでも) どちらでもない」が 47.2%と最も高くなっている。



問 1-3 介護をしている方の要介護度は何ですか。(〇は1つ)

被介護者の要介護度については、「要介護 2」が 17.8%と最も高くなっている。次いで、「要介護 3」(12.7%)、「要介護 1」(10.6%)、「要介護 5」(9.5%) の順となっている。一方、「申請していない」は 11.1%となっている。

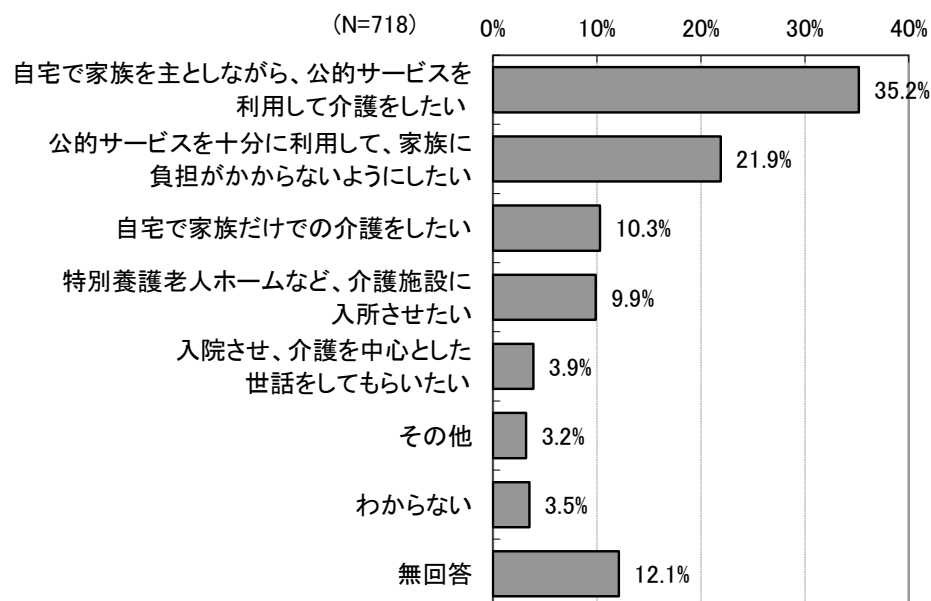


## 問1-4 今後はどのような介護方法を考えていますか。

(○は1つだけ)

今後の介護方法については、「自宅で家族を主としながら、公的サービスを利用して介護をしたい」が35.2%と最も高く、次いで「公的サービスを十分に利用して、家族に負担がかからないようにしたい」(21.9%)、「自宅で家族だけでの介護をしたい」(10.3%)の順となっている。

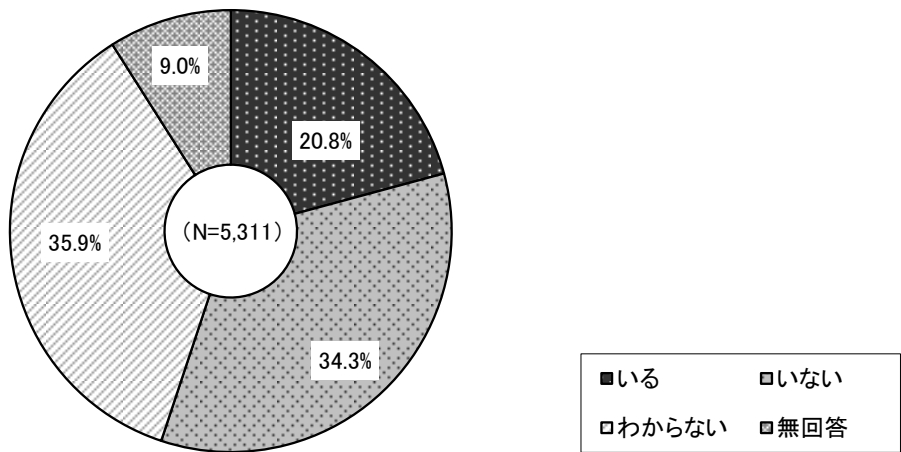
また、「特別養護老人ホームなど、介護施設に入所させたい」は9.9%となっている。



## 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

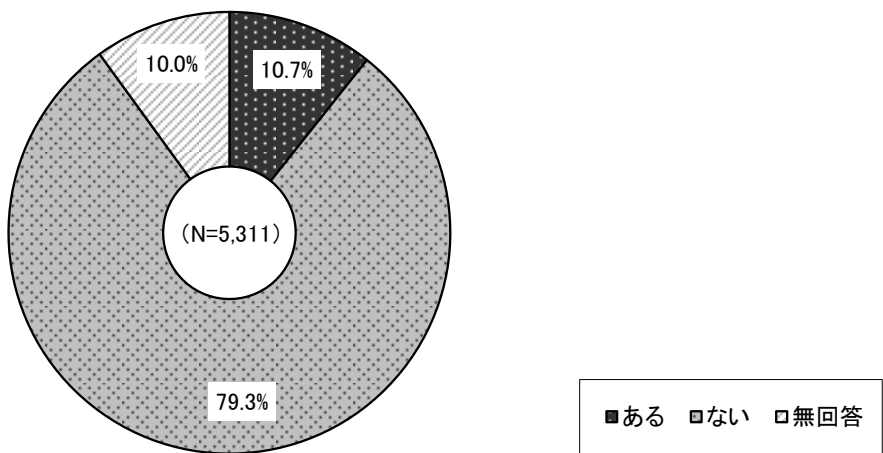
問1 お住まいの近くには、日常生活に不安があるため、声かけや訪問など見守り等が必要な高齢者がいますか。 (○は1つ)

見守りが必要な高齢者の有無については、「いない」が34.3%と最も高くなっているものの、「いる」が20.8%と、約2割の人が住まいの近くに見守りの必要な高齢者がいるという結果となっている。また、35.9%が「わからない」と回答しており、地域の付き合いの希薄化を示している。



問2 声かけや訪問といった高齢者を見守る活動を行っていますか。又は、行ったことがありますか。 (○は1つ)

見守り活動の有無については、「ない」が79.3%と約8割を占める結果となっており、「ある」は10.7%となっている。

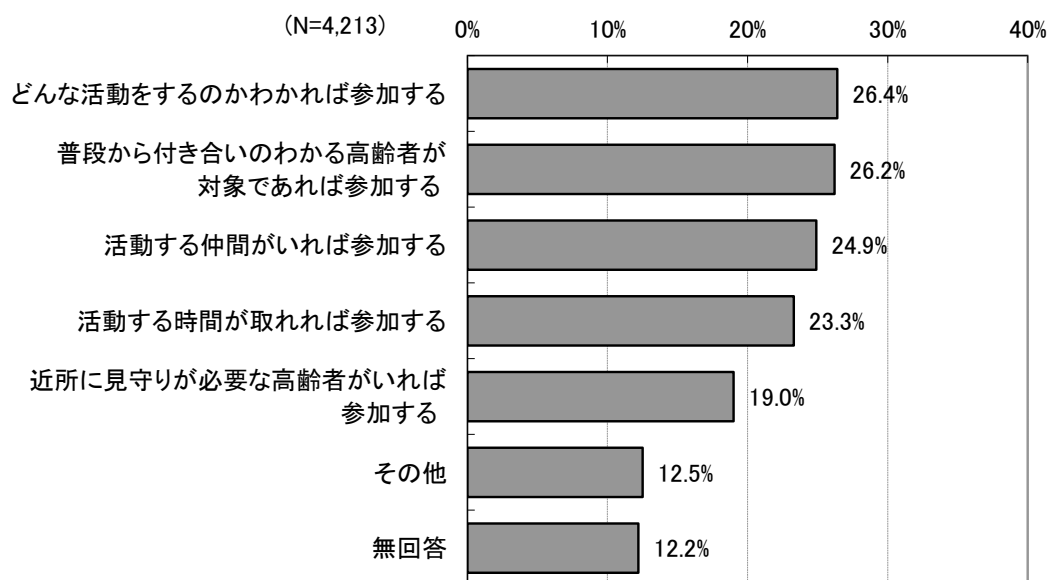


## 【問2で「ない」と回答した人のみ】

問2-1 どのような状況であれば参加できますか。

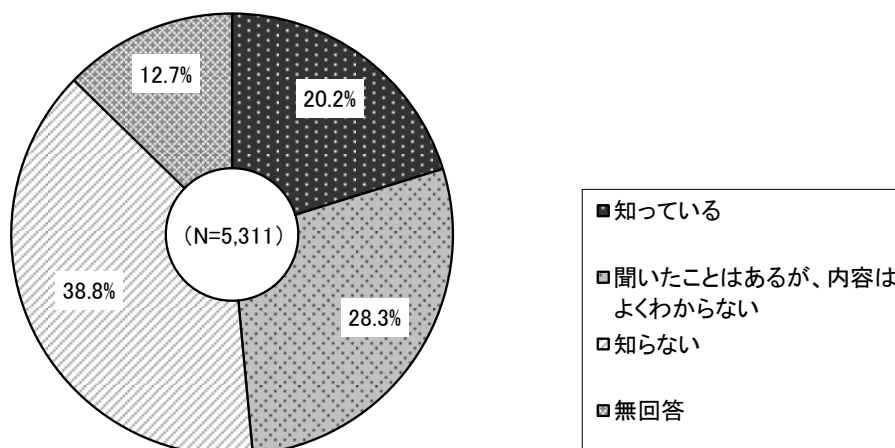
(〇はいくつでも)

見守り活動の参加条件については、「どんな活動をするのかわかれば参加する」が26.4%と最も高くなっている。次いで、「普段から付き合いのわかる高齢者が対象であれば参加する」(26.2%)、「活動する仲間がいれば参加する」(24.9%)、「活動する時間が取れれば参加する」(23.3%)の順となっている。



問3 地域における高齢者の身近な相談窓口として「高松市地域包括支援センター」を設置していますが、「地域包括支援センター」を知っていますか。(〇は1つ)

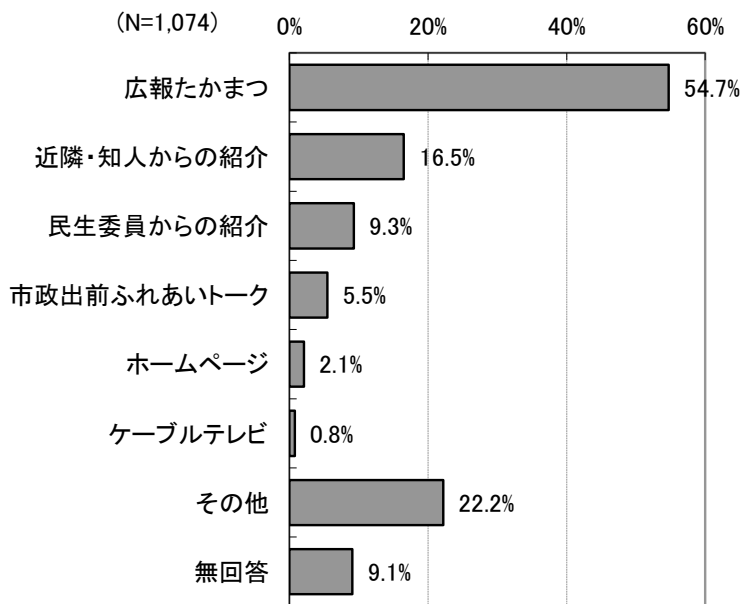
地域包括支援センターの認知については、「知らない」が38.8%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」(28.3%)と合わせると、67.1%の人が事業内容等を知らないという結果となっている。一方、「知っている」と回答した人は20.2%となっている。



【問3-1～2は、問3で「知っている」と回答した人のみ】

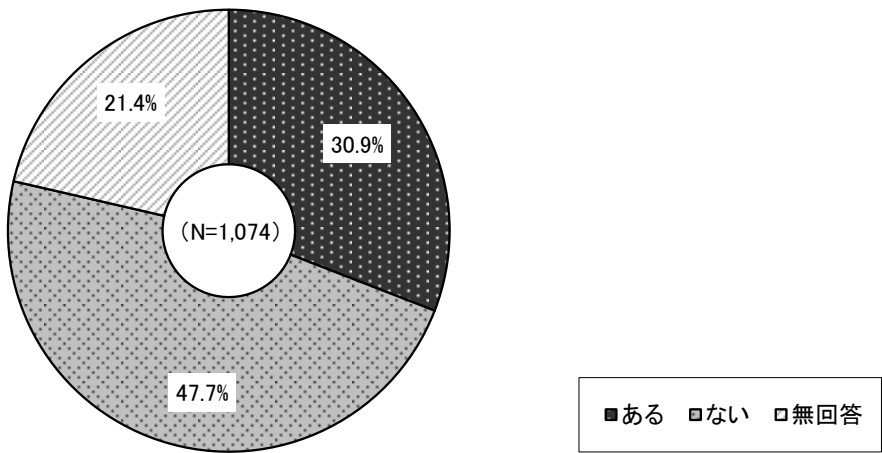
問3-1 どのような方法で知りましたか。 (〇はいくつでも)

地域包括支援センターをどのような方法で知ったかについては、「広報たかまつ」が54.7%と最も高くなっており、他と比較しても突出した割合となっている。次いで、「近隣・知人からの紹介」(16.5%)、「民生委員からの紹介」(9.3%)、「市政出前ふれあいトーク」(5.5%)の順となっている。



問3-2 相談などで利用したことがありますか。 (〇は1つ)

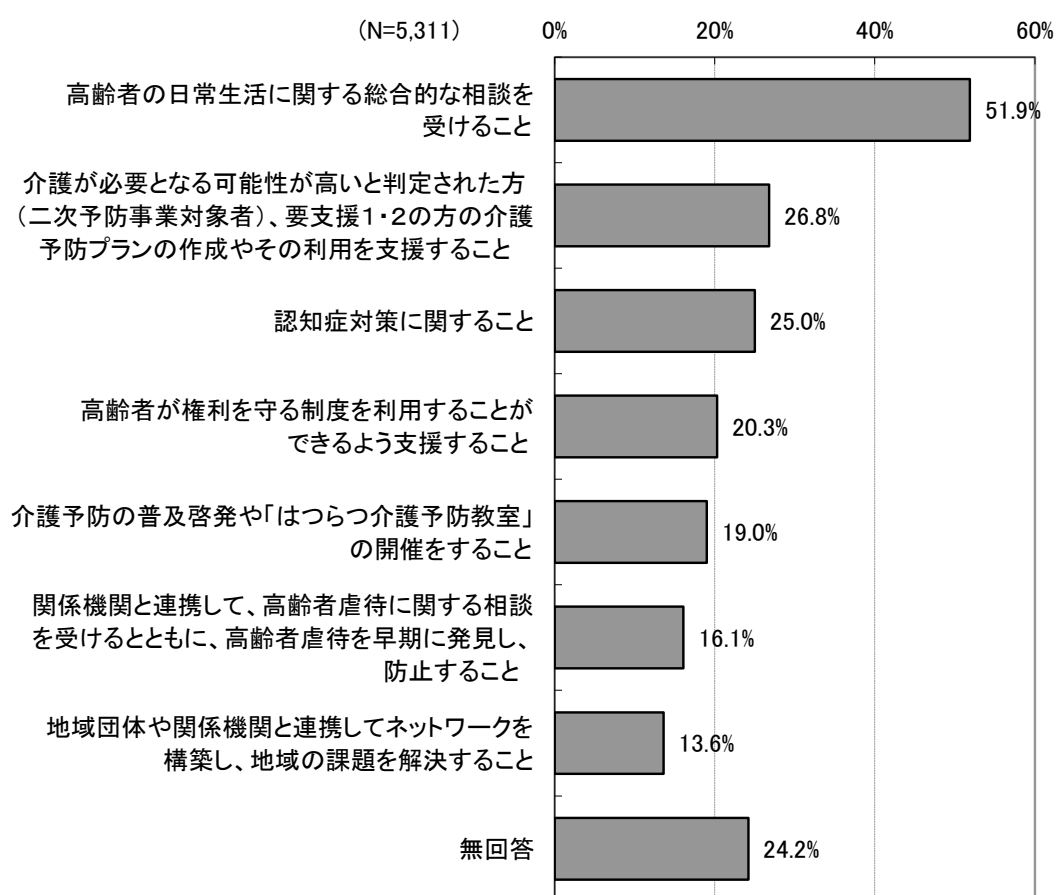
地域包括支援センターの相談利用については、「ない」が47.7%で「ある」(30.9%)を16.8ポイント上回る結果となっている。





問4 地域の高齢者を対象に「地域包括支援センター」で行っている業務について、今後特にどの業務を充実すればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

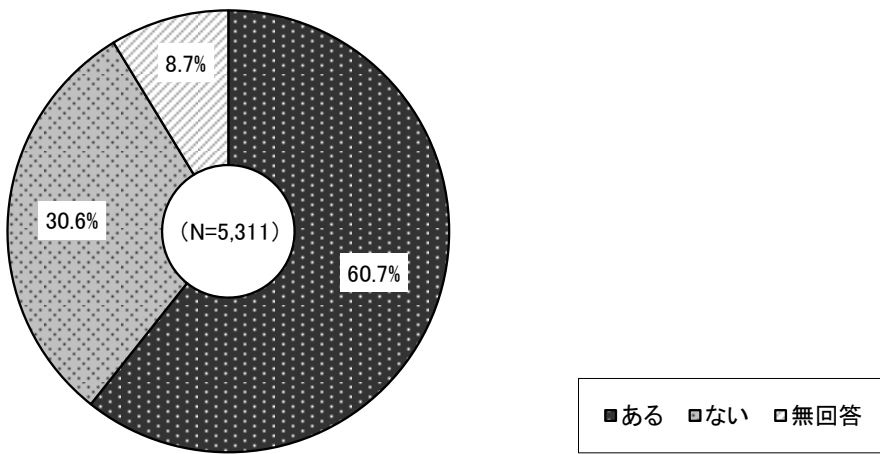
地域包括支援センターで今後充実すれば良いと思う業務内容については、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」が51.9%と最も高く、次いで「介護が必要となる可能性が高いと判定された方（二次予防事業対象者）、要支援1・2の方の介護予防プランの作成やその利用を支援すること」（26.8%）、「認知症対策に関すること」（25.0%）、「高齢者が権利を守る制度を利用することができるよう支援すること」（20.3%）の順となっている。



## 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

**問1** 今までに、自分自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか考えたことがありますか。 (○は1つ)

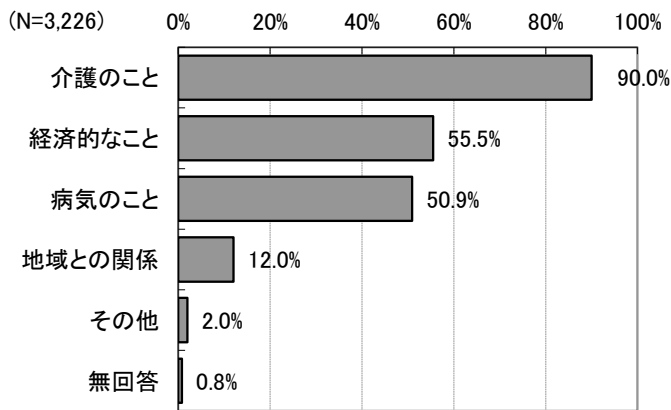
自分自身や家族が認知症になることについては、「(考えたことが) ある」は60.7%となっており、「(考えたことが) ない」(30.6%)を30.1ポイント上回っている。この結果から約6割の人が認知症になった時のことについて考えたことがあるという結果となっている。



### 【問1で「ある」と回答した人のみ】

**問1-1** どのようなことを考えましたか。 (○はいくつでも)

認知症になった時どうしたらいいのかを考えた際に、考えた内容については、「介護のこと」が90.0%と、ほとんどの人が認知症になった場合の介護に不安を感じていることが分かる結果となっている。次いで、「経済的なこと」(55.5%)、「病気のこと」(50.9%)の順となっている。

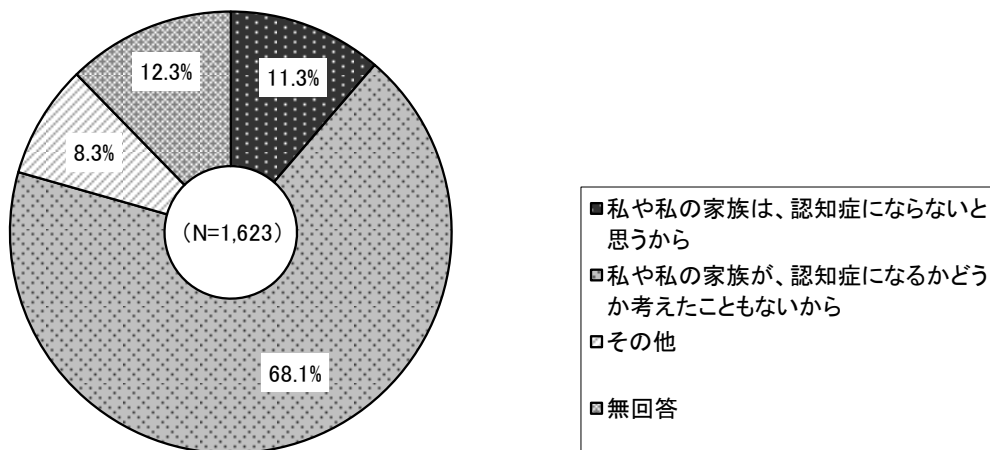


【問1で「ない」と回答した人のみ】

問1-2 考えたことがない理由は何ですか。 (○は1つ)

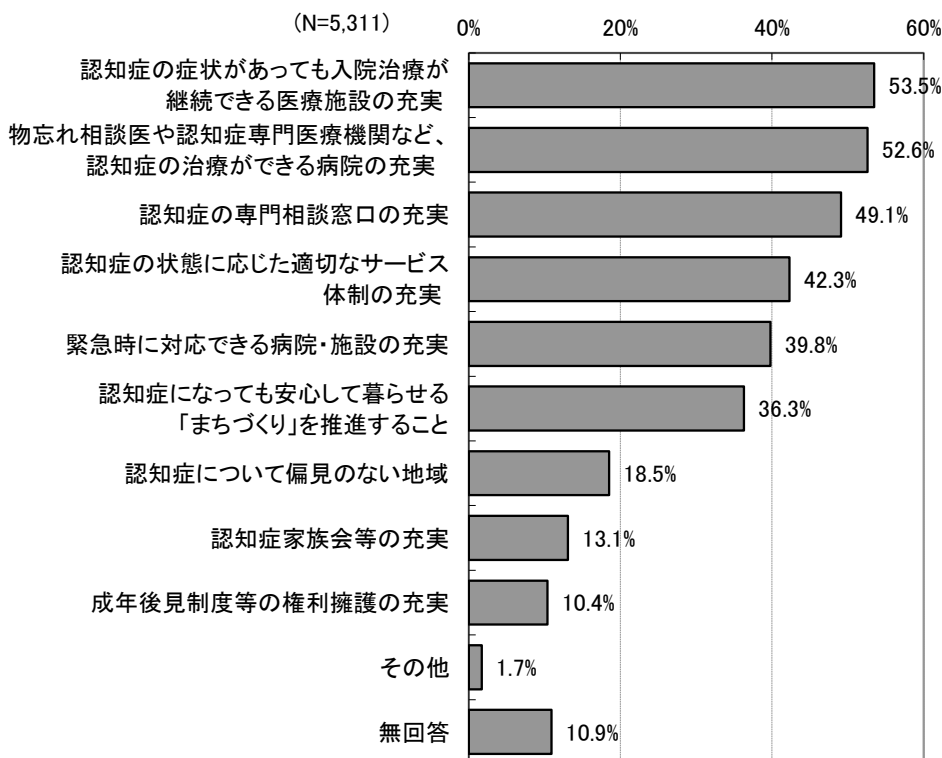
認知症になった時のことを考えたことがない理由については、「私や私の家族が、認知症になるかどうか考えたこともないから」が68.1%と約7割近くとなっている。

また「私や私の家族は、認知症にならないと思うから」は11.3%となっている。



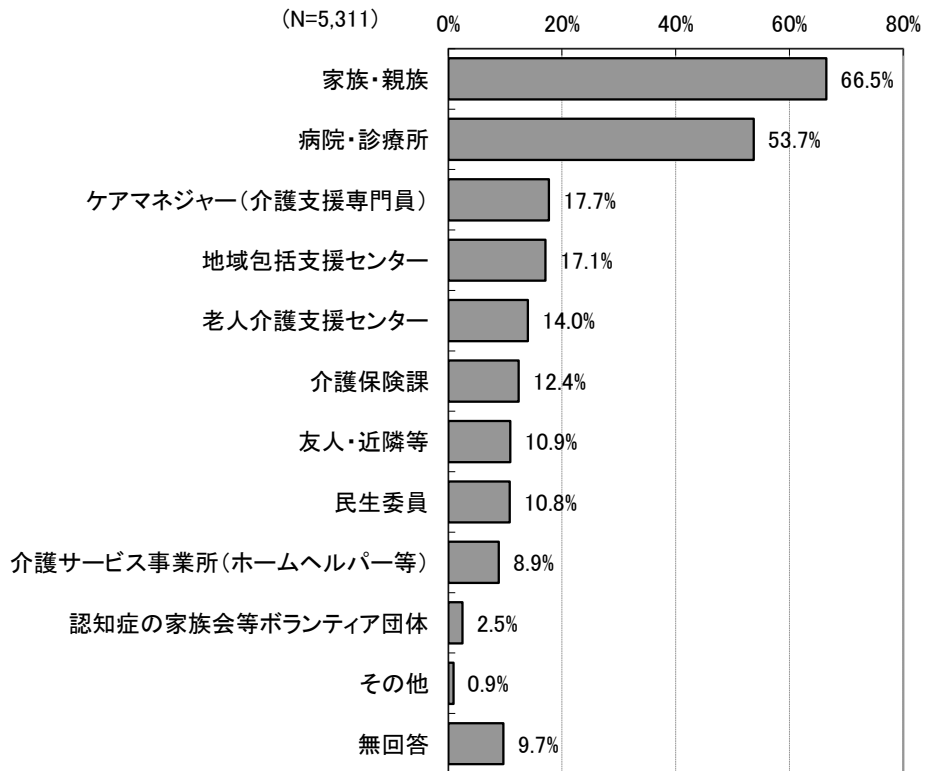
問2 どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができますか。 (○はいくつでも)

認知症になっても安心して暮らしていくための条件については、「認知症の症状があっても入院治療が継続できる医療施設の充実」が53.5%と最も高くなっている。次いで、「物忘れ相談医や認知症専門医療機関など、認知症の治療ができる病院の充実」(52.6%)、「認知症の専門相談窓口の充実」(49.1%)、「認知症の状態に応じた適切なサービス体制の充実」(42.3%)の順となっている。



**問3 身近な方に認知症の疑いがあるときに、どこに相談しますか。** (〇はいくつでも)

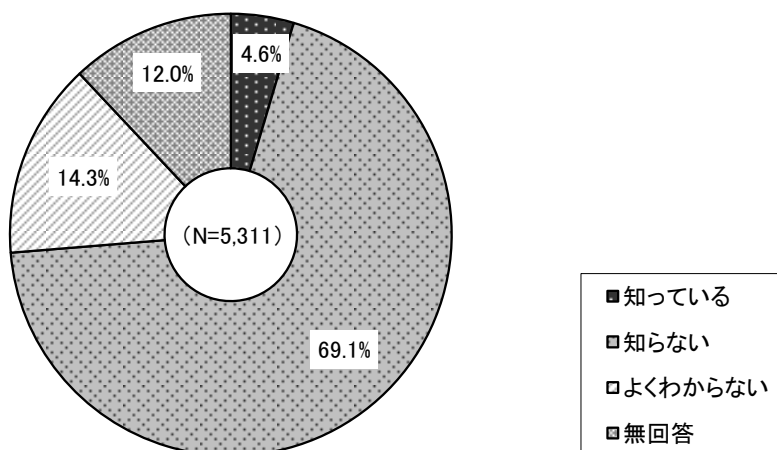
認知症の疑いがある時の相談相手については、「家族・親族」が 66.5%と最も高くなっている。次いで「病院・診療所」(53.7%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(17.7%)、「地域包括支援センター」(17.1%)の順となっている。



**問4 市では、認知症について正しく理解し、温かく見守る応援者として、地域で「認知症サポーター」の養成を行っています。「認知症サポーター」を知っていますか。** (〇は1つ)

認知症サポーターの認知については、「知らない」が 69.1%と、「よくわからない」(14.3%)と合わせると、約8割の人が知らないという結果となっている。

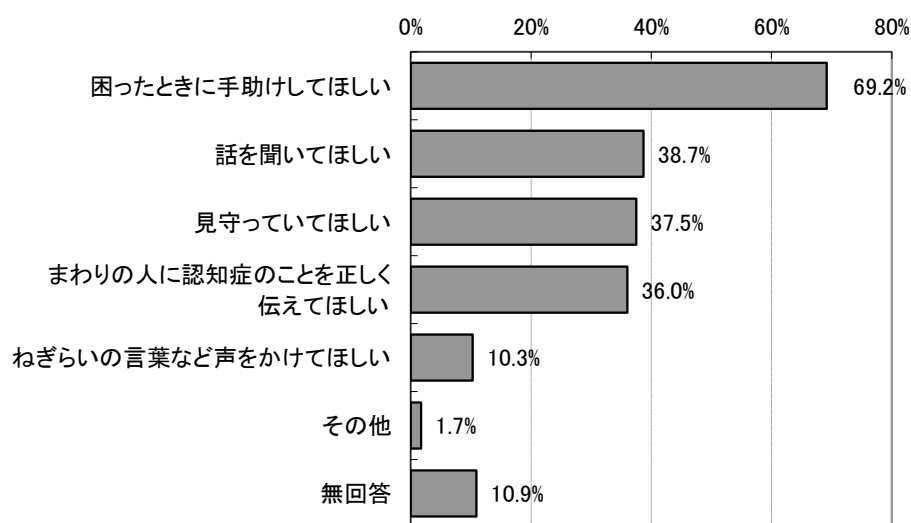
また、「知っている」と回答した人は、わずか4.6%となっている。



問5 自分自身や家族が認知症になった時に、「認知症サポーター」にどのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

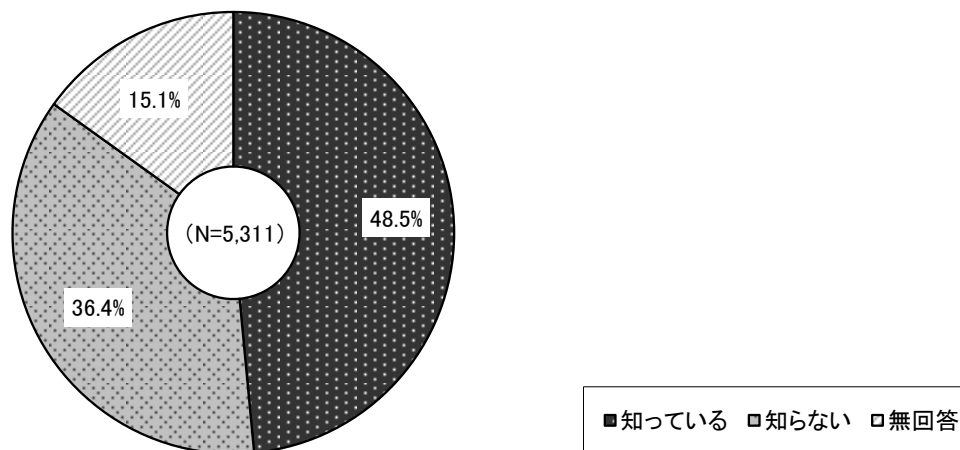
認知症サポーターに望むことについては、「困ったときに手助けしてほしい」と回答した人が69.2%と最も高く、他の項目と比べても突出して高い割合となっている。

次いで「話を聞いてほしい」(38.7%)、「見守っていてほしい」(37.5%)、「まわりの人に認知症のことを正しく伝えてほしい」(36.0%)の順となっている。



問6 若年性認知症(65歳未満で発症した認知症)について知っていますか。(〇は1つだけ)

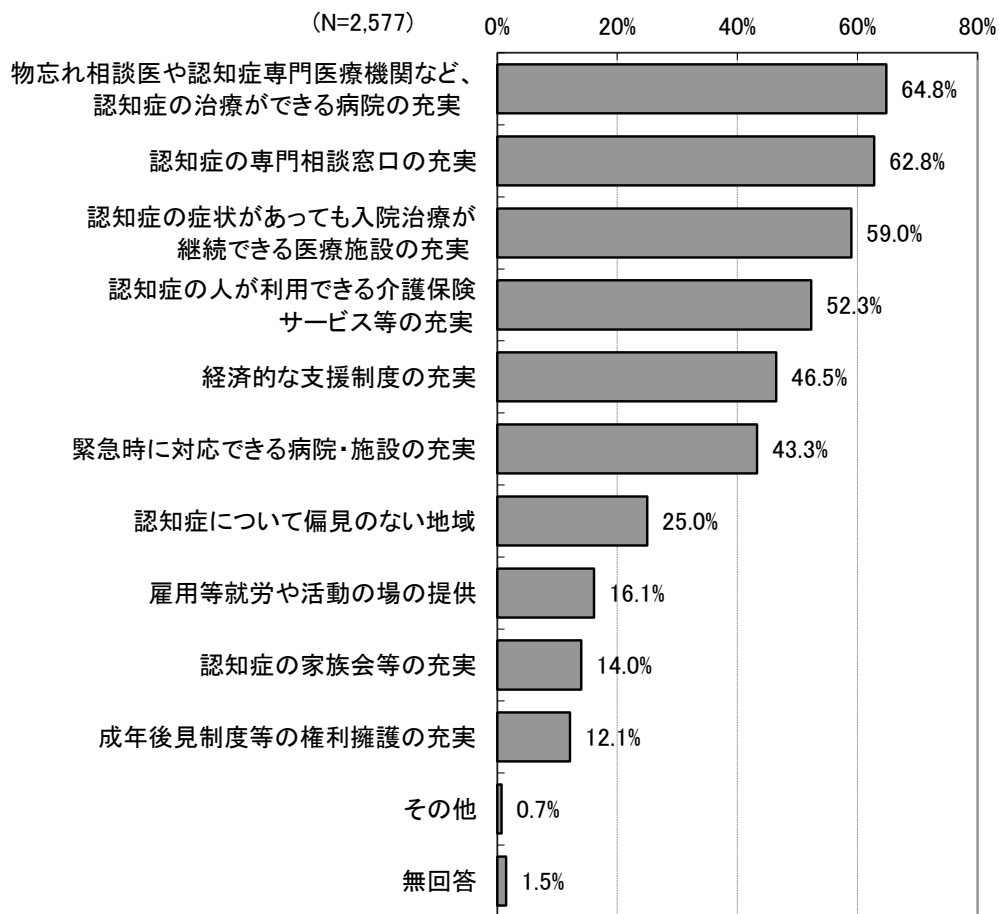
若年性認知症の認知については、「知っている」が48.5%と最も高くなっているものの、「知らない」が36.4%となっている。



【問6で「知っている」と回答した人のみ】

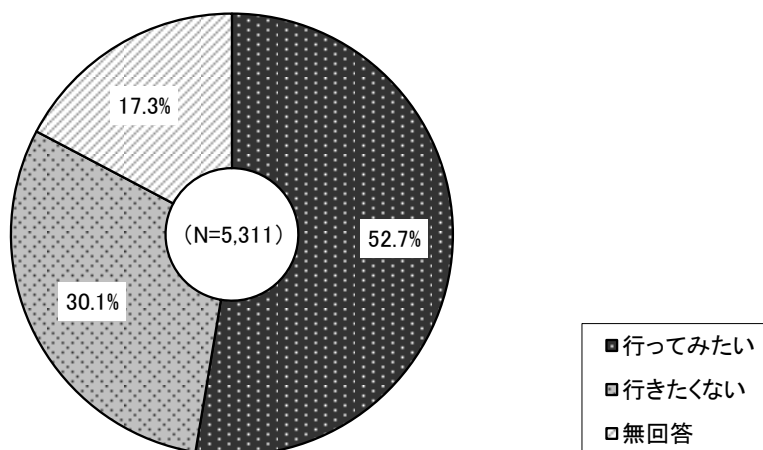
問6-1 若年性認知症でどのような支援があればいいと思いますか。 (〇はいくつでも)

若年性認知症に対する支援については、「物忘れ相談医や認知症専門医療機関など、認知症の治療ができる病院の充実」が64.8%と最も高くなっている。次いで、「認知症の専門相談窓口の充実」(62.8%)、「認知症の症状があっても入院治療が継続できる医療施設の充実」(59.0%)、「認知症の人が利用できる介護保険サービス等の充実」(52.3%)、「経済的な支援制度の充実」(46.5%)の順となっている。



問7 国は認知症の本人や家族、医療介護等専門職やボランティアが集まり、互いに交流をし、集える場である「認知症カフェ」の普及を推進しています。自分や家族が認知症となった時、行ってみたいと思いますか。 (〇は1つ)

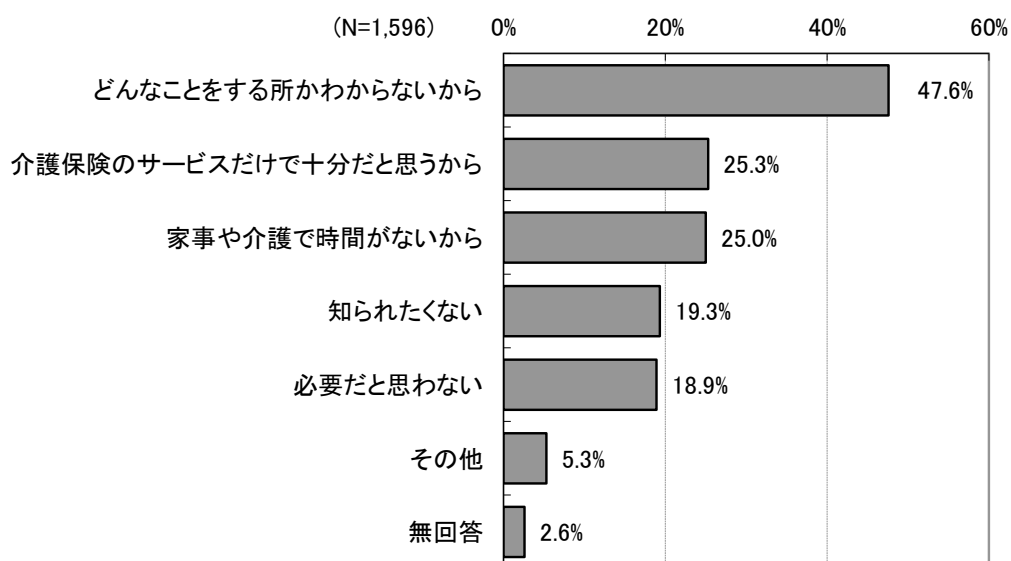
認知症カフェに行ってみようかどうかについては、「行ってみたい」が52.7%と半数を超えているのに対し、「行きたくない」は30.1%と、3割となっている。



【問7で「行きたくない」と回答した人のみ】

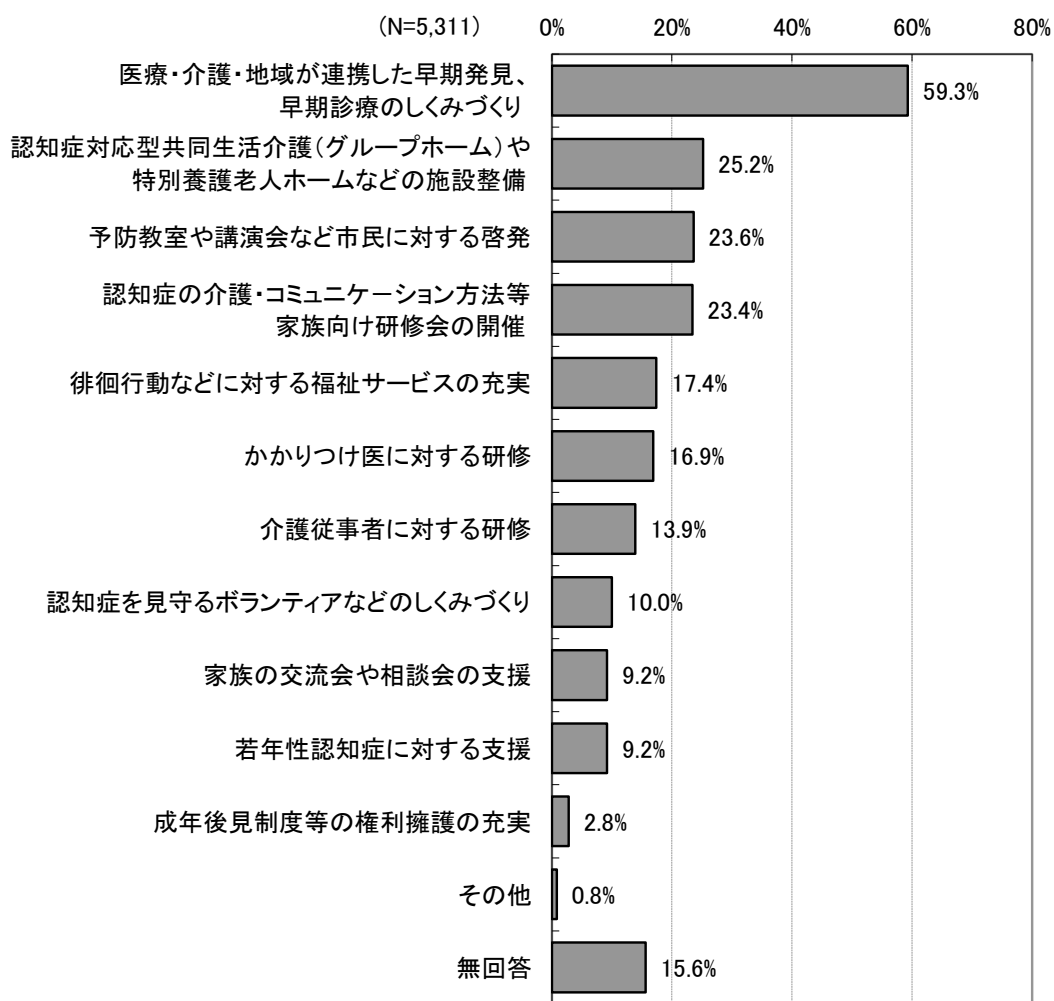
問7-1 行きたくない理由は何ですか。 (〇は1つ)

認知症カフェに行きたくない理由としては、「どんなことをする所かわからないから」が47.6%で最も高くなっている。次いで、「介護保険のサービスだけで十分だと思うから」(25.3%)、「家事や介護で時間がないから」(25.0%)、「知られたくない」(19.3%)、「必要だと思わない」(18.9%)の順となっている。



**問8** 今後、認知症対策を進めていく上で、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。  
(〇は3つまで)

重点を置くべき認知症対策については、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり」が 59.3%と、他の項目と比べても突出して高い割合となっている。次いで、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）や特別養護老人ホームなどの施設整備」（25.2%）、「予防教室や講演会など市民に対する啓発」（23.6%）、「認知症の介護・コミュニケーション方法等家族向け研修会の開催」（23.4%）の順となっており、介護サービスの充実や介護者への研修、介護予防への要望が多くなっている。







## Ⅱ 調査結果

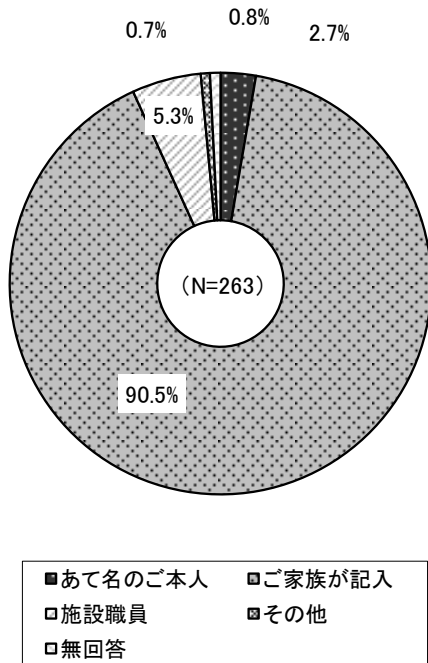
### 介護保険施設サービス利用者





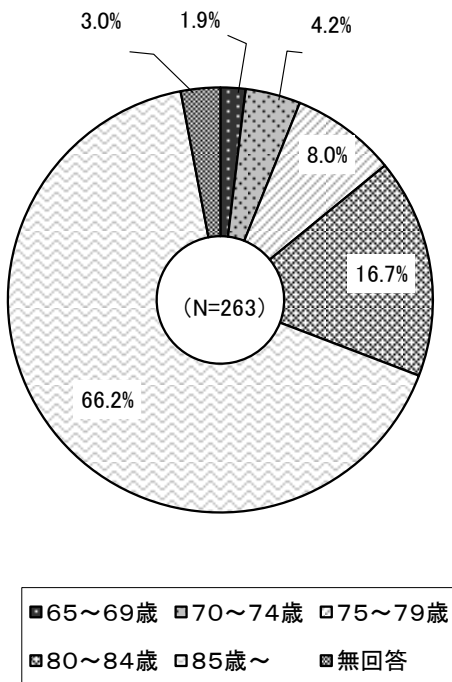
## 回答者の属性

### 1 調査票を記入されたのはどなたですか。



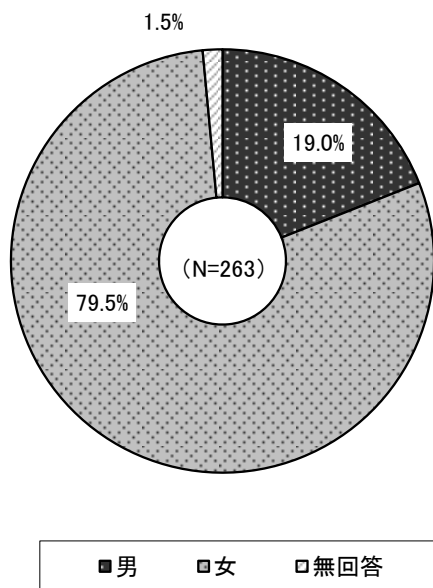
項目	回答数(人)	構成比(%)
あて名のご本人	7	2.7
ご家族が記入	238	90.5
施設職員	14	5.3
その他	2	0.7
無回答	2	0.8
計	263	100.0

### 2 年齢



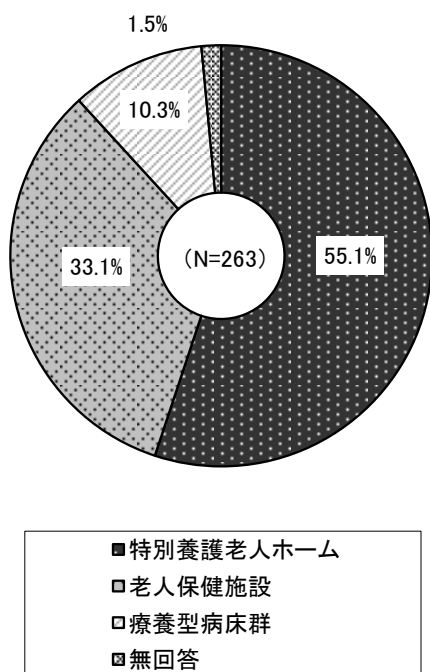
項目	回答数(人)	構成比(%)
65歳~69歳	5	1.9
70歳~74歳	11	4.2
75歳~79歳	21	8.0
80歳~84歳	44	16.7
85歳以上	174	66.2
無回答	8	3.0
計	263	100.0

3 性別



項目	回答数(人)	構成比(%)
男	50	19.0
女	209	79.5
無回答	4	1.5
計	263	100.0

4 入所施設

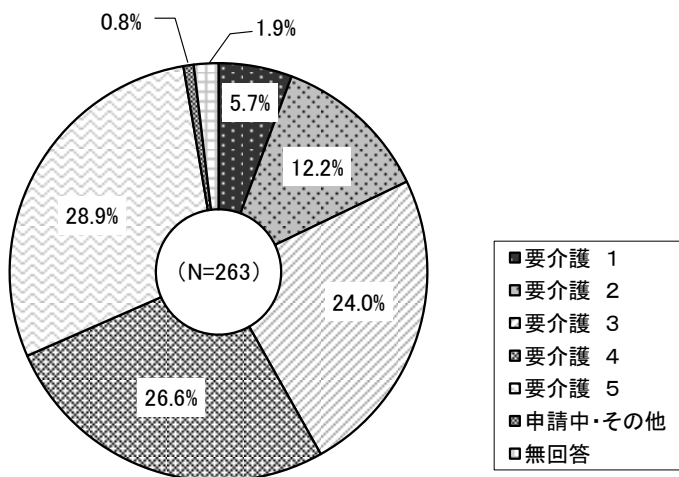


項目	回答数(人)	構成比(%)
特別養護老人ホーム	145	55.1
老人保健施設	87	33.1
療養型病床群	27	10.3
無回答	4	1.5
計	263	100.0

# 要介護認定者（介護）意識調査

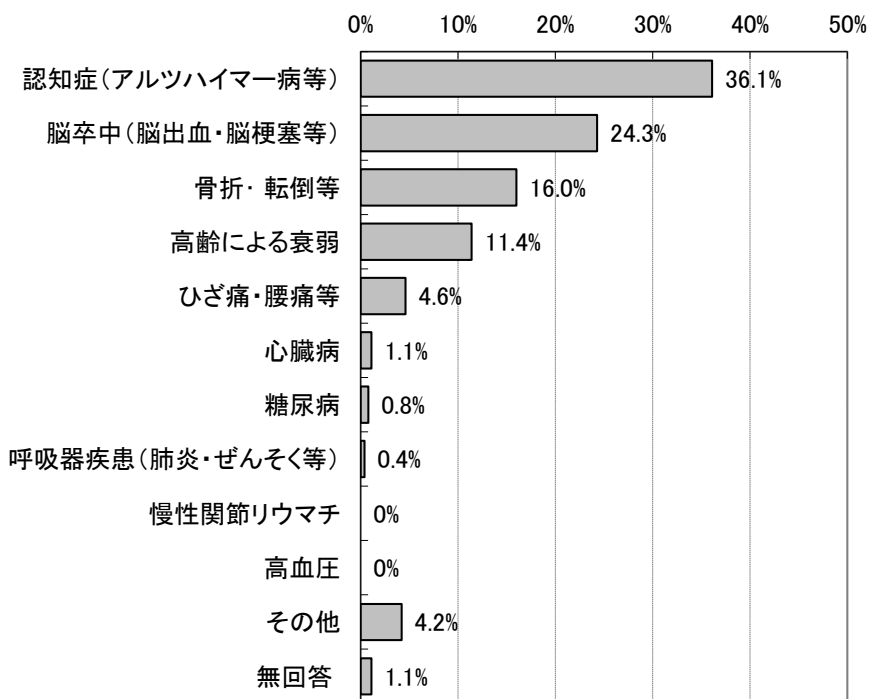
問1 あなたの要介護度についておたずねします。 (○は1つ)

要介護度については、「要介護5」が28.9%と最も高く、次いで「要介護4」(26.6%)、「要介護3」(24.0%)、「要介護2」(12.2%)の順となっている。



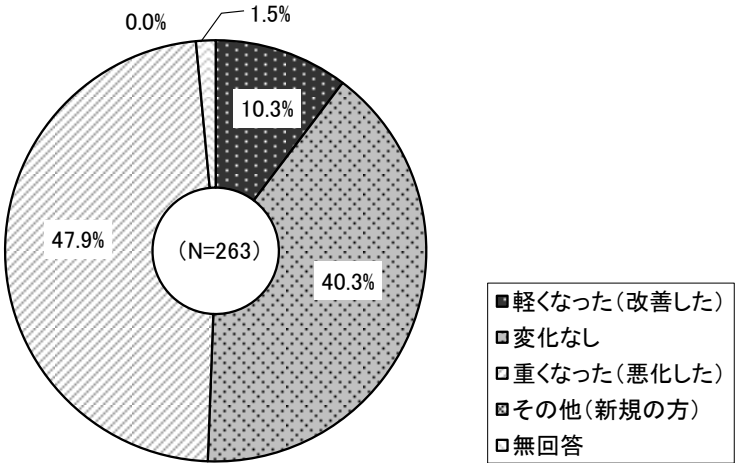
問2 介護が必要になられた主な原因は何ですか。 (○は1つ)

介護が必要になった主な原因については、「認知症(アルツハイマー病等)」が36.1%と最も高く、次いで「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(24.3%)、「骨折・転倒等」(16.0%)、「高齢による衰弱」(11.4%)の順となっている。



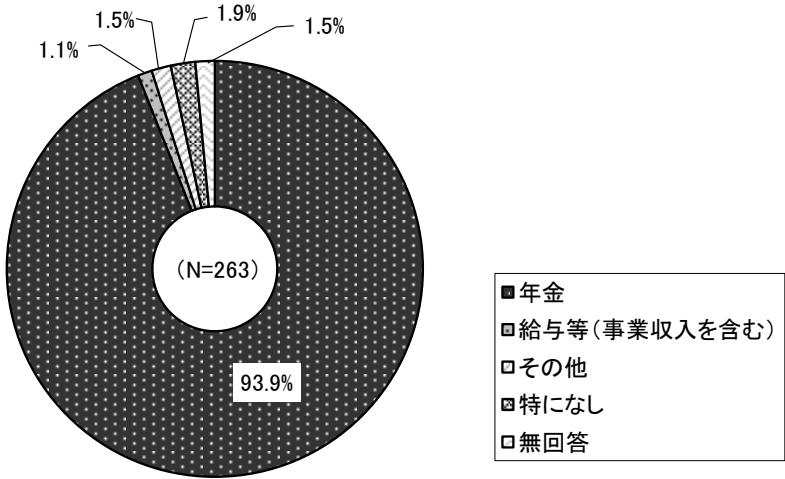
問3 要介護度は、以前と比べてどのように変化しましたか。 (〇は1つ)

要介護度の変化については、「重くなった(悪化した)」が47.9%と最も高く、次いで「変化なし」(40.3%)となっており、「軽くなった(改善した)」は10.3%となっている。



問4 主な収入は何ですか。 (〇は1つ)

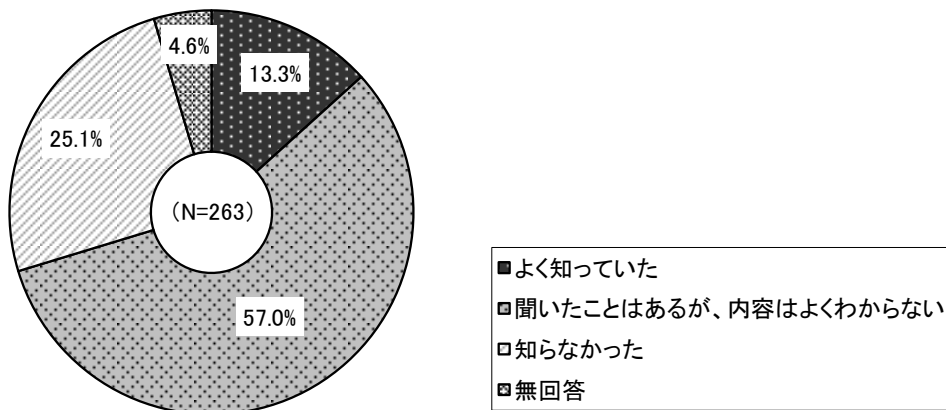
主な収入については、「年金」が93.9%と大半を占める結果となっている。





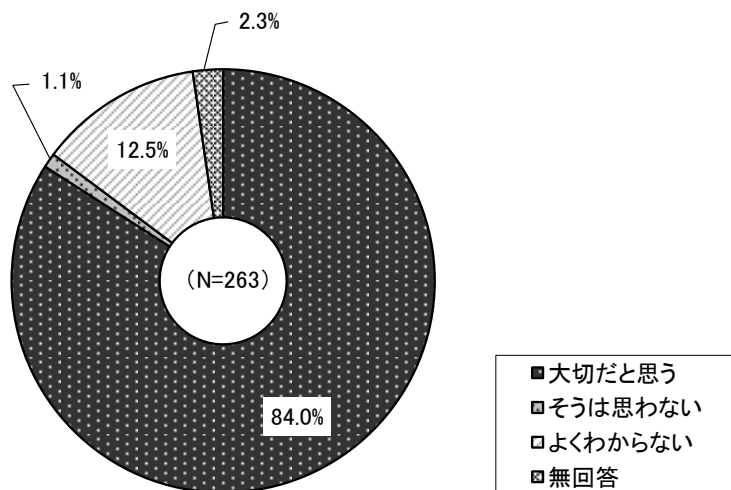
問5 市では様々な「介護予防事業」を行っていますが、市が行う介護予防事業についてあてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

介護予防事業については、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が57.0%と最も高く、「よく知っていた」は13.3%となっている。一方、「知らなかった」は25.1%となっている。



問6 介護予防の取り組みを推進することは、大切だと思いますか。(〇は1つ)

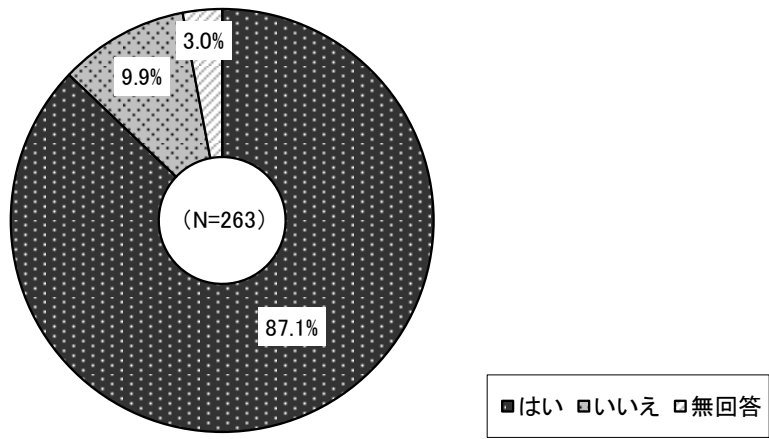
介護予防の取り組みの推進については、「大切だと思う」が84.0%と大半を占める結果となっている。



**問7 利用されている施設サービスに満足していますか。 (○は1つ)**

利用している施設サービスの満足度については、「はい (満足している)」と回答した人が 87.1% と大半を占めている。

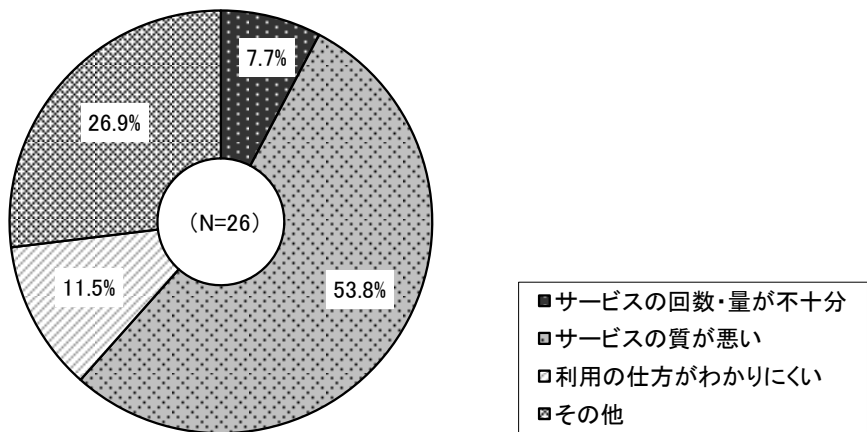
一方、「いいえ (満足していない)」と回答した人が 9.9% となっている。



**【問7で、「いいえ (満足していない)」と回答した人のみ】**

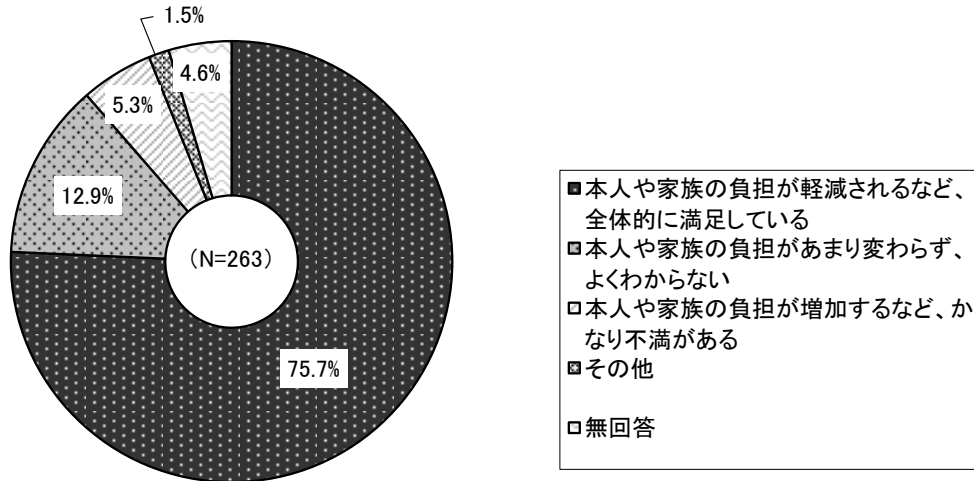
**問7-1 満足していない主な理由を選んでください。 (○は1つ)**

介護サービス内容に満足していない理由については、「サービスの質が悪い」が 53.8% と最も高く、次いで「利用の仕方がわかりにくい」(11.5%)、「サービスの回数・量が不十分」(7.7%) の順となっている。



問8 介護保険制度に対する評価として、最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

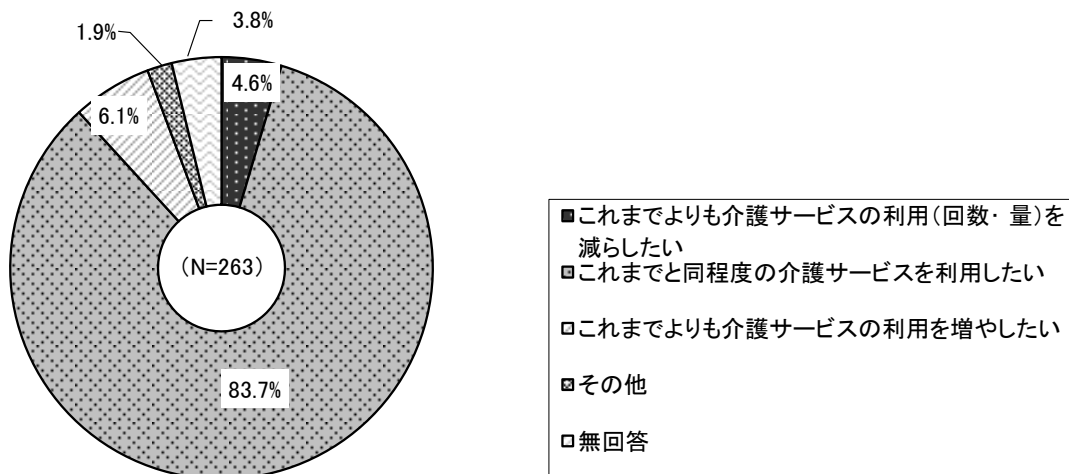
介護保険に対する評価については、「本人や家族の負担が軽減されるなど、全体的に満足している」が75.7%と7割半ばとなっている。一方、「本人や家族の負担が増加するなど、かなり不満がある」は5.3%となっている。



問9 介護サービスを利用する人が増えたり、一人あたりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなるしくみになっていますが、このことを踏まえた上で、今後、介護保険を利用する際の考え方に最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

介護保険を利用する際の考え方については、「これまでと同程度の介護サービスを利用したい」が83.7%と最も高くなっている。

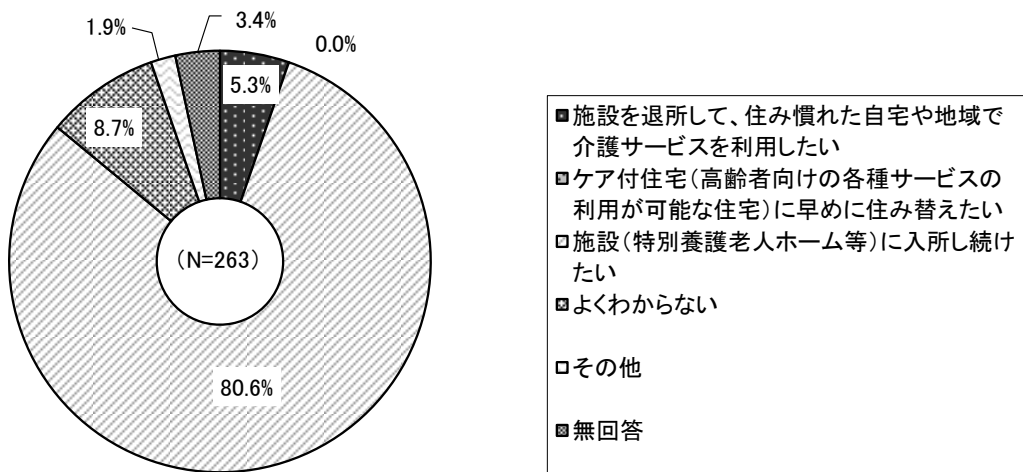
一方、「これまでよりも介護サービスの利用(回数・量)を減らしたい」と回答した人はわずか4.6%となっている。



**問 10 介護サービスの利用と住まいについて、どのように考えていますか。一番近いものを選んでください。** (○は1つ)

介護サービスの利用と住まいについては、「施設（特別養護老人ホーム等）に入所し続けたい」とが80.6%と最も高く、約8割の人が施設での生活の継続を望んでいることが分かる。

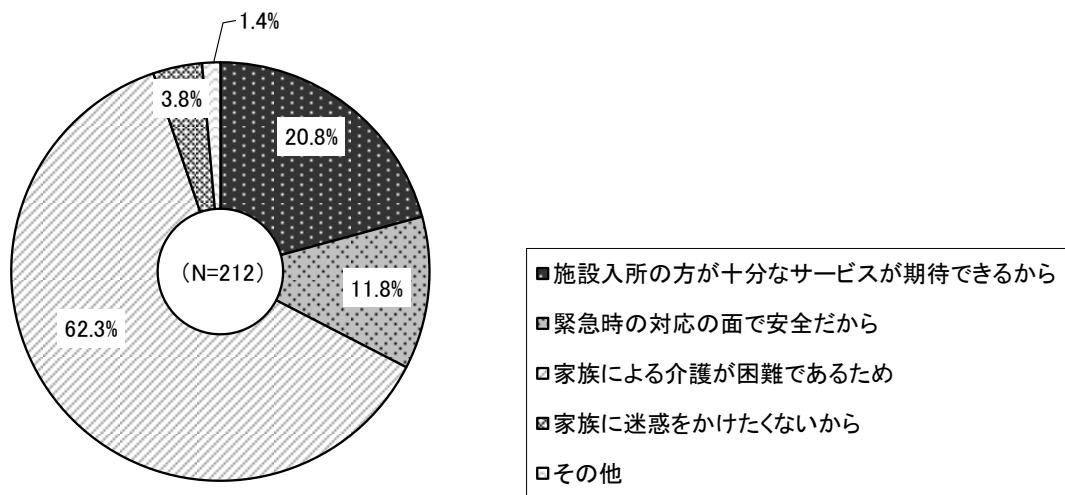
一方、「施設を退所して、住み慣れた自宅や地域で介護サービスを利用したい」は5.3%となっている。



**【問 10で、「施設に入所し続けたい」と回答した人のみ】**

**問 10-1 施設入所を希望される主な理由を選んでください。** (○は1つ)

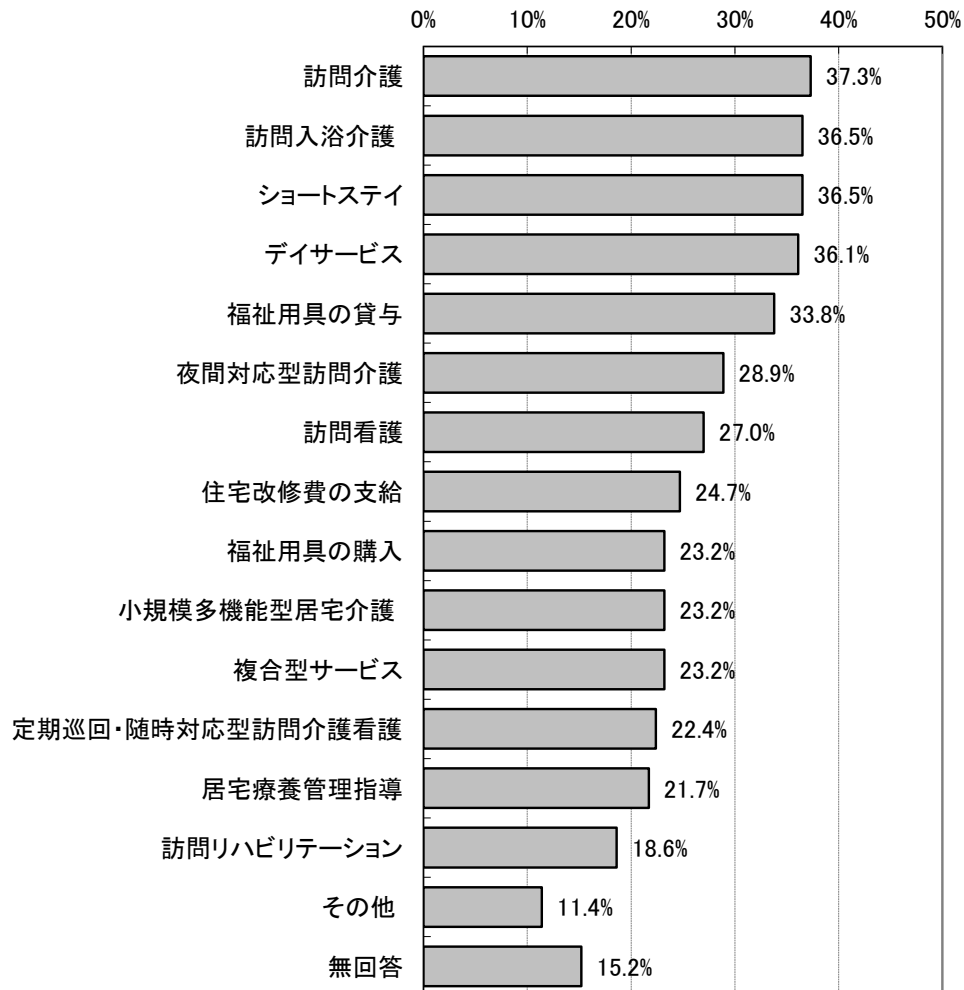
介護が必要になった時に施設への入所を希望した理由については、「家族による介護が困難であるため」が62.3%と最も高くなっている。次いで「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」(20.8%)、「緊急時の対応の面で安心だから」(11.8%)の順となっている。



問11 どのような居宅サービスが充実していれば、居宅で生活できると思いますか。

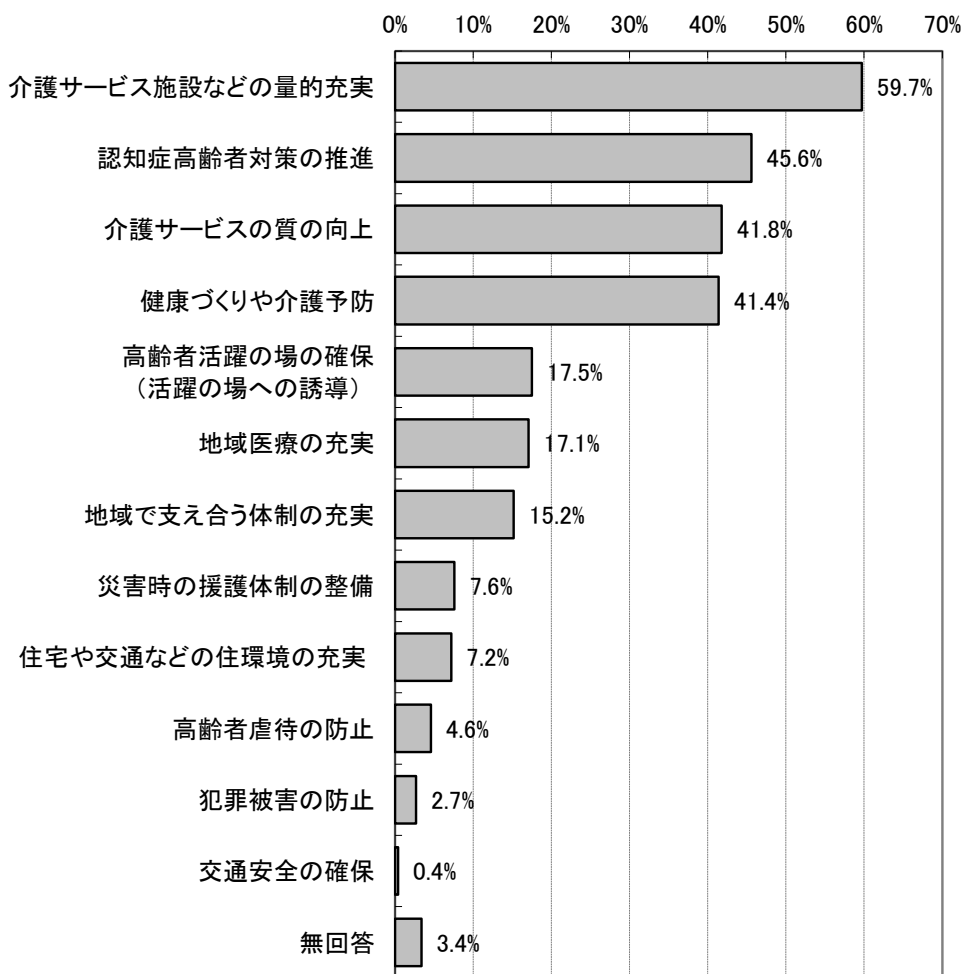
(〇はいくつでも)

居宅生活をするためのサービスについては、「訪問介護」が37.3%と最も高く、次いで「訪問入浴介護」及び「ショートステイ」(36.5%)、「デイサービス」(36.1%)、「福祉用具の貸与」(33.8%)の順となっている。



問 12 今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策を選んでください。  
 (〇は3つまで)

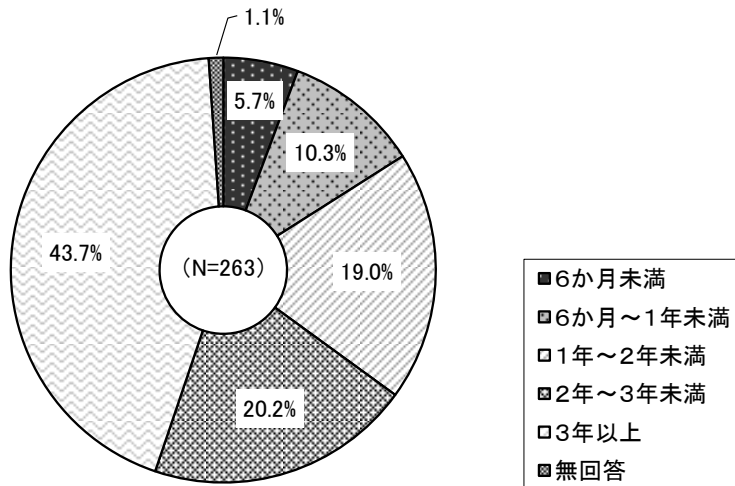
行政が力を入れるべき高齢者施策については、「介護サービス施設などの量的充実」が 59.7%と最も高く、次いで「認知症高齢者対策の推進」(45.6%)、「介護サービスの質の向上」(41.8%)、「健康づくりや介護予防」(41.4%)、「高齢者活躍の場の確保」(17.5%)の順となっており、介護保険サービスの充実や認知症対策に対する要望が高い結果となっている。



## 介護保険に関する意識調査（施設サービス）

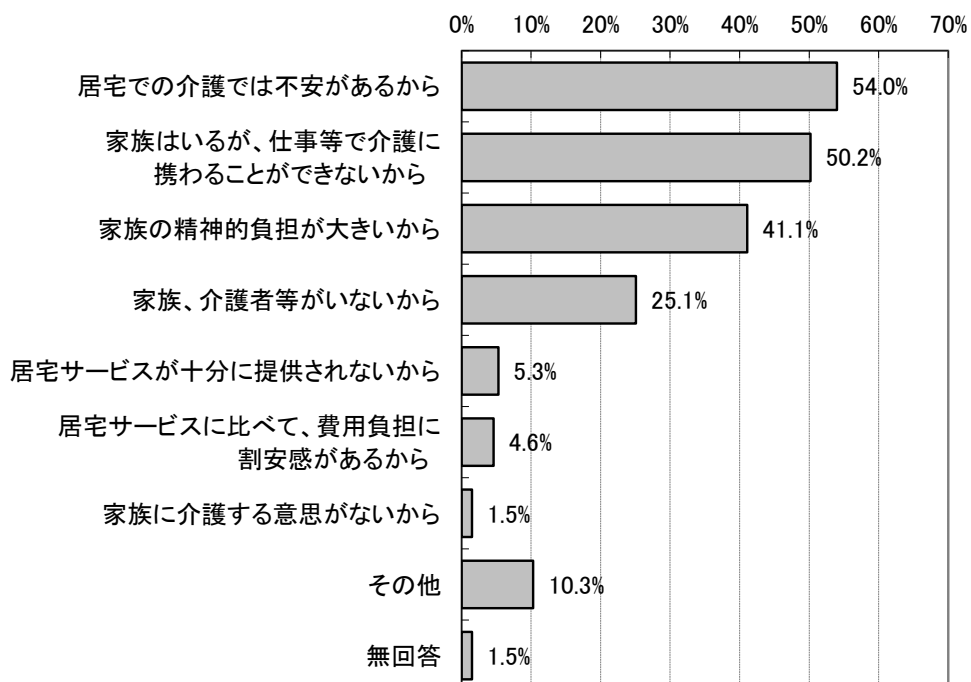
問1 現在の施設に入所してから、どの程度の期間が経過していますか。 (○は1つ)

施設入所期間については、「3年以上」と回答した人が43.7%と最も多く、次いで「2年～3年未満」(20.2%)、「1年～2年未満」(19.0%)となっており、施設に入所して1年以上が経過している人が約8割を占める結果となっている。



問2 なぜ施設への入所を希望されたのですか。 (○はいくつでも)

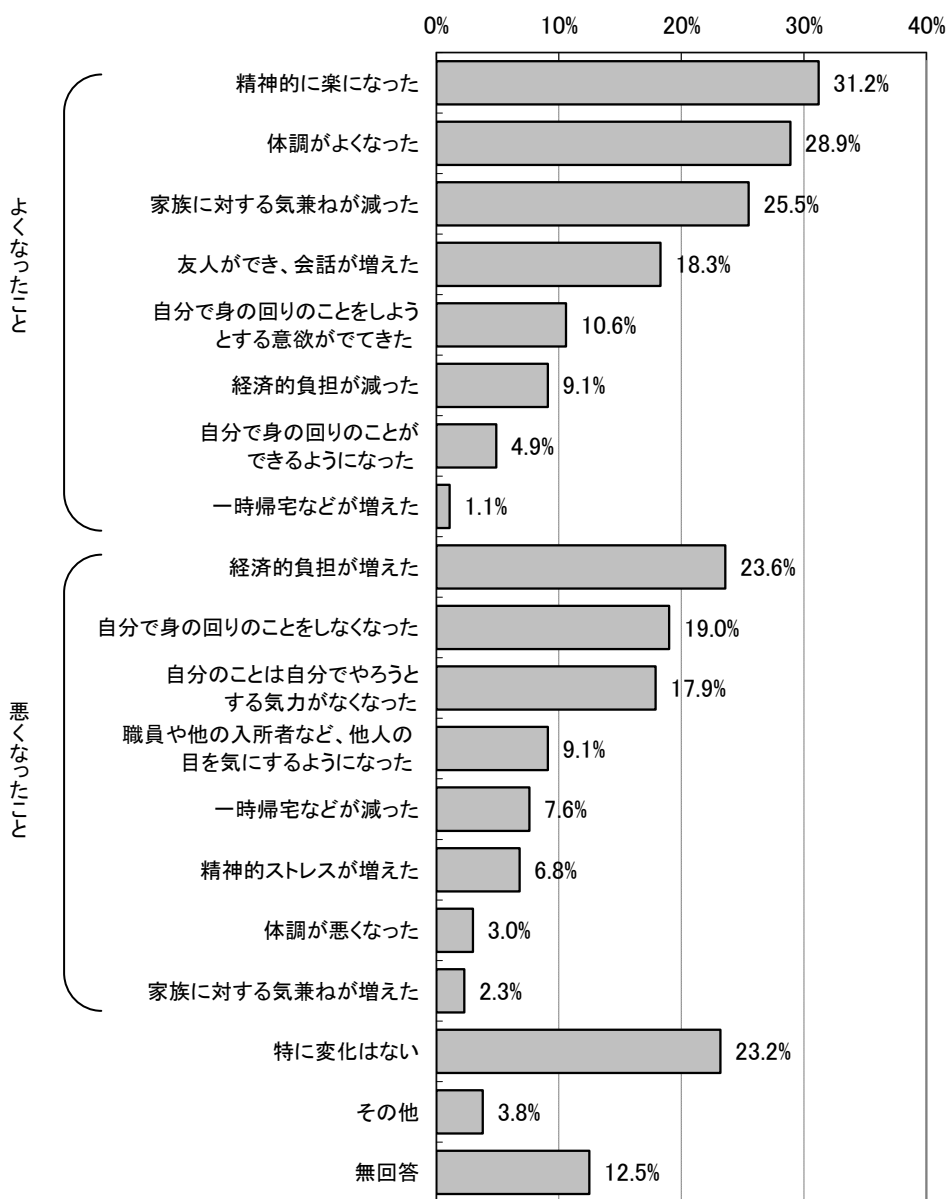
施設入所を希望した理由については、「居宅での介護では不安があるから」が54.0%と最も高く、次いで「家族はいるが、仕事等で介護に携わることができないから」(50.2%)、「家族の精神的負担が大きいから」(41.1%)、「家族、介護者等がないから」(25.1%)の順となっている。



**問3 施設を利用することにより、生活にどのような変化がありましたか。 (〇はいくつでも)**

施設入所による生活への変化については、よくなったことでは「精神的に楽になった」が31.2%と最も多く、次いで「体調がよくなった」(28.9%)、「家族に対する気兼ねが減った」(25.5%)の順となっている。

逆に、悪くなったことでは「経済的負担が増えた」が23.6%と最も高くなっている。次いで「自分で身の回りのことをしなくなった」(19.0%)、「自分のことは自分でやろうとする気力がなくなった」(17.9%)の順となっている。



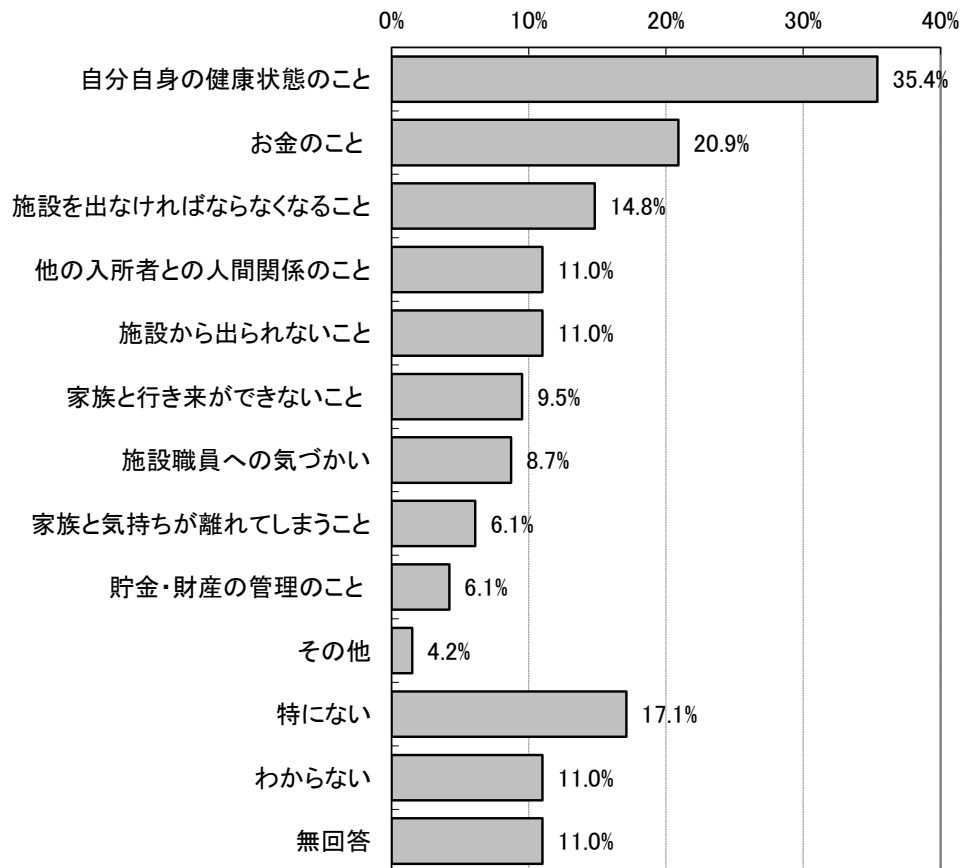


## 問4 不安に思うことは何ですか。

(〇はいくつでも)

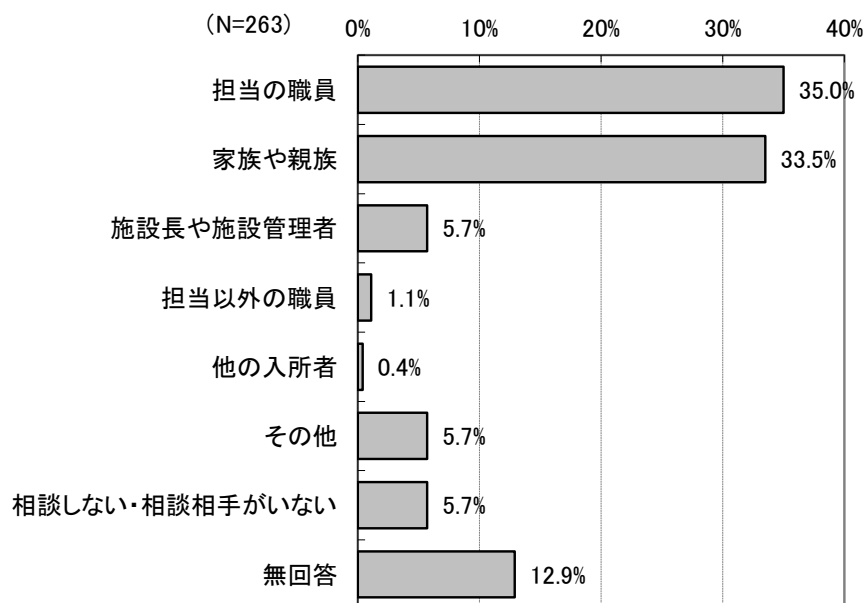
不安に思うことについては、「自分自身の健康状態のこと」が 35.4%と最も高く、他の項目に比べて高い割合となっている。

次いで「お金のこと」(20.9%)、「施設を出なければならなくなること」(14.8%)、「他の入所者との人間関係のこと」(11.0%)の順となっている。



**問5 日常生活のことで、主に誰に相談しますか。 (〇は1つ)**

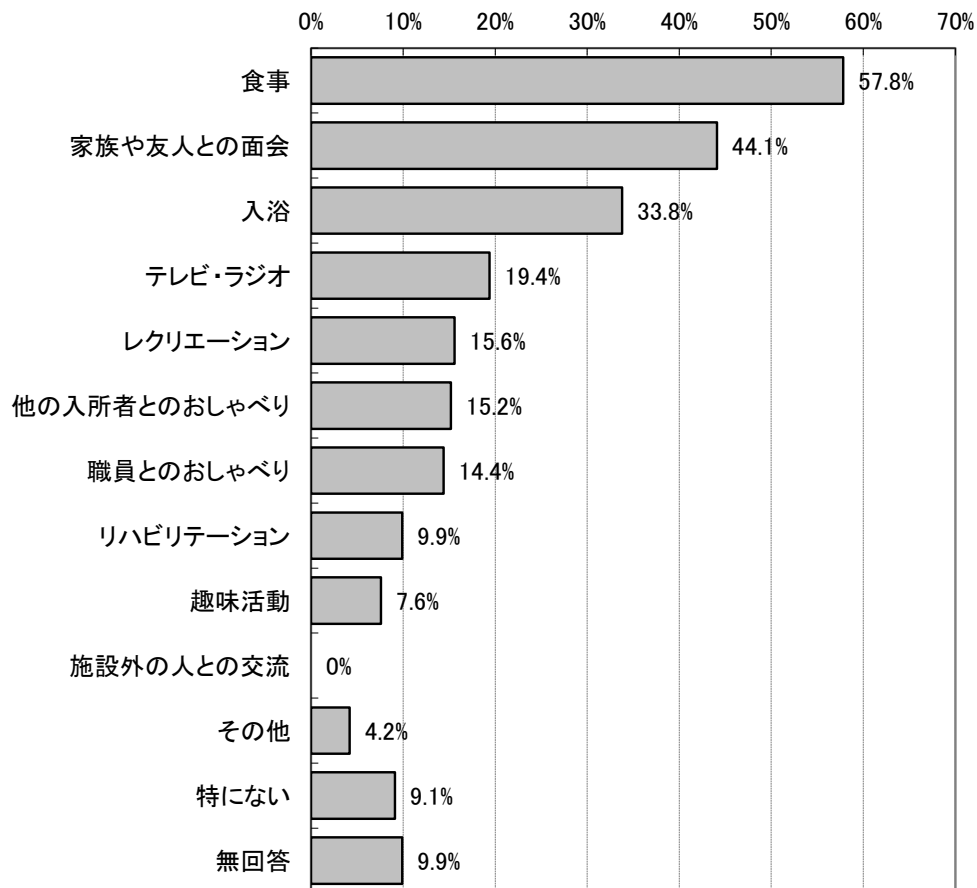
日常生活に関する相談相手については、「担当の職員」が 35.0%と最も高く、次いで「家族や親族」(33.5%)と他と比較して高い割合となっている。一方、「相談しない・相談相手がいない」は 5.7%となっている



## 問6 日常生活で楽しみなことは何ですか。

(〇はいくつでも)

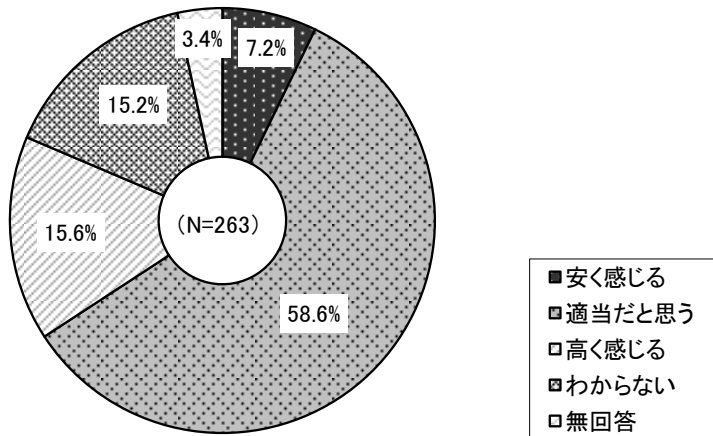
日常生活での楽しみについては、「食事」が 57.8%と最も高く、次いで「家族や友人との面会」(44.1%)、「入浴」(33.8%)、「テレビ・ラジオ」(19.4%)、「レクリエーション」(15.6%)、「他の入所者とのおしゃべり」(15.2%)の順となっている。



## 介護保険に関する意識調査（保険料等）

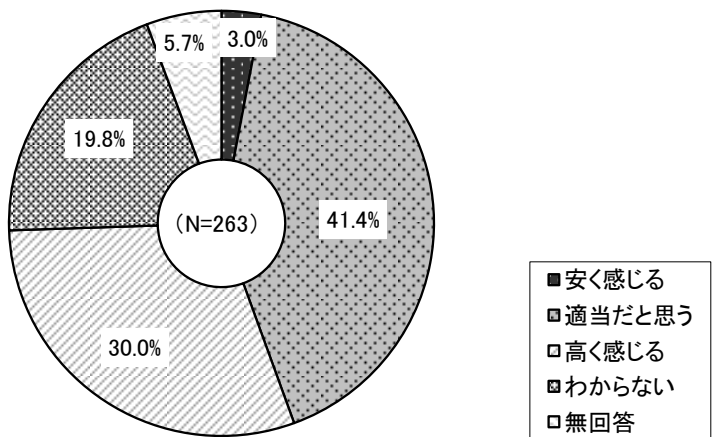
問1 現在の1か月の利用料（部屋代や食事代を含む）について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

現在の1か月の利用料については、「適当だと思う」が58.6%と最も高く、半数を超えている。一方、「安く感じる」はわずか7.2%であるのに対し、「高く感じる」は15.6%となっている。



問2 現在の介護保険料について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

現在の介護保険料については、「適当だと思う」が41.4%と最も高くなっている。一方、「安く感じる」はわずか3.0%であるのに対し、「高く感じる」は30.0%となっている。





Ⅱ 調査結果  
一般市民  
(40 歳以上 65 歳未満)

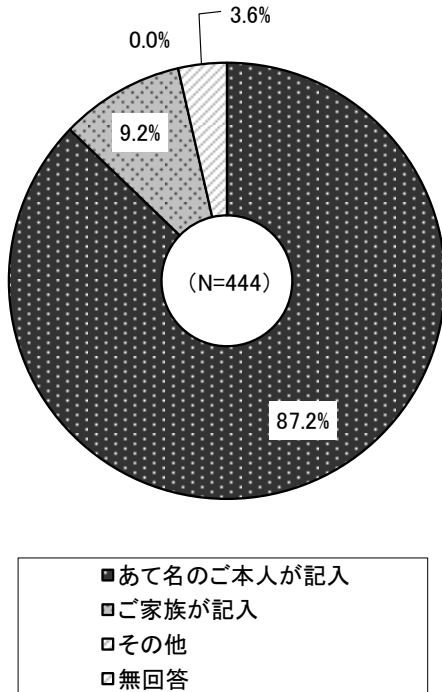






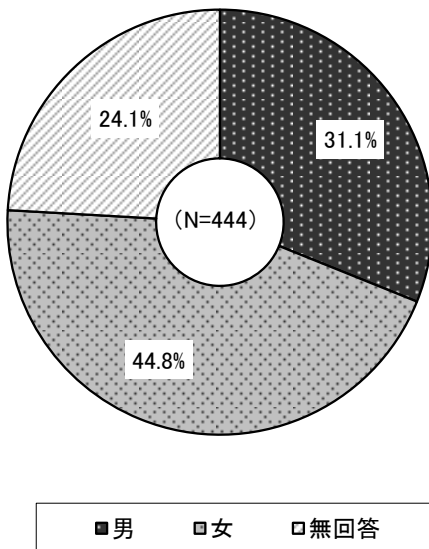
## 回答者の属性

### 1 調査票を記入されたのはどなたですか。



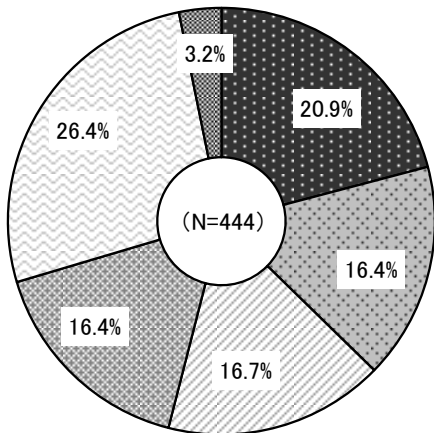
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
あて名のご本人が記入	387	87.2
ご家族が記入	41	9.2
その他	0	0
無回答	16	3.6
計	444	100.0

### 2 性別



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	138	31.1
女性	199	44.8
無回答	107	24.1
計	444	100.0

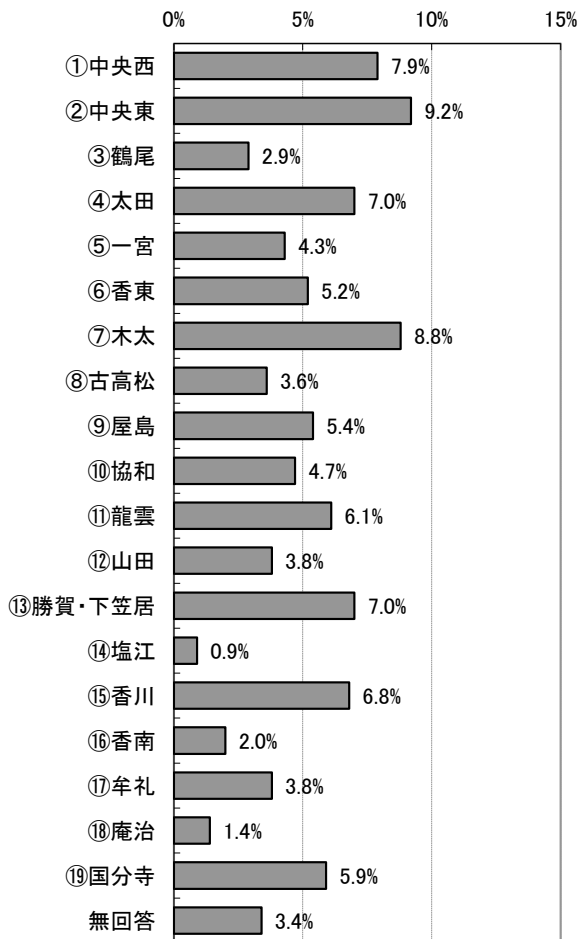
3 年齢



■40～44歳 □45～49歳 □50～54歳  
 ■55～59歳 □60～64歳 ■無回答

項目	回答数(人)	構成比(%)
40～44歳	93	20.9
45～49歳	73	16.4
50～54歳	74	16.7
55～59歳	73	16.4
60～64歳	117	26.4
無回答	14	3.2
計	444	100.0

4 居住地区

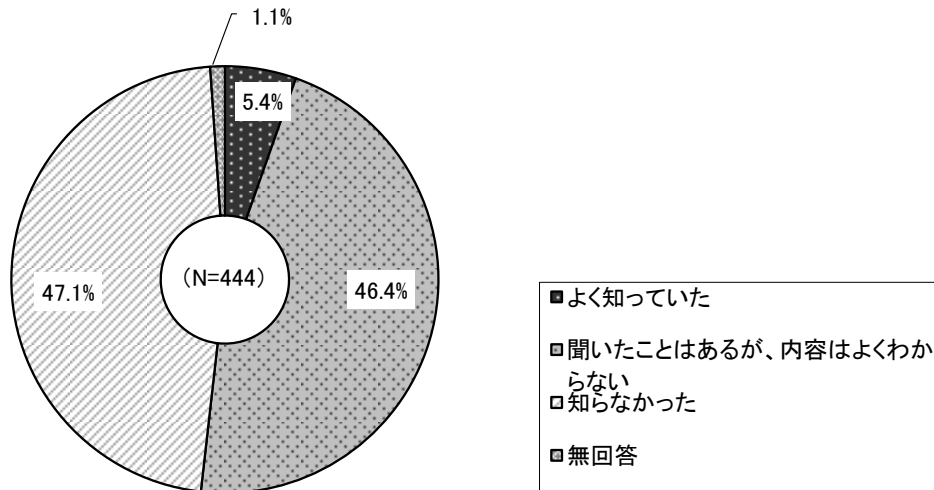


項目	回答数(人)	構成比(%)
①中央西	35	7.9
②中央東	41	9.2
③鶴尾	13	2.9
④太田	31	7.0
⑤一宮	19	4.3
⑥香東	23	5.2
⑦木太	39	8.8
⑧古高松	16	3.6
⑨屋島	24	5.4
⑩協和	21	4.7
⑪龍雲	27	6.1
⑫山田	17	3.8
⑬勝賀・下笠居	31	7.0
⑭塩江	4	0.9
⑮香川	30	6.8
⑯香南	9	2.0
⑰牟礼	17	3.8
⑱庵治	6	1.4
⑲国分寺	26	5.9
無回答	15	3.4
計	444	100.0

## 介護保険について

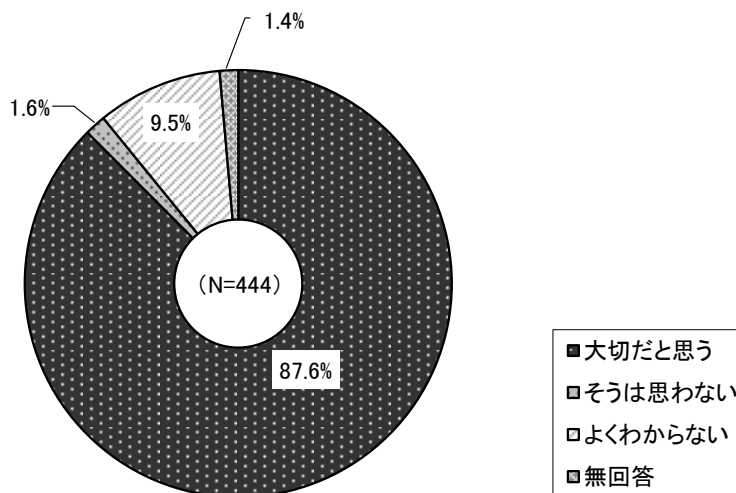
問1 市では様々な「介護予防事業」を行っていますが、市が行う介護予防事業についてあてはまるものを選んでください。 (〇は1つ)

「介護予防事業」については「知らなかった」が47.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が46.4%となっている。「よく知っていた」と回答した人は5.4%となっている。



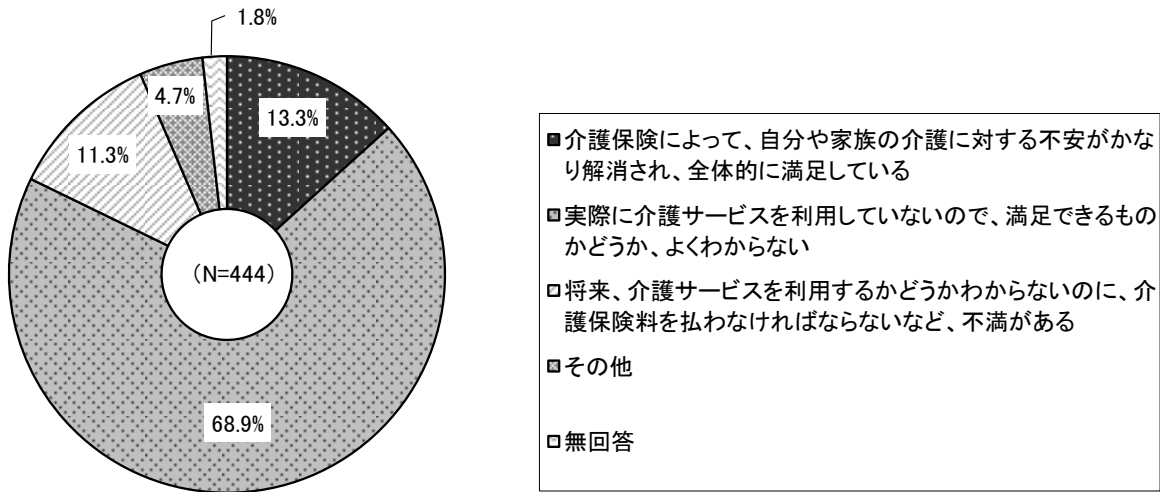
問2 介護予防の取り組みを推進することは、大切だと思いますか。 (〇は1つ)

介護予防の取り組みの推進については、「大切だと思う」が87.6%と最も高くなっている。一方、「そうは思わない」は1.6%となっている。



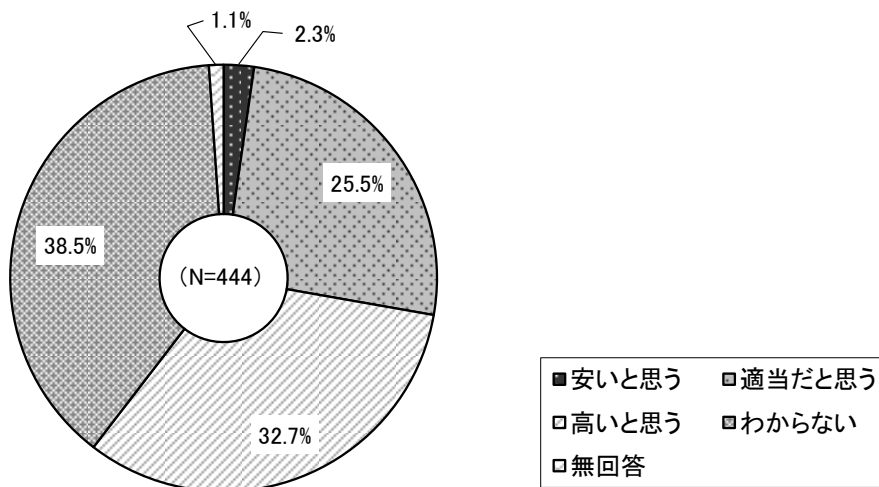
**問3 現在の介護保険に対する評価として一番近いものを選んでください。(〇は1つ)**

現在の介護保険に対する評価としては、「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」が68.9%と最も高くなっている。次いで「介護保険によって、自分や家族の介護に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している」が13.3%となっている。



**問4 現在納付されている介護保険料の額についてどのように感じていますか。あてはまるものを選んでください。(〇は1つ)**

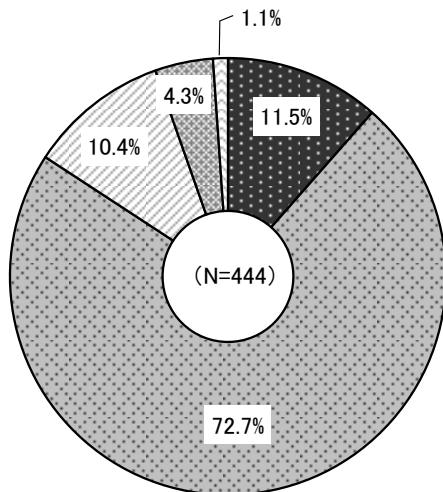
現在納付されている介護保険料の額については、「わからない」が38.5%で最も高くなっている。一方、「高いと思う」が32.7%となっているのに対し、「安いと思う」はわずか2.3%となっている。



問5 介護サービスを利用する人が増えたり、一人あたりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなるしくみになっています。このことを踏まえた上で、介護保険のあり方について、あなたの考え方に最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

介護保険のあり方については、「介護保険料が高くなりすぎないように、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである」が72.7%と最も高くなっている。

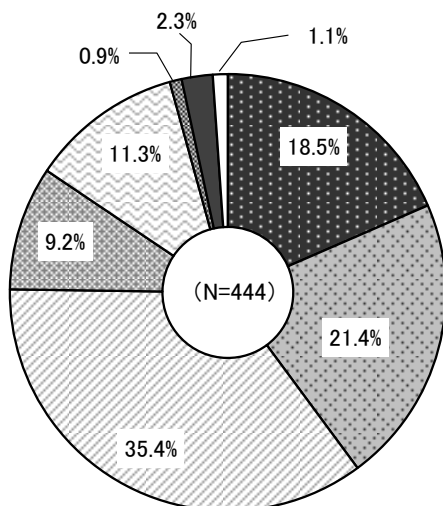
また、「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が11.5%となっている。



- 介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである
- 介護保険料が高くなりすぎないように、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである
- よくわからない
- その他
- 無回答

問6 地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)

一人暮らしの高齢者などへの手助けについては、「手助けしたいが、余裕がない」が35.4%で最も高くなっている。次いで「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」(21.4%)、「できる範囲で手助けしたい」(18.5%)となっている。

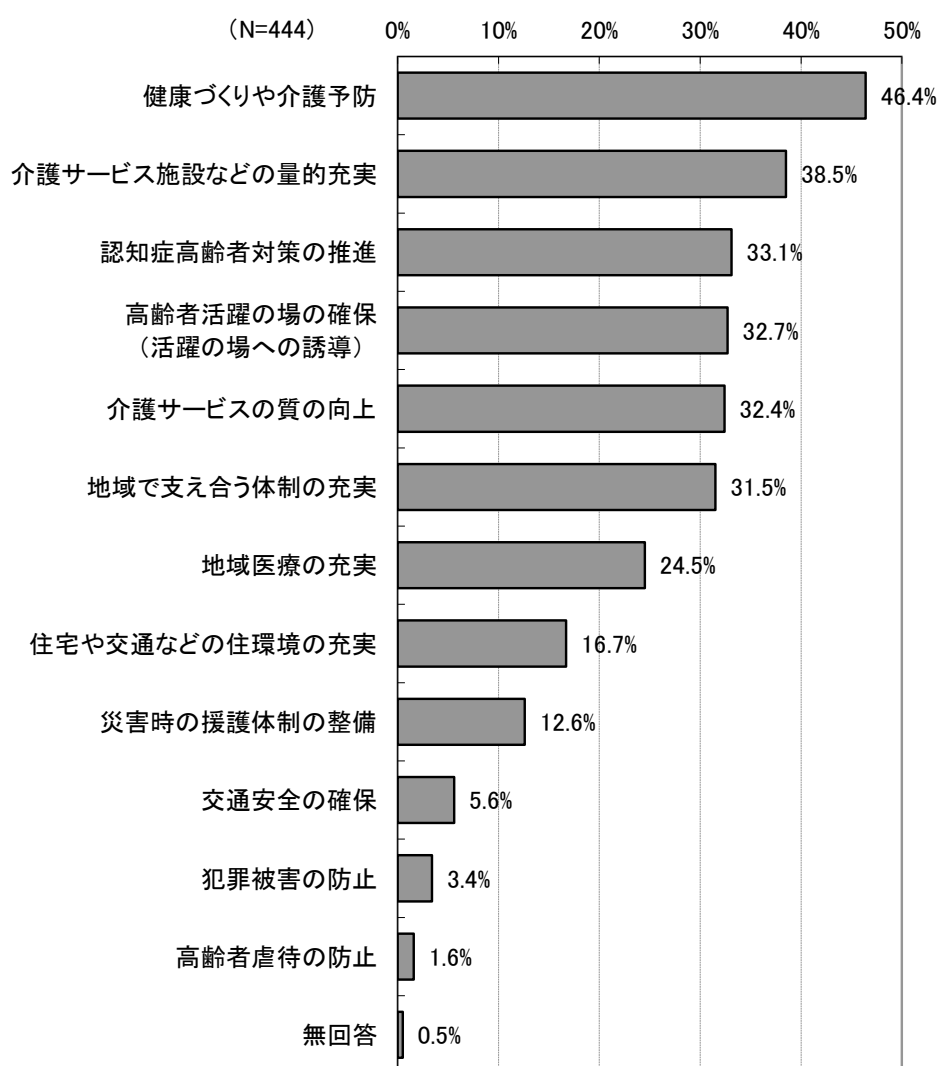


- できる範囲で手助けしたい
- 手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない
- 手助けしたいが、余裕がない
- 近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける
- 手助けは市や社会福祉協議会など公的機関がするものである
- 手助けしたくない
- その他
- 無回答

問7 今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策を選んでください。

(〇は3つまで)

行政が力を入れるべき高齢者施策については、「健康づくりや介護予防」が46.4%と最も多く、次いで「介護サービス施設などの量的充実」(38.5%)、「認知症高齢者対策の推進」(33.1%)、「高齢者や活躍の場の確保」(32.7%)、「介護サービスの質の向上」(32.4%)の順となっており、介護予防や介護サービスの充実、認知症対策等への要望が高くなっている。



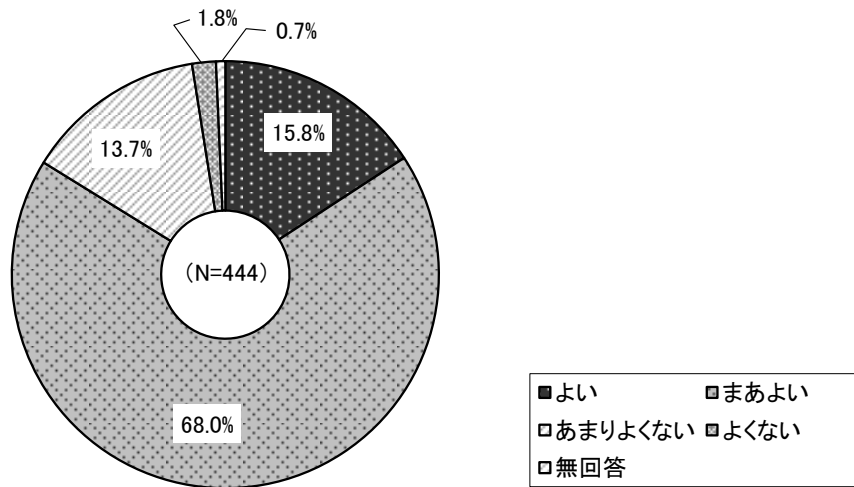
## 健康づくりについて

問1 自分の健康をどのように感じていますか。

(〇は1つ)

健康感については、「まあよい」が68.0%と最も高く、「よい」(15.8%)と合わせると、8割以上の人が『健康である』と感じていることが分かる。

一方、「あまりよくない」(13.7%)と「よくない」(1.8%)を合わせると、『健康でない』と感じている人が1割半ばを占める結果となっている。

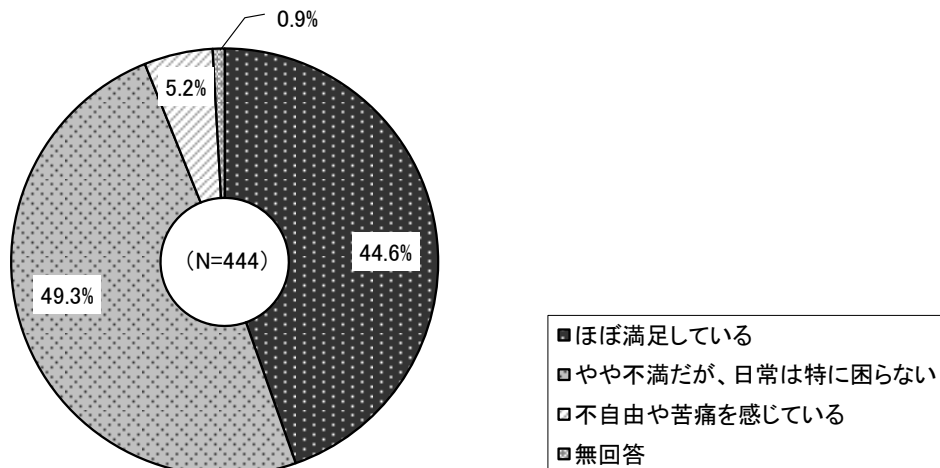


問2 現在、自分の歯や口の状態について、どのように感じていますか。

(〇は1つ)

歯や口の状態については、「やや不満だが、特に困らない」が49.3%と最も高く、「不自由や苦痛を感じている」(5.2%)と合わせると、5割半ばの人が歯や口の状態について何かしら不満を感じていることが分かる。

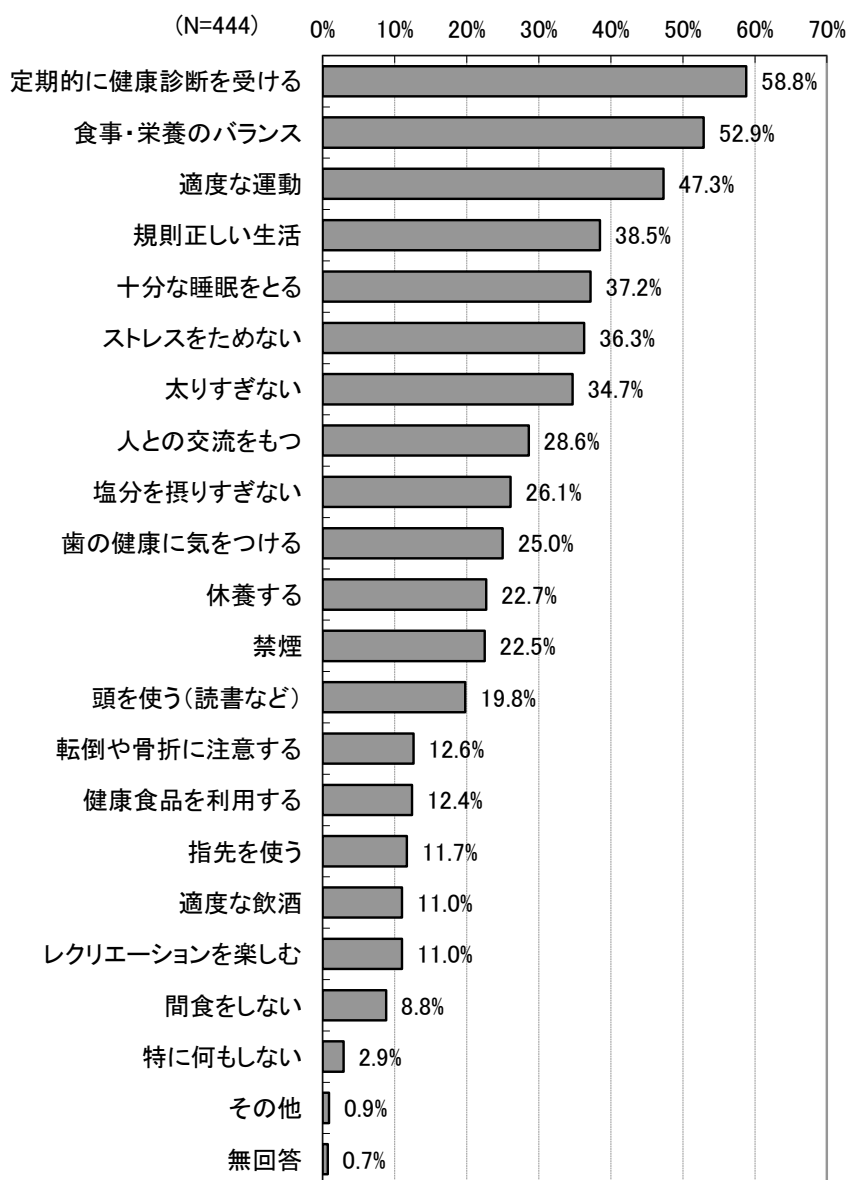
一方、「ほぼ満足している」と回答した人が44.6%となっている。



**問3 自分の健康を守るために、どのようなことに気をつけていますか。 (〇はいくつでも)**

健康を守るために気をつけていることについては、「定期的に健康診断を受ける」が 58.8%と最も高く、次いで「食事・栄養のバランス」(52.9%)、「適度な運動」(47.3%)、「規則正しい生活」(38.5%)、「十分な睡眠をとる」(37.2%)、「ストレスをためない」(36.3%)の順となっている。

また、全体的に回答率が高く、「特に何もしない」と回答した人が2.9%であることから、ほとんどの人が健康を守るために、何かしら気をつけていることがあるという結果となっている。

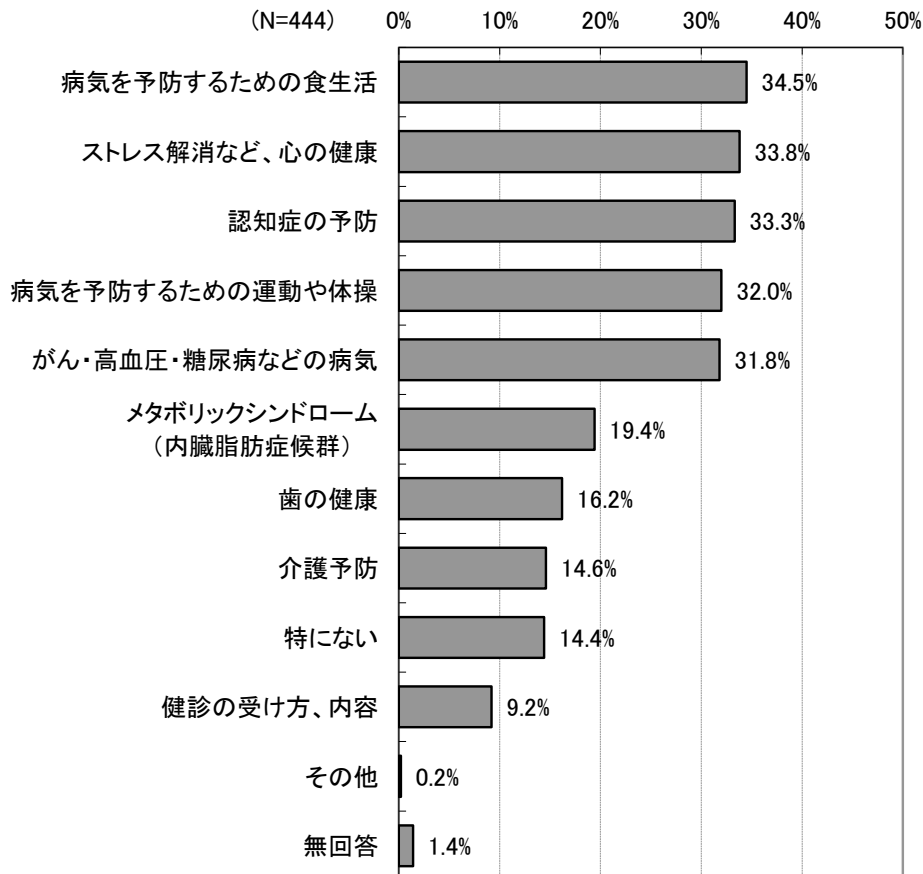




## 問4 健康について知りたいことは何ですか。

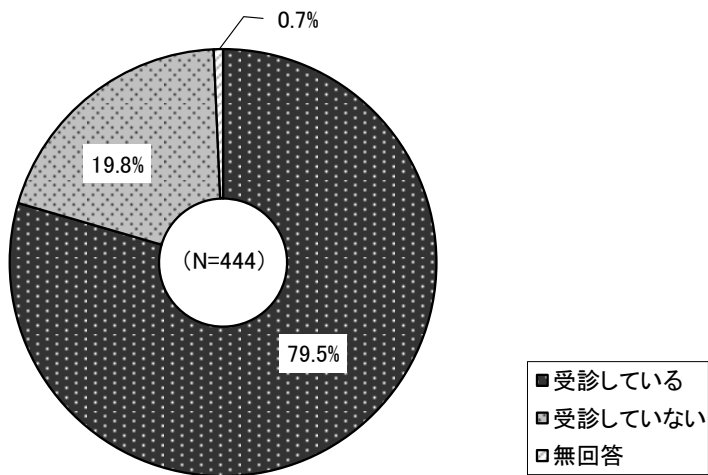
(〇はいくつでも)

健康について知りたいことについては、「病気を予防するための食生活」が34.5%と最も高く、次いで「ストレス解消など、心の健康」(33.8%)、「認知症の予防」(33.3%)、「病気を予防するための運動や体操」(32.0%)、「がん・高血圧・糖尿病などの病気」(31.8%)の順となっており、病気予防への関心が高いことが分かる結果となっている。



問5 特定健康診査、職場健診、人間ドックなどの健康診査を受診（がん検診を除く）していますか。 (○は1つ)

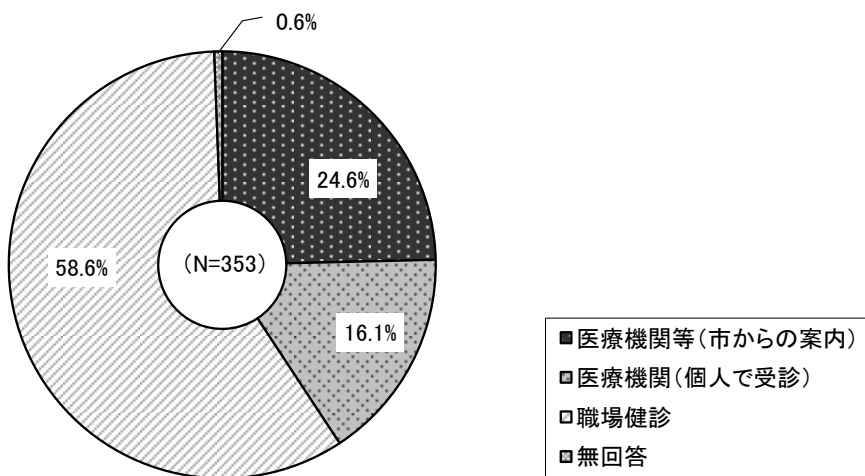
健康診査の受診状況については、「受診している」と回答した人が79.5%と大半を占め、「受診していない」(19.8%)を59.7ポイント上回る結果となっている。



【問5で、「受診している」と回答した人のみ】

問5-1 受診した場所をお答えください。 (○は1つ)

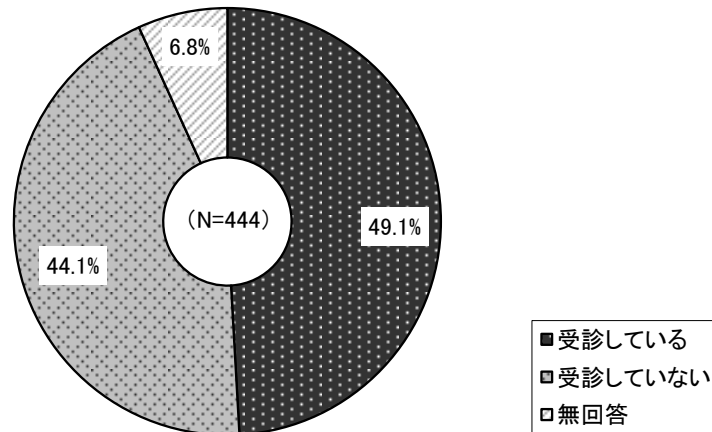
健康診査の受診場所については、「職場健診」が58.6%と最も多く、次いで「医療機関等（市からの案内）」(24.6%)、「医療機関（個人で受診）」(16.1%)の順となっている。



問6 がん検診を受診していますか。

(○は1つ)

がん検診の受診状況については、「受診している」が49.1%と、「受診していない」(44.1%)を5.0ポイント上回る結果となっている。

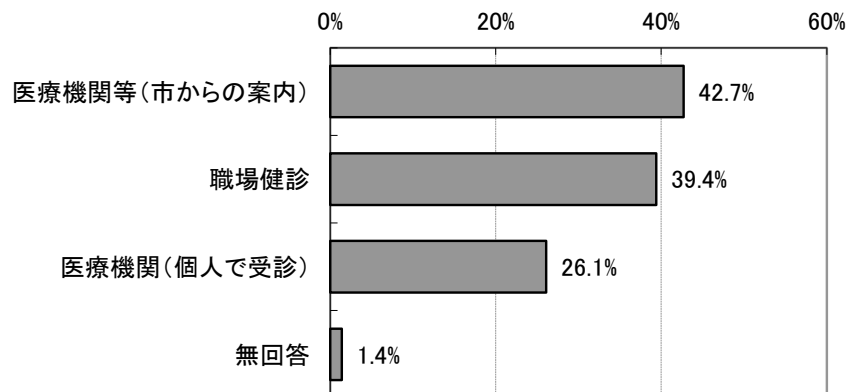


【問6で、「受診している」と回答した人のみ】

問6-1 受診した場所をお答えください。

(○はいくつでも)

がん検診の受診場所については、「医療機関等(市からの案内)」と回答した人が42.7%と最も高くなっている。次いで「職場健診」(39.4%)、「医療機関(個人で受診)」(26.1%)となっている。

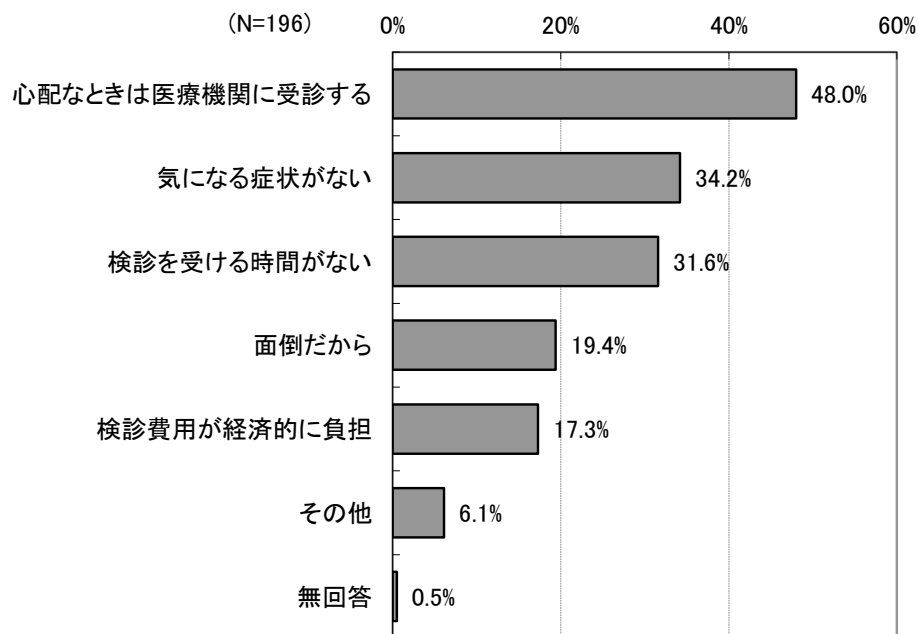


【問6で、「受診していない」と回答した人のみ】

問6-2 受診しない理由をお答えください。

(〇はいくつでも)

がん検診を受診していない理由については、「心配なときは医療機関を受診する」が48.0%と最も高くなっている。次いで、「気になる症状がない」(34.2%)、「検診を受ける時間がない」(31.6%)、「面倒だから」(19.4%)の順となっている。

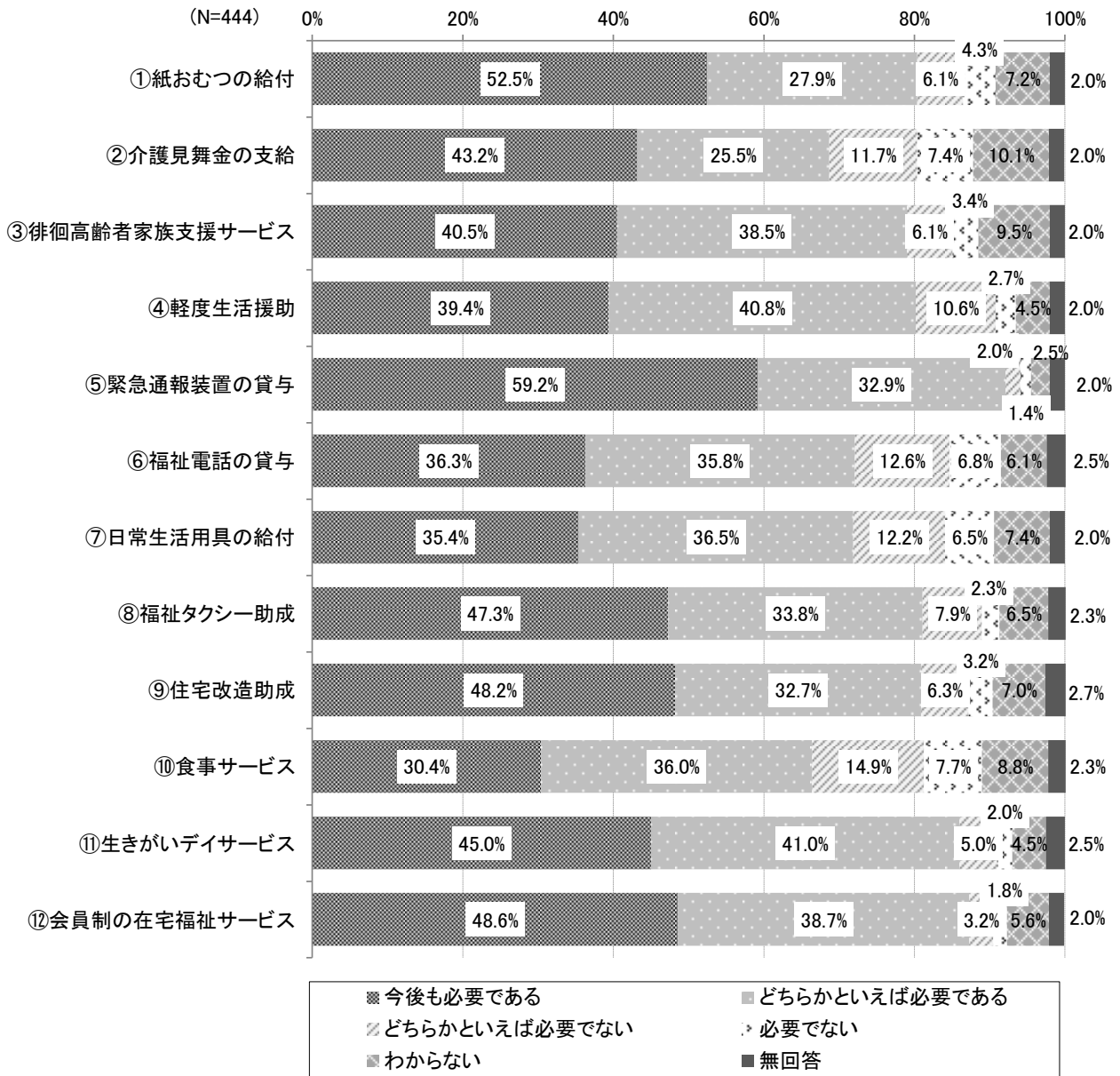


## 高齢者のための在宅福祉サービスについて

問1 高齢者のための在宅福祉サービスについて、今後の事業の必要性をお聞きます。  
(それぞれ〇は1つだけ)

在宅福祉サービスの今後の事業の必要性については、すべてのサービスについて『必要である』（「今後も必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた割合）は、⑤緊急通報装置の貸与では92.1%と約9割を占め、最も高くなっている。次いで⑫会員制の在宅福祉サービス（87.3%）、⑪生きがいデイサービス（86.0%）、⑧福祉タクシー助成（81.1%）となっている。

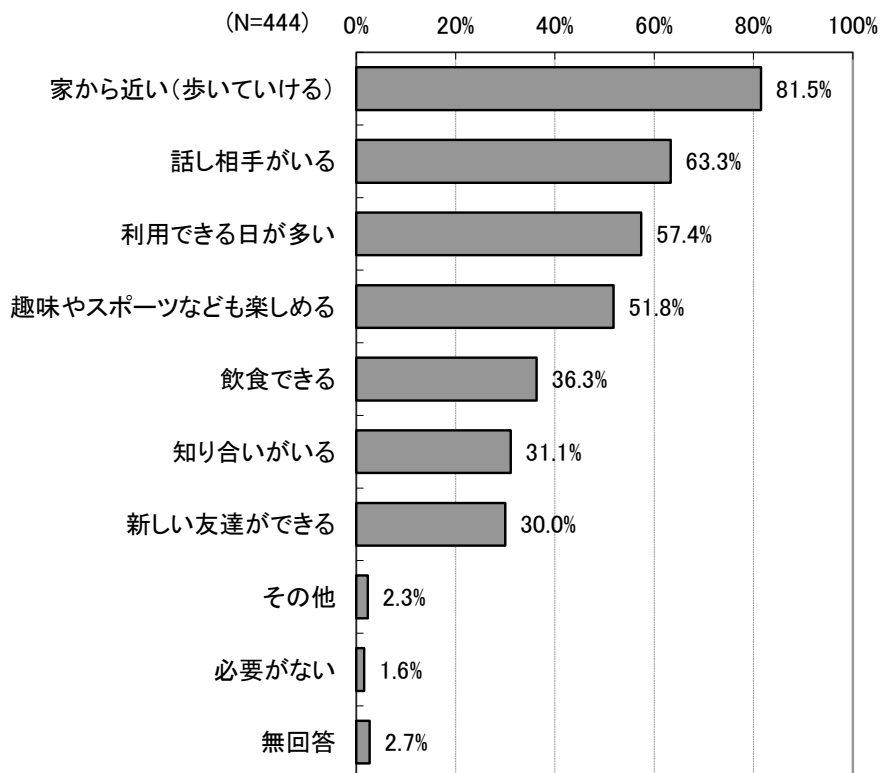
反対に、『必要でない』（「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」を合わせた割合）は⑩食事サービス及び⑥福祉電話の貸与では2割近くを占める結果となっている。



## 高齢者の居場所について

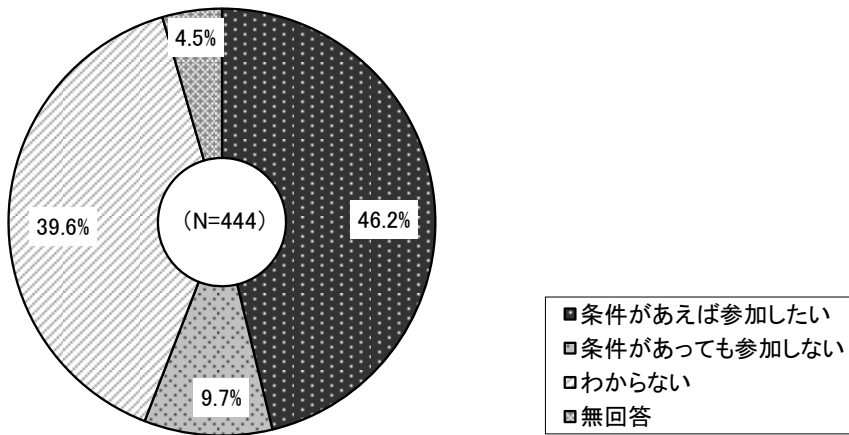
問1 本市では、高齢者が地域で元気に暮らせる環境を整えるため、気軽に足を運べ、介護予防や健康づくりなどができる居場所を全市的に設けることとしていますが、居場所にはどのような機能が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

高齢者の居場所に必要な機能については、「家から近い(歩いていける)」が81.5%で最も高くなっており、次いで「話し相手がいる」(63.3%)、「利用できる日が多い」(57.4%)「趣味やスポーツなども楽しめる」(51.8%)、「飲食できる」(36.3%)となっている。



問2 居場所の運営には地域の方（ボランティア）の協力が不可欠ですが、そのようなボランティア活動に参加しようと思いませんか。（○は1つ）

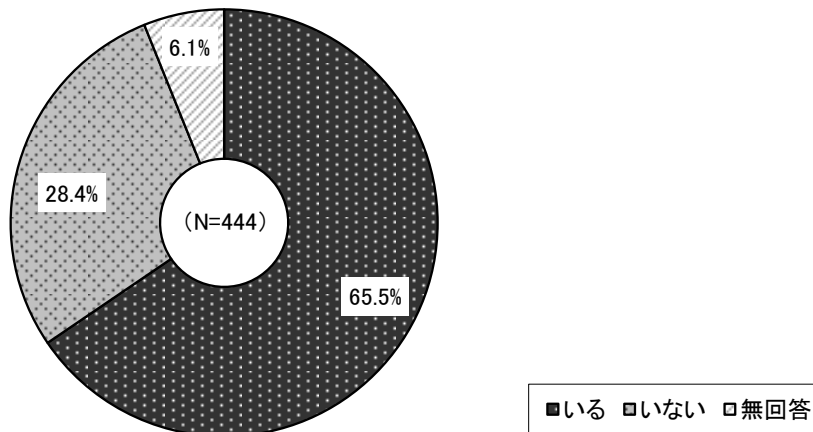
居場所の運営に関するボランティア活動については、「条件があれば参加したい」が46.2%で最も高くなっており、「条件があっても参加しない」(9.7%)を36.5ポイント上回る結果となっている。



## 介護専用ダイヤルについて

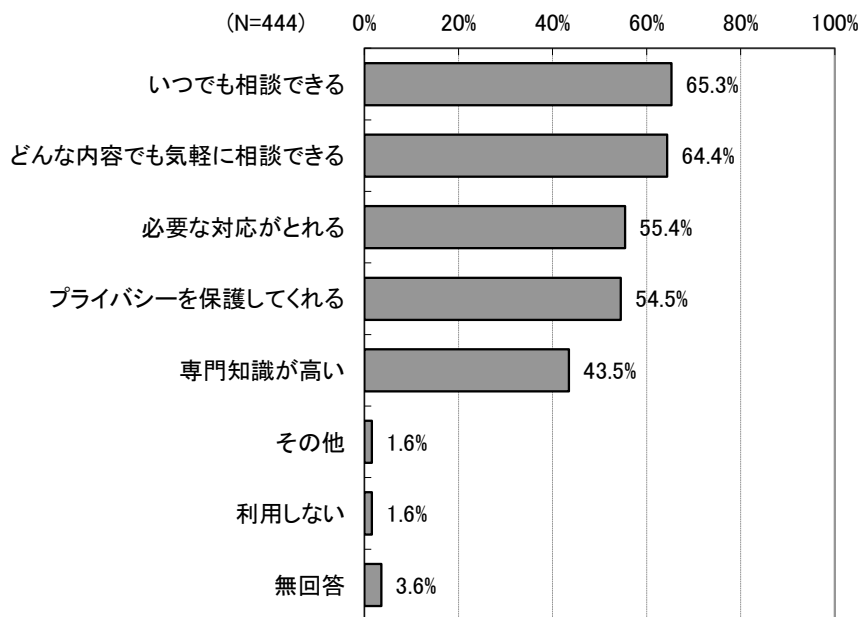
問1 夜間や休日（祝日）に介護や日常生活の不安を相談できる相手はいますか。（○は1つ）

夜間や休日（祝日）に介護や日常生活の不安を相談できる相手がいるかどうかについては、「いる」が65.5%で6割半ばとなっており、「いない」は28.4%と3割未満となっている。



問2 本市では、24時間365日、高齢者が介護や日常生活の不安を気軽に相談できる無料電話相談窓口を開設し、高齢者が安心して暮らせる環境づくりを図ることとしています。介護相談専用ダイヤルにはどのような機能が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

介護相談専用ダイヤルに必要な機能としては、「いつでも相談できる」が65.3%で最も高くなっている。次いで「どんな内容でも気軽に相談できる」(64.4%)、「必要な対応がとれる」(55.4%)、「プライバシーを保護してくれる」(54.5%)、「専門知識が高い」(43.5%)となっている。一方、「利用しない」はわずか1.6%となっている。

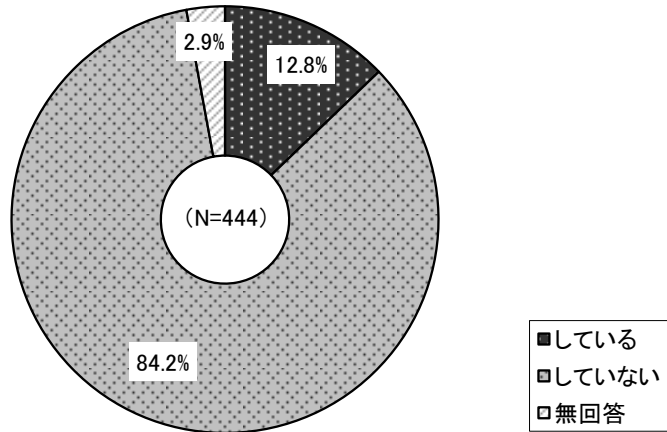




高齢者保健福祉に関すること（被介護者の状況について）

問1 ご家族の介護をしていますか。 (○は1つ)

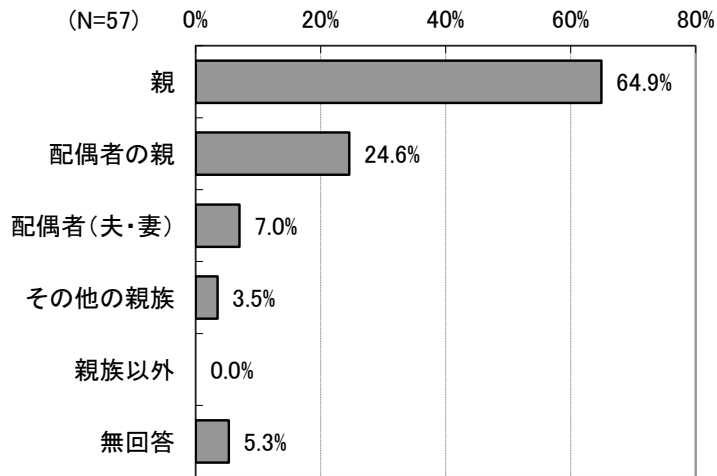
家族の介護状況については、「していない」は84.2%と8割半ばを占めている。  
 一方、「している」は12.8%と、1割半ば近くの人が家族の介護を行っていることが分かる。



【問1-1～問1-4については、問1で「している」と回答した人のみ】

問1-1 どなたの介護をしていますか。 (○はいくつでも)

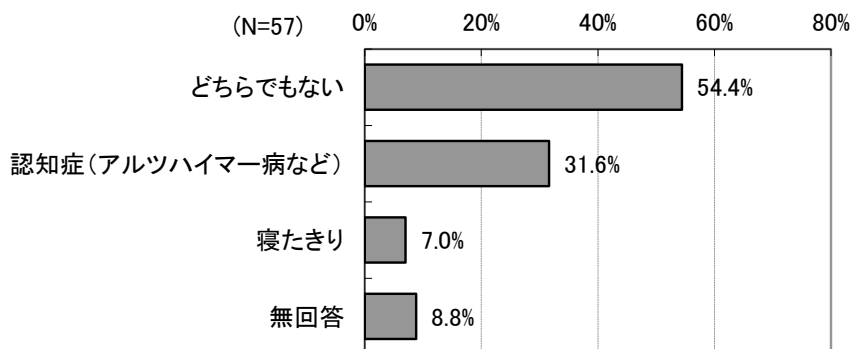
家族の介護をしている人の被介護者については、「親」が64.9%と最も多く、次いで「配偶者の親」(24.6%)の順となっており、親の介護を行っている人が多い結果となっている。



問 1-2 介護をしている方の状態はどうか。 (〇はいくつでも)

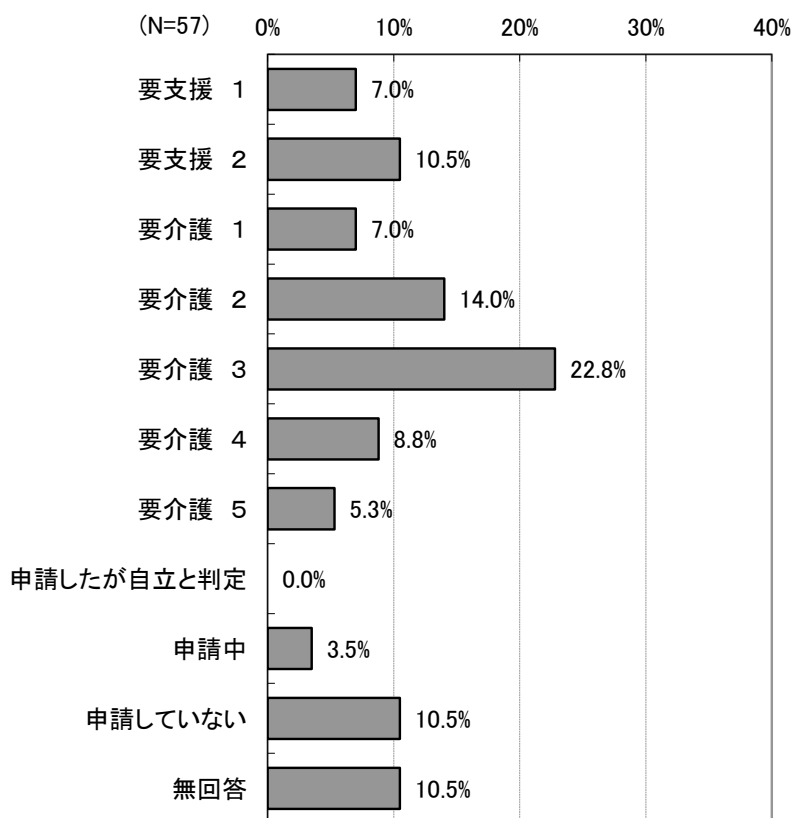
被介護者の状態については、「認知症（アルツハイマー病など）」が 31.6%、「寝たきり」が 7.0% となっている。

また、「（認知症でも寝たきりでも）どちらでもない」と回答した人が 54.4%と最も高くなっている。



問 1-3 介護をしている方の要介護度についておたずねします。 (〇は1つ)

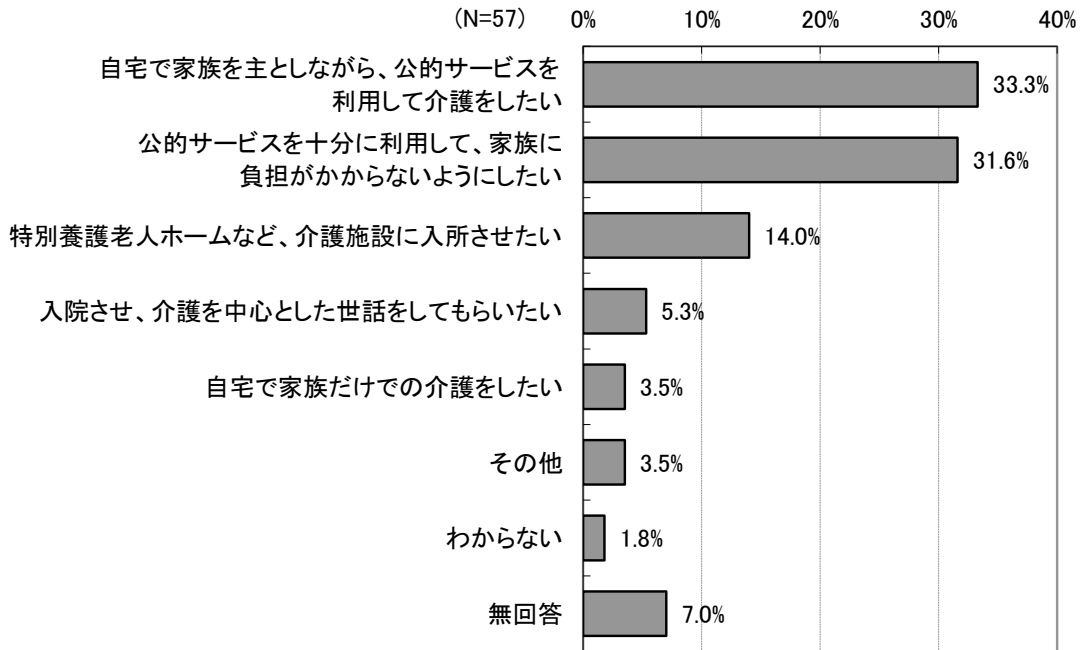
被介護者の要介護度については、「要介護 3」が 22.8%と最も高く、次いで「要介護 2」(14.0%)の順となっている。



## 問1-4 今後どのような介護方法を考えていますか。

(○は1つ)

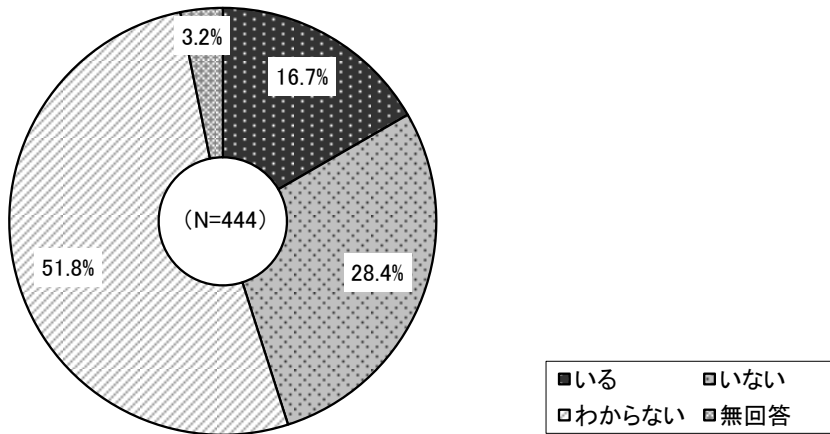
今後の介護方法については、「自宅で家族を主としながら、公的サービスを利用して介護をしたい」が33.3%と最も高く、次いで「公的サービスを十分に利用して、家族に負担がかからないようにしたい」(31.6%)、「特別養護老人ホームなど、介護施設に入所させたい」(14.0%)、「入院させ、介護を中心とした世話をしてもらいたい」(5.3%)となっている。



## 高齢者を地域で支えるネットワークづくりに関すること

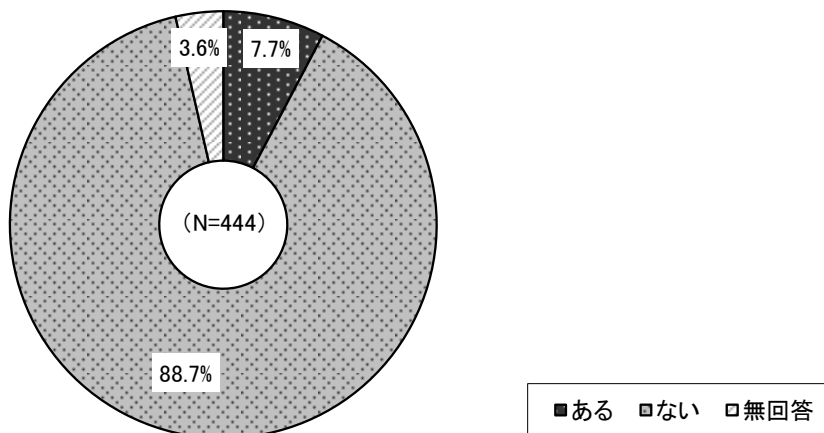
問1 お住まいの近くには、日常生活に不安があるため、声かけや訪問など見守り等が必要な高齢者がいますか。 (〇は1つ)

見守りが必要な高齢者の有無については、「わからない」が51.8%と最も高くなっている。一方、「(住まいの近くに見守りの必要な高齢者が) いない」が28.4%、「(住まいの近くに見守りの必要な高齢者が) いる」は16.7%となっている。



問2 声かけや訪問といった高齢者を見守る活動を行っていますか。又は、行ったことがありますか。 (〇は1つ)

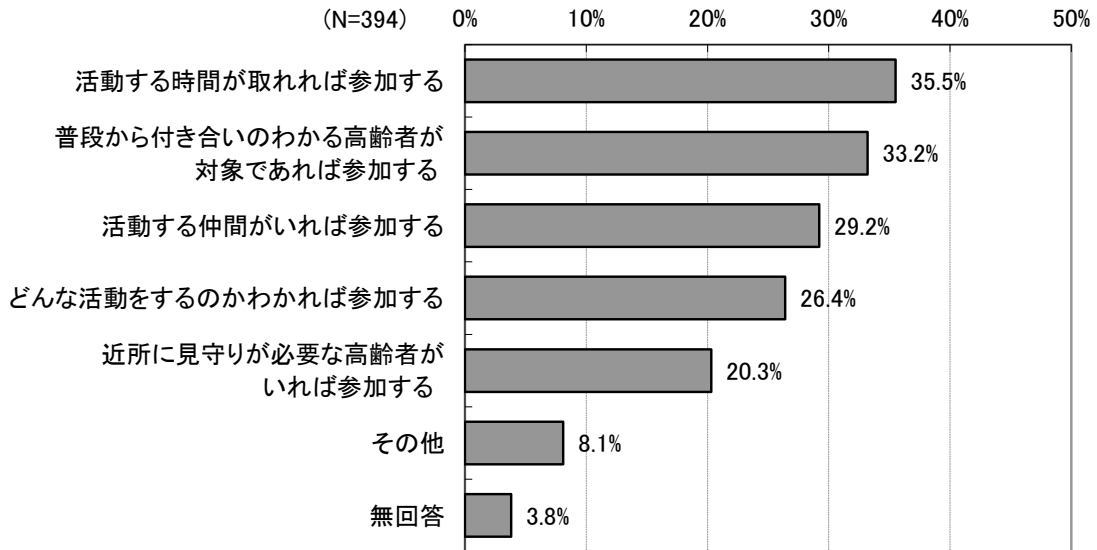
見守り活動の有無については、「ない」が88.7%と大半を占める結果となっており、「ある」と回答した人は7.7%となっている。



【問2で「ない」と回答した人のみ】

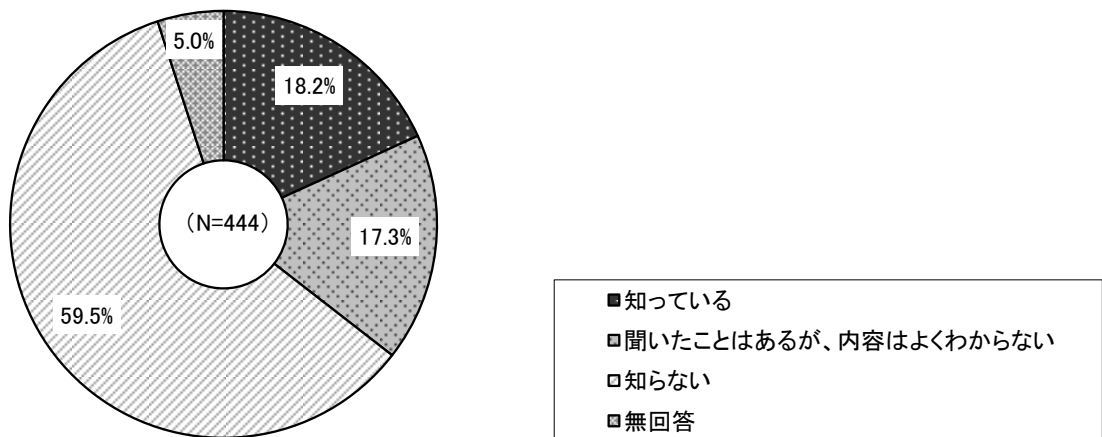
問2-1 どのような状況であれば参加できますか。 (○はいくつでも)

見守り活動の参加条件については、「活動する時間が取れば参加する」が35.5%と最も高く、次いで「普段から付き合いのわかる高齢者が対象であれば参加する」(33.2%)、「活動する仲間がいれば参加する」(29.2%)、「どんな活動をするのかわかれば参加する」(26.4%)の順となっている。



問3 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として「高松市地域包括支援センター」を設置していますが、「地域包括支援センター」を知っていますか。 (○は1つ)

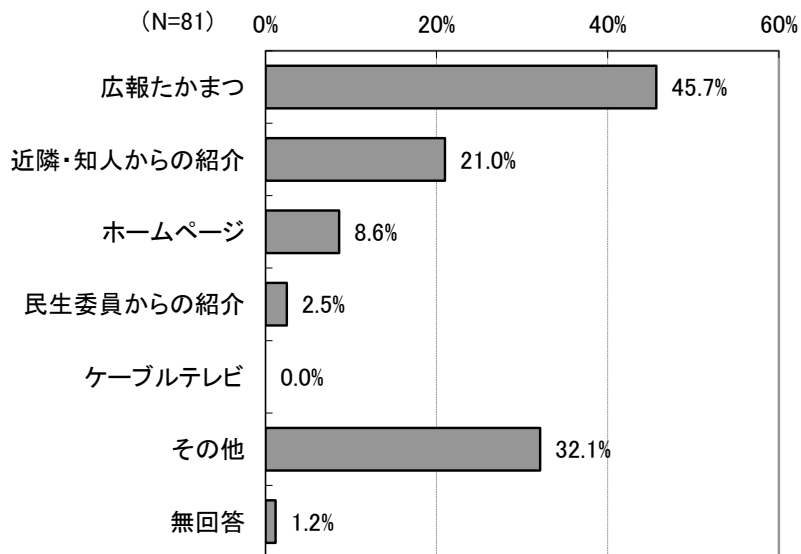
地域包括支援センターの認知については、「知らない」が59.5%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」(17.3%)と合わせると、7割半ばの人が事業内容等を知らないという結果となっている。一方、「知っている」と回答した人は18.2%となっている。



【問3-1、3-2は問3で「知っている」と回答した人のみ】

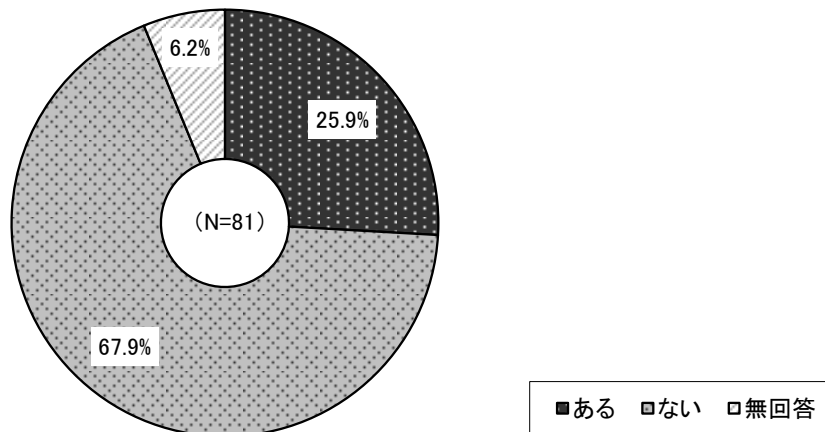
問3-1 どのような方法で知りましたか。 (○はいくつでも)

地域包括支援センターをどのような方法で知ったかについては、「広報たかまつ」が45.7%で最も高くなっており、他と比較しても高い割合となっている。次いで「近隣・知人からの紹介」(21.0%)、ホームページ(8.6%)、「民生委員からの紹介」(2.5%)となっている。



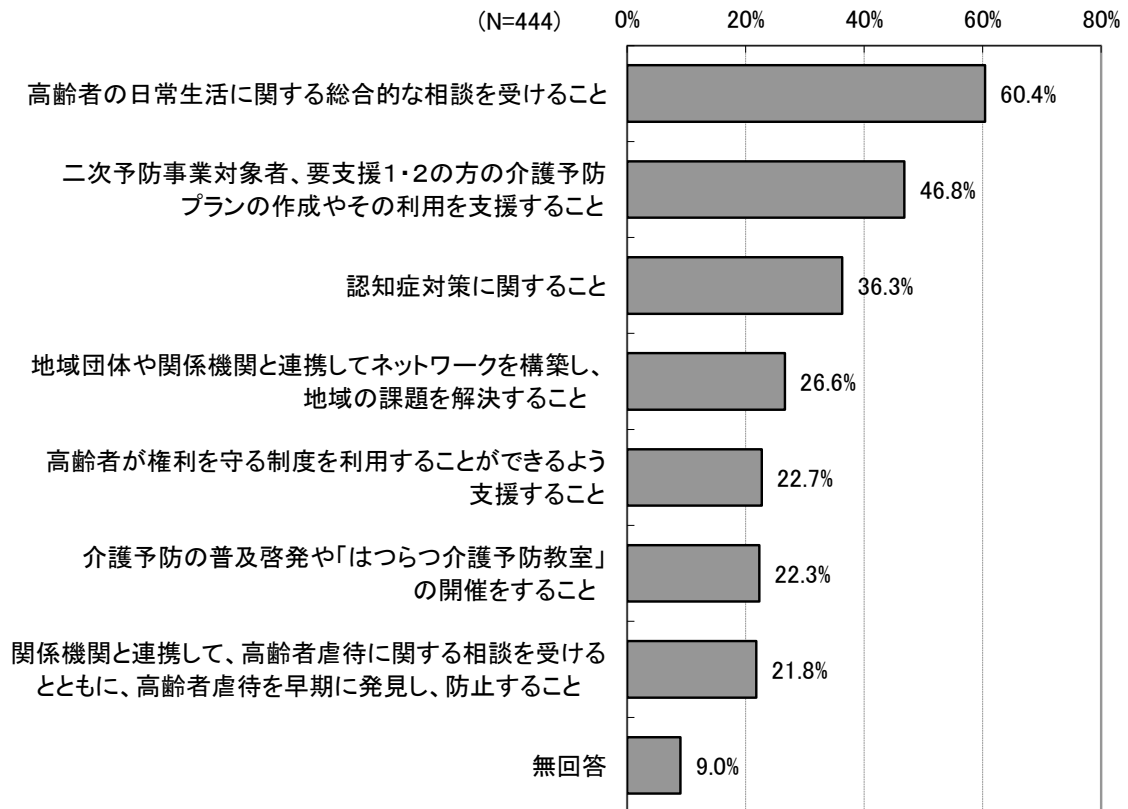
問3-2 相談などで利用したことがありますか。 (○は1つ)

地域包括支援センターの相談利用については、「ない」が67.9%と、「ある」(25.9%)を42.0ポイント上回る結果となっている。



問4 「地域包括支援センター」では、地域の高齢者を対象に次の業務を行っています。今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。 (〇はいくつでも)

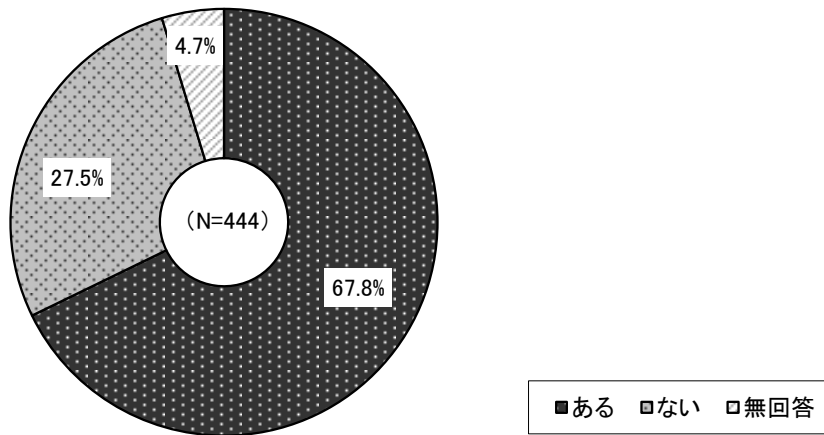
地域包括支援センターで今後充実すれば良いと思う業務内容については、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」が60.4%と最も高く、次いで「介護が必要となる可能性が高いと判定された方（二次予防事業対象者）、要支援1・2の方の介護予防プランの作成やその利用を支援すること」（46.8%）、「認知症対策に関すること」（36.3%）、「地域団体や関係機関と連携してネットワークを構築し、地域の課題を解決すること」（26.6%）の順となっている。



認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに関すること

問1 今までに、自分自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか考えたことがありますか。 (〇は1つ)

自分自身や家族が認知症になることについては、「(考えたことが) ある」と回答した人が67.8%と、「(考えたことが) ない」(27.5%)を40.3ポイント上回っており、7割近くの人が認知症になった時のことについて考えたことがあるという結果となっている。

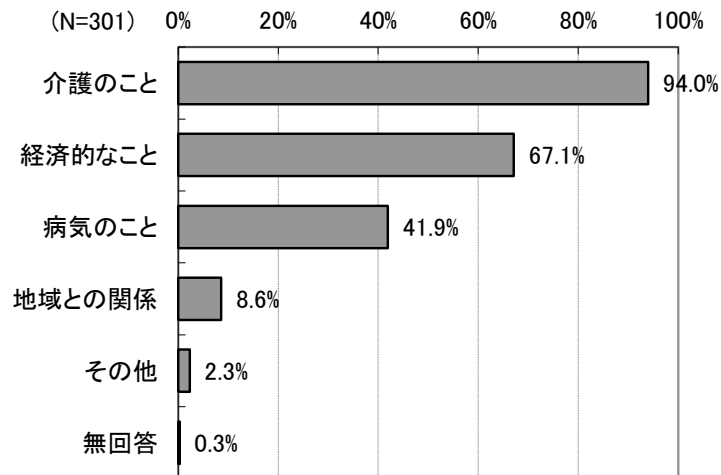


【問1で「ある」と回答した人のみ】

問1-1 どのようなことを考えましたか。 (〇はいくつでも)

認知症になった時にどうすればよいか考えたことについては、「介護のこと」が94.0%と、ほとんどの人が認知症になった場合の介護に不安を感じていることが分かる結果となっている。

次いで「経済的なこと」(67.1%)、「病気のこと」(41.9%)の順となっている。





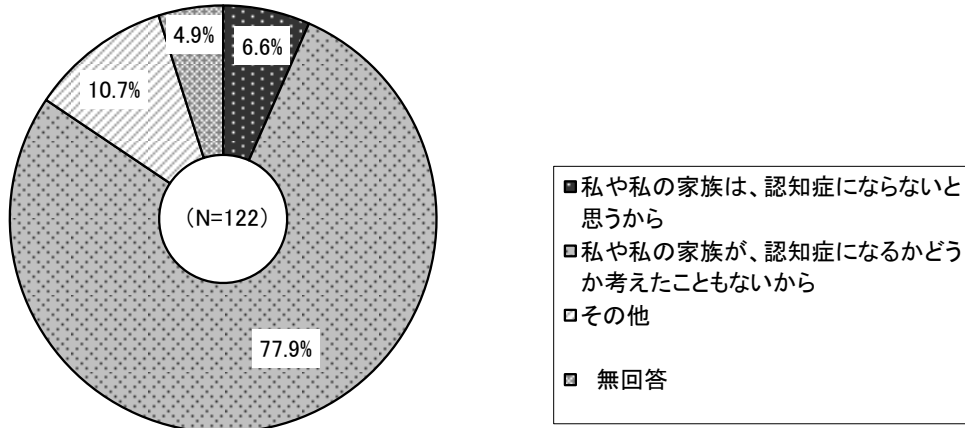
## 【問1で「ない」と回答した人のみ】

問1-2 考えたことがない理由は何ですか。

(○は1つ)

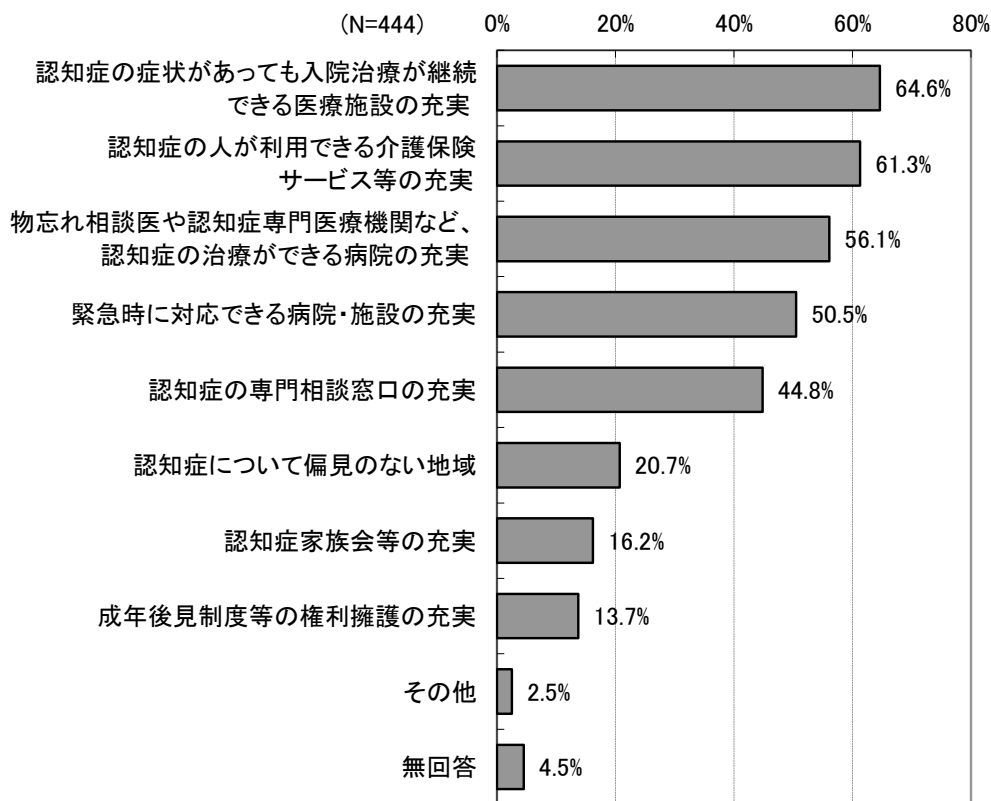
認知症になった時のことを考えたことがない理由については、「私や私の家族が、認知症になるかどうか考えたこともないから」が77.9%と8割近くとなっている。

一方、「私や私の家族は、認知症にならないと思うから」は6.6%となっている。



**問2** どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができますか。  
(〇はいくつでも)

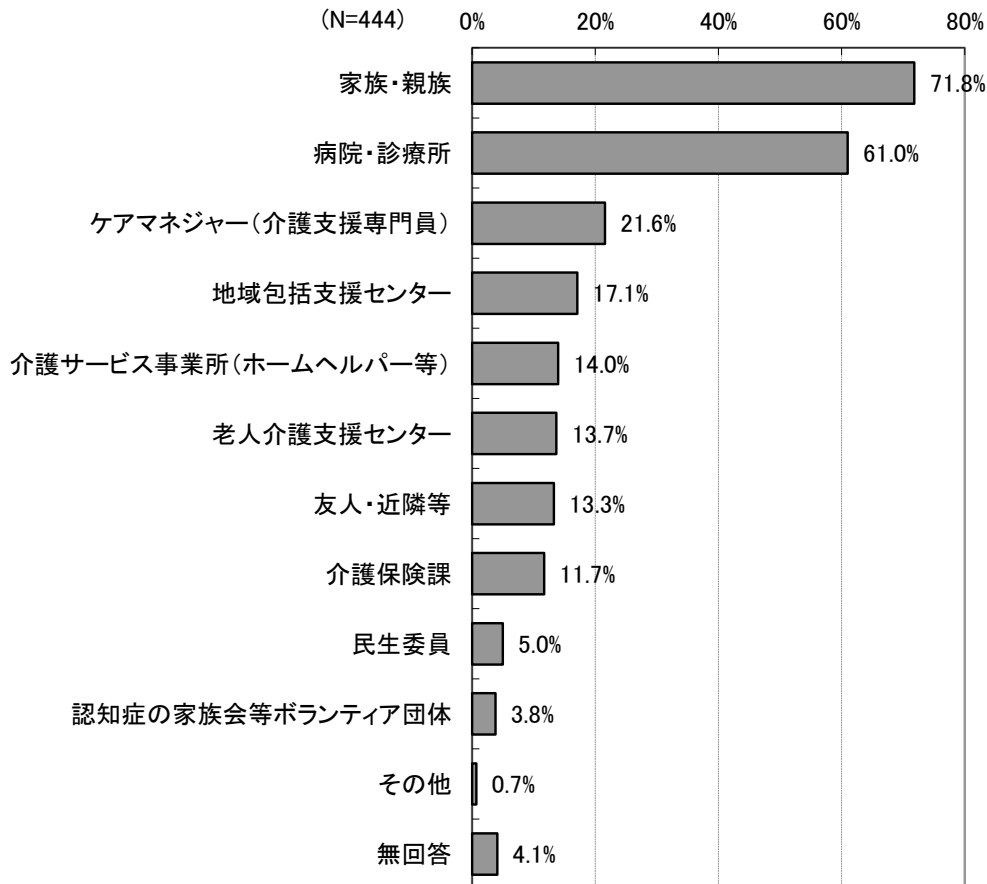
認知症になっても安心して暮らしていくための条件については、「認知症の症状があっても入院治療が継続できる医療施設の充実」が64.6%と最も高く、次いで「認知症の人が利用できる介護保険サービス等の充実」(61.3%)、「物忘れ相談医や認知症専門医療機関など、認知症の治療ができる病院の充実」(56.1%)となっており、医療や介護サービスの充実を望む人が多い結果となっている。



## 問3 身近な方に認知症の疑いがあるときに、どこに相談しますか。

(〇はいくつでも)

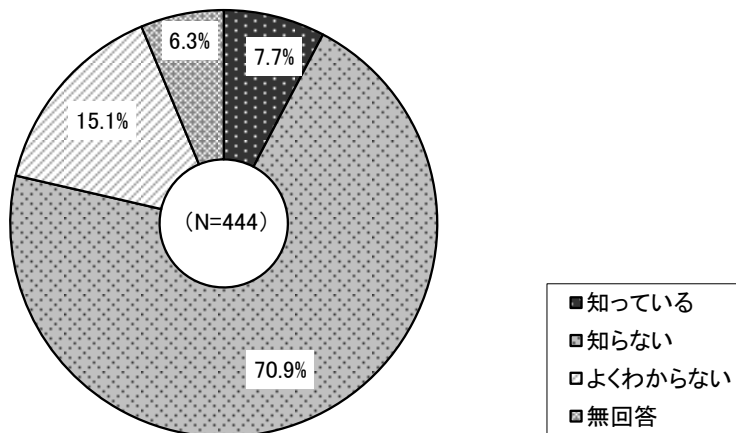
認知症の疑いがある時の相談相手については、「家族・親族」が71.8%と最も高くなっており、「病院・診療所」(61.0%)とともに他と比較して高い割合となっている。次いで「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(21.6%)、「地域包括支援センター」(17.1%)、「介護サービス事業所(ホームヘルパー等)」(14.0%)の順となっている。



問4 高松市では、認知症について正しく理解し、温かく見守る応援者として、地域で「認知症サポーター」の養成を行っています。「認知症サポーター」を知っていますか。（○は1つ）

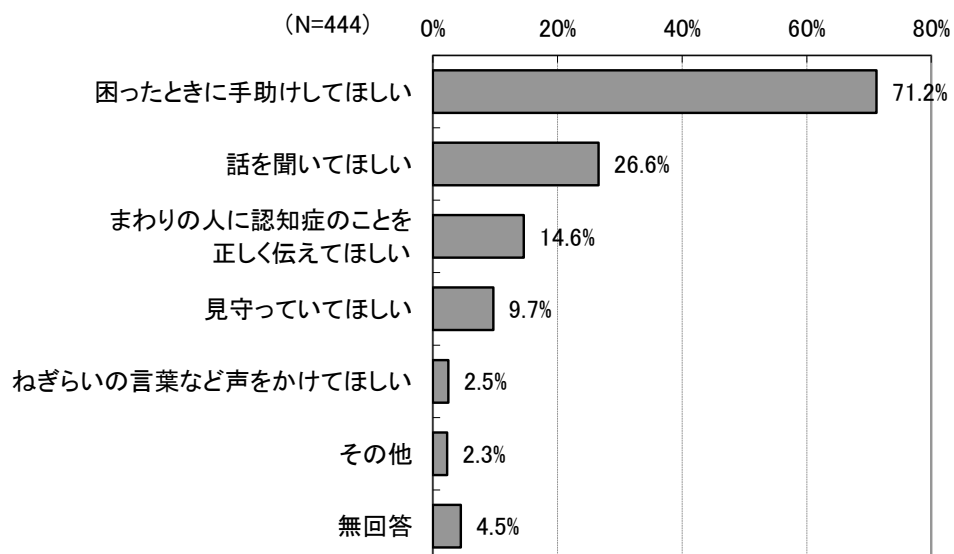
認知症サポーターの認知については、「知らない」が70.9%と、「よくわからない」(15.1%)と合わせると、8割以上の人知らないという結果となっている。

一方、「知っている」は、わずか7.7%となっている。



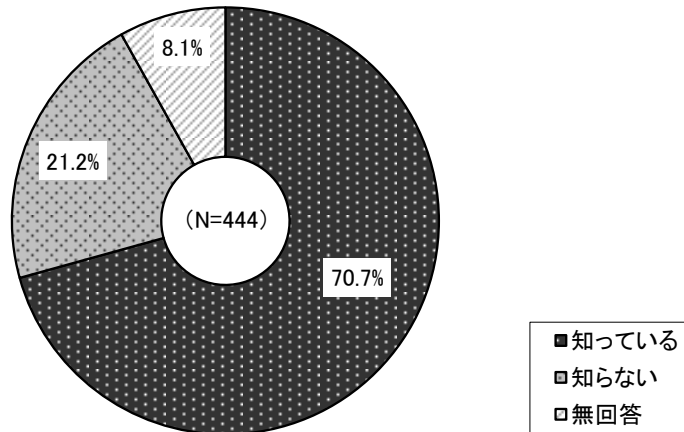
問5 自分自身や家族が認知症になった時に、「認知症サポーター」にどのようなことを望みますか。（○はいくつでも）

認知症サポーターに望むことについては、「困ったときに手助けしてほしい」が71.2%と最も高く、他の項目と比べても突出して高い割合となっている。次いで、「話を聞いてほしい」(26.6%)、「まわりの人に認知症のことを正しく伝えてほしい」(14.6%)の順となっている。



問6 若年性認知症（65歳未満で発症した認知症）について知っていますか。（○は1つ）

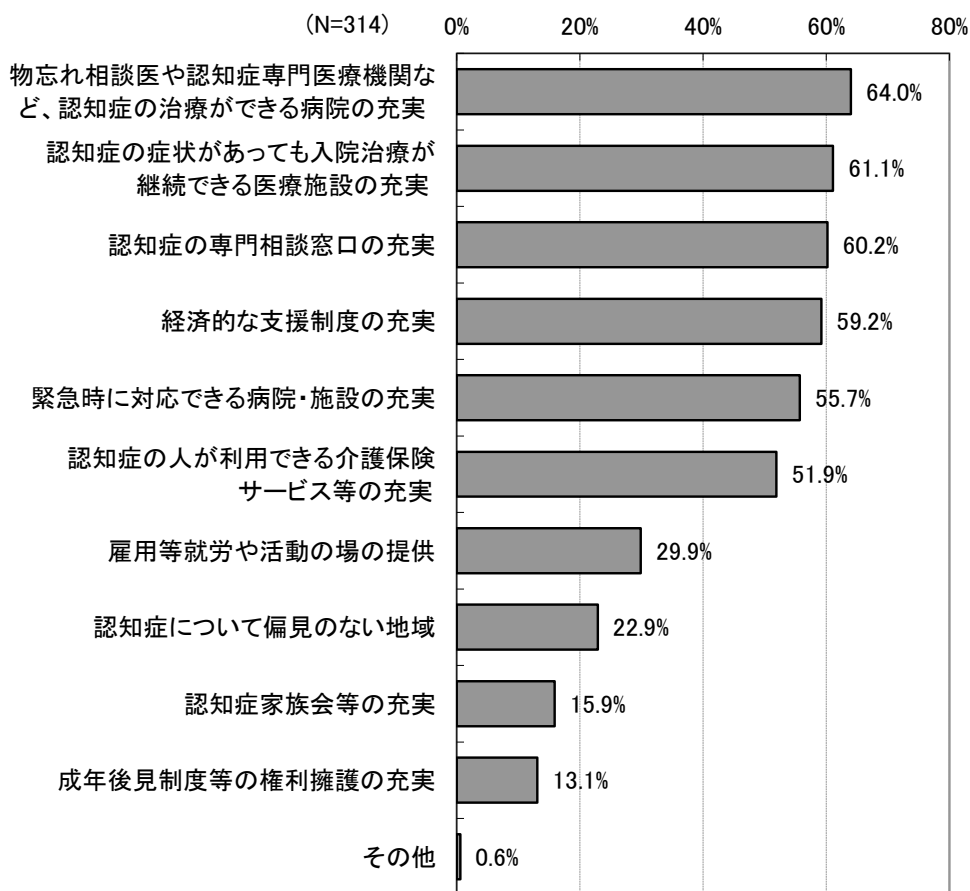
若年性認知症の認知については、「知っている」が70.7%と7割を超えており、「知らない」（21.2%）を49.5ポイント上回る結果となっている。



【問6で「知っている」と回答した人のみ】

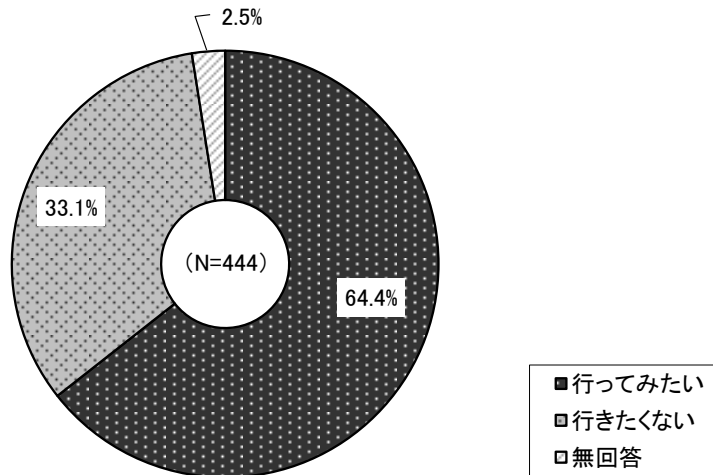
問6-1 若年性認知症でどのような支援があればいいと思いますか。 (〇はいくつでも)

若年性認知症に対する支援については、「物忘れ相談医や認知症専門医療機関など、認知症の治療ができる病院の充実」が64.0%と最も高く、次いで「認知症の症状があっても入院治療が継続できる医療施設の充実」(61.1%)、「認知症の専門相談窓口の充実」(60.2%)となっており、6割以上を占めている。



問7 国は認知症の本人や家族、医療介護専門職やボランティアが集まり、互いに交流をし集える場である「認知症カフェ」の普及を推進しています。自分や家族が認知症となった時、行ってみたいと思いますか。 (〇はひとつ)

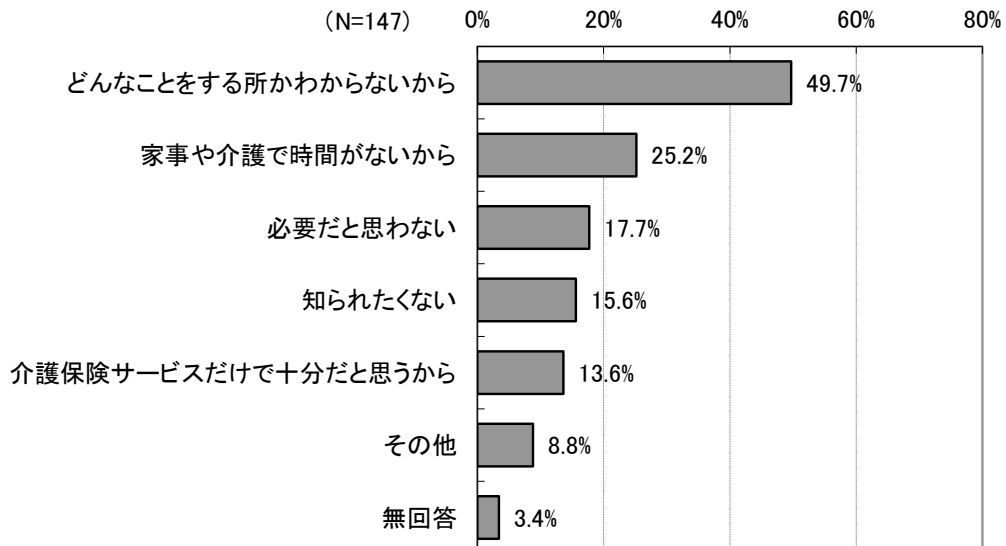
自分や家族が認知症となった時、「認知症カフェ」に行ってみてみたいと思うかについては、「行ってみたい」(64.4%)が「行きたくない」(33.1%)を31.3ポイント上回る結果となっている。



【問7で「行きたくない」と回答した人のみ】

問7-1 行きたくない理由で該当するものに〇をつけてください。 (〇はいくつでも)

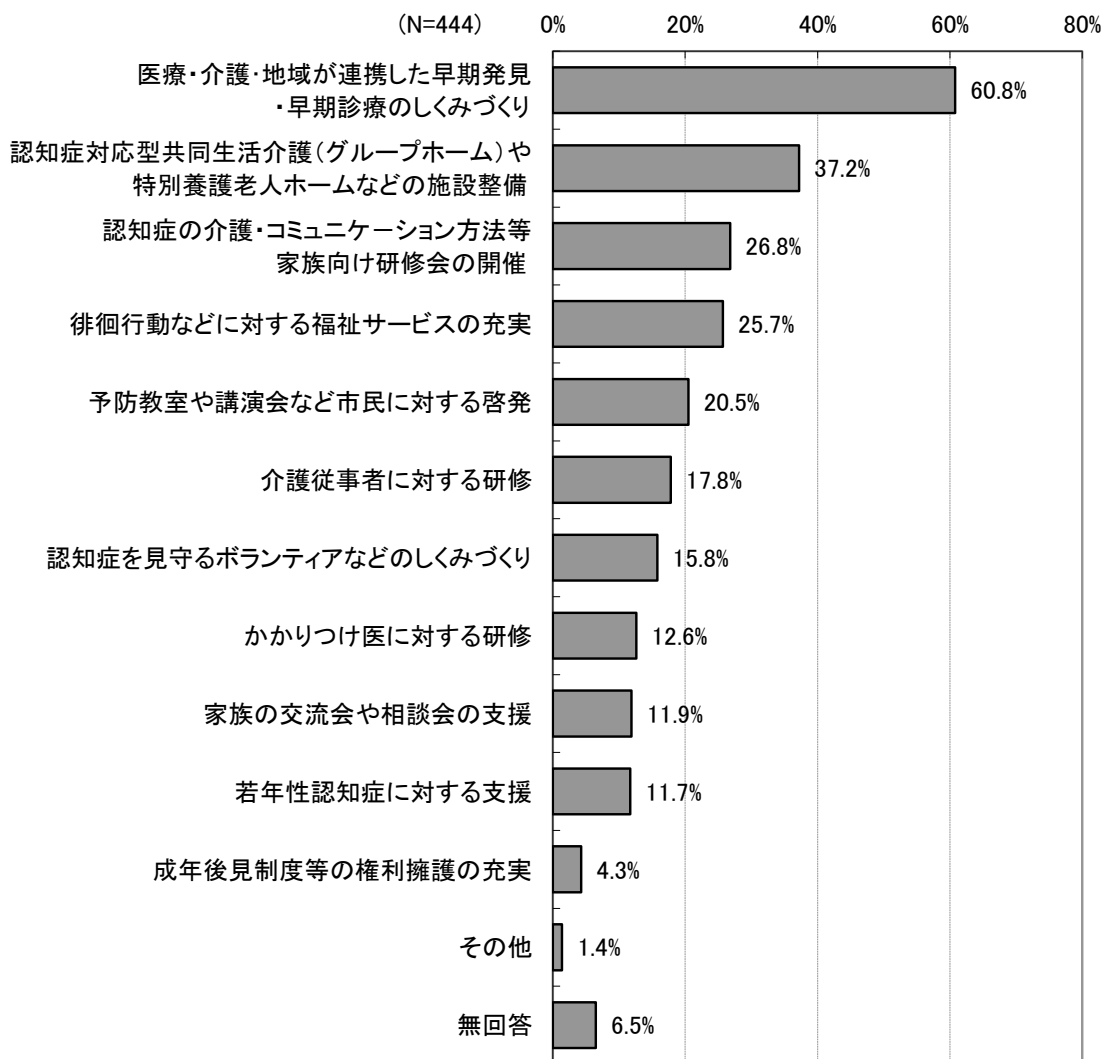
自分や家族が認知症になった時に、「認知症カフェ」に行きたくない理由としては、「どんなことをする所かわからないから」が49.7%で最も高くなっている。次いで、「家事や介護で時間がないから」(25.2%)、「必要だと思わない」(17.7%)、「知られたくない」(15.6%)となっている。



**問8** 今後、認知症対策を進めていく上で、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。  
 (〇は3つまで)

重点を置くべき認知症対策については、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり」が60.8%と、他の項目と比べても突出して高い割合となっており、早期発見・早期診療に対する要望が高いことが分かる。

次いで「認知症対応型共同生活介護や特別養護老人ホームなどの施設整備」(37.2%)、「認知症の介護・コミュニケーション方法等家族向け研修会の開催」(26.8%)、「徘徊行動などに対する福祉サービスの充実」(25.7%)、「予防教室や講演会など市民に対する啓発」(20.5%)の順となっている。





### Ⅲ 資料

#### 自由意見集



## 自由意見（高齢者）

介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

## 1. 介護保険制度について 97件（以下抜粋）

	意見	性別	年齢
1	要介護になった時、家族だけで看るのは、限度があると思います。やはり公的な安心できる充実した制度があり、誰でも受けられるようになって欲しいと思います。	女性	70～74歳
2	高齢者保健福祉施策は、家族、親族が中心になって行政と相談して行うべき。人の言うことは聞かない高齢者を家族、親族以外の者が立ち入ることはいかなものかと思う。	男性	70～74歳
3	本当に介護が必要なのに介護が受けられていない人、反対に必要に迫っていないのに勧められて気休めに受けている人等まだまだ矛盾が多いのが実状です。	女性	65～69歳
4	介護保険制度が再々変わる事。高齢になってからの対策より、それ以前から若い時から老後生活について各自計画も必要。全て保険制度に頼るよりお互い助け合うことも必要。	女性	65～69歳
5	無駄をなくし税金を有効に使用する、不公平を無くす、家族に働きかけをしていく。仕組みがはっきり分からない。	女性	65～69歳
6	保険を制度毎に分けることなく、以前のようにひとつの制度で運用する。規模を大きくすることで、制度間の融通がきく。	男性	65～69歳
7	介護保険の利用について、真に必要な人が利用するのは分かるが、使わなければ損をすると考える人がいると感じる。本来家族がしなければならない事でも行政に頼る傾向がある。福祉というバラマキはいかなものであろうか？	男性	65～69歳
8	軽度の人や、介護制度を利用しないと損だと言って安易に連れを勧誘する人を見かける。施設も利用者を誘う活動をしている。介護制度を悪用しているのが散見される。本来困った人の為の制度であるので、厳格に監視せよ。	男性	70～74歳
9	介護保険制度は今後ますます必要不可欠になると思うが、認定の面で不完全。例えば本当に必要な人、あるいは不要な人が正しく判定されていないと思う。認定委員・ケアマネジャーなどの資質を向上して介護保険制度継続、充実を図ってほしい。	女性	65～69歳

## 2. 介護保険料、医療費など経済的負担について 139件（以下抜粋）

	意見	性別	年齢
1	今は元気ですが、これから高齢者になり介護や保健福祉を受けられるのを知り安心しましたが、高齢者になり保険料を払うのが心配になります。もう少し安くなればと思います。	女性	70～74歳
2	介護や福祉に対して、色々な事をすればいいのは分かるが経費が多額なので、効果があるものに絞って介護保険料が今以上高くないようにするべきと思う。	女性	65～69歳

	意見	性別	年齢
3	国民年金受給者には介護保険料が少し高いと思います。年金は下がり、保険料は高くなり生活が不安になります。将来介護保険を利用するには仕方のない事なのではないでしょうか。	女性	65～69歳
4	年金がだんだん少なくなり、生活は段々苦しくなり困っています。それなのに介護保険料が高くなり毎日の生活がしづらくなっています。死亡後に介護保険を使ったか使っていないか計算して後に残った配偶者に使って下さい。	男性	75～79歳
5	介護保険を年間使用しなかった人には、返金サービス等何か特典があれば支払いも気分的に楽しくなるでしょう。死ぬまで使わず、払いっぱなしはどうかと思います。	男性	65～69歳
6	老人介護センターに早く安く入所出来るようにしてほしい。介護保険料が高い。	女性	70～74歳
7	少額の年金から保険料を天引きされ、生活費が残りません。低年金で90才以上の老人は保険医療費を無料化して病院、デイサービス等、お金の心配をしないで利用できる様にして下さい。	女性	85歳以上
8	特別養護老人ホームに支払った費用を、確定申告で控除されないのは不可解。	男性	80～84歳
9	介護に関し、公的機関が少し関わり過ぎの印象が強い。家族でまず対応。家族のない者に限定し保険料の低減を考えてほしい。	女性	65～69歳
10	介護保険料はどのように使用されているのか知りたいと思います。	女性	65～69歳
11	高齢者（75才以上）の市関係施設利用の無料化。	男性	80～84歳
12	成年後見制度を利用しましょうとよく言われますが、費用がかかり低所得者には無理があるのではと耳にします。私自身もやっぱり利用しづらいかなと思います。もっと経費がかからない方法はないのでしょうか。	女性	70～74歳
13	新しい介護施設が次々と出来ていますが、入所費用があまりにも高いので諦めている人が多いのが実状と思われます。年金収入で、もっと格安に入所できる施設がほしいと思います。	男性	70～74歳

### 3. 介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 83件（以下抜粋）

	意見	性別	年齢
1	介護施設の方は良くしてくれますが、最後までそこでいられる様にしてほしいです。	女性	70～74歳
2	今は健康で生活ができ、又家族に負担がかからぬ様健康に留意し生活しているが、将来介護が必要になった時、施設の入所が順番待ちにならぬ様体制を整備してもらいたい。	男性	65～69歳
3	要介護者へのサービスは介護保険が始まってから今まで随分定着されていますが、介護をされている方への負担軽減及び息抜きが出来る場所や時間を増やしてあげる制度を取り入れてほしいです。	男性	65～69歳
4	特別養護老人ホームに入所希望者が多く入所出来るまで数年かかるとよく耳にします。介護士不足や保険料収支のアンバランス等々問題山積みと思うが何かよい解決策はないのでしょうか。	男性	70～74歳

	意見	性別	年齢
5	認知症になると、入院ができにくくなるので、改善してほしい。	女性	80～84歳
6	制度、施設の充実も大事ではあるが、それに携わる人の技能と意識の向上を強く願う。	女性	70～74歳
7	訪問介護に非常に助けられています。もっと回数を多くしてほしいです。	女性	85歳以上
8	子供が県外に住んでいて、夫婦2人だけの生活、現在は自立出来ているか、だんだんと年老いて体が不自由になれば車が運転出来ないのも病院への通院、買物等の支援をして頂ければと思っています。	女性	70～74歳

#### 4. 介護予防について 59件（以下抜粋）

	意見	性別	年齢
1	認知症や、高齢者医療が増えることを想定するより、1人1人がそれを増やさないよう努力して、実践することを奨励する活動や、政策を充実してほしい。若者のためにも、医療費軽減のためにも望むことです。	女性	80～84歳
2	認知症予防のためのコミュニケーション方法を、近隣地区でサポートできるシステム作りをする。認知症は病気であるため勇気を持って公表し、コミュニティーでサポートする。	男性	70～74歳
3	介護を受けない様に、常に健康管理に努力を続けること。	男性	75～79歳
4	これからの高齢化社会に介護保険は大切ですが、至れり尽くせりでは個人負担が増すばかりです。自立できる人を1人でも多く、健康づくり、体力づくりなどにも力を入れてはどうでしょうか？また収入に応じた負担金も必要だと思います。	女性	65～69歳
5	今後病気、認知症対策は、予防教室講演会の回数を多くして、早期発見などに努めるべきだと思う。	男性	70～74歳

#### 5. 行政への要望・意見について 295件（以下抜粋）

	意見	性別	年齢
1	介護認定を受ける手順を良くわかるように説明してほしい。	女性	75～79歳
2	自治会等、地域で高齢者・一人暮らしの見守りなどの活動には経済的に、また個人情報保護などで無理があり、それらを排除した上で、無理のないボランティアを集めて活動していきたい。	男性	70～74歳
3	介護サービスを利用しなければいけなくなった時や、家族に認知症の兆候が見られた時に、どこに相談する、どこに連絡するではなく、ここに連絡、相談すれば確実に答えが返って来るという連絡先を誰もが知っている事が必要。	男性	65～69歳
4	市としての制度、施策の現状実態状況が市民によく公表されていない。現状活動内容の広報にもっと努めてほしい。	女性	65～69歳
5	高齢者が増えていくので、福祉施設をもっとたくさん作ってほしい。国民年金でも入れる所が少ないのではないのでしょうか？	男性	70～74歳
6	医療機関・施設の充実が第一。	男性	65～69歳

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート

	意見	性別	年齢
7	家族の中に認知症の者ができると、家族崩壊の恐れさえあります。それを防ぐために、まずどんな兆候があるか。それにはどうすればよいか。具体的に誰でも直急でできることを一般の人々に知らせてください。	女性	80～84歳
8	今まで色々貢献してきた人が、老後そうした状態になった時に、規制をかけるのではなく、経済面も含め全体で見守っていける体制を確立して欲しい。	男性	65～69歳
9	要介護者削減の方策。医療、介護、リハビリ施設の充実など。	男性	85歳以上
10	特別養護老人ホームが少ない。増設、新設をお願いしたい。	男性	65～69歳
12	重度（知的）障害者の入居施設が必要です（65才以下も含めて）	男性	70～74歳
13	特養老人ホーム等の箱物に限りある資金を出来るだけ特化せず、介護士の待遇改善と在宅介護の充実を計って頂きたい。なんぼ良いことを並べても人手不足ではどうにもならないと思います。	男性	65～69歳
14	介護保険制度や高齢者保険福祉施策等利用の手続き等が分からない。もう少し周知して下さい。	女性	70～74歳
15	色々な相談、例えば医療・介護・精神的な面、経済的な面等の相談が1ヶ所で出来る公的な機関がほしい。ボランティア的な制度では駄目。市・県・国などの公的なしっかりした、いつでも相談出来る機関がほしい。	女性	75～79歳
16	ケアマネジャーに個人能力・サービス精神にバラつきがあり、中には、人間的にどうかなという人もいる。せっきく、良いシステムが台無しとなるので教育を深めて欲しい。	女性	80～84歳
17	認知症になった人が安心して入院・治療ができる制度がほしい。入院となると家族の負担が多く、安心して治療が受けられない。介護と医療がうまくマッチした認知症の人も安心して治療できる体制がほしい。	女性	85歳以上
18	介護施設の一覧表、入居条件、費用などが分かる資料がほしい。一度デイサービスを体験してみたいです。	男性	75～79歳
19	高齢の基準を70才以上として頂きたい。	男性	65～69歳
20	認知症の方にどう対応していいか、全く知識を持っていません。どうすれば良いか教えて下さい。	男性	65～69歳

6. その他（思ったこと、日々困っていること）について 414件（以下抜粋）

	意見	性別	年齢
1	国が責任を放棄して、市町に任すなどはもってのほかです。	男性	65～69歳
2	介護サービス等まだその立場になっていないので分からない事が多いです。	男性	70～74歳
3	大変ありがとうございました。しかしこの様なたくさんのアンケート項目を全部チェックする事は高齢者には中々難しいと思います。市当局は分割を考えるか、相手の高齢者の平均能力を考えて問題提議してほしいです。	女性	85歳以上
4	デイサービスとか介護支援センターなどへはなかなか行けないものです。	男性	65～69歳
5	個々人の責任、地域の役割、行政の仕事について、考えてみたいと思っています。	男性	75～79歳

	意見	性別	年齢
6	行政や自治体に求める前に家族の温かい支えが得られる自分であること。そのためには自分が元気な時から家族に愛情をかけ家族との絆を強くしていくことだと思っています。	男性	75～79歳
7	自分もだんだん年を取っていつまで自分の事が出来るか、認知症になるのかもわからない。家族に迷惑を掛けたくないので、入所出来る所があったら安心だ。	女性	65～69歳
8	介護が必要になってもお金の有無に関わらず安心して生きて行ける社会であってほしいと思っています。まだ先の事だと思っておりましたがもうすぐなんですね。少しずつ考えながら生活していこうと思います。	女性	65～69歳
9	高齢者の方はほんとに悪い時に病院に行くようにしてほしいです。元気な人が電気代も水代もいらないから病院に行けば話が出来ると良く聞きます。重病の方が迷惑すると思います。	女性	75～79歳
10	現在はまだ介護保険の認定をうけた事はありませんが、認知症になった場合は、高松市地域包括支援センターに相談して、認知症の治療が出来る病院に入りたいと考えています。	男性	75～79歳
11	記入は無記名でもいいのでは……	女性	70～74歳
12	出来れば自分の家族で世話をしていきたいです。	女性	65～69歳
13	どういうサービスがあって、どう対処していったらいいのか、よく分からない。このアンケート自体の内容もよく分かっていない。	男性	85歳以上
14	本当に助けの必要な人は、なかなか、名乗り出ては来ないので、常に隣近所や、自治会の人達の理解・注意が必要だと思う。	男性	85歳以上
15	自分が介護を必要とするようになった時一番気になるのは、家族に迷惑がかかること、経済的なこと、この2点である。	男性	75～79歳
16	マンション暮らしの為か、地域との交流もなく老人会もなく今後が不安です。	女性	65～69歳
17	現在、介護保険制度や高齢者保険福祉施策についての知識が無いため、本調査の問いかけがわからない事が多い。今後の調査については、啓発の意味もかねて簡単な資料を添付してはどうかと思う。	男性	70～74歳
18	基本的に自分の事は自分で守るしかない。知人や友人も自分の事で精一杯、人の事を見るゆとりなんてないと思う。公務員の様に老後の保障のある人と、私達年金生活者とは視点が違うと思います。貧困の中からは何も生まれません。	男性	65～69歳
19	現在、自分で生活できているので分からない。	女性	75～79歳
20	私の様に一人暮らしの方が多くなって生活環境がどの様に変化するのか不安です。身近に福祉施策という言葉ばかりで本当に具体的にはよく分かりません。	女性	65～69歳
21	介護保険制度や高齢者保健福祉施策など等々の勉強不足がはずかしく感じました。事ある時に間に合う様、少し勉強して学び取りたい。	女性	70～74歳
22	自分は病気になると家の人の世話になりますので、介護してくれる人の年とか見てくれる人に任せるしかありません。お金もいることですし、自分の考えを通すことは出来ません。	女性	80～84歳

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート

	意見	性別	年齢
23	認知症ではないかと気づいた時、一番にどこに相談したらいいのかわからない。病院だとしたら何科に行ったらいいか。物忘れ科があるのかどうか。どこ の病院へ行けばテストしてもらえるのか。	女性	70～74歳
25	まだ少し先のことなので、家族と話し合っ行ってきたいと思います。	男性	65～69歳
26	これから10～20年の日本の高齢者保健福祉問題はピークを迎えます。最大の課題は財政問題です。高齢者が若い人達の迷惑にならないために、年寄り自身 が福祉にお金をかけない工夫と努力に協力することが必要です。	男性	70～74歳
27	ケアハウスで住みたいです。	女性	80～84歳
28	質問項目が多くて大変でした。	女性	75～79歳
29	気楽にコミュニケーションの出来る場所、気の合う友達が作れる所、そのリーダーとして対応したり出来る人がいると良いと思う。私は今、友達がいないので寂しいです。	女性	75～79歳
30	アンケートの集計結果をお知らせ下さい。	男性	75～79歳



## 自由意見（介護保険施設サービス利用者）

介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

## 1. 介護保険制度について 10件

	意見	性別	年齢
1	介護認定について 身体的なことが中心になっているように感じる。認知症も大変です。制度の見直しも必要かと思えます。	女性	85歳以上
2	さまざまなサービスがあると思うが、当初の段階でもっと知識を得られるような方法が充実しているとよい。ケアマネジャーによって対応が違う場合もあるので、アドバイスが適切に得られる仕組みがあるとよい。	女性	80～84歳
3	認定診査時に介護者の意見をもっと取り扱って欲しいと思えます。	女性	85歳以上
4	要介護度の認定に不平等感がある。	女性	80～84歳
5	重症か軽症の区別で相談しても当てはまらないことが多く中間層にはメリットがないように思う。利用しにくい。	男性	75～79歳
6	特養に入所しているのですが、介護保険の認定の時には家族にも同席させてほしいです。	女性	85歳以上
7	介護認定までに要する時間が、もう少し短くなればと考えます。	女性	85歳以上
8	介護区分に不満を持ち続けています。下半身全く駄目、両手の痺れも取れず24時間オムツが離せない状態。手術後半年は区分5、その後いきなり2、私はショックで体調を崩しました。入所者は主人ではほぼ全面的な介護が必要になる状態ですが…。	男性	80～84歳
9	介護保険制度は高齢になった時、家族の肉体的・精神的にも非常にありがたい制度であると思えます。	女性	80～84歳
10	介護が困難な場合の対策の充実をしてほしい。(介護者が遠方に居住している、独居)	女性	80～84歳

## 2. 介護保険料、医療費など経済的負担について 7件

	意見	性別	年齢
1	年金(収入)に比し、介護保険料が割高である。	女性	85歳以上
2	貰っている年金に対して介護保険金が高い。施設サービス料金の中に実施されていない物が多い。何かと人手不足で全部済まされる。要介護5寝たきりだと、おむつ交換の回数やお風呂が週1回と少ない。家族は不安の毎日です。	女性	85歳以上
3	年金が減額する中、介護保険料、利用料が高くならない様をお願いします。施設の職員の皆様にお世話になり助かっております。	女性	85歳以上
4	現在より保険料が高くなると、親子で大変苦しい日々を送らなくてははいけません。どうか高齢者に優しい保険料にして下さい。	女性	85歳以上
5	外国等のように無料にすべきである。	女性	70～74歳
6	施設の利用料を安くしてほしい。国民年金額くらい。	女性	80～84歳
7	介護費用が年金の中で賄えれば良いと思えます。介護費用、医療費、衣類等のもの。	女性	75～79歳

3. 介護保険サービス、在宅福祉サービスについて 20件

	意見	性別	年齢
1	本人は全く解らなくなっております。家族としては必要な制度で助かっています。入所費用等本人の手金では足りず、(本人の)夫の年金からの補充で支払っております。特養が増える事を希望します。	女性	85歳以上
2	入所施設を今後は国の方針で全て個室へと移行してゆくように聞いたが、元気な人や大声を出す人などには良いが、一般的には話し相手も居らず、鬱になり易く、短時間での見回りが十分されなければ咄嗟の対応が出来ないと思う。	女性	85歳以上
3	もう少し介護従事者の介護の質を向上させる様、対策をして欲しい。	女性	85歳以上
4	特養は費用が安く年金のみの収入者には助かりますが、もう少し細やかなケアを望みます。入居者にもう少し目を配って欲しいです。	女性	85歳以上
5	本人の年収に応じてのサービス体制を。家族に負担をかけない、その方に応じたサービスを取ってほしい。一番に本人の気持ちを大切にしてほしい。	女性	75～79歳
6	車椅子に座っているだけなので、寂しそう。もっと笑顔で話して相手してほしい、そういうレクリエーションをする人がいたら良い。現実には人数が不足しているのですね。介護は、どこまでの事を云っているのかな。	男性	80～84歳
7	これだけ介護が必要な人が多いので、施設などをもっと増やしてもらいたい。でも、若い人の保険などを増やされても困る。もっと安くて、入所しやすい様に出来ないものかと思います。	女性	80～84歳
8	施設での介護が誠実に行なわれているかどうかは見えないので(虐待などの報道を見聞します)、不安がある。	女性	85歳以上
9	特別養護老人ホームに養母(義母)は入所出来ましたが、家族の中にまだ入退院をくり返している人がいます。先の事を考えると、義母のように入所できるか心配です。充実した施設の利用ができる事を願っています。	女性	85歳以上
10	老人保健施設は3ヶ月毎にチェックされ施設を出なければならない規程があるが、もう少し期間を長く、例えば6ヶ月毎の見直し等に改めてほしい。特養は待ち人数が多くて入所できない。早く施設を増やしてほしい。	女性	85歳以上
11	認知症の入所者が多いのは分かりますが、もう少し職員と入所者との関わり(対話等)を持って欲しい。	男性	85歳以上
12	施設にマッサージして頂ける人を呼べない。	女性	80～84歳
13	1年半前から特別養護老人ホームに申し込んでいますが、まだ入れません。いつまで待てばいいのでしょうか？高齢なので早く入所して落ち着かせてあげたいです。	男性	85歳以上
14	特老に入所して思う事はデイサービスでしてくれるレクリエーションとかりハビリの様な事を是非何か一つ考えてほしいです。なぜなら、ベッドで寝たきりの生活になって、入所前より体の調子が悪くなっていくからです。	女性	85歳以上
15	施設の職員数の不足と質の悪化。	女性	85歳以上
16	施設職員の人数を増やしてもらいたいです。	女性	85歳以上

	意見	性別	年齢
17	水面下に潜んでいる「いじめ＝虐待」を実際に受けているのを家族間で見せられる話をよく耳にします。こういう点を施設視察等を設け、いじめ虐待をなくすような対応をして欲しい。施設スタッフから「不満があるのであれば他所へ移って下さい」ということで患者、家族も泣き寝入りしています。傷害などは表面化されますが、その影で嫌な対応も我慢している人達が居ることを知って欲しいです。嫌な介護を受けていながら他所へ行けない人達の為に…特に喋れない者への対応が目につきます。	女性	85歳以上
18	居宅サービスの時は時間が短くなったり、おむつの支給がカットされたりと金銭的に負担になったりと施設も負担が大きいです。	男性	80～84歳
19	特別養護老人ホームをもっと増やして、すぐに入所できるようにしてほしい。	女性	80～84歳
20	自宅での生活は不可能と思われるので、施設での生活が、楽しいものであるようにして行きたい。充実したものであってほしい。	女性	80～84歳

#### 4. 介護予防について 3件

	意見	性別	年齢
1	認知症予防の為に、市が中心となって各地域で身体の機能が落ちない様な運動や頭を使っての色々な事を行い、気軽にいつでも参加できる様にして欲しいです。	女性	85歳以上
2	現在入所されている方は、ありがたいと思っています。足腰が動く間に健康づくり、介護予防教室に通い他の人達との交流を深め、寝たきりにならないよう頑張りたいと思います。	女性	85歳以上
3	高齢化が進む中、認知症予防が重要と思います。認知症になると一人では在宅生活は難しいと思うので。	女性	85歳以上

#### 5. 行政への要望・意見 8件

	意見	性別	年齢
1	消費税を上げるなら質の良いサービスに役立てて欲しい。この調査をすることに対して、反映して欲しい。高齢者に分かりやすい調査表にして下さい。	女性	80～84歳
2	1. 特養施設で入所者の世話をする職員は、精神的、肉体的に大変な仕事をしています。入所者のためにも、待遇面の向上をお願いします。これが本当の日本の介護制度に結びつくように、市も努力して下さい。	女性	85歳以上
3	施設によっては、地域、収入等で入所や利用を断る施設があるが、指導事項ではなく、もっと強制力のある方法に変えて欲しい。市の担当部署の上司も現場の分かる人になって欲しいが、以前上の者とお話をする機会があったが、現場も現状も分からない。ただ単なる大学出のアホ！だった。現場で動いた事のある人を上司にして欲しいものだ。以上。	女性	85歳以上
4	年を取れば誰かの介護が必要になるのは、当然のこと。介護者の負担を軽くできるような政策をとっていかないと、働いて経済を支える世代が少なくなるこれからの時代に対応できない。施設の充実、介護職員の育成が必要だと思う。	女性	80～84歳
5	介護保険制度や市の高齢者福祉施策は、分かりにくいので、もっと広報活動を積極的にしてほしい。	女性	85歳以上

	意見	性別	年齢
6	介護士さん等の待遇改善に努めてほしいと思います。	女性	80～84歳
7	介護職員の増員、職員の介護休暇の充実、掃除をする職員の増員、職員の円満な人間関係が、利用者にとっても心のゆとりがとれて温かく接してもらえるのではないかと思います。	女性	80～84歳
8	施設のスタッフの給与のアップを考えてあげてほしい。重労働だと感じます。自分も二人家でフルタイムの仕事をして介護していたので良くわかります。体力や心の強い人でなければ出来ない仕事。せめて給与アップを！！	不明	不明

6. その他（思ったこと、日々困っていることなど） 14件

	意見	性別	年齢
1	母はアンケートにお答えできる状態ではありません。私（長女74才）が将来の自分を想像して解答しております。	女性	85歳以上
2	私は自分が勤めていた時、母が施設でお世話になり始めましたが、義理の中で気兼ねなく生活の出来ている母を見て安心できています。母も喜んで施設の方と仲良く出来ていますのでとても幸せを感じています。	女性	85歳以上
3	介護保険制度のお世話になり、大変助けていただき感謝いたしております。この制度がなければ老々介護はできず、生きていられなかったでしょう。ありがとうございます。これからもよろしくお願い申し上げます。	女性	75～79歳
4	今回のアンケート調査について、何故かこの資料（データ）を他に利用する心配はありませんという念書（？）が付いていないのは何故でしょうか。何らかの活用を考えておられるとしたら…と考えると？！ 無記名ゆえ、問題は無いということでしょうか？失礼。	女性	80～84歳
5	感謝あるのみです。どうかよろしく。	女性	85歳以上
6	今は、母を預かって頂いてただただ感謝するのみです。脳梗塞の為に半盲になり認知症が進んでいます。私も右半身マヒの体では世話をすることが難しく、お世話して下さる方がいるお陰で私達も生活ができています。	女性	85歳以上
7	母は施設でお世話になっています。主人も体が不自由ですので、私も、仕事があるので大変、助かっています。ありがたいです。	女性	85歳以上
8	特養に入所させていただき有難く感謝しております。真面目に働いて来た高齢者が、最期に心豊かに安心して暮らせる事は福祉施策のおかげ様と喜んでます。	女性	85歳以上
9	現在の介護保険料でなんとか頑張って、出来る限り節約しているが、これから先の費用についてとても心配です。色々な面でお世話になりとても安心です。家族の精神的ストレスが少なくなった事が最大の利点です。	男性	85歳以上
10	調査アンケートですが、本人記入と代理人記入とは、項目が異なると思います。アンケート票を2種類にするか、この項目は、代理人のみ記入かを区分した方がよいと思います。ご検討願います。	女性	85歳以上
11	感謝あるのみです。	女性	80～84歳

	意見	性別	年齢
12	介護の方々には、本当に感謝しています。私共は、緑が多い施設に入所出来ましたが、探していた場所の中には、病院・ビルの中などが多いのを感じました。公園の近くで散歩が出来る様な施設が増えればと思います。	女性	85歳以上
13	施設で30年以上生活しているので、今回のアンケート内容は理解出来ません。申し訳ありませんが答えられません。	女性	75～79歳

## 自由意見（一般市民：40歳以上65歳未満）

介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

### 1 介護保険制度について 10件

	意見	性別	年齢
1	負担とサービスとのバランスのとれた介護保険制度に取り組んで欲しいと思います。	男性	55～59歳
2	高齢者の方は介護保険制度をどのぐらい理解しているのか。	女性	60～64歳
3	現在の介護保険料の徴収率と利用率はいかに。在宅介護と施設介護のあり方(金額的なもの) 高齢者の負担を減らす工夫(年金受給者は本当に苦しいのです)。	不明	60～64歳
4	必要な人に必要なサービスを提供できる環境作り。無駄な必要のないサービスを提供しすぎて保険料が上がるのは納得できない。生活保護の人を守りすぎ。何もしていない人が施設で呑気に生活はおかしすぎる。	女性	40～44歳
5	母が介護保険のお世話になっています。今後要介護度の低い人は補助が打ち切りになるという方向のようですが、日常生活がおぼつかない(家事できない)状態では、けがや餓死で亡くなる人も多くなるのではと思います。(1人暮らしでなくても、家族は仕事で不在な時間もありますので。)	不明	不明
6	お疲れ様です。お世話になります。自宅で高齢者を介護している家族にも、介護保険を利用しない分、何かの形で援助すべきではないでしょうか？同じ保険料を支払っているのです！	不明	不明
7	私は病院に勤務していますが、本当に必要な人は余りこういう制度を利用せず、我慢して生活しているように感じます。必要性のない元気な人が病院に通ったり、介護保険を使っていることが多く見受けられます。	女性	60～64歳
8	近所でご主人を介護している人の話では、何か変更する度に手続きが煩雑すぎて大変だとのこと。そのためにサービスを利用できない人も多いのでは？	女性	60～64歳
9	5Pは全て“わからない”としましたが、経済面等、本当に必要な人には援助すれば良いと思います。	男性	55～59歳
10	昨年母が介護認定申請中に96歳で、90歳の義母は要介護認定され1ヵ月で亡くなりました。(ともに大阪)病気で入院しやっと申請できたものの、手続きのややこしさや、介護事業所との契約の書類の多さに世話をする側も高齢となり大変と…。どんなにいい施設があっても必要とする人がスムーズに申請でき、スムーズに認定され、利用したい介護を受けるのは、中々の事とつくづく感じているところです。	女性	60～64歳

### 2 介護保険料、医療費など経済的負担について 10件

	意見	性別	年齢
1	消費税でまかなって下さい。	男性	55～59歳
2	介護保険を1年間利用しない場合は割戻し金を配布する等、払い損にならない方法を考えてほしい。励みに元気でいるように頑張れると思う。	女性	45～49歳

	意見	性別	年齢
3	高齢者の病態を限定して支援するのではなく、訪問や呼びかけをして、孤立させないようにすべきである。特に身寄りのない(介護者が限定されてしまう)場合は、介護する身内に対する負担を軽減してほしい。ゆとりのある収入のある世帯には補助を止め、介護の必要な人に対し経費負担を補助してほしい。裕福な人が介護サービスを存分に使えるのはおかしい。生活の質が平等であるべきで、働かない若年層(健常者)世帯に補助はいらない。	女性	40～44歳
4	経済的な負担が大きくならないように、協力しやすい町づくりが出来ればと思っています。	女性	40～44歳
5	医療の無料及び低額な人に対する病院の検査や薬の多さに驚きます。不必要な医療費をおさえて、介護サービスの充実へお金を回せませんか？現役で介護保険を支えている者として、多量の湿布や薬をみるとやりきれません。	不明	40～44歳
6	介護状態でどのくらいお金がかかるのか知りたいです。周りの若い人は知らない人が多いので(子供の教育資金等はよく分かるので貯められる)人生設計の中にどのくらい介護貯金(?)が必要なのか情報が欲しいです。	男性	40～44歳
7	介護を受けていない人に対しては、保険料の負担をもっと軽くしてほしい。	男性	40～44歳
8	介護保険制度や高齢者保険福祉施策の充実はこのからの高齢者社会にとって必要ですが、それに伴う保険料の高騰は困ります。税金の無駄に使っている所を無くして納税者の納得のいく高松市にしてくれることを希望します。	男性	60～64歳
9	認知症の算定が低い。住み慣れた家で一人になっても住み続ける為には、多くのサービスを利用(家族支援も含め)したいが限度枠内では収まらない。自費利用含め対応しているが年金、家族の負担協力で不安がある。	女性	60～64歳
10	年金暮らしの人に対する介護保険料を考えて下さい。	不明	60～64歳

### 3 介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 24件

	意見	性別	年齢
1	何とかして、家族が自己嫌悪を抱くことなく、施設等を利用できる環境になれば良いと思う。今は、家族の負担が重すぎ、介護要となった人も介護する人も不幸である。	男性	50～54歳
2	高松市は地方都市なので、若年層が都市部へ行き、益々高齢化が進み、私達40代が介護を受ける時には、大変なことになると思う。多少介護保険料が上がっても、手厚い介護、家族の負担を軽減できるような制度を望む。	女性	40～44歳
3	気楽に参加できる場所をたくさん作ってほしい。(できれば無料で…)私もボランティアで参加したいと思います。	女性	45～49歳
4	少子化になっている現在、一人暮らしになる可能性が高くなっている。自分が将来一人で暮らすのが不安な為、施設整備などの充実を望みます。	女性	55～59歳
5	外出(買い物、病院等)での移動が困難なため、家から目的地の送迎サービスができるシステム確立が緊急に必要である。コミバスや乗合タクシーでは利用しにくいいため、融通のきく、ドアからドアで対応できる乗物対策をお願いしたい。	男性	60～64歳

	意見	性別	年齢
6	グループホーム、託老所を地域に充実させて、そこに家族、ボランティアが気軽に、出入りできる施設を整備する。家族がスタッフと一緒に食事作りをし、皆で食事をする。皆で老いを受入れ包み込む介護の形が望ましい。	女性	55～59歳
7	長く母の在宅介護で介護保険や市のサービスを利用して頂きました。介護者の立場からの希望は、個別のきめ細かい対応と、サービス提供の質の向上です。	女性	50～54歳
8	介護施設が必要とされた時に不足していたり、徘徊等を理由として断られたり、重度の人を施設が面倒とか条件を理由にして断る事が多く、経済的に高額な所しか利用できない現実が多い。	女性	60～64歳
9	物、お金の支援よりも介護する人に対する研修や認知症の人に対する日常的な生活支援を充実させて欲しい。	女性	40～44歳
10	都会ほどではないにせよ、高松市でも特別養護老人ホームの待機者数は多いと思います。在宅でのケアも大事だと思いますが、最後の手段として、ホーム入所が約束されてないと、介護者の不安は取り除けないと思います。	男性	45～49歳
11	特別養護老人ホームの申し込みはしていても認知症の一人暮らしだけでは入所は何十人～何百人待ちで、介護の負担が重いです。親を看ない訳ではないけれど、現実的に手が回らず誰かの肩に重くのしかかっています。	男性	45～49歳
12	介護サービスを実施している施設はどうしても維持(施設)のために介護保険をあまり必要としない人にも進めている傾向がある様に思います。	不明	60～64歳
13	介護者の精神的ケアを充実させなければ質のよい介護は難しい。若年性認知症の場合は経済的な問題があり何らかの支援が高齢者よりも必要。	不明	不明
14	高齢者のための在宅福祉サービスについて、紙おむつの給付、見舞金については、本当に困っている人(金銭的に)に行っているのでしょうか。	女性	60～64歳
15	介護事業者が自らサービス計画を立てると過剰に使う様になるのでは。自己負担金0の場合、特に無駄使いしそうに思う。介護事業者の質を良くして欲しい。プライバシー保護も大切。苦情受付、相談事業を充実して欲しい。	男性	50～54歳
16	デイサービスはいいとは思いますが今まで自分でしていた事をしなくなる。あまりにも手とり足とり優しくしすぎる。自分でできる事は協力して自分でするように持ってってもらいたい。多人数で大変なのはわかるけど。	不明	60～64歳
17	グループホームなど施設入居費用が高すぎると思う。本当に困った時、誰でも入れる施設があれば安心して老後の生活が送れると思う。安易にタクシー助成券などバラまきの使い方ではなく皆が平等に恩恵が受けられる様な使い方をしてほしい。	男性	55～59歳
18	ヘルパーさんなどの人柄にもよります。プライバシーを完全に守っていない人は困ります。	不明	60～64歳
19	介護では、家族に一番負担がかかるので、本人を預かる施設を充実して欲しい。宿泊もできるような。認知症では、地域の協力も必要なので、その仕組みづくりを援助・指導をして欲しい。	女性	60～64歳
20	認知症の親の介護を4年程在宅でしましたが色々な便利なサービスがあったお蔭でなんとか乗り越えられました。介護施設によって対応にばらつきがあるので、その辺の指導強化が必要では。ケアマネの情報量にも差がありました。	男性	55～59歳



	意見	性別	年齢
21	特別養護老人ホームは、地域によっては、入所が何年待ちという事を聞きます。介護の負担は、女性に重くのしかかります。特に仕事をしている女性が多くなり、責任ある立場になった頃に介護が重くのしかかります。やはり、介護施設の充実を望みます。家族が無理なく介護できる様、自分も介護されたいと思います。	不明	60～64歳
22	食事配食サービスも一定の弁当会社ばかりだと言うのは、変わり映えもなく、良くないと思う。個人情報流出もあると思うが、様々な業者からローテーションする事で地域密着していくと思う。みんなの目が必要だと思う。	女性	40～44歳
23	無料、あるいは低価格での医療機器の貸し出しなど、役に立つ道具類の種類と量を増やす事。	男性	60～64歳
24	知人で全国転勤をしながら高齢者と同居、介護している方がいます。引っ越し後、介護は市町村単位のため手続き上デイ等をすぐに利用できず、引っ越しの片づけ、入浴等で困ったそうです。半年は転居前の介護認定でOKなら、引っ越し後もすぐに利用できるようなになれば良いと思います。	女性	40～44歳

#### 4 介護予防について 4件

	意見	性別	年齢
1	認知症対策については、認知症になってからの対策よりも、4. 高齢者の居場所についてにあったように、高齢者が孤独にならず、生きがいを持って日々を楽しく過ごせるような対策に重点を置いていくべきだと思います。	男性	40～44歳
2	まずは、健康で健全な生活を送れるような支援の充実と、介護が必要になった場合、出来るだけ自立した生活を送れるような支援を望みます。	不明	不明
3	高齢者の介護は重要な問題だが、その負担が若い人にのしかかっているといけないと思う。高齢者自身が予防に努め、限られた予算を大切に使うようにしてほしい。	女性	45～49歳
4	総括的な事で言えば、成ってからへの対応では無く、成らない様にするにはの方向で、一考して頂きたい。	男性	60～64歳

#### 5 行政への要望・意見 25件

	意見	性別	年齢
1	最近の出来事として高齢者や幼児の虐待が後を絶ちません。しかも近所の方から近くで叫び声が聞こえるなどの相談を受けても形だけの訪問で後で重体など大問題に発展しており、この辺をきっちり改善してもらいたい。	男性	40～44歳
2	家族もなく一人住まいで地域や隣人との交流もない人が認知症を発症し、その自覚すらないほど進行し専門医の診察を受ける方法を知らない場合、市の関係各機関は、すばやく対応できる具体策を持ってほしい。	女性	60～64歳
3	健康を維持する為には、何が本当に大事な事なのか、再考する必要がある。地方都市の空洞化は政治に起因する。地方経済の再興を促し保険制度の充実を計ることだと思う。	男性	50～54歳

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート

	意見	性別	年齢
4	一度そういった問題をじっくり考える必要があるなど思いながらも、日々子育てや仕事に追われ目の前のことをこなしていくのに精一杯です。実際問題に直面した時すぐかけ込めるような行政窓口があれば助かります。	女性	40～44歳
5	一人暮らしの高齢者、低所得の高齢者、介護が困難な家庭をよく調べ、対策を細かくとってほしい。	不明	55～59歳
6	一人っ子で未婚のまま高齢となった知り合いが「病院で入院するのに保証人がいない。入院もできない。」と嘆いていた。手伝い(見舞い、必要物の買い出しなど)はできても、保証人には中々なれない。公的保証人制度は作れないのだろうか。(先週1月末の会話です)	不明	55～59歳
7	まだまだ介護を必要とする人は自宅にいます。家族が犠牲にならないようにしてほしい。	不明	50～54歳
8	高松市が現在行っている介護サービス等をもっと具体的に周知し、今後どのようなサービスを計画しているのか周知方法等についても明確にしてほしい。	男性	60～64歳
9	高齢者となっても安心して生活していける、希望を持って生きて行ける環境作りをお願いします。	女性	45～49歳
10	高齢者になっても病気になっても安心して生活できる町づくりをお願いします。たくさん介護施設ができていますが、結構費用がかかる様で、これからは不安に感じます。	不明	45～49歳
11	市としてもいろいろ取り組みを行っているとは思いますが、末端までは具体的なものが伝わってきていません。また、今、介護とあまり関係のない人があまりにも無関心なのをどうにかして欲しいです。	不明	50～54歳
12	私の住居は市内中央からはだいぶ離れています。コミュニケーションの場、会場からは離れていることが多く、そのため何か行きたいと思っても面倒だったり、知らない人ばかりだと行きにくかったりします。1つの会でも何か所かで開催したりしてもらえればありがたいです。	女性	45～49歳
13	介護を行う負担を減らすことを第一に考えて頂きたい。	男性	50～54歳
14	とても制度について知らないことが多かったです。私がもし制度について必要になったらまずは役場へ行くと思います。そこで色々な制度について教えてもらえるとありがたいです。	女性	40～44歳
15	市は介護を家族と施設に任せっぱなしで、金だけを出せば終わりと考えているように思える。もっと積極的に人対人、市職員が常にバックアップする用意ができていると分かるような行動をしてほしい。	男性	40～44歳
16	広報啓発も大切だが、施設の充実といったハード面を強化してほしい。実際に困っている人に税金を使うのはいいが、ムダなパンフレットやグッズをバラまく等は必要性を感じない。真に援助を要する人に適切な情報を。	女性	40～44歳
17	家族が介護を必要となった時家族が仕事を辞めることなく働き続けられる仕組みを作っていただきたい。メディアで見た介護の現実はとても厳しいです。知り合いの方の話を聞いても同じでした。	女性	60～64歳

	意見	性別	年齢
18	現実に親の世話をしていますが、現在の支援は沢山あるように思いますが、介護支援のことを公にもっと市民に伝える手段が足りないように思う。介護しているのに、後でこんな支援があったのかと知ることが多かった。	不明	50～54歳
19	人として大切にされているということが感じられるように、現在実施されている施策を後退させることなく、更に必要だと求められていることに対応されることを強くお願いします。	女性	55～59歳
20	税金を費やすのであるから、有効に。将来に向けた施策を望む。	男性	55～59歳
21	他県に住んでいる高齢の親がおります。足腰が弱く、自分で進んで役所に行けずに介護申請を先延ばしにしています。役所側から手続きに足を運んで頂くサービスがあればいいと思います。香川県はあるのかもしれませんが…。	男性	45～49歳
22	現在、急性期病院に勤務している。認知症患者への対応は、病院においても喫緊の問題になっている。保険・福祉のみならず、医療分野も含めた施策を検討願いたい。	女性	45～49歳
23	特に税金を使うので、悪用し、私腹を肥やす事は、許されない。取り締まる機関の強化を願う。	男性	45～49歳
24	高齢者になっても経済的に安心して生活が送れるようにしてほしいです。	女性	55～59歳
25	今回、アンケートを記入してはじめて高松市でも色々な取り組みをしているんだと知りました。介護を受けたい時、まず何をしたらいいのか、どこまで相談が受けられるのかが知りたいと思いました。	女性	40～44歳

## 6 その他（思ったこと、日々困っていることなど） 20件

	意見	性別	年齢
1	今のところ、認知症になっている身近な人がいない為あまり考えた事がありません。知らない事がたくさんあると思います。勉強不足です。アンケートを読んでもそう思いました。ありがとうございました。	不明	50～54歳
2	このようなアンケートは必要だとは思いますが、本紙のような冊子を作ってまで必要でしょうか？インターネットで回答でもよいと思います。1000人無作為に抽出というのも意味も必要性もわかりません。1000人抽出ではなく広報などに掲載して市民全員に呼びかけ、インターネットで回答でもよいのではないのでしょうか。媒体は問わずアンケートに答えようとする方は回答が得られると思います。冊子であっても回答するかどうかは任意なので。	男性	45～49歳
3	平均寿命が伸びる中で若者の無関心が気になる。日教組の自分だけ良ければ良い教育のせいではないか。向こう三軒両隣のな社会を取りもどす教育から改革すべきと思う。介護奉仕を徴兵的に皆にやらせれば大切さがわかる。	男性	45～49歳
4	介護保険制度、高齢者保健福祉施設に従事している方々も、大変な仕事だと思いますが、前向きに考えて過ごしやすいようにして下さい。いつかは、あなた自身も、お世話になる事だということを思ってください。お願いします。	不明	60～64歳
5	介護施設に勤務する人に対する待遇(給料等含めて)を充実し、その職業に就く人々を増員する必要があると思う。そして施設経営者は過大な利益をあげず、従業	不明	60～64歳

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート

	意見	性別	年齢
	員の人件費に回すべきだと常日頃思っています。		
6	日本はお金のない老人を見捨てないから、お金は貯めない。下手に持っていると助けてもらえないと言っていた老人予備軍の方の話を聞いたことがあります。贅沢な暮らしをしていて貯金なしなんて、納得できない。自分の老後は自分や家族で考えるべきことだと思うのですが…。税金を大事に使ってほしい。本当に介護の必要な人に使って下さい。この先、もっと働く欲のない日本の若者が増えて、日本はどうにかなってしまいそうですね…。	不明	50～54歳
7	介護者が介護保険の色々なサービスを利用したいと思っても高齢者が反対し、利用が受けられない。その為、介護者(私)の負担が多くなり、ストレスがたまり、しんどい。包括の人にも相談したが、解決できていない。	男性	50～54歳
8	国民年金だけの生活では、お金のかかることは一切できません。	女性	60～64歳
9	市が行っている、高齢者への取り組み、介護予防事業等、このアンケートの内容で知らない内容が多かったので、勉強になった。自分が困った時でないと、きっと知ろうとは思わないのであろう。	不明	60～64歳
10	お隣さんが自転車に乗れなくなり、買い物のに家政婦さんを雇うとのこと。私に頼んで、と言いかけてましたが、私も自転車に保育所お迎えの息子と買い物があり、手助け再々は大変そう。	男性	40～44歳
11	1人の老人に5人もの女の人が入れ代わり、介護の手伝いをしているのはなぜでしょうか。当店でお買い物をして頂いた場合とても効率が悪く感じています。	男性	60～64歳
12	認知症の薬を開発してほしい。	不明	55～59歳
13	今後高齢化社会が進んでいくにあたって非常に重要な問題だと思います。より良く生きていける社会になるために、どうぞよろしくお願い致します。	女性	40～44歳
14	今は身内に介護を必要とする者がいないので全くというほど介護について知識を持っていない状況です。今後何かあったら市役所に相談に行けばよいということがよく解りました。利用者のよき相談相手であって下さい。	女性	45～49歳
15	高齢者にやさしく、安心して暮らせる社会であることを願います。	不明	60～64歳
16	介護というものは突然にやってくるもので、準備OKの状態ではやって来ない。突然困った時に十分に相談でき、十分に対応してくれる人が必要になる。それを見つけるのに時間を要するのが現実である。質的向上を願いたい。	不明	50～54歳
17	高齢者が多くなっている昨今、一人暮らしの老人には十分な行動を向ける面が必要かと思います。	男性	60～64歳
18	実際自分が認知症になった時が心配。他人に迷惑をかけたくないが最後まで「人」として生きたい。それには、何が必要なのか分かりません。	女性	55～59歳
19	介護する方にも生活があり(一番は)仕事を休めなかつたりするので「介護休暇」が普通にとれる社会づくりが必要だと思う。	女性	40～44歳
20	一人暮らしの高齢者の所に定期的に見守りに行くようにしたら良いと思います。	女性	60～64歳

Ⅲ 資料

判定結果



# 1 基本チェックリスト

## ● 判定方法

- ・ 判定は、「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル」による。
- ・ 本調査における該当する設問は以下の通り。
- ・ 基本得点は、該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点。

判定項目	問番号	設問	該当する選択肢	
虚弱	6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「2. できるだけしていない」or「3. できない」	
	6-問2	日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」or「3. できない」	
	6-問5	預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」or「3. できない」	
	7-問5	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」	
	7-問6	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」	
	運動器の機能向上	2-問1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. いいえ」
		2-問2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. いいえ」
		2-問3	15分位続けて歩いていますか	「2. いいえ」
		3-問1	この1年間に転んだことがありますか	「1. はい」
		3-問2	転倒に対する不安は大きいですか	「1. はい」
	栄養改善	4-問1	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
		4-問2	身長( )cm、体重( )kg	BMI<18.5
	口腔機能の向上	4-問3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
		4-問4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
		4-問5	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
	閉じこもり予防・支援	2-問5	週に1回以上は外出していますか	「2. いいえ」
		2-問6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. はい」
	認知症予防・支援	5-問1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
		5-問2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
		5-問3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
	うつ予防・支援	8-問8	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
		8-問9	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
		8-問10	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
		8-問11	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
		8-問12	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

■二次予防事業対象者…①から④のいずれかに該当する者

①虚弱…該当:10点以上

②運動器の機能向上…該当:3点以上

③栄養改善…該当:2点

④口腔機能の向上…該当:2点以上

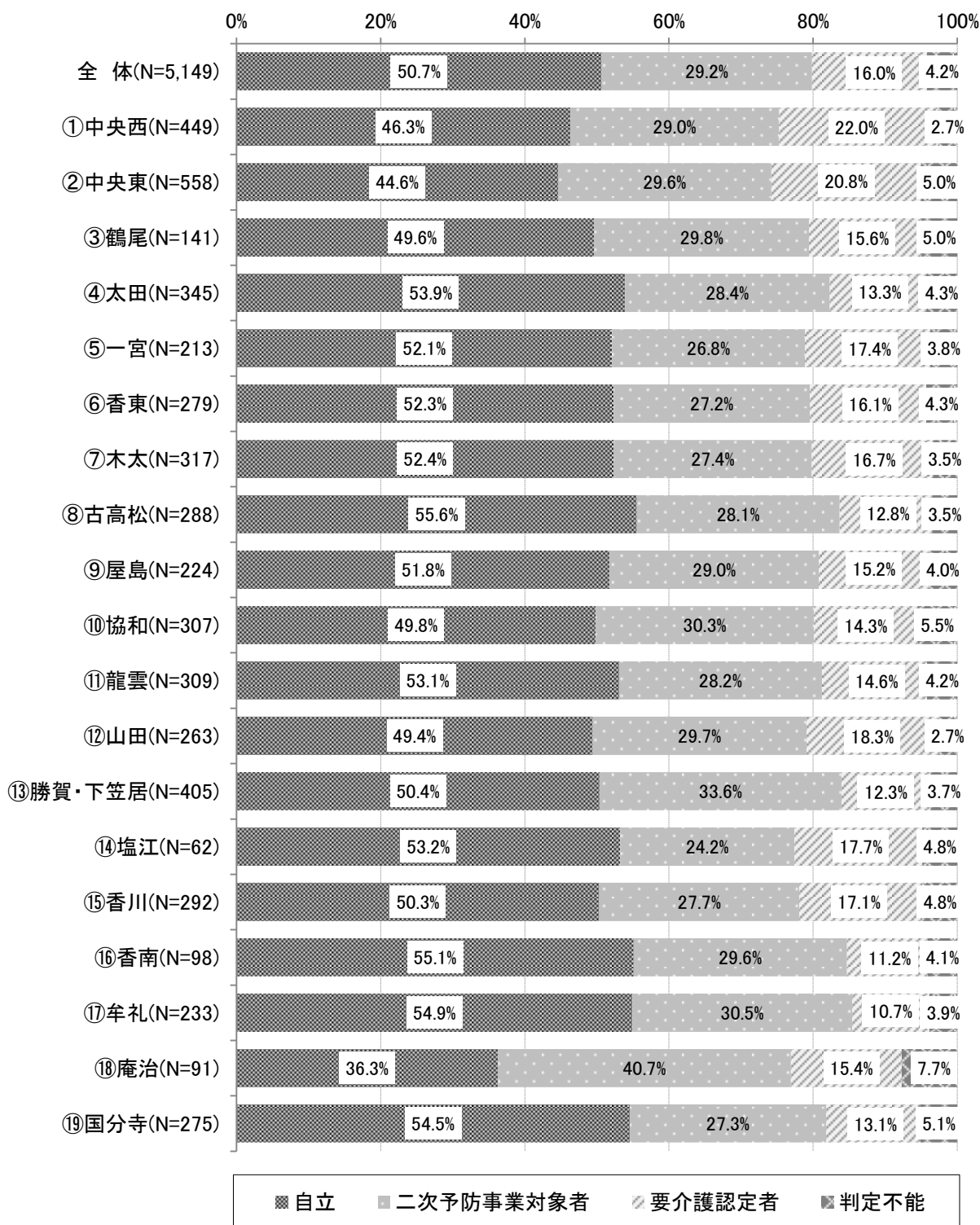
⑤閉じこもり予防・支援…注意:1点(問2-Q5に該当する場合)

⑥認知症予防・支援…注意:1点以上

⑦うつ予防・支援…注意:2点以上

■二次予防事業対象者

- ・全体では「自立」(50.7%)、「二次予防事業対象者」(29.2%)、「要介護認定者」(16.0%)となっている。
- ・⑱庵治では「自立」が36.3%と低く、二次予防事業対象者が40.7%と高くなっている。
- ・「自立」が多い圏域は、⑧古高松、⑯香南、⑰牟礼、⑲国分寺で、いずれも55%前後となっている。

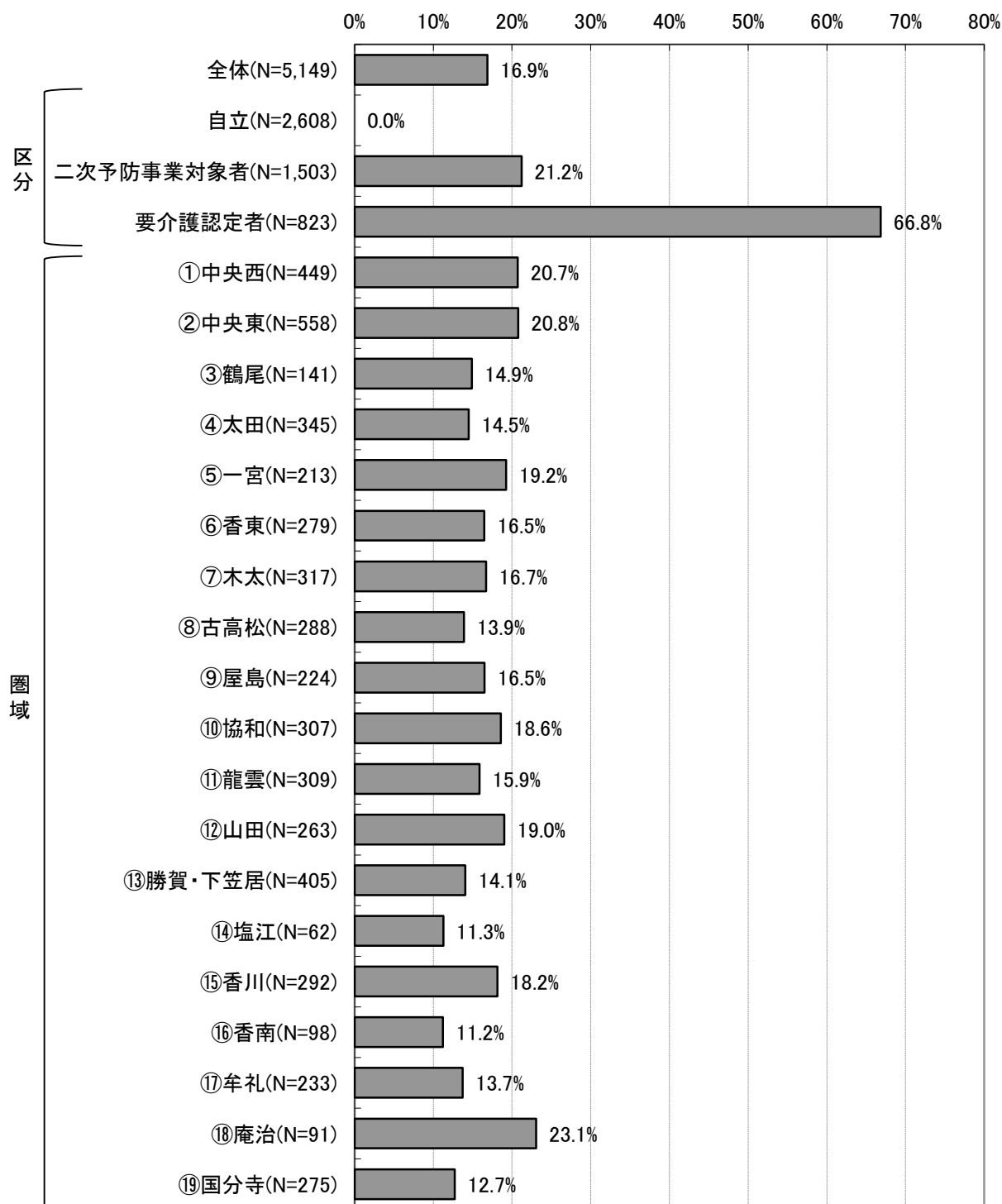




① 虚弱

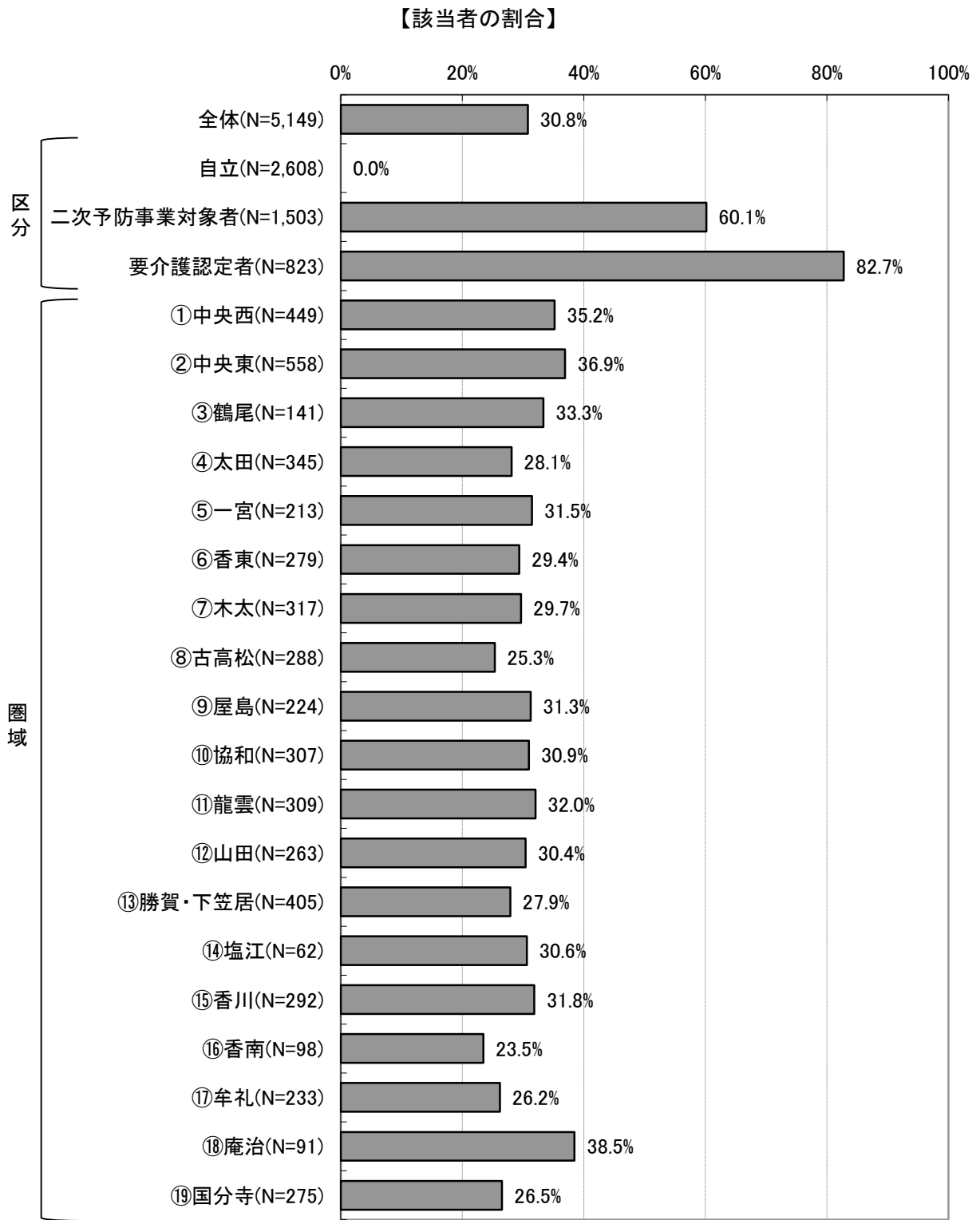
- ・ 虚弱のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 21.2%、要介護認定者が 66.8%となっている。
- ・ ⑱庵治、②中央東、①中央西では該当者の割合が 20%を超えている一方で、⑯香南、⑭塩江、⑲国分寺では 11~12%と低い割合となっている。

【該当者の割合】



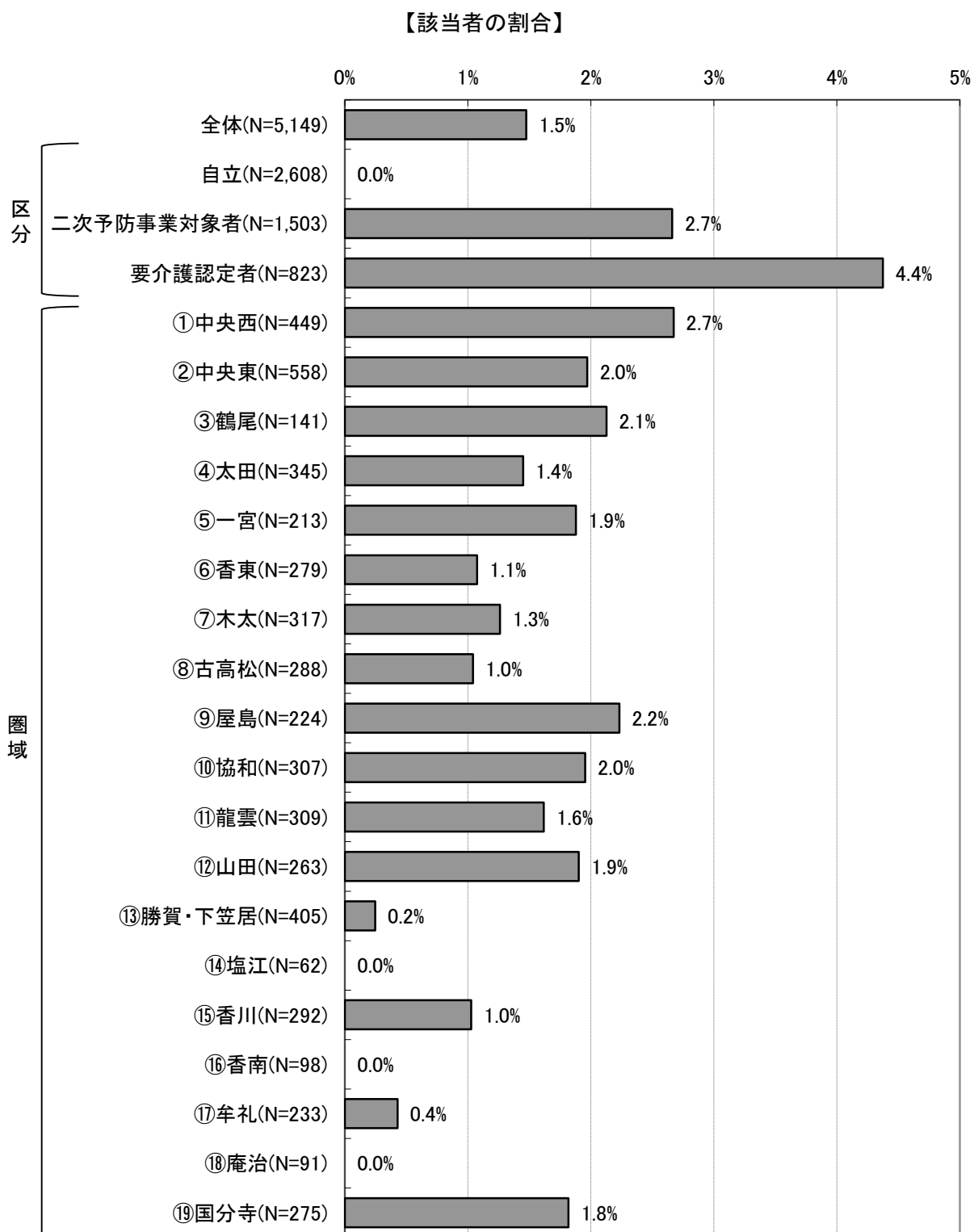
②運動器の機能向上

- ・運動器の機能向上のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 60.1%、要介護認定者が 82.7% となっている。
- ・⑱庵治、②中央東、①中央西では該当者の割合が 35%を超えている一方で、⑰香南、⑧古高松、⑰牟礼、⑱国分寺では 25%程度と低い割合となっている。



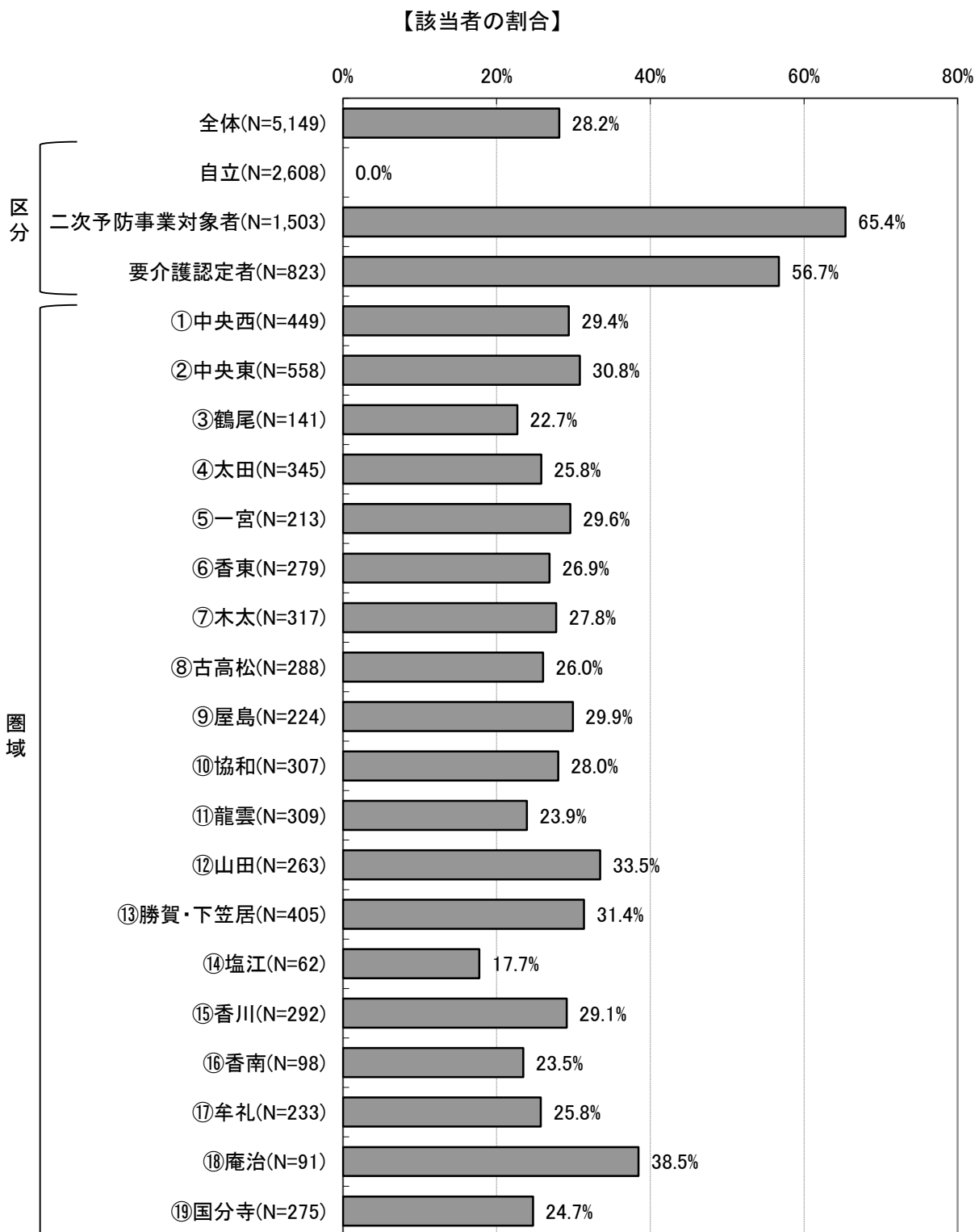
③栄養改善

- ・栄養改善のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 2.7%、要介護認定者が 4.4%となっている。
- ・①中央西では該当者の割合が 2.7%と最も高い一方で、⑭塩江、⑯香南、⑱庵治では 0%となっている。



④口腔機能の向上

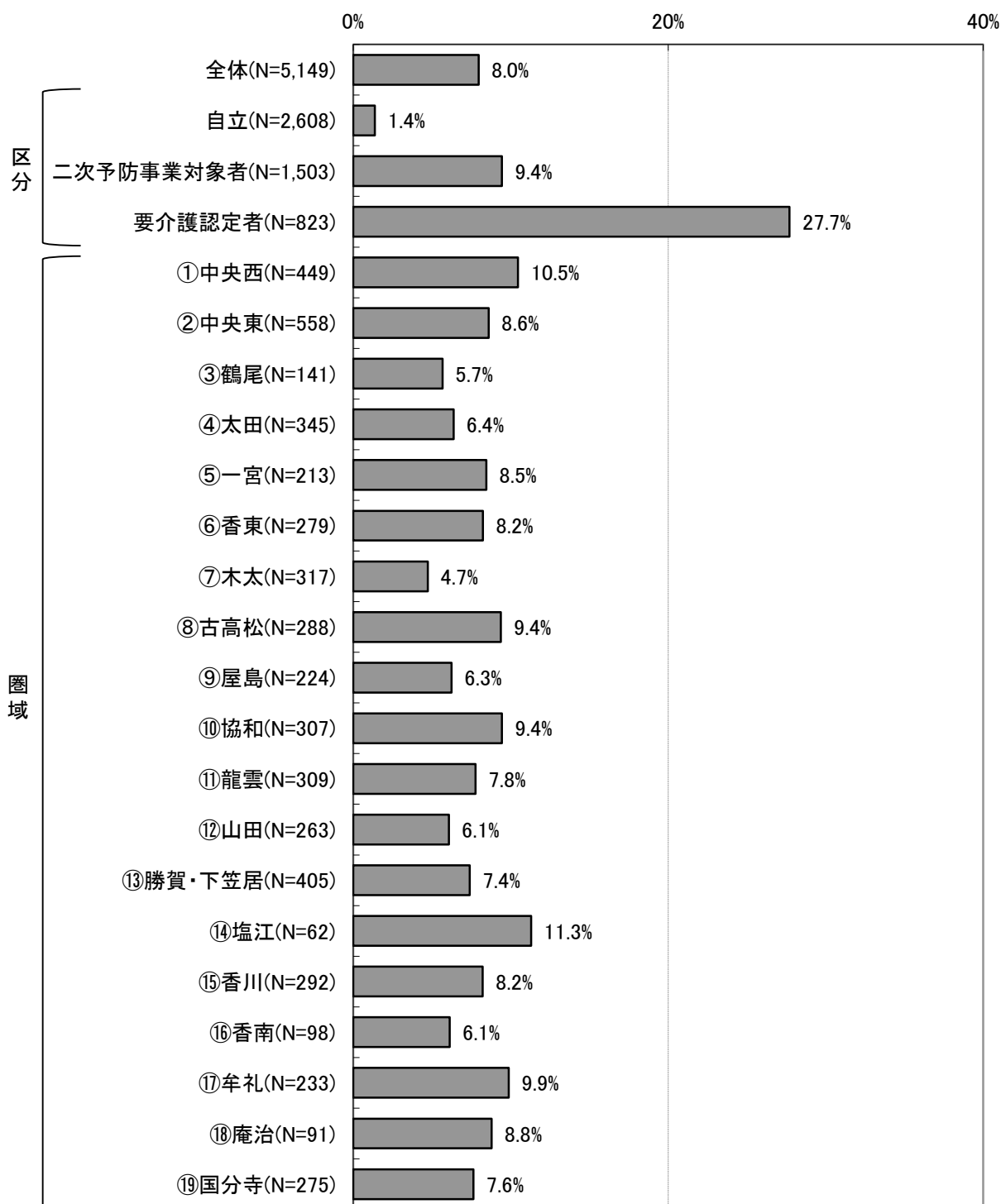
- ・口腔機能の向上のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 65.4%、要介護認定者が 56.7% となっている。
- ・⑱庵治では該当者の割合が 38.5%と最も高い一方で、⑰塩江では 17.7%と⑱庵治の半分程度の値となっている。



⑤閉じこもり予防・支援

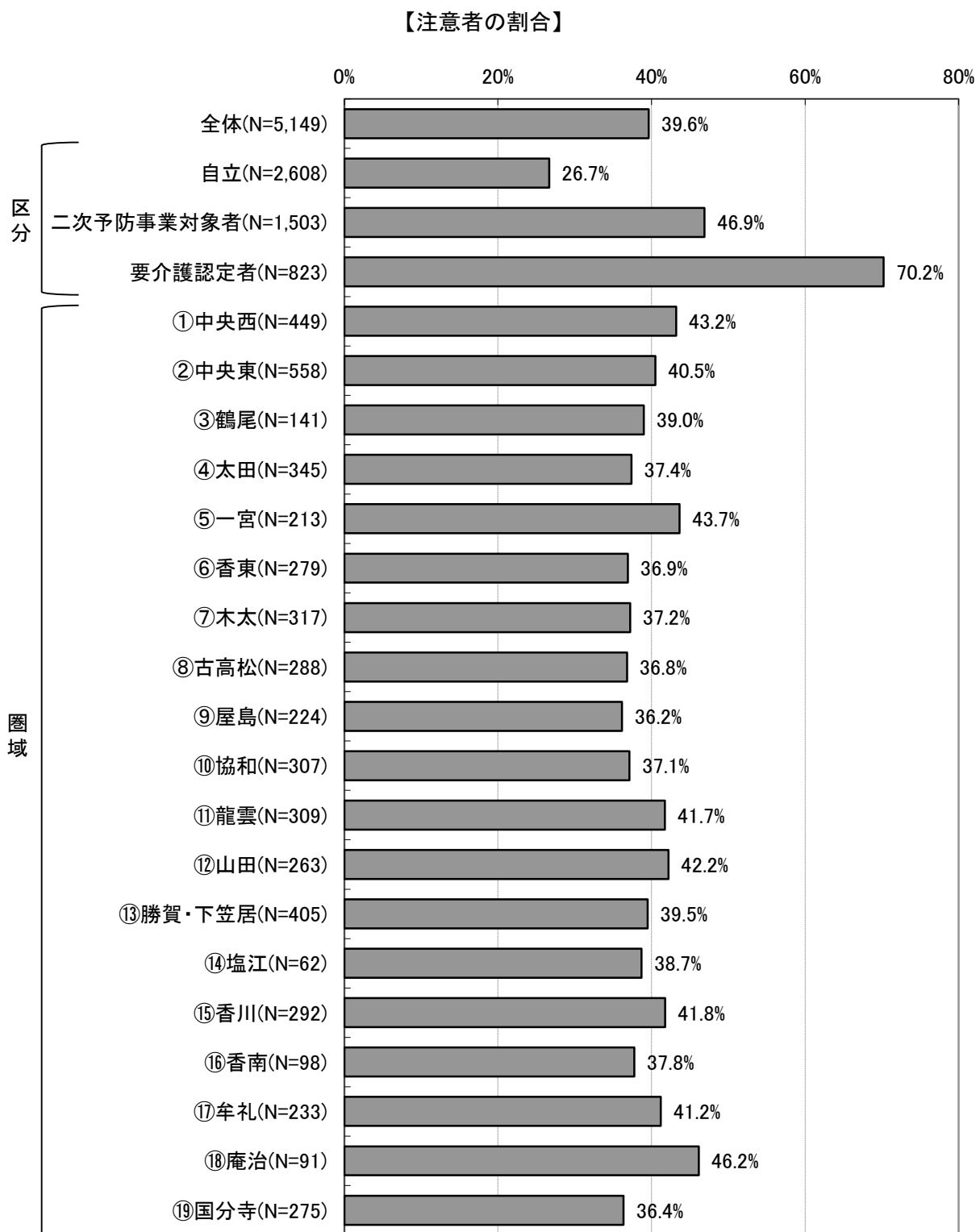
- ・閉じこもりの注意者の割合は、自立が 1.4%、二次予防事業対象者が 9.4%、要介護認定者が 27.7% となっている。
- ・⑭塩江、①中央西では注意者の割合が 10%を超えている一方で、⑦木太では 4.7%と最も低い割合となっている。

【注意者の割合】



⑥認知症予防・支援

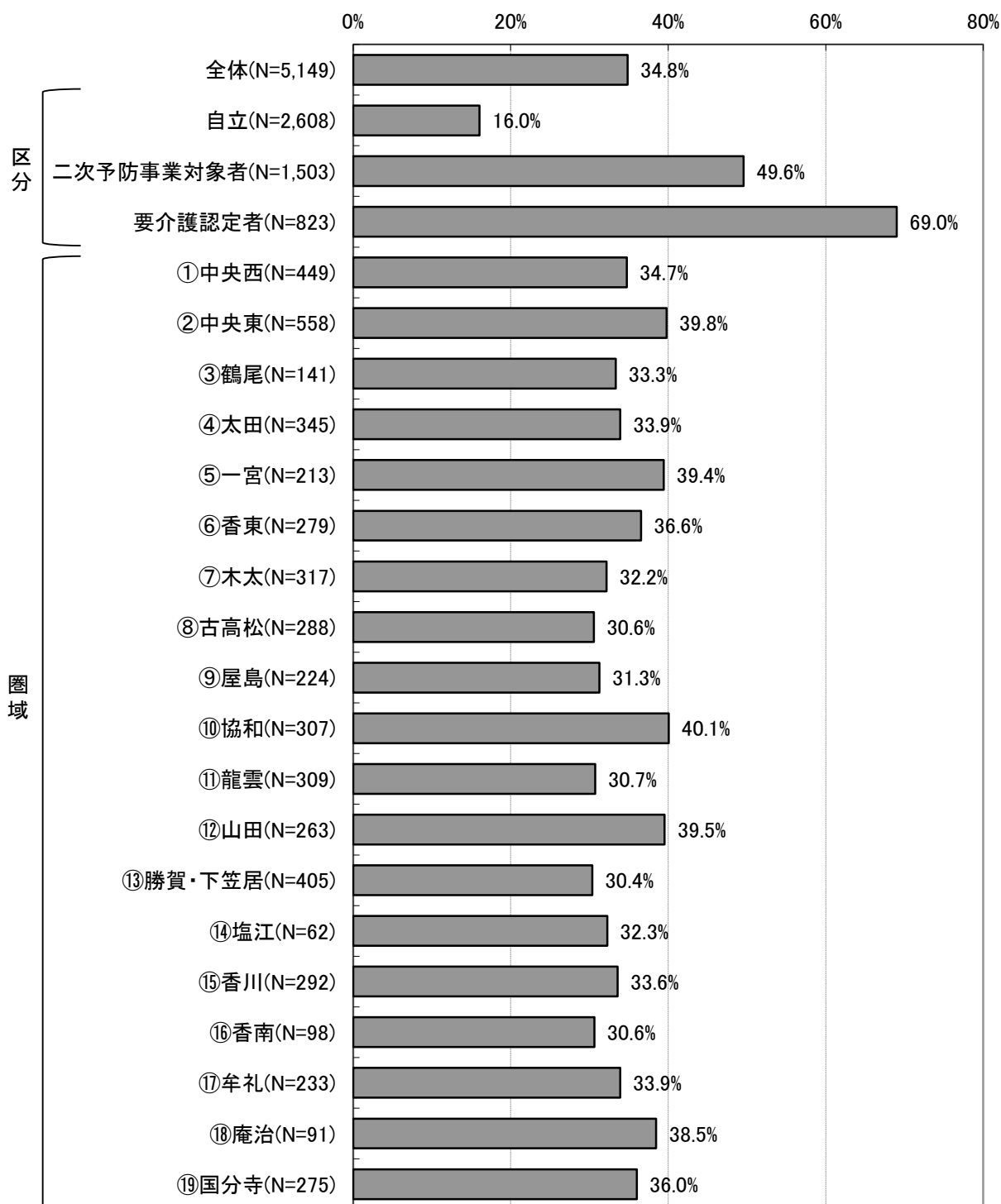
- ・認知症の注意者の割合は、自立が 26.7%、二次予防事業対象者が 46.9%、要介護認定者が 70.2% となっている。
- ・⑱庵治では注意者の割合が 46.2%と最も高くなっている。



⑦うつ予防・支援

- ・うつ予防の注意者の割合は、自立が 16.0%、二次予防事業対象者が 49.6%、要介護認定者が 69.0% となっている。
- ・⑩協和、②中央東、⑫山田、⑤一宮では注意者の割合が 40%程度と高い一方で、⑬勝賀・下笠居、⑧古高松、⑯香南、⑪龍雲、⑨屋島では 30%程度と低い割合となっている。

【注意者の割合】



2 A D L

● 判定方法

問番号	項目	配点	選択肢
6-問6	食事	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる」 「3. できない」
6-問7	寝床への移動	15: 10: 5: 0:	「1. 受けない」 「2. 一部介助があればできる」 「3. 全面的な介助が必要」 (問6-Q8の回答が「1. できる」「2. 支えが必要」の場合) 「3. 全面的な介助が必要」 (問6-Q8の回答が「3. できない」の場合)
6-問9	整容	5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助があればできる」または「3. できない」
6-問10	トイレ	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 「3. できない」
6-問11	入浴	5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」または「3. できない」
6-問12	歩行	15: 10: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 「3. できない」
6-問13	階段昇降	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 介助があればできる」 「3. できない」
6-問14	着替え	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 介助があればできる」 「3. できない」
6-問15	排便	10: 5: 0:	「1. ない」 「2. ときどきある」 「3. よくある」
6-問16	排尿	10: 5: 0:	「1. ない」 「2. ときどきある」 「3. よくある」

○100点: 自立

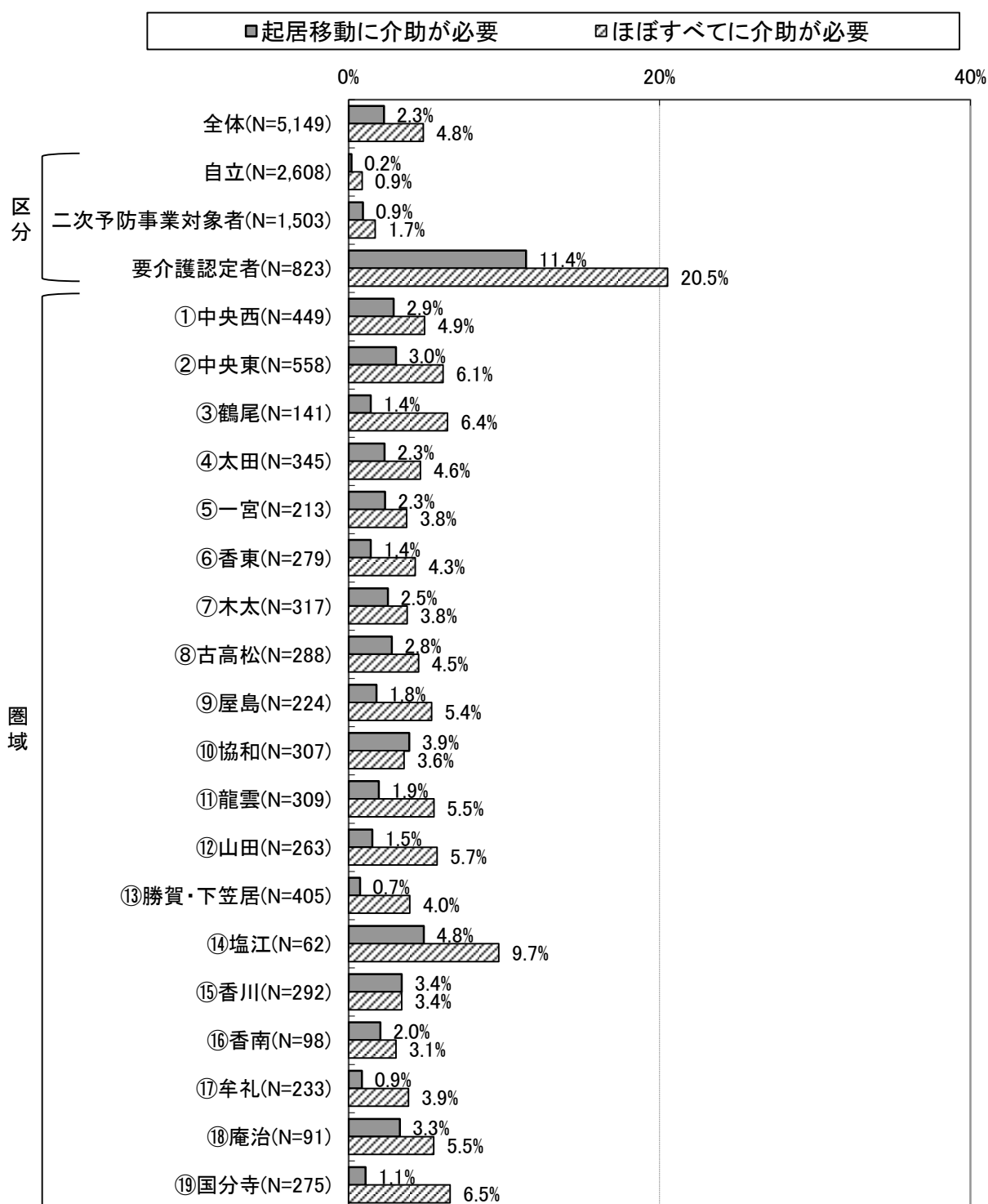
○60点以下: 起居移動に介助が必要

○40点以下: ほぼすべてに介助が必要



- ・全体では「起居移動に介助が必要」(2.3%)、「ほぼすべてに介助が必要」(4.8%)となっている。
- ・要介護認定者では「起居移動に介助が必要」(11.4%)、「ほぼすべてに介助が必要」(20.5%)となっている。
- ・⑭塩江では「起居移動に介助が必要」(4.8%)、「ほぼすべてに介助が必要」(9.7%)と、いずれも最も高い値となっている。

【介助が必要な者の割合】



## 3 老研式活動能力指標

● 判定方法

①IADL(老研指標)…問6-Q1~5

問番号	設問	選択肢
6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」または 「2. できるけどしていない」 1点
6-問2	日用品の買物をしていますか	
6-問3	自分で食事の用意をしていますか	
6-問4	請求書の支払いをしていますか	
6-問5	預貯金の出し入れをしていますか	

- 5点: 高い
- 4点: やや低い
- 0~3点: 低い

②社会参加

・知的能動性(老研指標)…問7-Q1~4

問番号	項目	選択肢
7-問1	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」: 1点
7-問2	新聞を読んでいますか	
7-問3	本や雑誌を読んでいますか	
7-問4	健康についての記事や番組に関心がありますか	

- 4点: 高い
- 3点: やや低い
- 0~2点: 低い

・社会的役割(老研指標)…問7-Q5~8

問番号	項目	選択肢
7-問5	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」: 1点
7-問6	家族や友人の相談にのっていますか	
7-問7	病人を見舞うことができますか	
7-問8	若い人に自分から話しかけることがありますか	

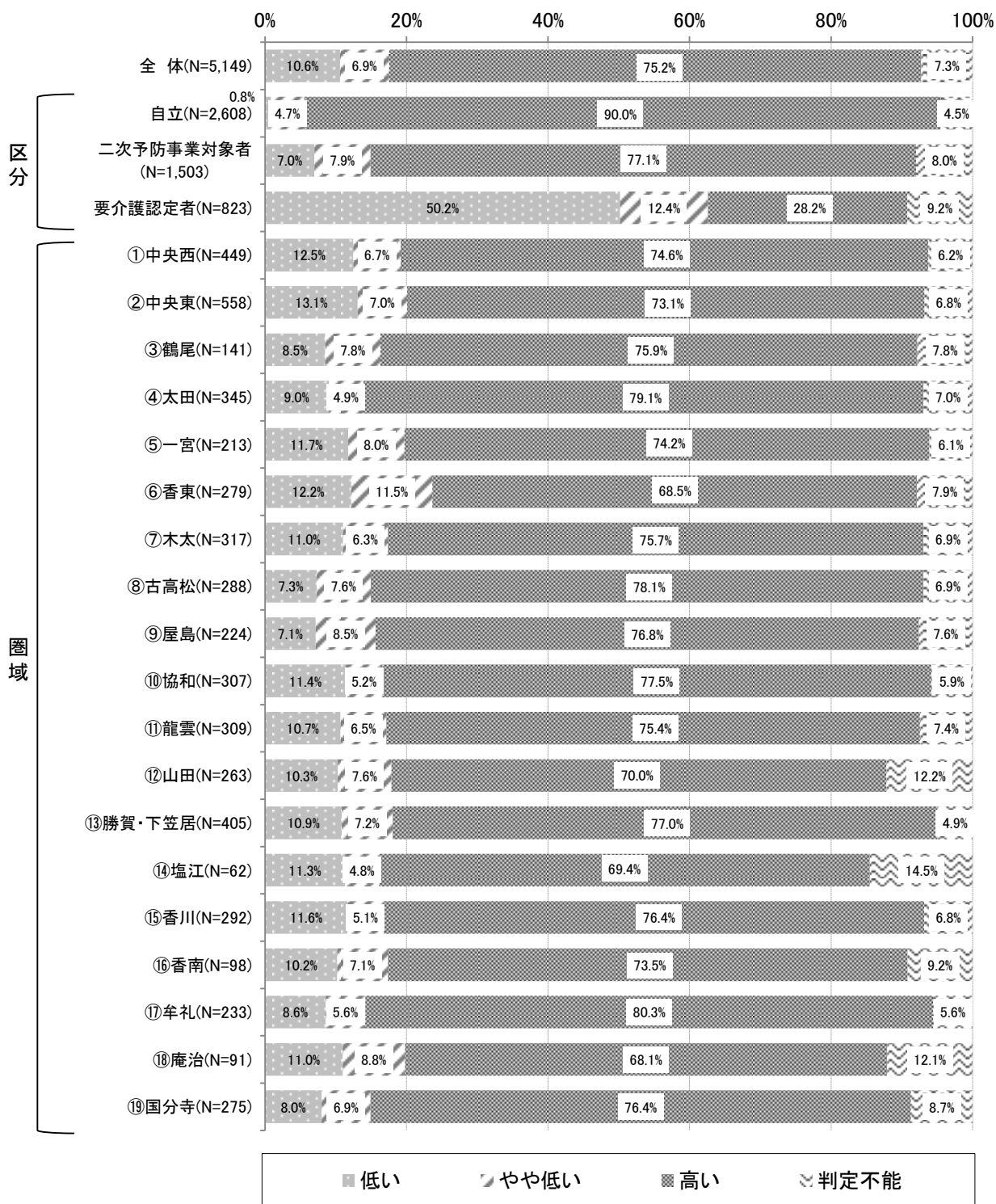
- 4点: 高い
- 3点: やや低い
- 0~2点: 低い

③老研指標総合評価(IADL、知的能動性、社会的役割の合計点)

- 11点以上: 高い
- 9~10点: やや低い
- 8点以下: 低い

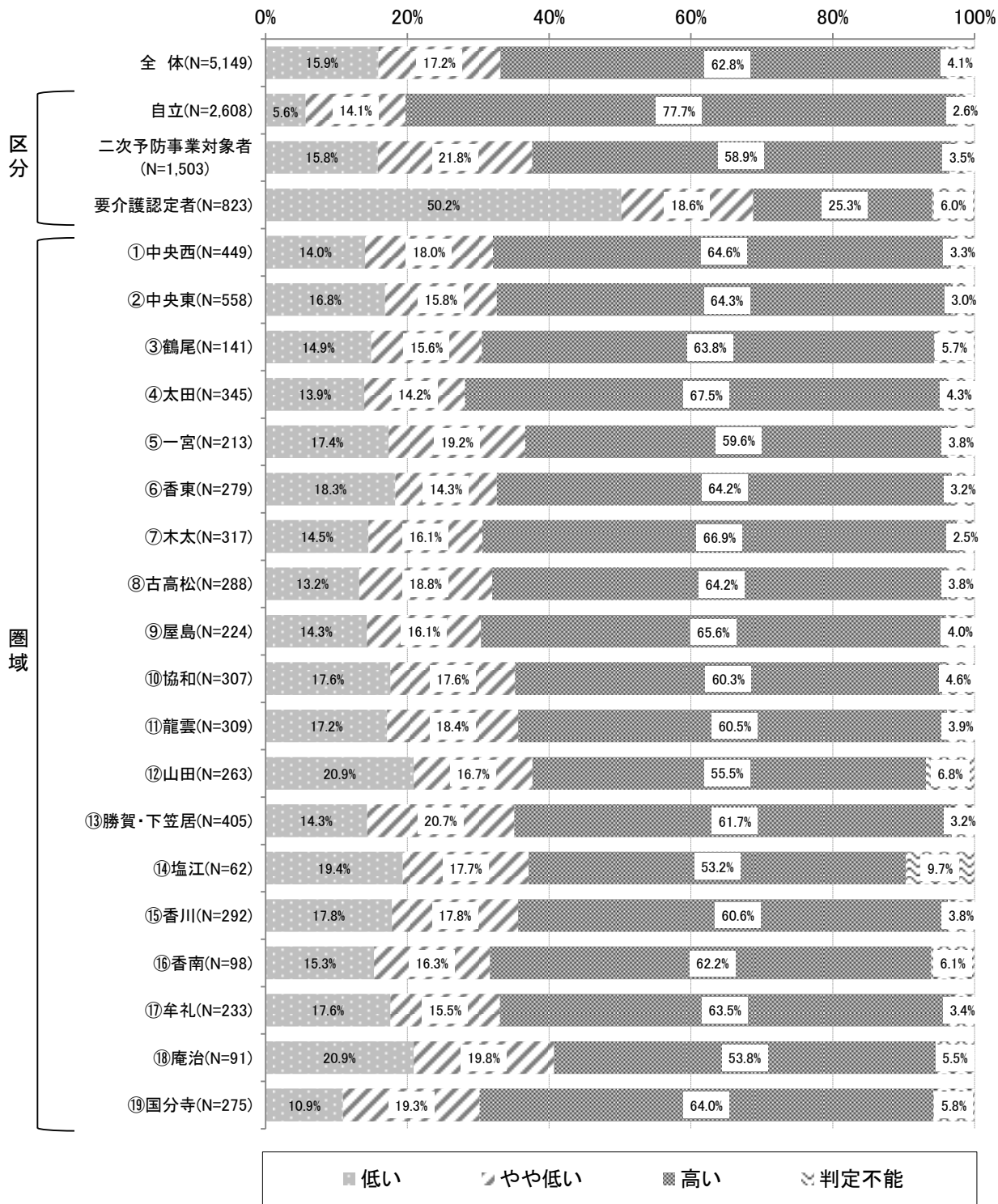
① IADL

- ・全体では「低い」(10.6%)、「やや低い」(6.9%)、「高い」(75.2%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(7.0%)、「やや低い」(7.9%)、「高い」(77.1%)となっている。
- ・⑰牟礼、④太田、⑧古高松では「高い」が80%程度と高くなっている。



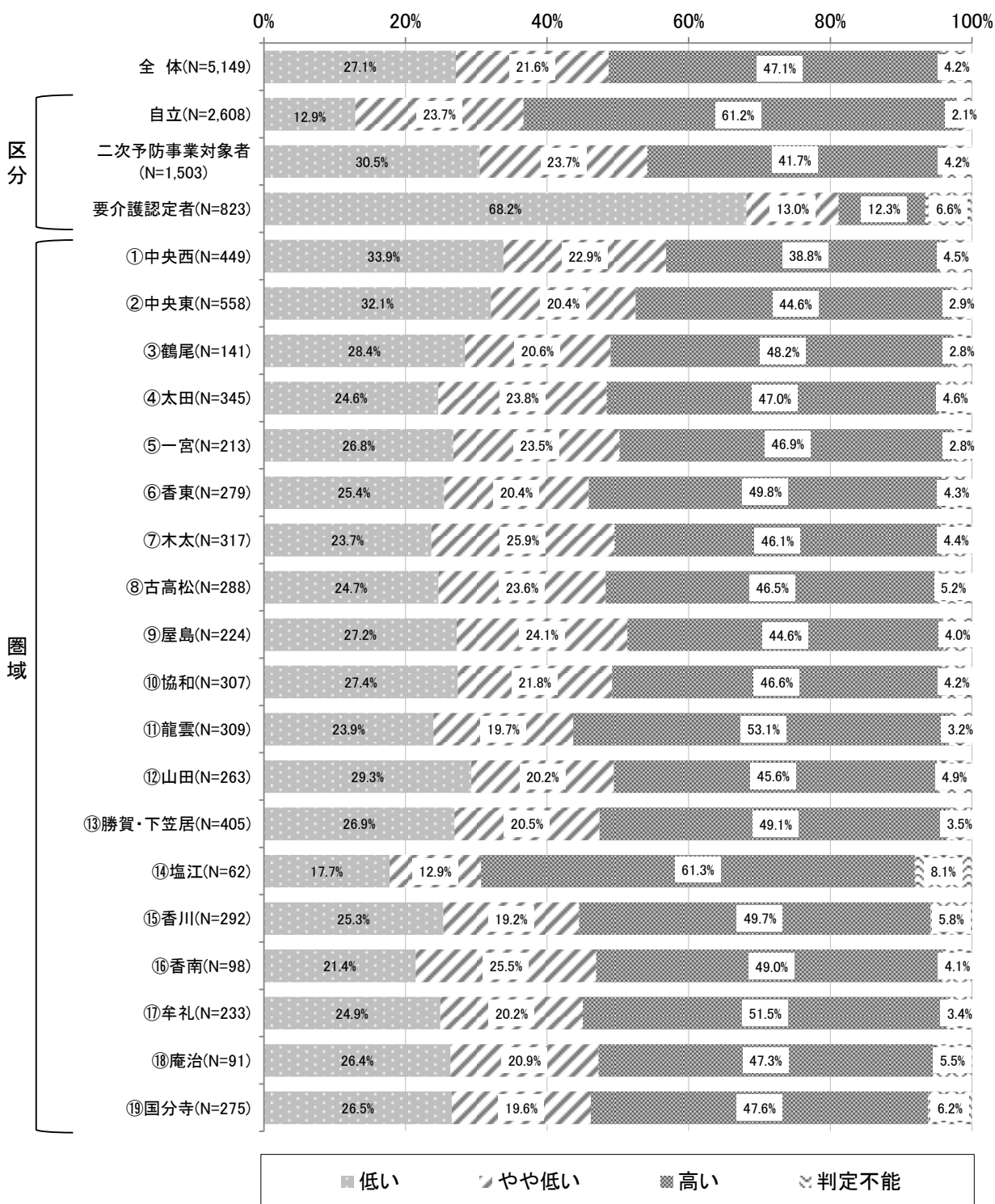
②社会参加（知的能動性）

- ・全体では「低い」(15.9%)、「やや低い」(17.2%)、「高い」(62.8%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(15.8%)、「やや低い」(21.8%)、「高い」(58.9%)となっている。
- ・④太田、⑦木太、⑨屋島では「高い」が65%以上と高くなっている。



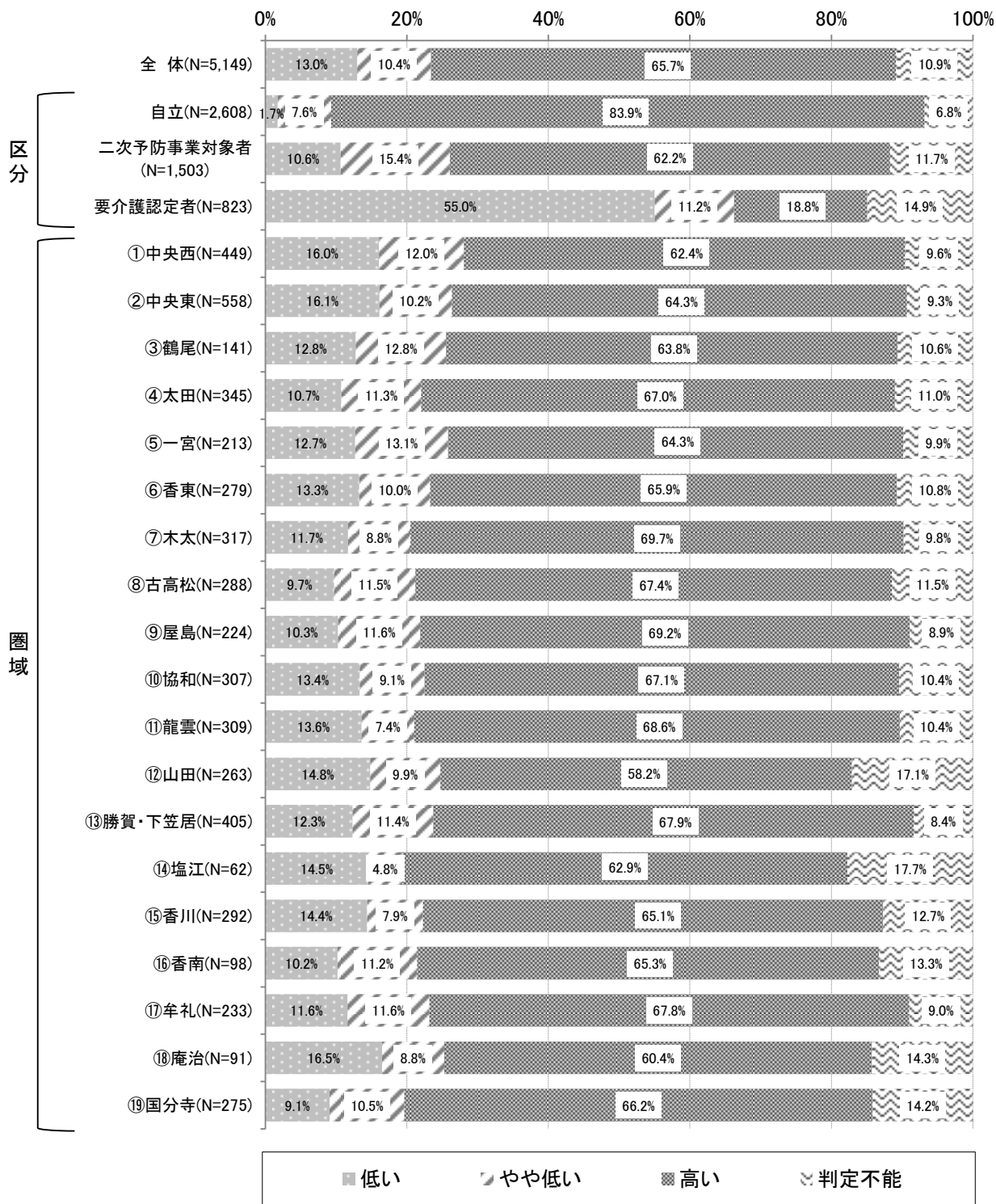
②社会参加（社会的役割）

- ・全体では「低い」(27.1%)、「やや低い」(21.6%)、「高い」(47.1%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(30.5%)、「やや低い」(23.7%)、「高い」(41.7%)となっている。
- ・⑭塩江では「高い」が61.3%と突出して高くなっている。



③老研指標総合評価（IADL、知的能動性、社会的役割の合計点）

- ・全体では「低い」(13.0%)、「やや低い」(10.4%)、「高い」(65.7%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(10.6%)、「やや低い」(15.4%)、「高い」(62.2%)となっている。
- ・⑦木太、⑨屋島、⑪龍雲では「高い」が70%程度と高くなっている。



# 4 認知機能

## ● 判定方法

### <ステップ1>

5-問5  
その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか  
「1. 困難なくできる」  
「2. いくらか困難であるが、できる」  
「3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」

「4. ほとんど判断できない」の場合、ステップ4へ  
1～3の回答の場合、ステップ2へ

### <ステップ2>

5-問4  
5分前のことが思い出せますか  
「2. いいえ」  
5-問5  
その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか  
「2. いくらか困難であるが、できる」  
「3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」  
5-問6  
人に自分の考えをうまく伝えられますか  
「2. いくらか困難であるが、伝えられる」  
「3. あまり伝えられない」  
「4. ほとんど伝えられない」

該当なし → 0レベル 障害なし  
1項目該当 → 1レベル 境界的

2項目以上該当の場合、ステップ3へ

### <ステップ3>

5-問5  
その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか  
「3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」  
5-問6  
人に自分の考えをうまく伝えられますか  
「3. あまり伝えられない」  
「4. ほとんど伝えられない」

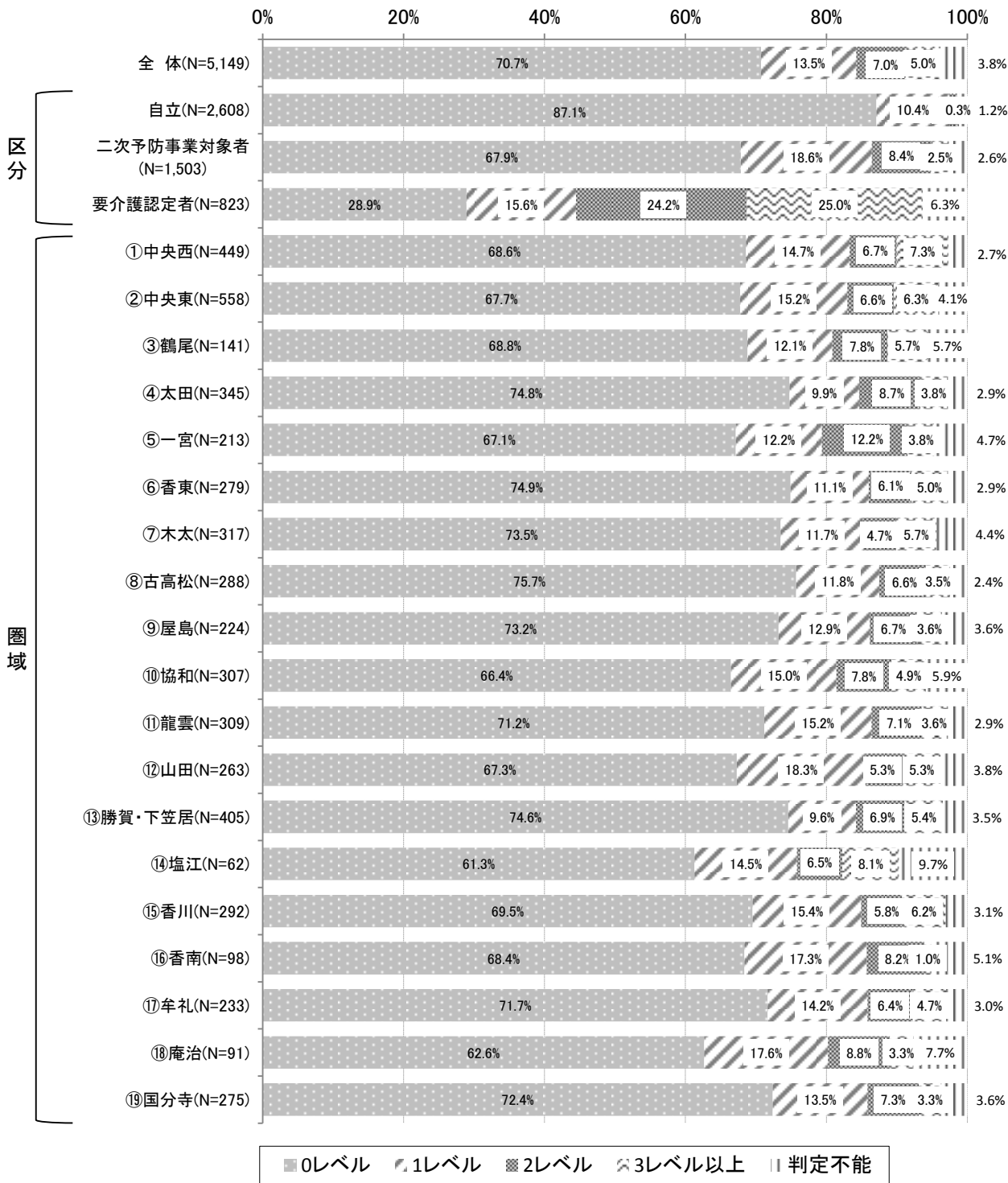
該当なし → 2レベル 軽度の障害  
1項目該当 → 3レベル 中等度の障害  
2項目該当 → 4レベル やや重度の障害

### <ステップ4>

6-問6  
食事は自分で食べられますか  
「1. できる」  
「2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる」  
「3. できない」

選択肢1、2 → 5レベル 重度の障害  
選択肢3 → 6レベル 最重度の障害

- ・全体では「0レベル」(70.7%)、「1レベル」(13.5%)、「2レベル」(7.0%)、「3レベル以上」(5.0%)となっている。
- ・要介護認定者では「0レベル」(28.9%)、「1レベル」(15.6%)、「2レベル」(24.2%)、「3レベル以上」(25.0%)となっている。
- ・⑱庵治、⑭塩江では「1レベル以上」が30%程度と高くなっている。





## 5 転倒リスク

### ● 判定方法

問番号	設問	配点と選択肢
3-問1	この1年間に転んだことがありますか	5:「1. はい」 0:「2. いいえ」
3-問3	背中が丸くなってきましたか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
3-問4	以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
3-問5	杖を使っていますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
8-問3	現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか	2:「5. 5種類以上」 0: 1～4または6

○6点以上:リスクあり

- ・リスクありの者の割合は、全体では32.9%、自立では10.1%、二次予防事業対象者では53.2%、要介護認定者では73.8%となっている。
- ・要介護認定者では「0レベル」(28.9%)、「1レベル」(15.6%)、「2レベル」(24.2%)、「3レベル以上」(25.0%)となっている。
- ・⑭塩江ではリスクありの者の割合が40.3%と高い一方、⑰牟礼、⑯香南、⑬勝賀・下笠居では27%程度と低くなっている。

【リスクあり（6点以上）の者の割合】

